1 建築と社会

社団法人 日本建築協会
昭和52年1月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日
第3種郵便物認可

特集●デザインの動向—部分と全体

1977
VOL.58
NO.658



ARCHITECTURE
AND
SOCIETY

日本建築協会



トルクチェックが不要です。特殊型高力ボルト「SPボルト」と「SSボルト」

●静か～に、すばやく施工！締付作業に習熟の必要がありません。

建築物が大型化の傾向にある反面、人件費の高騰、熟練工の不足が深刻です。こうした状況に対し、住友では強靱で経済的な「住友ハイテンションボルト」を販売しておりますが、更にこのたび住友独自に特殊型高力ボルト「ＳＰボルト」を開発。同系統の「ＳＳボルト」ともども併せて発売しております。「ＳＰボルト」「ＳＳボルト」はナットの締付けトルクの反力をボルトのピンテールで受け、静的に締付けるもので、ボルトとピンテールは所定のトルクで破断。ボルトに所定の軸力が導入される機構になっています。従来、締付けトルクをコントロールする機能は締付器具にもたせていましたが、ＳＰボルト及びＳＳボルトはボルトセット自体にトルクコントロール機能をもたせてあるわけです。画期的なシステムのＳＰボルト及びＳＳボルトを、ぜひご指定の上ご採用ください。

SSボルトの特長

1．施工管理が容易である。

- ボルトの締付け完了は、ピンテールの破断により目視確認できるので、締め忘れが防止できる。
- ピンテールの破断強度が一定でボルト軸力が安定しているので、トルクレンチによるチャックが省略できる。
- 締付けトルクの制御はボルトセット自体で行われるので、締付器具の調整、検定は一切不要である。

2．工期の短縮・施工費の低減ができる

- 締付器具の調整、締付け後のトルクチェックが不要のため工期の短縮が図れる。
- 締付器具の取扱いなど締付作業に習熟を要せず、工期の短縮による施工費の節減も可能である。

3．騒音が出ない

- 静的な力で締付けるので、インパクトレンチに比べ騒音が少ない。

住友金属
住友金属工業株式会社
大　阪＝大阪市東区北浜５－15（新住友ビル）　電（220）5111
東　京＝東京都千代田区丸の内１－３－２（新住友ビル）　電（282）6111
営業所＝那覇・福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・宇都宮・仙台・札幌

謹賀新年

1977

'77年を迎えて

(社)日本建築協会会長　　塚本猛次

明けましておめでとうございます。

石油ショックの影響だと言い続けて、低成長時代を過ごしてきながら、とくに昨年はロッキード事件に端を発して政財界は混迷し、景気沈滞のまま総選挙を迎えました。

その結果は、皆様ご承知の通り政治は中道を歩むべきことを国民は望んでいるのだということを表現しています。

ムード的な面もあり、情報に左右された面もあると思いますが、真の願いは何と申しましても、平和でお互いが生きがいのある生活ができ、おおらかな教育を子弟に施して、よき世代を次代に伝えていくことでありましょう。

かつての植民地政策から独立へと解放された国々の人々の願いも同じでありましょう。政体の如何を問わず、新興国家と言われる国々は各国の民族の興隆を望んでいます。しかし、その施策には各種各様の方策がとられており、あるいは武力に訴えても、修正方策がとられています。

このような時に、日本の進むべき道はどこにあるのでしょうか。

昨年の年頭の辞でも申し上げましたように、私どもお互いの仕事の場の社会的ニードも、安定成長とは言っても、依然混迷の状態を続けていくでしょう。経済界もまた、お互いに自らの力でその動静のあり方を見い出していかねばなりますまい。

このような戦後初めてという、保革協調の中道政治を求めているとき、官僚の動きはどのように政治や行政に対処していくでしょうか、しばらくは状況見ということでしょうか。

逆に国民の願いがどこにあるかを見い出すのも官僚だとすると、むしろ官僚牽引型になりかねないと危惧するものです。

三木さんの山吹色がどう変わろうとも、政界がどう揺れ動いても、自然の動きは年々気候に応じて同じように繰り返しながら、人間を暖かく迎えてくれます。

私どもは自然の中にあって、その摂理に従った生活こそ望ましいことだと思います。お互いにこの流動社会において自分自身の行動のあり方を自覚していきたいものです。

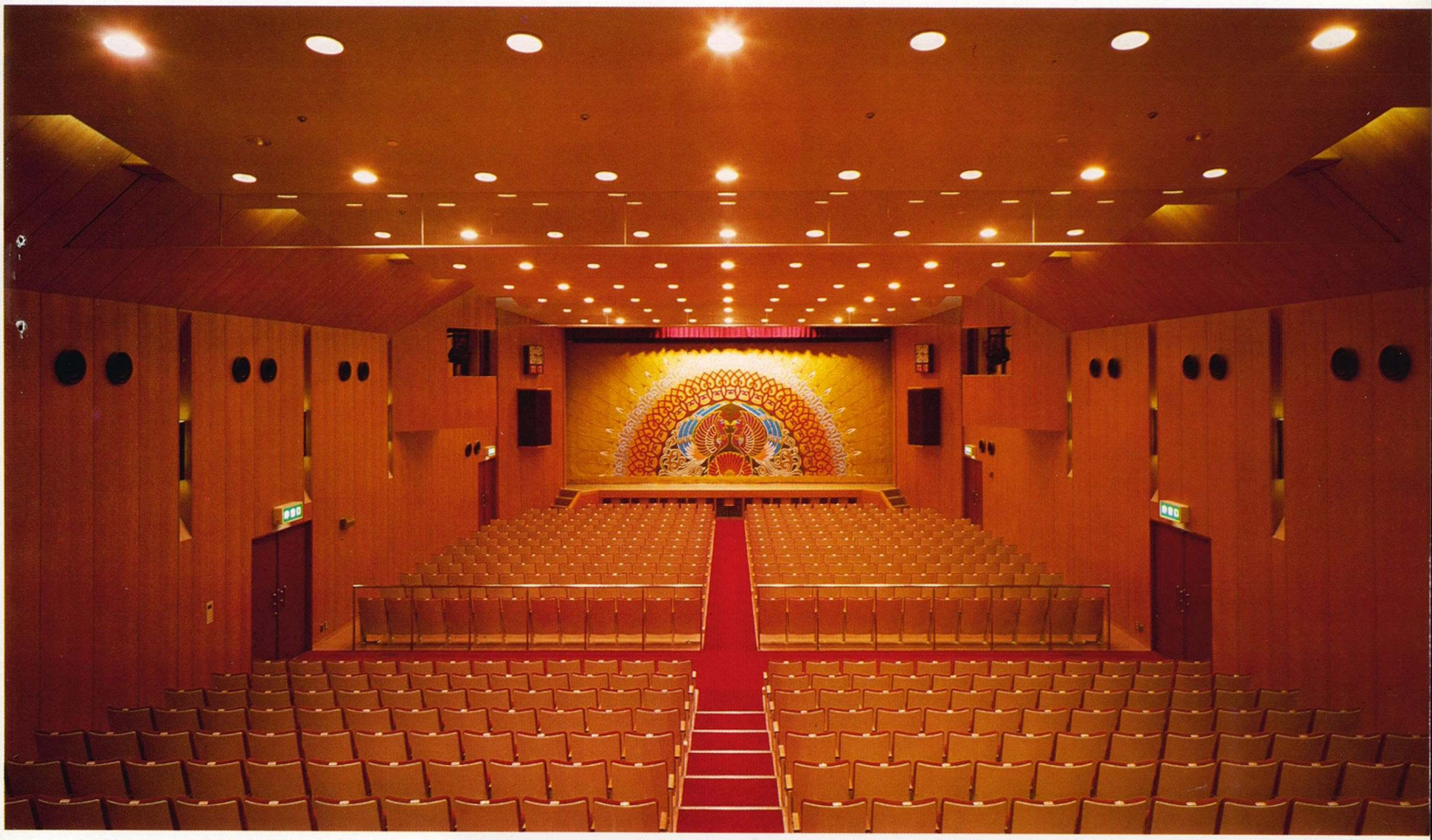
本会も会員の皆様方の物心両面のご援助によって、業界においても、会員各位の奉仕においても多くの役目を果たしてきたと思います。

むずかしい年を迎えて、ご苦労は多いでしょうが会員各位のご健勝をお祈りし、年頭のご挨拶と致します。

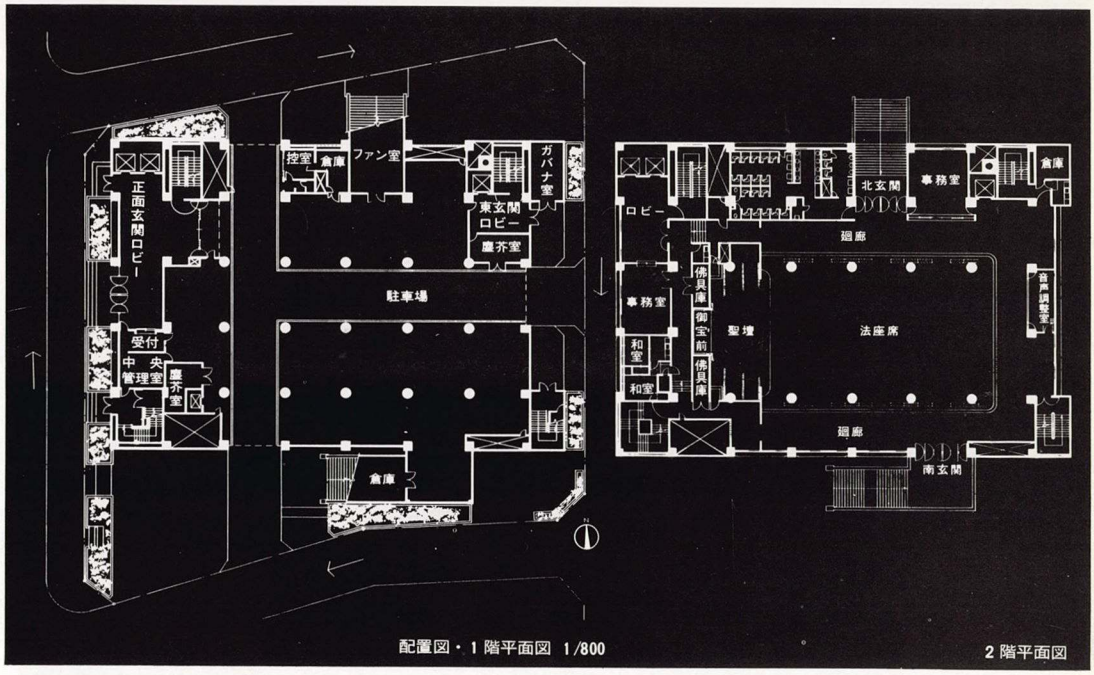

立正佼成会
立正佼成会

立正佼成会大阪普門館

設計施工　錢高組



所在地	大阪市西区江戸堀1丁目15番地
敷地面積	2,642.72㎡
建築面積	1,675.77㎡
延床面積	17,204.52㎡
構造規模	SRC, B2, 10F, P3
工期	昭和48年12月～昭和51年11月
主要外装	プレキャストコンクリート版 エポキシ吹付タイル 磁器タイル、花崗石
防災設備	屋内消火栓、スプリンクラー（全館）、二酸化炭素消火、自動火災報知、連結送水、機械排煙、非常用エレベーター 非常警報（非常放送） 非常誘導灯、避難器具
中央監視設備	電力、動力、空調、給排水衛生、防災、エレベーターなどの監視、制御、運転、記録
主要用途	地下2階　機械室 地下1階　食堂 1階　駐車場 2階　法座席 3階　事務室 4、5階　ホール 6階　研修室 7階　会議室 8～10階　宿泊室



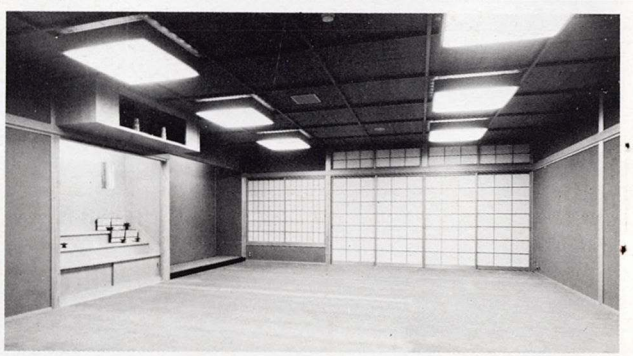
配置図・1階平面図　1/800　　2階平面図

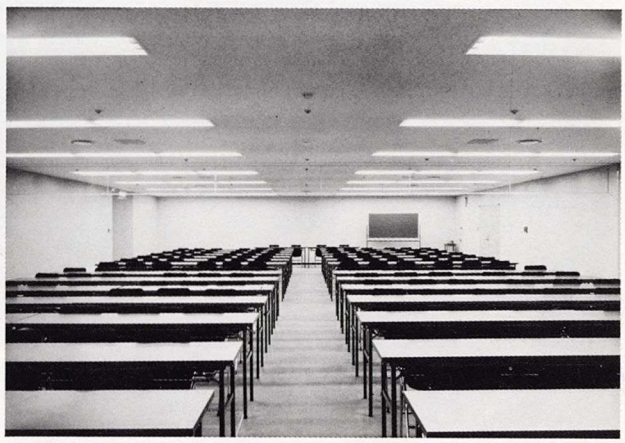
立正佼成会大阪普門館

設計施工　錢高組









この建物は、次のような多様な目的を持ち、しかもそれらが互いに関連し合うことを主眼として、計画した。

(イ) 大阪近隣地域の会員のための宗教行事を行うとともに、その人たちの研修・集会及び布教活動の中心となること。

(ロ) 西日本の教区、教会と本部とを結ぶ中継拠点として、合同の研修や会議などを行う場、そしてそのための宿泊室、食堂、浴室などの施設を具備すること。

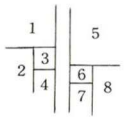
(ハ) 志を同じくする他宗教との連携のための会合、一般大衆を対象とした布教のための講演会などを行うことができること。

以上より階層別に分離して、多種の性格の異なる空間が混在するものとなった。平面の規模、柱割などは、約1,500人を収容する座式の2階法座席が決定したといえる。

一見、事務所建築風のマッシブな外観は、それなりに意味を持つものである。一つは高価な土地を容積率限度に極力近づけ、しかも建物の安全性と経済性を考慮したものであり、今一つはビジネス街の中にある建物として、独善的な、いわゆる宗教建築らしさを強調することが、違和感を大衆に持たせると同時に、街の景観をそこなう結果になることを配慮して、宗教上のシンボルを、西北隅の塔屋の上に設けた常夜燈に絞った。また、四隅壁面の淡紅色のタイルはこの教団のシンボルカラーとして従来各種の関連建物に用いられているものである。

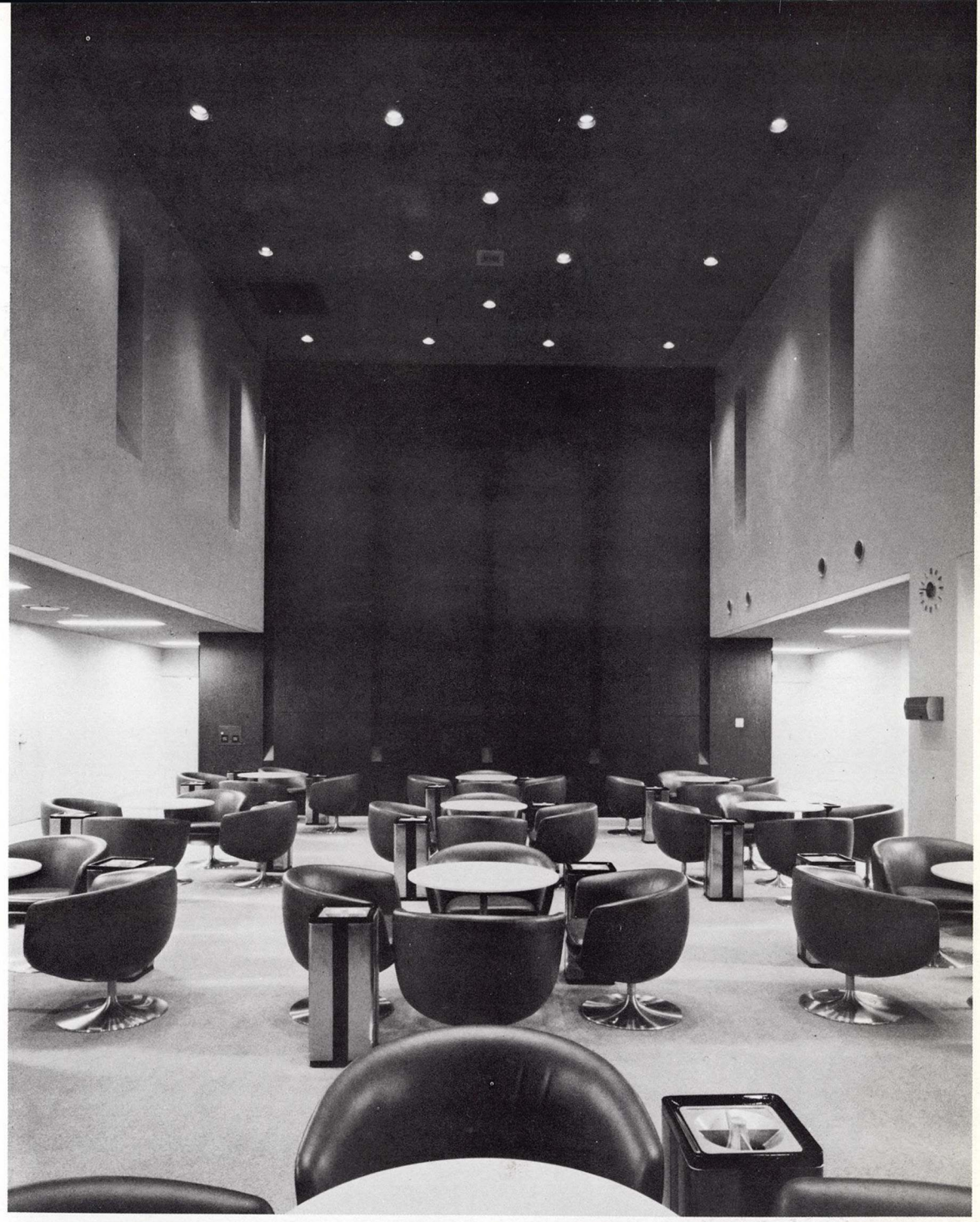
計画の当初から10年近い歳月を経て、その間、敷地の変更、内容の多様化など幾多の経過を通って、ここにようやく完成を見た。

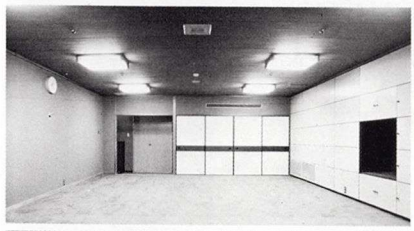
夜空に輝く常夜燈の法の灯が世の人の心をなぐさめるものであれかしと祈る。

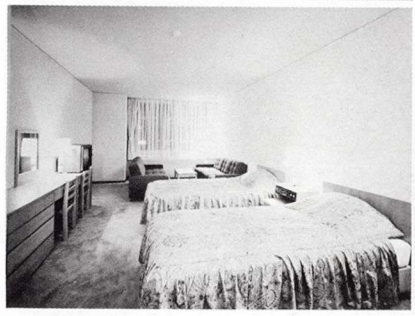


1. 法座席(2F)
2. 会議室(7F)
3. 戒名室(3F)
4. 研修室(6F)
5. 吹抜ロビー(9F)
6. 団体宿泊室(8・9F)
7. 宿泊室(10F)
8. 浴　室(B2F)

撮影　渡辺憲央







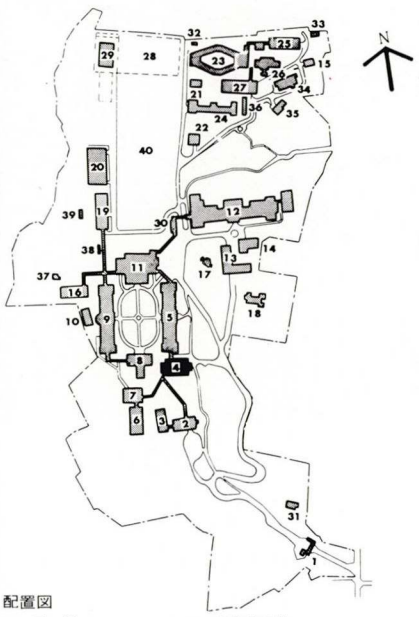


神戸女学院100周年記念館

設計施工　竹中工務店

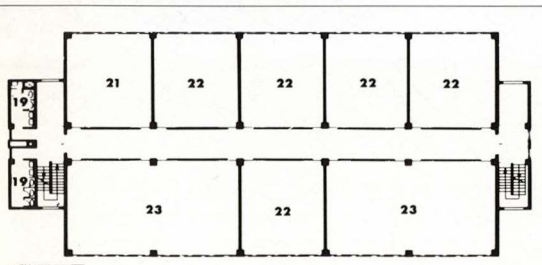
所 在 地　西宮市岡田山65
敷地面積　135,086.36㎡
建築面積　977.56㎡
延床面積　2,810.84㎡
構造規模　RC、B3、3F、P1
工　　期　昭和50年7月～昭和51年3月
ステンドグラスデザイン　田中忠雄氏
（行動美術協会会員、日本美術家連盟理事長）



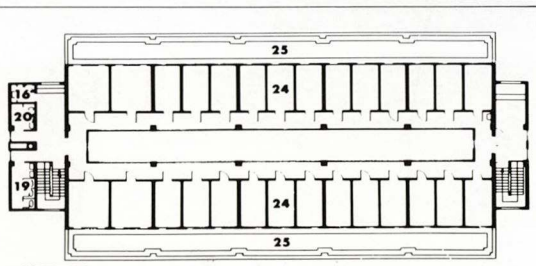


配置図

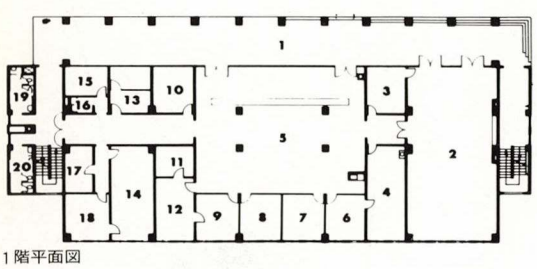
1. 正　門
2. 音楽館
3. 新音楽館
4. デフォレスト記念館
5. 文学館
6. 文学部1号館
7. 文学部2号館
8. 図書館
9. 理学館
10. 家政学部別館
11. 講堂及び総務館
12. 中・高部校舎1,2号館
13. 中・高部校舎3号館
14. 視聴覚センター
15. 大学院
16. 社交館
17. 茶　室
18. 清思庵
19. 体育館
20. 新体育館
21. 家政実習館
22. 同窓会館
23. 北　寮
24. 南　寮
25. 東　寮
26. 新　寮
27. 寮食堂・浴室
28. テニスコート
29. 水泳プール
30. 購買部
31. 院長公舎
32. 北　門
33. 東　門
34. ケンウッド館
35. グリーンウッド館
36. ボイラー室
37. パインウッド館
38. 営繕控室
39. 倉　庫
40. 運動場



2階平面図



3階平面図



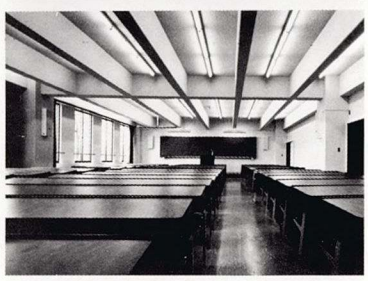
1階平面図



断面図

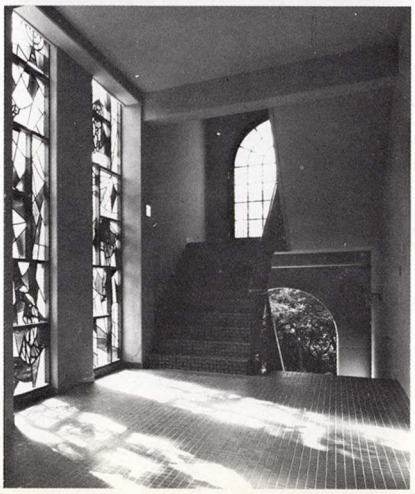
1. ピロティ
2. 大会議室
3. 応接室
4. 小会議室
5. 事務室
6. 休憩室
7. 事務長室
8. 学生部長室
9. 教務部長室
10. 印刷室
11. 倉　庫
12. 事務室
13. 就職資料閲覧室
　学生相談室
14. 学長室
15. ロッカー室
16. 湯沸室
17. 書　庫
18. 副　室
19. 女子便所
20. 男子便所
21. 研究所
22. 教　室
23. 大教室
24. 研究室
25. バルコニー
26. 設備室





ミッションスクール、そして女子教育界の名門である神戸女学院は、創立100周年記念にシャーロット・B・デフォレスト記念館を建設した。阪神間の市街地を眼下に望む岡田山には、深い松林に包まれたキャンパスに学舎が点在し、落着いた教育環境をつくっている。記念館は丘の南斜面に配置計画され、緑と旧校舎との調和を主題に赤瓦とアーチ窓のスパニッシュミッションスタイルで完成した。第5代院長であった、故デフォレスト女史の生涯を象徴するステンドグラスが階段室に美しく映え、塔屋に納められた記念鐘からは時おり澄んだ音色が聞かれる。3階の個人研究室は南に位置する音楽館からの音を極力やわらげること、静かな落着き、多量の書物の収納という与条件を、屋根うらまで利用した断面計画で解決した。そして吹抜上部からの柔らかい採光により、2階中廊下は僧院風の厳しい雰囲気の中にも、女の園らしい優しさと静けさを漂わせている。一方、事務室は今まで各棟に分散されていた閉鎖的な事務機構を、オープンスタイルで1階中央に集約し学生への便利をはかっている。







撮影 上川 征洋



大阪府立大阪女子大学

設計　昭和設計

設計監理　大阪府建築部、昭和設計
施　　工　大末建設・海原建設JV（第1工区）
　　不動建設（第2工区）
所 在 地　大阪府堺市大仙町1031
敷地面積　56, 252m²
建築面積　 7, 062m²
延床面積　16, 319m²
構造規模　RC. 1～4F. B1
工　　期　昭和49年12月～昭和51年5月



写真撮影：河野　豊
航空写真：大川　彰

大阪女子大学が、創立50周年を期して、帝塚山から堺市大仙町へ全学移転することになった。新しいキャンパスは、幾重もの堀と宏大な森に包まれた仁徳御陵に接し、都市化の激しい波に洗われている堺にあっては貴重な緑豊かな環境である。このような環境を認識したうえで、大学自身が自律的にバランスのとれた良質の環境を形成し、周辺に対しよりよい影響を与えることが、計画者としての目標である。そこで設計テーマを次のように設定した。

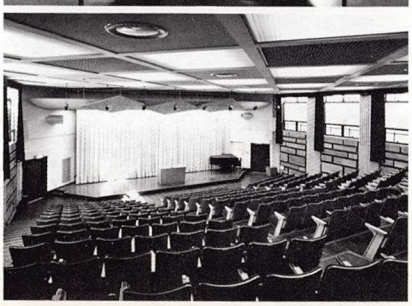
1．市民社会に対し開放的な空間とする。
2．現況の地形・樹木の保存をはかる。
3．自然環境との調和をめざし、常識的市民的立場ですなおにデザインする。
4．非目的な空間を意図的に設ける。
5．公害の加害者とならぬための各物質の敷地内処理。
6．環境劣化の歯止めとして、増築を制限する。

各施設の設計はコストの制限から、まずエレメントの単純化と統一をはかることを課題とした。そして、それらの繰返しや組合せによって、有機的な空間構成を得るために、建物の低層化処理と、敷地のレベル差を利用して高さの変化をつけ、拡がりのある建物配置とした。それにより、目的空間の機能的結合はもとより、非目的な空間も多様に展開し得たと思う。

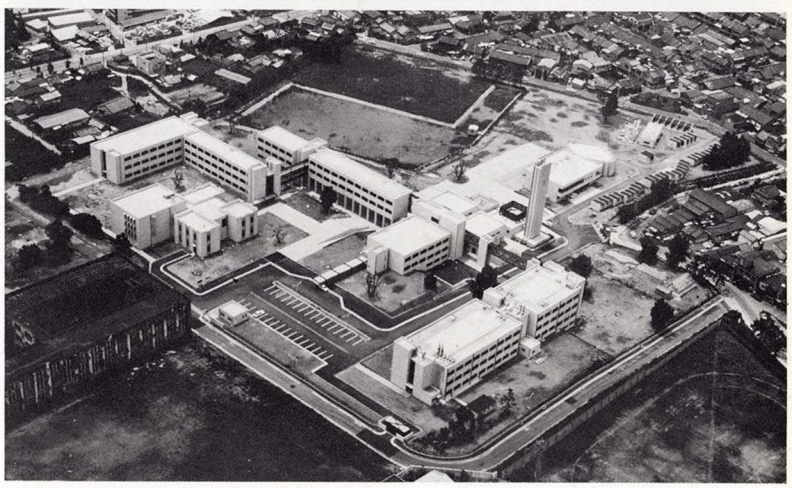
（宮田　照久）

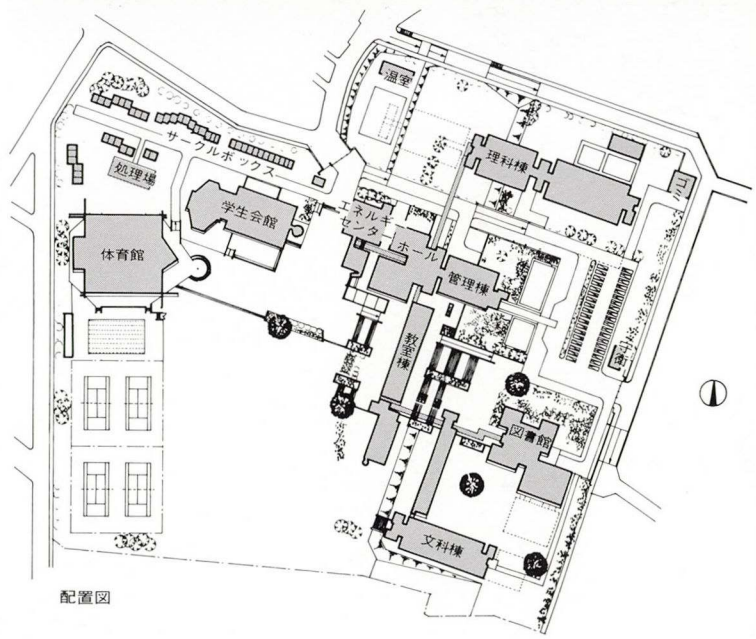












配置図

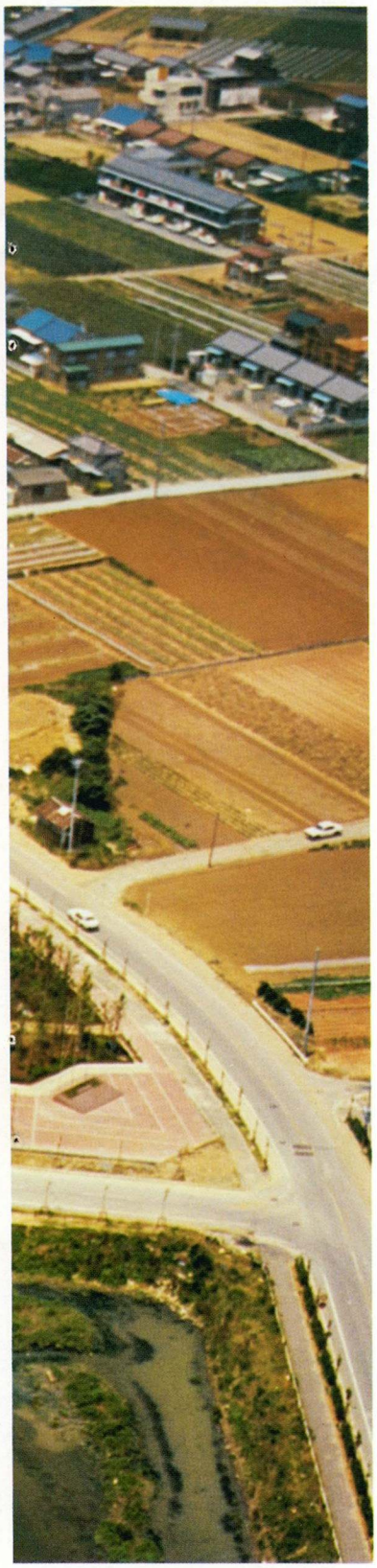


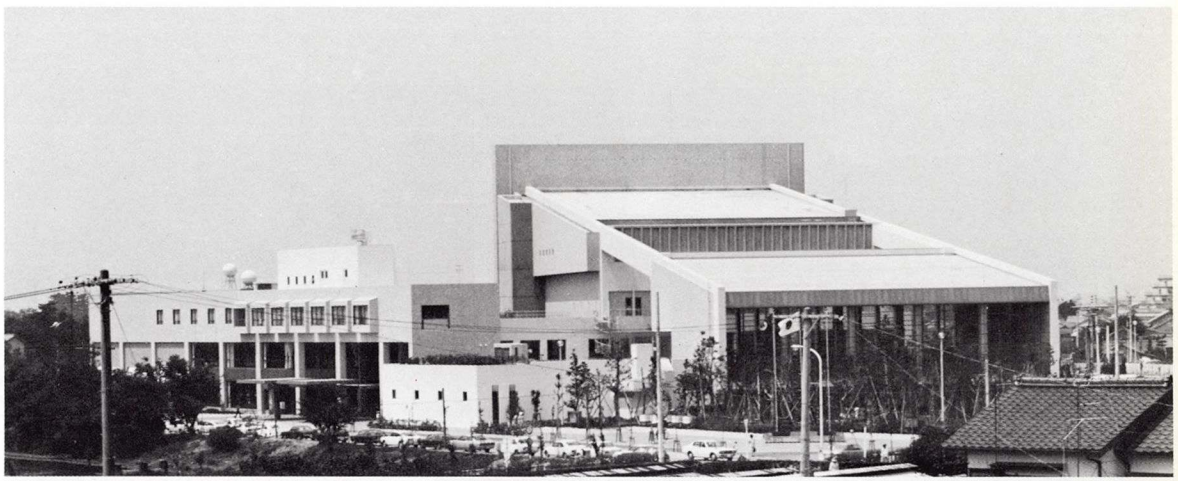
愛知県豊橋勤労福祉会館

設計　東畑建築事務所

施工　鴻池組

設　　計　愛知県建築部
　　東畑建築事務所
施　　工　鴻池組
所 在 地　愛知県豊橋市草間町字東山地内
敷地面積　16,530m²
建築面積　7,044m²
延床面積　13,299m²
構造規模　RC. S. B1. 5F
工　　期　昭和49年10月～昭和51年6月





豊橋勤労福祉会館は、勤労者の文化教養、体育向上、余暇の健全活用を目的に総合福祉施設として建設された。1,500人収容の多目的大ホールを中心に体育館、宿泊施設、会議施設、小ホールなどの施設を3ブロックに分け、ホール棟、体育棟、宿泊棟とした。これらのブロックは各々が有機的つながりを持ち、しかも、機能とスペースの性格が視覚的に表現され、一つの建物としての統一感も得られるように工夫した。すなわち、大ホールと体育館のボリュームの差を対置させてその独自性を見せ、宿泊棟を前面に出し前方に広がる緑を借景とし、三者の持つ性格を明確にしながら一体化した。

一方、各ブロックが持つ独自の目的を十分に生かすため、エントランスロビー・展示ホール・談話コーナー・プラザ・中庭など人々が自由に集まり談笑できるゆとりとうるおいのある空間を配し、内部と外部空間の連続性を強めてどの位置からも自然に対し開かれた空間とし、併せて防災避難の場とし得ることなどを計画のポイントとした。

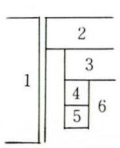
大きな池の一部を造成した現地は、残っている池と底部でつながっているため、地下部分の排水山留計画には特に注意を払い、ドライワークで施工した。軀体は、壁はRC、小屋組は鉄骨を架設する工法のため、RCの精度には特に注意した。ホール棟地下工事より着手、体育棟、宿泊棟と順に軀体を築造し、地階より仕上工事をラップさせた。また、各棟の取合部分には複雑な形態の故もあり、エキスパンションなどが多いため雨仕舞について最善となるよう努力した。月間、週間の工程会議、毎日の打合せを通じ、附帯工事を含めて終始綿密な打合せを行い、無事工期内完成に至った。全工期にわたり無災害を達成、愛知労働基準局優良賞を受賞した。





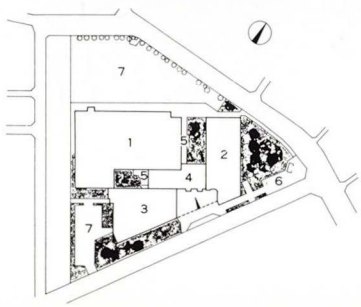






1．全景（航空写真）
2．外観東面（遠景）
3．エントランスロビー
4．大ホール（客席）
5．アリーナ
6．ホワイエ

撮影：SS現像所



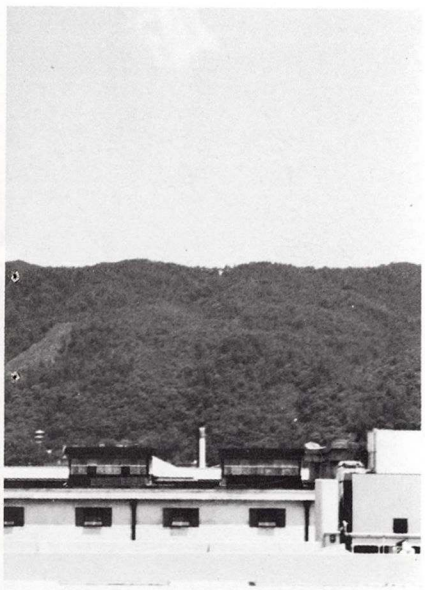
1．ホール棟
2．体育棟
3．宿泊棟
4．エントランスロビー
5．中庭
6．大樹のある庭
7．駐車場



京都伝統産業会館
＋日図会館

施工　松村組

設　　計　京都市住宅局営繕課・設備課
　　川崎清＋(財)建築研究協会
　　建築　環境・建築研究所
　　構造　塩路建築事務所
　　設備　東洋設計事務所
施　　工　建築　松村組　　設備　三晃空調
　　電気　同和電工・昭和電工社ＪＶ
所 在 地　京都市左京区岡崎成勝寺町９
敷地面積　4,833.31m²　　建築面積　1,884.68m²
延床面積　6,624.64m²　　構造規模　RC.B1.3F.P1
工　　期　昭和50年７月～昭和51年10月





京都伝統産業会館は、岡崎公園の南西の一角、東から流れてきて北に向きを変える疏水に沿った敷地に建てられた。ここ岡崎公園は、明治以後数回の博覧会などを経て徐々に整備されてきた公園で、平安神宮、美術館、勧業館、京都会館など、それぞれの時代を表象する建築が混在し、京都の主要な文化拠点の一つとなっている。会館北側の二条通りは、岡崎公園への主要なアプローチであるため、京都会館と対になって導入部を形成するよう、軒高・壁面線を揃え、位置的な骨格とボリュームを合わせた。

建物のスタイルは、疏水の石垣、東山のスカイラインを配慮して、水平線を通すシンプルなデザインとし、壁面の仕上に砂岩を用いることにより、京都会館・勧業館との質感・色調の調和を計った。

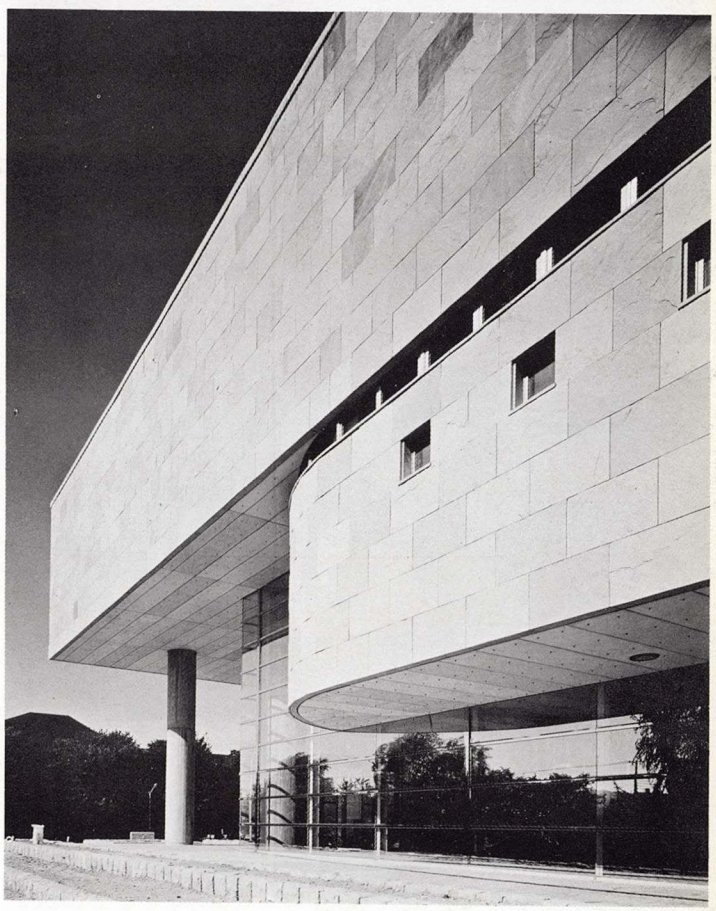
会館周辺は、前面の基壇、中間部のサンクンガーデン、後部の日本庭園の三部分に分かれており、疏水沿いの散策路化に寄与できるよう計画した。前面の基壇部は、芝生を敷きつめアプローチを豊かに飾ると共に快適なテラスを提供し、サンクンガーデンは光庭になると共に屋外展示場となり、日本庭園は豊かな散策、野立てなどを楽しめるようになっている。

会館の主要な部分は、京都の伝統産業を総合的に把握しうる情報センターであり、展示部門・資料情報部門・研修部門の主要な三つの機能が緊密な関係のもとで、有機的に働くように空間配置されている。

空間全体の表現は近代的な建築構法に素直な表現とし、とくに伝統様式を模倣することを避けたが、壁・床・手摺・押板などにはできるだけ手造り的な表現を用い、伝統産業会館にふさわしい雰囲気がでるように配慮した。

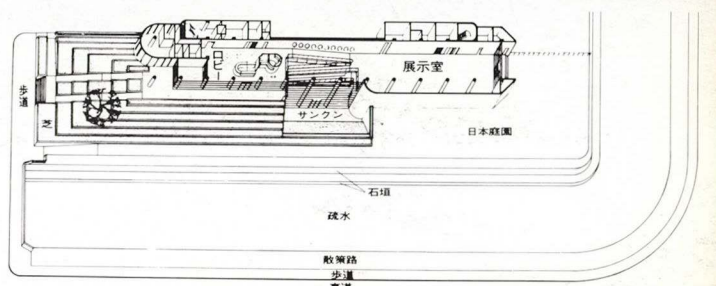
京都の福祉の町づくりの構想、さらには、身障者の社会復帰に対して伝統産業就業の機会啓蒙が重要な柱であることを考え、身障者、老人が無理なく会館を利用できるよう、スロープエレベーターをはじめ、各所に細かい配慮を払った。　（森山佳嗣）







写真撮影　関谷　勲
写真提供　ＡＧ



大阪駅前市街地改造事業
大阪駅前第2ビル

施工　鴻池・奥村・錢高・松村共同企業体

設計監理　大阪市都市開発局
　　安井建築設計事務所
所在地　大阪市北区曽根崎上4—10
敷地面積　8,890m²
建築面積　8,792m²
延床面積　103,746m²
構造規模　低層部：SRC　高層部：S
　　B4．16F．P3
工期　昭和49年4月～昭和51年10月





大阪駅前市街地改造事業は、大阪駅前地区の南半分約6ヘクタールの地域を、大阪市が都市計画として整備し、4棟の高層ビルを建設して、地区の近代化と、土地の高度利用を計ると同時に、これらのビル群を、地上と地下で接続して、より都市的なスケールで機能させようとするもので、その構想は、昭和36年、市街地改造法にもとづく都市計画として決定された。

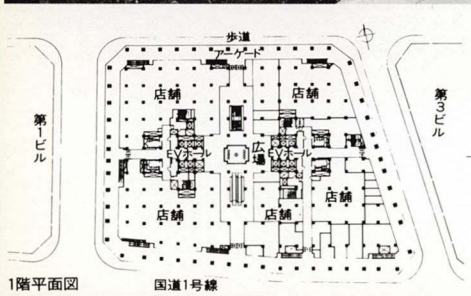
大阪駅前第2ビルは、昭和45年に竣工した第1ビルに続いて、その再開発事業の一環として進められ、基準法の改正及び容積制の施行に伴う計画の修正を経て、実施に移されたものである。

第2ビルの設計に当っては、この基本計画をもとに、第1棟を基調として外部を構成し、地区全体の景観の調和を計ること、魅力ある店舗床と、多様な需要に対応できる業務床の構成を計ることなどを計画の指針とした。ビルの特徴である中央の吹抜は、これらの方針によって検討を積み重ねた結果、導かれたものである。

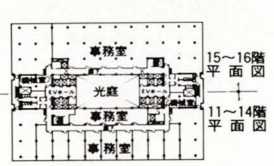
高層部の業務床は、サイドコアの光庭を持った平面とし、採光面の増加を計って、事務室区画の自由度を高めることにした。この事によって高レンタブル比を保ちながら、廊下の設け方によっては、40m²程度の小分譲区画の事務室を相当量設けることが可能となった。

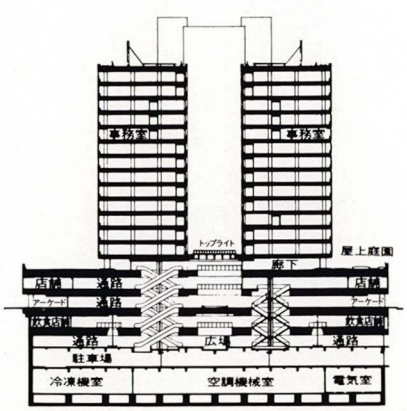
光庭部分は低層階では、吹抜を持った広場として、店舗のにぎわいの中心とした。またこの広場に面して、高層階の2群のエレベーターホール、店舗階のエスカレーターや解放的な階段を設けて、ビル動線集散の中心とした。すべての動線を、中央の吹抜を軸にして展開させたことによって、高容積・複合的な機能の集積であるこのビルの動線は、非常に明解なものになった。そして吹抜の視覚的な効果とも相まって、このビルに、解放的な印象と活気をもたらすことができたと考えている。





1階平面図






駅前第2ビル


富士火災

富士火災海上保険 茨木ビル

設計施工　清水建設

所 在 地　大阪府茨木市大道祖本 3－1
敷地面積　10, 114. 18m²
建築面積　2, 456. 43m²（増築）＋1, 955. 91m²（既築）
延床面積　14, 739. 21m²（増築）＋5, 294. 12m²（既築）
構造規模　SRC. B2. 5F. P3
工　　期　昭和50年 5 月～昭和51年10月



万博会場を南に望む千里丘陵の北端に郊外型のオフィスビルを実現するために、計画の主題をこの恵まれた自然環境を生かすべく『周辺環境との調和・人間性回復の職場づくり』においた。

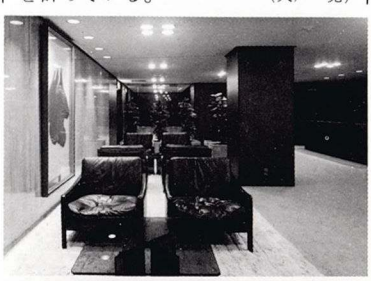
敷地の高低を利用して、執務スペースは高層棟に、厚生・集会ゾーンは低層棟に配置した。高層棟は、事務空間としての機能を追求し、3.2Mモデュールのフレキシブルな空間を作り、外周にはバルコニーをめぐらし、保険会社の建物として、防災性能の向上とともに省資源化を計っている。これはデザインの面でも大きな特徴となり、彫の深い格調の高い外観を表出している。

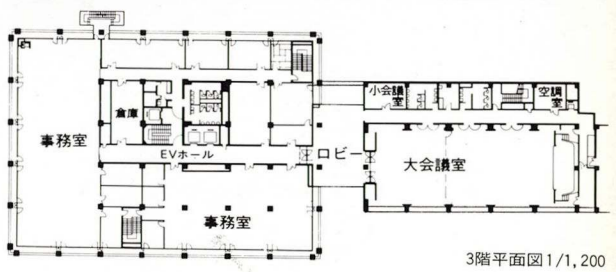
低層棟の食堂などは執務空間とは分離し、働く人々のくつろぎの場として、庭園に面した最も眺めのよい場所に確保した。この庭園には、各地から集められた椿が植えられ数年後には「椿の名園」となるであろう。

なお、この建物には、当社で開発した総合ビル管理システム（BECSS）を採用し、設備機器の制御・スケジュール運転、デマンド制御、防犯・防災監視をテレビの画面上で行うことができ、省力化・省エネルギー化を計っている。（大戸　寛）

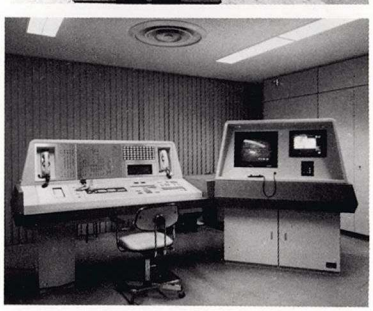


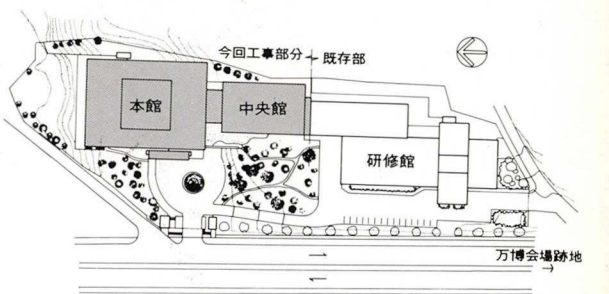






3階平面図1/1, 200





配置図1/3, 000

3　1．役員室ロビー
4　2．防災センター
1　3．庭園より本館をみる
2　4．玄関ホール



撮影　川元　齊

安田生命大阪ビル

施工　大成建設

設計監理　日建設計東京本社
所在地　大阪市西区江戸堀上通１－７
敷地面積　1，880．75 ㎡
建築面積　1，799，207㎡
延床面積　14，135．93 ㎡
構造規模　SRC、B２、12F、P２
工　期　昭和49年８月～昭和51年６月

四ツ橋筋には最近比較的大きなビルが揃い始めているが、一本裏に入ると未だに木造を主とした低層の小規模建築群が大半を占めている。大規模な建物との間に生ずる環境の変化については、オーナーの企業の性格もあってとくに神経を使った。

全体の形は低層部の中央に高層部を乗せた形になっている。技術的にはその足もとにむずかしさがあるが、周辺の低層建物群とのなじみの空間として、例えば風害の処理などに低層部の役割は小さくなかった。

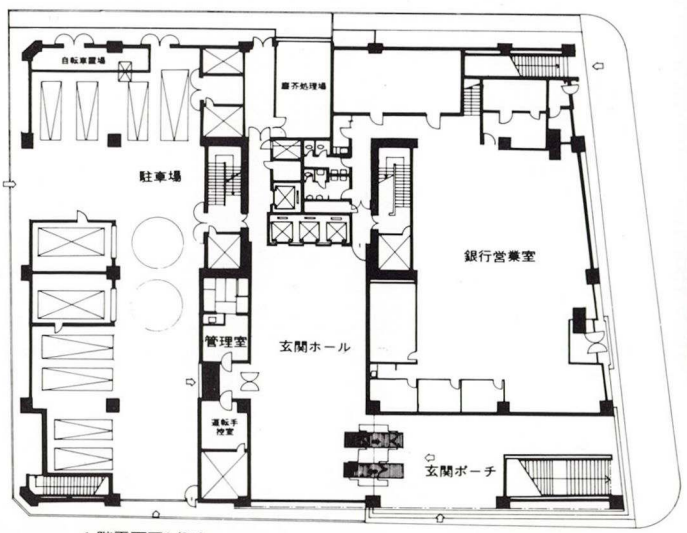
このビルは単純には貸事務所であるが、オーナーの関西方面の中枢機構が一部を専用することもあって、関西の拠点としてのイメージを造りあげることが求められ外観などにも現われている。外装は高価ではあるが、耐候性の高い材料としてアルミパネルと花崗石打込ＰＣ版を採用した。ＰＣ版の採用はこの場合、石が先にあってその剝落やシミを防ぐことが主目的になっている。

ＰＣ版としては比較的複雑な断面で、パネルの種類も多くなっているが、高度な生産システムによれば多様な機能と形を持った製品を送り出せる可能性を、充分持った工法であると考えている。(谷崎績)





基準階平面図



1階平面図1/600




阪急
阪急百貨店
阪急電車のりば
住友銀行

住友不動産京都ビルディング

設計　日建設計大阪本社

施　　工　竹中工務店・鴻池組共同企業体
所 在 地　京都市下京区四条通河原町通東入ル真町68
敷地面積　3,165,000m²
建築面積　2,782,513m²
延床面積　29,044.679m²
構造規模　SRC、B３、８F、Ｐ３
工　　期　昭和48年６月～昭和51年９月

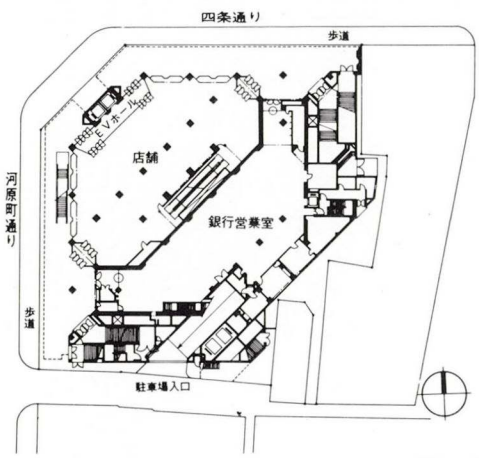


撮影　上川征洋





２階平面図



１階平面図1/600

この京都住友ビルは、四条通り商店街のほぼ東端と河原町通りと交わる角地に建設されたもので百貨店(阪急)、飲食店街、及び銀行支店(住友銀行)などを主要テナントとする複合商業ビルである。したがって、地表１階レベルで競合するこれらの諸機能を１つの建築の中に融合させ、構成することが設計に当っての第一の課題であった。

角地という立地条件をいかして、北、西両面の道路から室内を貫いて、相互に見透しができ、通り抜けられる空間を得るために軸線は45度振って設定した。

銀行の客溜り、百貨店の１階売場の主通路は、それぞれ性格づけられ歩道の延長が、バイパスであるかの様に意図演出した。又、その１階の外壁は道路に面して５メートル後退し、２階まで吹抜けとなり、アーケードとして開放、京都の新しい街角に豊かな空間設定を試みたつもりである。

外装は京都の街並との調和、品格のある華やかさを追求し、色は全体に黒に近いブロンズトーンにまとめた。又、大部分をしめる百貨店の外壁として合理性を求めた結果、アルミ押型材のスダレ状カーテンウォールとアスベストパネルを組合せて構成し、それに避難バルコニー、非常進入口を内蔵させる内容のものとした。

伝統的な街並みにおける格子や、すだれの繊細さ、その縦糸の優しさが――また、加茂川や堀川沿いに残る友禅染の乾繰場小屋の健康さが――発想の支えとなった。夜間は、避難バルコニーの朱色を映した光がアルミスダレの間からこぼれて、夜間営業の雰囲気づくりに参加するよう試みた。

（大西孝夫）

高槻カントリー倶楽部クラブハウス

所 在 地　高槻市大字田能小字中山
敷地面積　727, 695. 00m²
建築面積　1, 935. 00m²
延床面積　2, 729. 73m²
構造規模　RC. 一部S. 2F
工　　期　昭和50年12月～
　　昭和51年 8 月

設計施工　大 林 組



高槻市街より芥川沿いに車で30分、やがてのどかな盆地に到着する。その東を占める丘陵地がこのゴルフ場であり、敷地のほぼ中央、田園を望む高台にこのクラブハウスは位置している。計画するにあたって意図したことは、この明媚な風景をそこなうことなく、ゴルフ場のランドマークとしての役割をいかに生み出すかであった。

クラブハウスの立地が、コースからは見おろし、田園地域からは見上げるレベルにあることから、高さを極力押え、軽い勾配屋根で地形にフィットさせるとともに、平面形状を変化あるものにした。また、周辺の樹林に素直に融和させることを考え、窓、壁の出入、軒の深さなどによる彫りの深い外観とし、モノトーンの色調によりそれを強調した。特に食堂、浴室の窓は最大限に設けた。それは、上記の意味とともに、天井、壁を額縁としてコースを見渡せる効果を考えたからである。

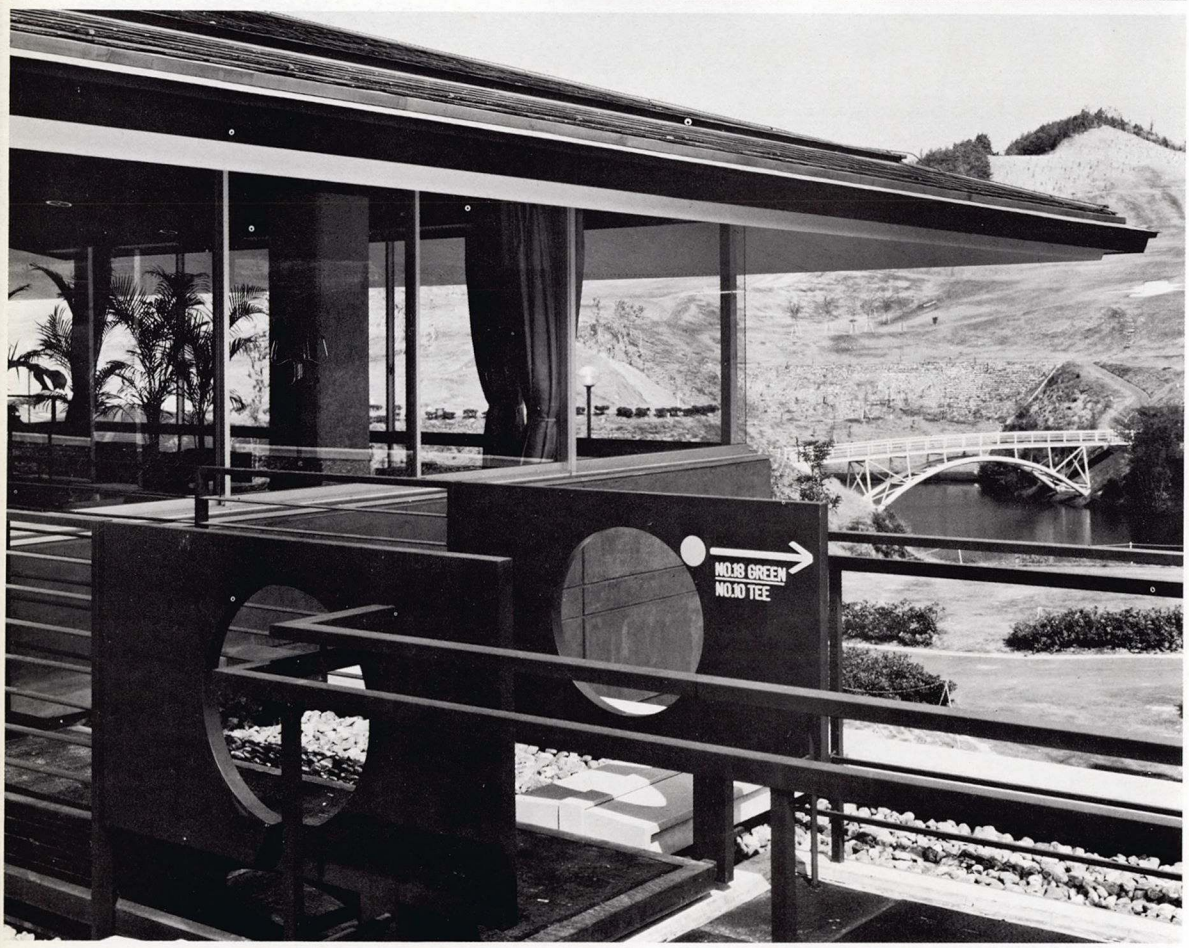
内部計画においては、機能と動線を熟慮し、可能な限りコンパクトにまとめた。また、憩いの場としての落ち着きと、社交場としての品位と風格、かつ、スポーツ施設としての明るさをもつ空間にするため、カラープランニングを重視し、黒と白〈シック〉をベースに、オレンジ〈明・暖〉をアクセントカラーとして配した。　（栗原　幸二）

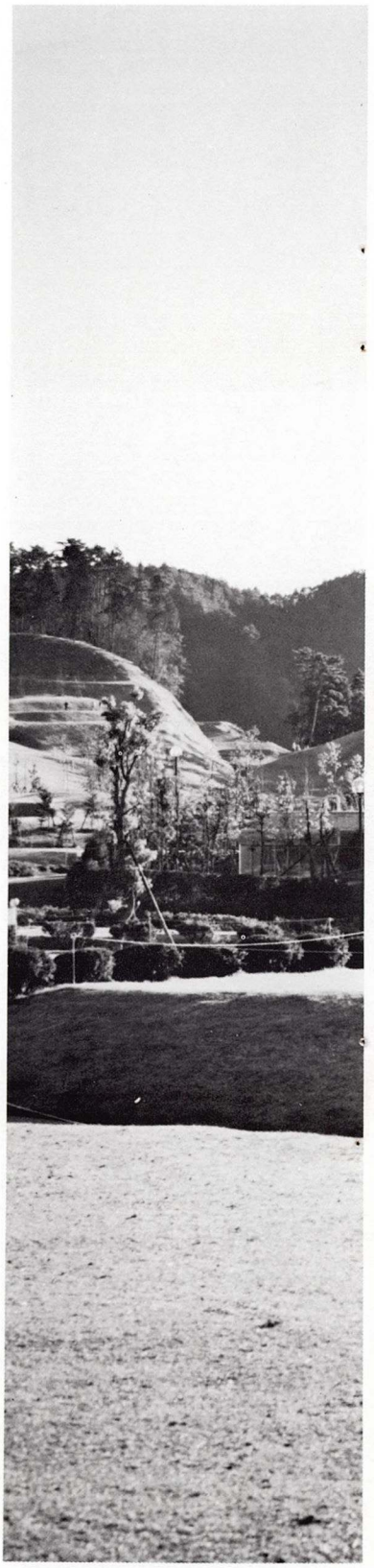


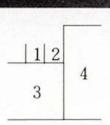
配置図・1階平面図











1．ロビー
2．食　堂
3．2階南東隅
4．北東面全景
撮影　山本富実成
（1．2．3）

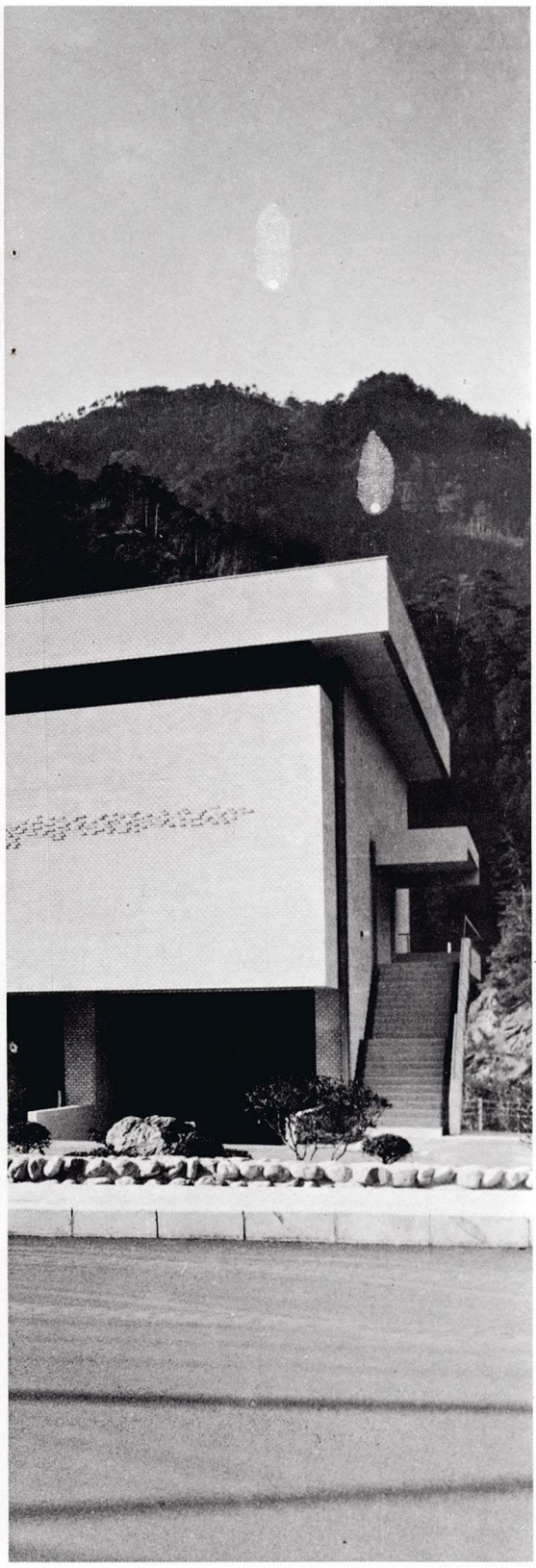




十津川村庁舎

施工　奥村組

設計監理　小河建築設計事務所
所在地　奈良県吉野郡十津川村小原
敷地面積　4,300㎡
建築面積　1,616㎡
延床面積　5,189㎡
構造規模　RC、B1、3F
工　期　昭和50年5月～昭和51年10月



庁舎設計に際しての主要テーマは下記による。
○古い歴史と伝統をほこる十津川村の行政拠点としての風格ある建物とする。
○狭隘な用地を可能な限り有効利用し、パーキングなどの空地を確保すること。
○過疎化の傾向にある地域でのコミュニティとして住民センターを併設する。
○機能優先をこころがけ、建物の維持費も含めた経済性を充分に考慮する。
○気候的条件（強風・強雨）に無理のない形態とする。

緑豊かな自然と折目正しい十津川郷土にふさわしい何かを表現すべく努力する。ことさらに地方色を意識するような手法はさけ、端正なたたずまいをと心がける。効率のよい空地を確保するために建物は単純な平面形とし、河川側傾斜地へ可能な限り押し出す。斜面に生ずる地階部分を公用駐車場とし、前面空地を外来駐車場として確保する。庁舎の規模設定として、人口・職員数など現状の5割増し迄の機能をみたし、単純中廊下形式による執務空間への十分な採光通風を優先させる。住民センターは通常、屋内運動場として使用するも、400人程度の集会が可能な小ステージ付きとし、村民交歓の場として多目的利用をはかる。（志賀嘉重）

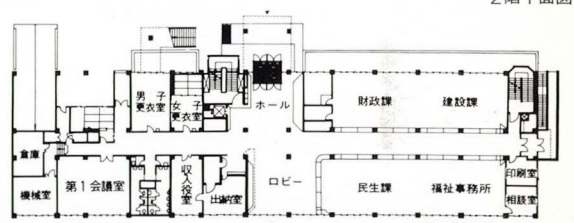




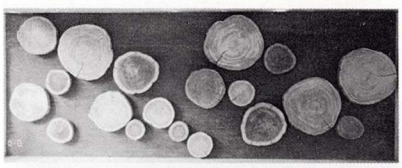
3階平面図



2階平面図



1階平面図　1/1,000





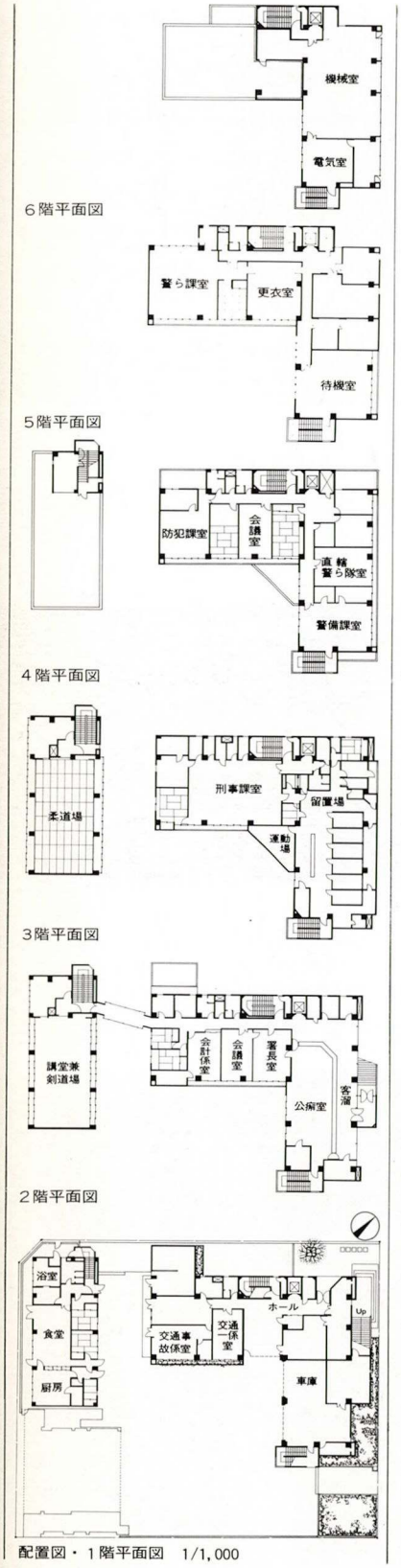
大阪府 西淀川警察署

設計　大建設計

設　　計　大阪府建築部・大建設計
施　　工　三木組
所 在 地　大阪市西淀川区千船東１―15
敷地面積　2,025.50㎡

	本館	別館	（既設察棟）
建築面積	529.47㎡	191.64㎡	（191.31㎡）
延床面積	2,505.62㎡	600.12㎡	（853.60㎡）

構造規模　本館：RC、６F　別館：RC、３F
工　　期　昭和49年９月～昭和51年８月



配置図・１階平面図　1/1,000



敷地は国道２号線に面する角地に位置し、周囲は中小工場・商店・住宅の混在する、いわゆる混合地域を形成し、交通量も極めて多い地域にある。
従がって周囲の状況・狭い敷地の条件を考え、極力広いオープンスペースの確保と多種多様な執務空間の明解な処理を軸に建物の高層化をはかり、また意匠的には近代的警察・地域社会になじむ警察の建物を願って設計を進めた。その結果、敷地南側に別館（道場・食堂）を配し、来庁者・執務空間からの分離をはかり、次に本館を国道に面するＬ型プランで計画し中庭としてのオープンスペース、建物周囲はできるだけ緑を確保し周囲になじませ、また内部的には異なる執務を各階に分け縦の動線で処理している。
ここでは過去敷地の浸水の事実を考え、災害時の警察機能確保のため設備機械室を最上階に、最も市民との接触の多い公廨室を２階に設けた。この公廨室は解放階段で前面道路に接続し、全面ガラス張りの解放的な空間として計画されている。

大阪市消防局 消防学校

施工　フジタ工業

設計監理	大阪市建築局 東畑建築事務所
所在地	東大阪市三島188－1外
敷地面積	33,469㎡
建築面積	5,336㎡
延床面積	9,570㎡
構造規模	RC、S、B1、4F
工期	昭和49年12月～昭和51年2月

大阪市消防教育研究総合センター、通称「消防学校」は、過密化の波の押寄せる鴫野の地に、疲憊の極みの態で喘いでいた。しかし、そこに繰りひろげられる教育と訓練は、実に厳格で激しいもので、訪れた私共を驚かせた。

今日の都市火災の悽惨な姿を想えば、到底、「火の用心、カチカチ」だけで、市民の生命と財産を保障できる時代ではない。警世の鐘は、消防活動にも、周到な訓練と科学的知識に裏づけられた備えの確立を求めている。

私たちは襟を正す思いで、今は赤茶けた山肌をさらしてしまった生駒山系を見遙かすこの地に、全寮制の下、半年間の教育と訓練に青春の情熱を傾け、人の和の力に確かな手応えを把んで巣立ってゆける場をしつらえようと、この設計に取り組んだ。

「学校」という在来のパターンにとらわれず、厳しさの中にも、人との出合い、触れ合いを重んずる平面計画のうえに、すべての空間を一方向性のマスの複合体として表現し、色彩の扱いで象徴性を求めた。

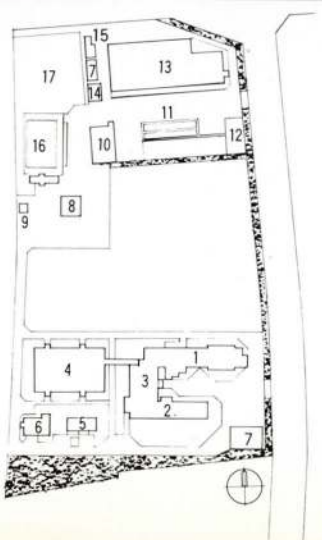
敷地周辺は未だ漠とした雰囲気であるが、オープンなグリーンベルトで囲われたこのキャンパスが、若人の熱気と、爽やかな緑で包まれる日も遠くないと楽しみにしている。

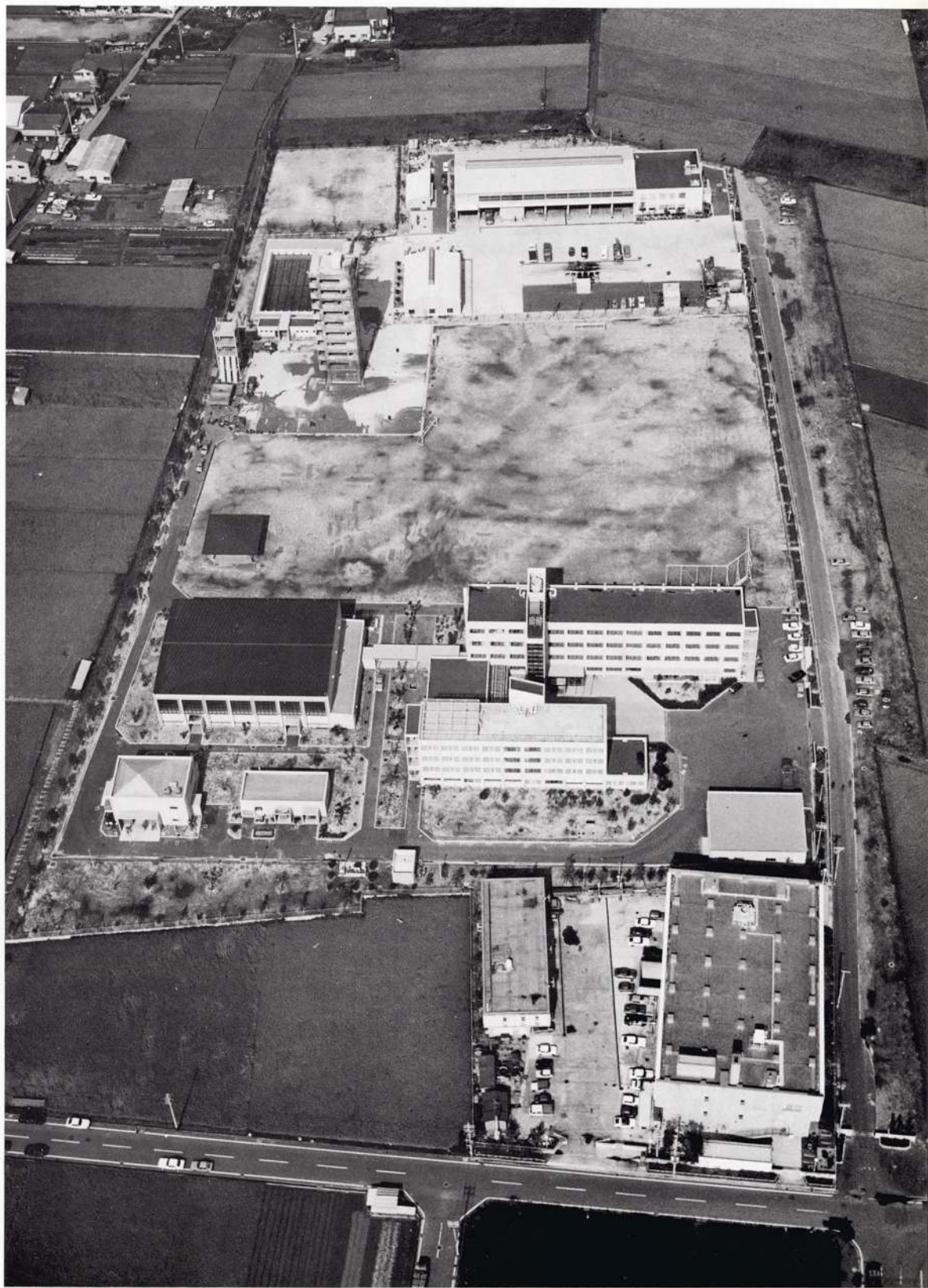


玄関ポーチ



訓練塔・補助訓練塔





配置図

1．学校
2．宿舎
3．食堂
4．体育館
5．防災研究室
6．防災実験室
7．車庫・倉庫
8．訓練塔
9．補助訓練塔
10．塗装工場
11．洗車工場
12．ポンプ試験場
13．機械工場
14．G．S
15．廃材置場
16．プール
17．テニスコート

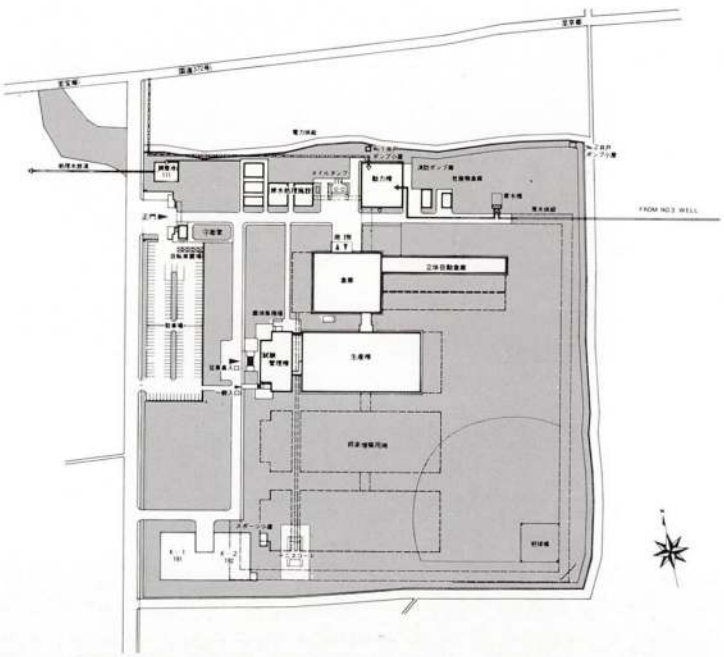
日本チバガイギー 篠山工場

設計　安井建築設計事務所

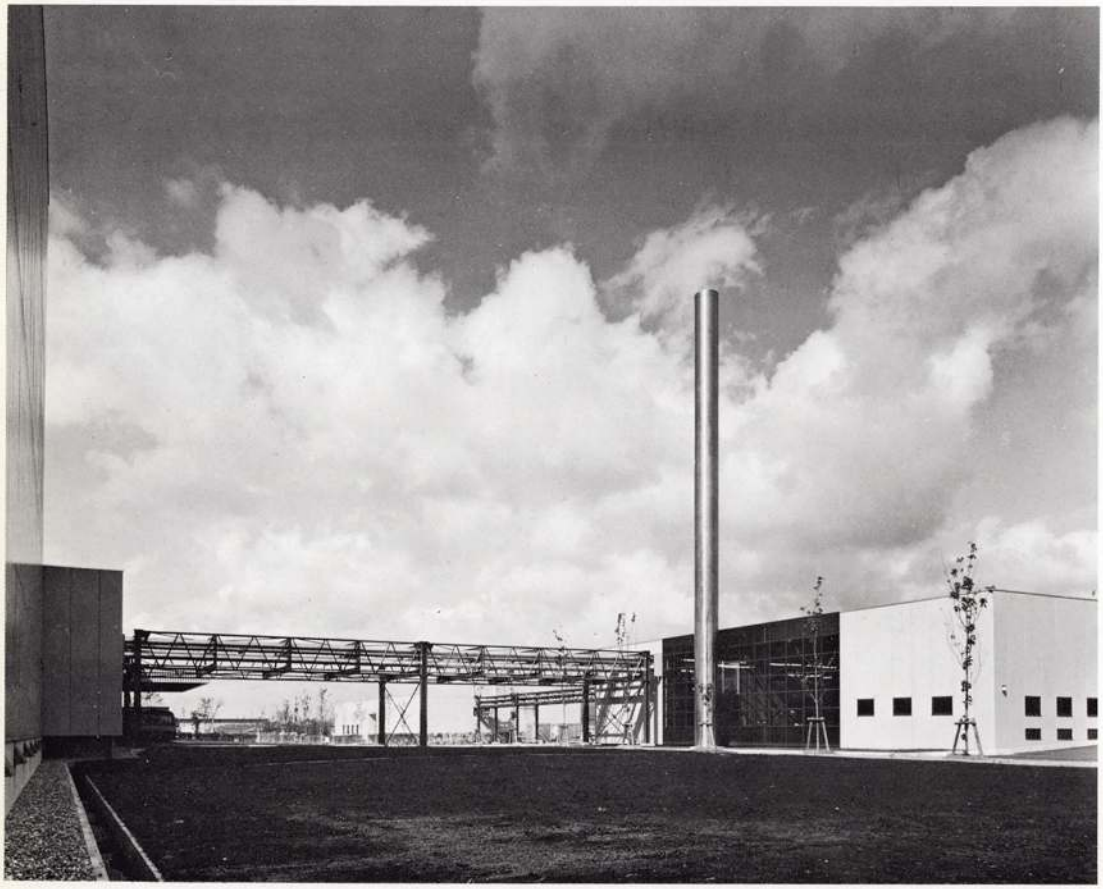
施　　工　竹中工務店・須賀工業・
　　高砂熱学工業・近畿電気工事
所 在 地　兵庫県多紀郡篠山町野々垣853-1
敷地面積　104,000m²
建築面積　10,600m²
延床面積　13,800m²
構造規模　S・平屋建、RC・3階建
工　　期　昭和50年3月～昭和51年8月

当工場は医薬品の高度な品質管理が要求されるＧＭＰ基準（医薬品の製造と品質管理に関する基準、51年4月から実施）を満たす、わが国でも本格的な第一号工場である。
敷地は丹波・篠山町の東約5kmの豊かな自然環境に恵まれた地にあり、外観もこの周辺環境との調和を主眼に、健康に奉仕する国際企業にふさわしい清潔なイメージを表現することを意図した。
マスタープランは、将来の需要・変化に対応できるよう、エネルギー供給幹線を軸に生産・倉庫・試験・管理・厚生など機能区分された棟別建物を組合せた構成としており、今回竣工したのはその第一期分の施設である。

右　試験管理棟正面
下　動力棟・エネルギー供給架台
撮影　村井　修



配置図 1/5,000

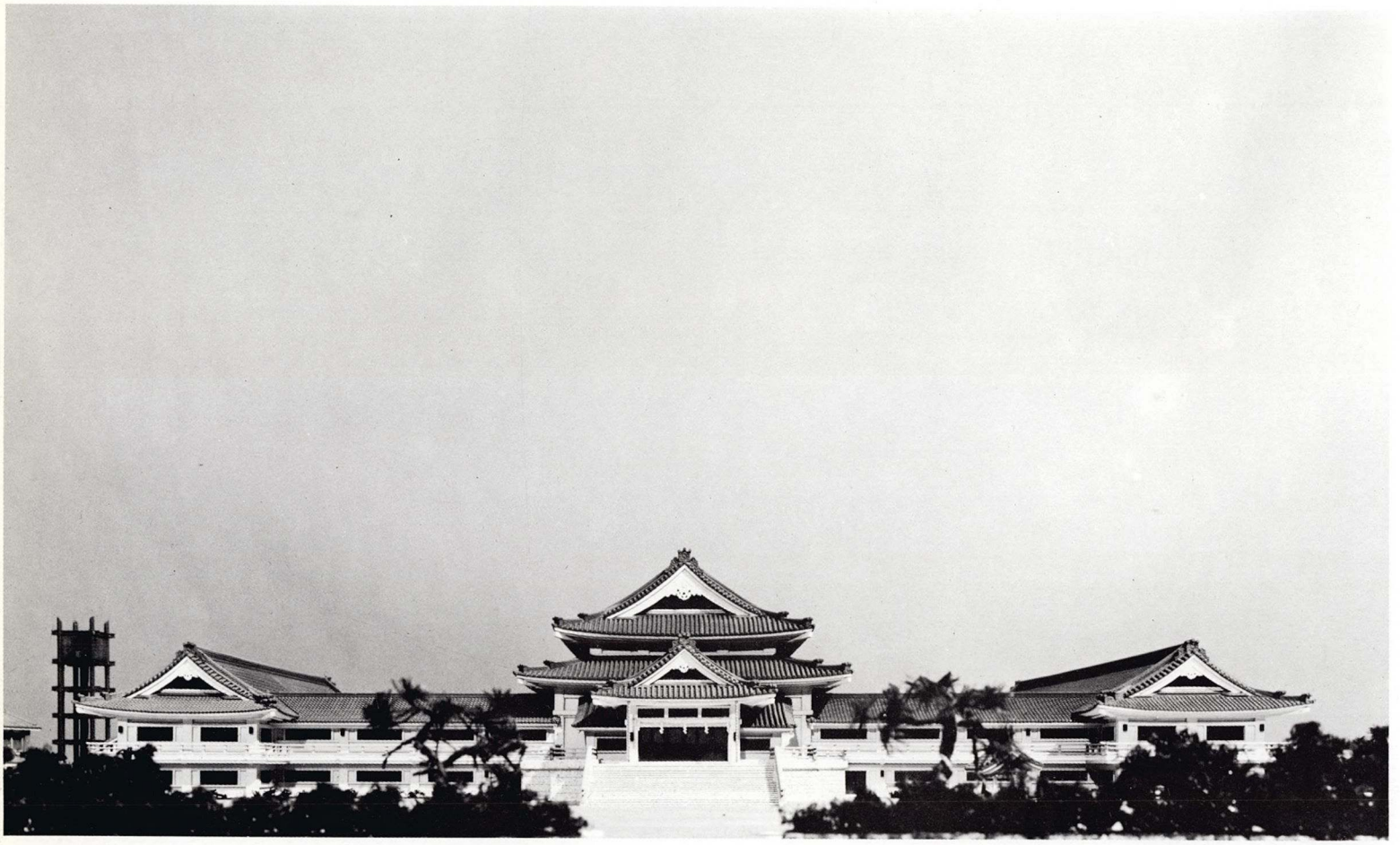





CIBA–GEIGY

天理教玉島分教会

設計　井上久雄建築設計事務所



倉敷の町並みより国道２号線を経て車で西へ約15分、高梁川の近くに田園風景と新幹線が対照的に望めるのどかな地に建設された、部下教会約45余りを持つ大規模な分教会である。

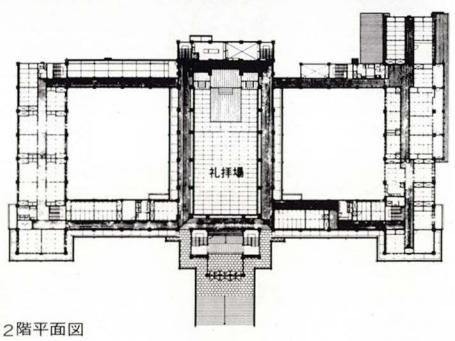
全体的な建物配置は、敷地形態がほぼ矩形に近い条件を最大限に生かすべく、神殿棟を中心に四方に拡がりながらも単純・明快に整然と展開している。

県道から敷地中央まで東西に延びている参道の中心に、西側妻入主神殿棟の軸を合致させ、それを中枢に南北に両教職舎棟を主神殿と並行に配し、各棟の機能を満足させるべく４つの廻廊がそれぞれ役目を果しながら各棟を接続している。また、外観を始め各所のデザインは、日本古来の建築様式の中でも〝力強さ〟が特徴とされている鎌倉時代の木割を基本とし、力強さに加えて荘厳な感覚を秘めながら、現代にも通じるデザインを展開させている。

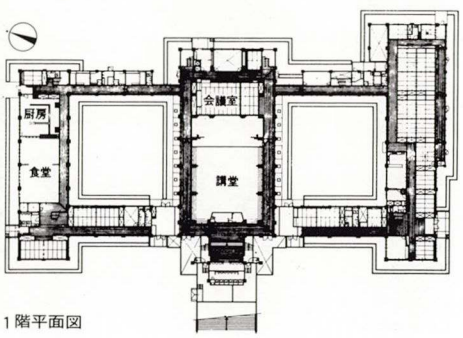
参道より臨むと親が子を見守るように、重層本瓦葺の主神殿が各教職舎を見守りながら力強く軒先の線を強調している。また構造体をそのまま意匠とした、柱・梁による外部デザイン、或るいは礼拝場の桧を中心とした大きな部材構成による格天井などは重厚さを加えている。

施　　工　藤木工務店
所 在 地　倉敷市玉島長尾４丁目151番地
敷地面積　18,031.783㎡
建築面積　3,592.163㎡
延床面積　5,902.716㎡
構造規模　RC、２F
工　　期　昭和47年11月～昭和52年11月





２階平面図



１階平面図

エバーグリーン淀川

設計　井上久雄建築設計事務所

施　　工　熊谷組
所 在 地　大阪市東淀川区東淡路町1-44-1.2
敷地面積　32,755.28m²
建築面積　13,794.66m²
延床面積　174,501.28m²
構造規模　SRC、B1、12F
工　　期　昭和48年4月～昭和52年4月

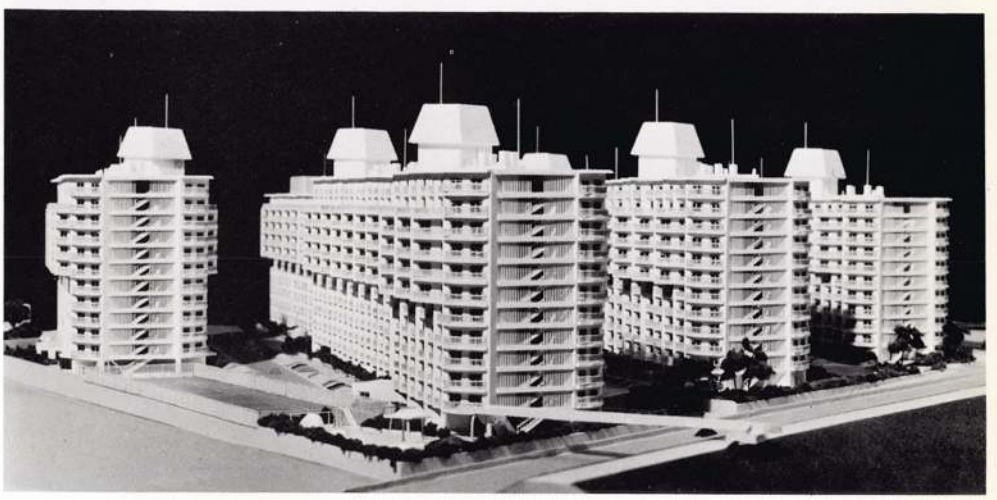


この地エバーグリーン淀川は、大阪の中心を流れる淀川を南に面し、自然環境に恵まれた立地にあり、しかも新大阪、大阪空港に至近であり、その他私鉄、市バスなどの交通の便において、優良集合住宅として開発することに着目された訳である。

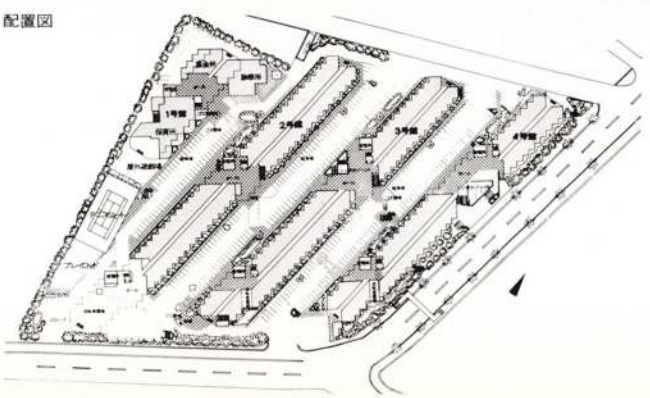
この計画の特長は単体の集合住宅建設計画の域を脱し、敷地規模3.3万m²、居住人口5,000人（世帯数1,500戸）、3万m²のショッピング・レジャー施設などを有する規模より、当然一つの町作りであり、また、その人口及びショッピング施設などの商圏より、周辺地域に及ぼす影響も極めて大きいことである。

また、当然都心型マンションであり、かなりの密度を要求されながらも、雁行型壁面の考案により、非常にユニークな間取り、いわゆる集合住宅でありながら、一戸建住宅の感覚が得られたごとと極めて多様な住宅規模のバリエーションにより構成されているのも大きな特長といえるであろう。

当初、計画実施より今日迄永々5年、完成迄に後1年を予定しており、ディベロッパが2社の共同企業体であるが、1社が大手ゼネコンの自社開発であり、非常に前向きな姿勢で町作りに取り組み、年々、技術面の改良、入居者の意向を取り入れ、フレキシブルに設計の再検討を繰返しながら、建設が進められている点も、更に大きな特長といえるかも知れない。



配置図



日本建築協会常設委員会・本年の抱負

若い会員のエネルギーを盛り上げたい

事業委員長 窪田　祐

建築界は、定着した減速経済の中で新しい年を迎えました。建築界が長期間にわたった高度成長時代から安定成長時代に入ったことを認識し、日本建築協会の各種事業活動においても、時代の変化に対応する姿勢が望まれます。

本年は今までの事業を踏襲するだけでなく、量よりも密度の濃い事業活動への方向転換を図りたいと考えております。

過去数年間をふりかえってみますと、事業委員会の各種事業の中で「若い会員の集い」の活動がとくに注目されます。昨年は、ヤニス・クセナキス（建築家・音楽家）を迎えての「建築と音楽」というテーマの企画を成功させました。青年層の委員で構成されるこの集いは、その企画において、建築とその周辺の探索に意欲的に行動しております。日本建築協会に建築界の青年層がもっと数多く入会し、若いエネルギーによる活動が期待されますが、「若い会員の集い」がそのための中核的な位置を占めることを望んでおります。本年は、事業委員会として、一層、強力にこの「若い会員の集い」をサポートしていきたいと考えております。

住宅委員会本年の抱負

住宅委員長 小西　岬

住宅委員会の大仕事であり、歴史ある「よろず相談住宅展」の入場者を増やし、出展者の協力を得るためには、人が集まる足場の良い会場の選定が最も重要である。住宅展も本年第14回を迎えるが、第11回以来努力の甲斐もなく会場に恵まれなかったこと、最近大規模な類似の催しが急に多くなり、出展者の負担が増えたことと、不況のために、出展者を探すことが大変難しくなってきている。

本年は会場としてより人の集まりやすい場所の選定に努め、会場の雰囲気を盛り上がらすために、委員会で作成のスライドを映して、目と耳で人を引きつける計画をしている。

なお4月には、朝日新聞社主催の「びわこローズタウン優秀住宅コンクール展」の審査に協力する方向で検討を加えている。

法規委員会本年の抱負

法規委員長 市川　宏

法規委員会では現在各行政庁間での法規の解釈、運用、あるいは申請業務の不統一の問題を検討している。もちろん業界では今に始まった問題ではないが、少なくも府県単位の統一くらい簡単なようでありながら、それにしても永年の悩みの一つには違いない。昨年、法規委員会では防災に関連して関係法規間のギャップを取りあげたが、その後の委員会の検討課題をみても依然としてこの種の不統一の改善を望む声が多い。ただでさえ最近の申請業務はますます複雑多様化を極めている。これも建築そのものの複雑化、民意の尊重などからは当然のこととは言え、それにしても何とかならないものかというのが建築界の総意であろうか。その一環として検討しているのが統一化の問題。せめて運用面でなりと何らかの効率化が計られればというのがわれわれの願いである。

建材委員会本年の抱負

建材委員長 山田幸一

当委員会では、ここ数年来毎月例会を開き、その時点で最も問題となっている建材について討議し、その成果を本誌「技術の頁」に紹介してきた。昨年からはそれに加えて、①本誌に「新建材紹介コーナー」を設け、新しく開発された個々の製品について委員が論評する、②学界・官公庁・設計・施工の関係者で構成していたメンバーに、新しく建材関係者を加える、③姉妹団体である日本建築材料協会との交流を深める、といった新企画を盛り込み、運営を刷新した。委員会メンバーだけの委員会から、全会員のための委員会へというのが年来の宿願であるが、昨年はその方向に多少とも前進したと思う。今後もこの方針は踏襲したいし、とくに本年は関連の委員会と協力し、合同の見学会その他の催しを計画したいと考えている。

編集委員会本年の抱負

編集委員長 中村甲一

日本建築協会は昭和52年3月をもって創立60周年を迎え、会誌「建築と社会」は660号発行することになります。伝統ある、また幅広い会員層を有する建築界でもユニークな存在である協会に、一段と歴史的重みが加えられます。

しかるに社会状勢のきびしさに加えて国鉄運賃、郵便料等の値上がり等諸条件の下で「建築と社会」誌に対して何かと影響が大きく出ており、関係各位の献身的努力にもかかわらず、会員の皆様のご期待に添えない点が多々ありましたし、また本年もあると苦慮しております。建築のあらゆる職種の連繋、建築技術の相互研鑽、向上を計る一つの中心とも考えられます会誌のあり方を、会員の皆様のご協力のもとに根本的に検討すべきものと痛感いたしております。

在来からの継続的企画を土台にしてそれを発展させて各層、各年代の会員の皆様の情報の中心、コミニケーションの場としての会誌になるよう努力いたしたいと思いますので一層の皆様からのご支援をお願いいたします。

建築データシート委員会本年の抱負

建築データシート委員長 井上　滉

数年来委員会では古くなったシートの整理、追跡調査等の地味で手数のいる仕事と、他方、新規シートの開拓という同じパターンの繰り返しで何とか会員諸兄の日常の仕事の資料として役立ちたいと努力して参りました。

目下協会創立60周年の記念に縮刷版の発行を検討中ですが、これは取り扱いの便利さと新しい会員への普及が目的です。委員会には企画分科会を設けていろいろとシートの充実を図って企画していますが、諸兄の率直なご意見等をお寄せ下されば非常に有難いと思います。

新年を迎えて委員一同今年もまた頑張りますが、皆様の温かいご協力とご指導をお願い申し上げる次第です。

出版委員会のこと

出版委員長 小林　清

昨年は、近年にない出版活動をしたことを、誇りをもってお伝えする。まず、当協会で創立45年記念事業の一つとして、先年刊行し絶版となっていた「ふるさとのすまい・日本民家集」が日本資料刊行会の手によって復刻刊行された。本書はわが国各地の民家の様相をつたえ、わが住居の原点を探究するに好個の書といえよう。

次は当協会企画のもとに、神戸大学山田稔博士を中心として、「鉄筋コンクリート構造物の耐震安全性」が、技報堂の手によって刊行された。建物の耐震安全性を確保することはいうまでもないが、この問題にはなお幾多の難点が山積しており、それらの点について本書は解明している。

さて、本年は、初級技術者の日常の業務に役立つ「技術選書」(仮題）の刊行を企画している。

新しい魅力的な企画を

教育委員長 岡田光正

教育委員会の本年の企画として、はっきりしているのは、恒例の「建築工事実務講習会」と「工高生デザインコンクール」です。これは伝統の行事でもあり、今後とも引き続きお力添えをいただきたいと存じます。

昨年は「鉄筋コンクリート構造物の耐震安全性」の講習会を、大阪だけでなく、東京でも実施し好評でした。協会発展のためにも東京でのＰＲはぜひとも必要で、よい企画があれば、本委員会が推進力となり今後もやっていきたいと思います。

なお本年は、協会創立60周年にあたりますので、何か新しい企画で、魅力的な講演会などを行うことも考えておりますので、その節はよろしくお願いいたします。

◀生田署庁舎建築工事 兵庫県警察生田独身寮建築工事の見学会

神戸市の繁華街に囲まれ、生田の森を眼下に見おろすところに建築中の生田警察署庁舎は、居留地の旧三宮警察署と呼ばれた場所より山手へ移り、来春竣工の予定で順調に建設が進められている。

生田署は兵庫県下随一の大規模な、神戸市の玄関先の警備にふさわしい警察署として、また地上7階以上を生田署の独身寮として活用するなど、近代設備を駆使したユニークな親しみのある警察庁舎の建物が生まれつつあります。

今回は兵庫県警ならびに兵庫県営繕課の特別のご配慮により本会として初の警察署の見学会を実施いたします。多数ご参加をお待ちいたします。

なお、この企画には竹中工務店神戸営業所殿に大へんご協力をいただきました。

日　　時　昭和52年1月24日(月)　集合14時→解散16時

集合場所　生田神社会館前・目標会旗

ただし、阪急電鉄神戸線「三宮駅」西口より山側へすぐの生田神社正門を入った左側。

定　　員　40名

会　　費　300円

申　　込　往復はがきで1名に1枚限りとし、下記事項を必ずご記入の上、1月14日(金)までに建築協会事業課へお申込みこと。(1)氏名　(2)勤務先名と役職(所属部課名)　(3)年令　(4)連絡電話番号　(5)返信用宛名　(6)郵便番号

追　　記　この催しは前以て参加者名簿を見学先へ提出いたしますので、代人はお断りいたします。また、建物の性格上非公開箇所の見学は省きます。なお、定員を超過した場合は抽せんにて決定しご通知いたします。

工事概要

所在地	神戸市生田区中山手通2丁目5番
建築主	生田署庁舎　兵庫県知事　坂井時忠
	独身寮　警察共済組合兵庫支部
設計監理	兵庫県建築部営繕課
施工	株式会社　竹中工務店
建築面積	1,651.67m²
延面積	7,316.92m²
構造規模	SRC造　地下1F　地上10F　塔屋1F
	(生田署庁舎地下1F→地上6F・独身寮7F以上)
外装	タイル貼、1部コンクリート打放し
工期	着工　昭和50年10月16日
	竣工　昭和52年3月25日
見学時の状況	躯体工事完了。外装→タイル仕上中
	内装→仕上工事70%完了

◀恒例〝酒蔵見学会〟 清酒 大関 本社工場の見学

すぐれた酒をもつ国民は進んだ文化の持主であるといわれます。そしてうるわしい酒をもつ国は自国の酒を大切にしています。われわれ日本人が造り出した酒は勿論「清酒」。1月は丁度酒造りの最盛期。

今回は酒造界でもっとも新しい感覚をもつといわれている大関酒造(株)の一昨年新築された近代的な設備のびん詰工場を中心に見学することにしました。

大関といえば酒造界に一時代を画したといわれる〝ワンカップ大関〟のメーカーであり、酒造、瓶詰設備に対するポリシーもユニークなものがあると思われます。創業260有余年という長い歴史の中で、いつの世にもその時代にマッチした〝さきがけ精神〟のもとに一つ一つの製品に、また設備に新しい考えを盛り込んで酒造りに専念された大関酒造の酒蔵見学に多数のご参加をお待ちしております。

なお、この企画には大関酒造株式会社殿の多大のご厚意と竹中工務店神戸営業所殿のご協力をいただきました。

日　　時　昭和51年1月28日(金)　集合午後2時→解散4時30分

集合場所　阪神電車「久寿川駅」改札出口付近・目標会旗

〔参考〕交通費は各自負担のこと
梅田より……阪神電車神戸線急行乗車(12分間隔発車)→「甲子園」で普通に乗り替え一ツ目の「久寿川」で下車

見学場所　大関酒造株式会社本社工場
(西宮市今津出在家町4－9　TEL 0798－33－2311)

定　　員　50名

会　　費　300円

申　　込　往復はがきで1名に1枚限りとし、氏名・勤務先名・役職部課名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「大関酒造の見学」と明記の上、1月20日(木)までに建築協会事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定の上ご通知いたします。

◀会員の受章

このたび下記会員の方々が、建築界に尽くされた功績によって叙勲並びに褒章の栄に浴せられました。

ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

秋の叙勲

勲四等瑞宝章	岩下久哉氏(元中国地建営繕部長)
勲五等双光旭日章	水野喜一郎氏(水野建設社長)
〃	石田憲二氏(元朝日工業社社長)
勲五等瑞宝章	岩田鏐太郎氏(愛知県建築士会専務理事)
〃	西本　進氏(西本組社長)

黄綬褒章

小川　正氏(㈱環境開発研究所社長)
尾亀清四郎氏(㈱三晃空調会長)
川岸繁夫氏(㈱川岸窯業商店社長)
梶本秀尾氏(八千代電設工業㈱社長)

◀関西地方第2回建築積算実技教室案内

社団法人日本建築積算協会関西支部は、このたび建築積算技術者養成を目的として「**建築積算実技教室**」を開催することになりました。主に、建築初級技術者を対象として行いますので、社内教育にも適していると思います。

期　　日　昭和52年1月22日(土)～3月26日(土)

開催日　毎週土曜日　午後1時～午後5時

会　　場　大阪市東区博労町2－41　中博ビル
大阪府建築士会1階101号会議室

定　　員　40名

受講料　1名につき会員25,000円　一般30,000円

主　　催　社団法人日本建築積算協会関西支部

後　　援　近畿地方建設局・大阪府・大阪市・日本建築学会近畿支部・大阪府建築士会・日本建築協会

科　　目　一般事項・基本教学・概論／仮設・土工事・杭・概算／コンクリート・型枠／鉄筋／鉄骨／外部仕上／内部仕上／内部集計及内訳明細／建具・ガラス・塗装・金属・雑工事／建築積算の新しい考え方

受講修了者には審査の上、受講修了証書を授与する。

詳細は、大阪市南区安堂寺橋通1－34－14(社)日本建築積算協会関西支部(TEL 06－261－0823)へお問い合わせ下さい。

寄附金の受領

このたび名誉正会員大下順三郎氏より事業資金の一部として金一封のご寄附を戴きました。

ここに誌して厚く御礼申し上げます。

社団法人　日本建築協会

謹賀新年

昭和52年元旦

（50音順）

安達恭

浅野スレート株式会社大阪支店　支店長

〒531 大阪・大市大淀区中津浜通3丁目11の1
電話06(372)5351

〒532 自宅・大阪市淀川区西中島1の11の16　メゾン淀川914号
電話06(304)6717

安部章

松下電器産業株式会社　近畿電設営業所

〒541 大阪市東区高麗橋1—12(和幸ビル)　電話06(201)1421

安部恒夫

安部建設株式会社　取締役社長

〒559 大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(678)3212代

〒559 自宅・大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号
電話06(671)7774

阿部暢

東洋土建株式会社　取締役社長

〒546 大阪市東住吉区田辺東ノ町6丁目33 電話06(692)1331～5

〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東之町5丁目24
電話06(629)1008

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 取締役所長

〒550 大阪市西区江戸堀1—128　江南ビル　電話06(443)0430

〒565 自宅・大阪府吹田市桃山台5—1C20—1101
電話06(833)6556

赤尾勝策

株式会社赤尾　取締役社長

〒541 大阪市東区安土町2—12トヤマビル　電話06(252)1551代

赤崎尚信

株式会社 赤崎建築事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区立売堀北通1の90　第三富士ビル
電話06(541)7625代

〒659 自宅・芦屋市三條町47番30　電話0797(31)8781

浅井貞治

株式会社 双星社竹腰建築事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区豊宮町3番2　豊崎ビル　電話06(373)2281

〒659 自宅・芦屋市東山町213　ローズハイツ芦屋406号
電話0797(31)2339

代表取締役社長 浅井潤一
代表取締役所長 浅井謙

株式会社 浅井建築設計事務所

〒542 大阪市南区安堂寺橋通5—30　第2農林会館5階
電話06(245)4651代

〒583 自宅・羽曳野市羽曳ケ丘2—5—6　電話0729(56)2152

〒583 自宅・羽曳野市羽曳ケ丘5—18—1　電話0729(57)3588

浅井泰

株式会社 笠谷工務店 専務取締役

〒659 芦屋市業平町4—2　電話0797(22)0703

〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町13—5　電話0797(22)5291

浅井洋司

RAD同人 団建築事務所代表

〒542 大阪市南区北桃谷町33—1　第3松屋ビル983～4号
電話06(763)3109

浅野真澄

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役

〒543 大阪市天王寺区城南寺町9—27　電話06(768)0201

〒572 自宅・寝屋川市成田西町4番21号　電話0720(31)1750

浅沼茂夫

株式会社 浅沼組 取締役社長

〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話06(768)5222

〒168 自宅・東京都杉並区下高井戸3丁目17番1号
電話03(302)1922

浅沼誠夫

株式会社 浅沼組 専務取締役

〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話06(768)5222

〒630-02 自宅・生駒市東松ケ丘7番30号　電話07437(3)4805

東輝夫

株式会社 三国タイル店　代表取締役

〒565 営業所　吹田市津雲台7丁目20番地　電話06(832)1101代

〒532 本社　大阪市淀川区十八条3丁目1番7号
電話06(393)1951代

〒565 自宅・吹田市藤白台2丁目28番地14号　電話06(872)3256

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社　常務取締役 支社長

〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地　電話06(202)0325

〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12　電話06(872)3214

網野栄

株式会社 研文社 代表取締役

〒530 大阪市北区堂山町66　電話06(314)0151代

荒木芳邦

株式会社 荒木造園設計事務所 代表取締役

〒563 池田市鉢塚2丁目8番21号　電話0727(61)8874代

〒563 自宅・池田市鉢塚2丁目9番8号　電話0727(61)8874

井崎梁次

株式会社 井崎工務店 代表取締役

〒640 和歌山市北河岸4丁目1番地　電話0734(24)5195代

〒640 自宅・和歌山市玉藻丁2丁目5番地　電話0734(22)0382

井上秋次

井上窯業株式会社　代表取締役

〒543 大阪市天王寺区生玉町40番地　電話06(771)2825

〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号　電話0797(22)5930

謹賀新年　昭和52年元旦　(50音順)

井上浄夫

株式会社 井上冷熱 代表取締役会長
〒550 大阪市西区江戸堀1の101 電話06(441)8531代
〒663 自宅・西宮市甲子園三番町9の5 電話0798(41)4661

井上正一

名古屋建築設計事務所 所長
〒453 名古屋市中村区椿町4の28 国鉄会館内
電話052(451)2025直通
〒464 自宅・名古屋市千種区下方町4の30 電話052(711)9400

井上達明

株式会社 井上達明建築事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区鶴野町51番地 安田ビル 電話06(372)2821代
〒555 自宅・大阪市西淀川区竹島3丁目7の4 電話06(473)1069

井上久雄

株式会社井上久雄建築設計事務所代表取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀1—38 千島ビル 電話06(443)7386代
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目20番7号 電話06(831)3256

名誉正会員

井上福蔵

株式会社 井上組 代表取締役
〒534 大阪市都島区網島町6番25号 電話06(352)4031〜4
電話 06(351)0530
〒577 自宅・東大阪市東石切町6丁目4番4号 電話0729(81)2526

伊地知堅一

大鉄工業株式会社 取締役社長
〒532大阪市淀川区宮原4丁目4番44号 電話06(394)1281大代
〒661自宅・尼崎市南武庫之荘5丁目13番15号 電話06(438)2148

伊藤喜三郎

株式会社 伊藤喜三郎建築研究所 代表取締役社長
〒102 東京都千代田区紀尾井町3番地 文芸春秋ビル
電話03(263)1481代〜7
〒141 東京都品川区東五反田3-16-55 電話03(441)5437

名誉正会員

伊藤鑛一

株式会社 伊藤建築設計事務所 代表取締役
〒460 名古屋市中区錦3丁目3—6 日本経済新聞ビル
電話052(951)1110代
〒101 東京事務所 東京都千代田区神田美土代町7 久保ビル
電話 03(294)6061代
〒659 大阪出張所 芦屋市山手町69 電話 0797(22)2163

伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店 専務取締役支店長
〒550 大阪市西区京町堀2—35 電話06(443)0631
〒550 自宅・豊中市北桜塚3—8—7 電話06(854)7747

飯田精次郎

共同設計株式会社 代表取締役
〒530 大阪市北区富田町9番地 電話06(364)5836
〒105 東京事務所・東京都渋谷区渋谷1丁目10番1号
八千代ビル内 電話03(407)0912 03(409)1837
〒730 広島事務所・広島市牛田本町4丁目8—16
電話0822(21)0436

生田重政

日本建設株式会社 取締役社長
〒541 大阪市東区安土町4丁目5番地 電話06(261)7591〜8
〒659 自宅・芦屋市朝日ケ丘22番11号 電話0797(23)0657

池田昭

株式会社 池田宮彦設計事務所 代表取締役社長
〒542 大阪市南区瓦屋町3番丁68 オートセンタービル3階
電話06(761)0360
〒591 自宅・堺市東上野芝町2丁321 電話0722(52)7753

諫早信夫

フドウ建研株式会社 社長
〒110 東京都台東区台東1—2—1 日本地所第二ビル
電話03(835)2661
〒157 東京都世田谷区南烏山2—18—4 電話03(300)3705

石井蔀

東洋基礎工業株式会社 大阪営業所 常務取締役 営業所長
〒550 大阪市西区靭本町1丁目6番3号 電話06(441)6678〜9
〒565 自宅・大阪府豊中市新千里北町3丁目1番地
新千里北町第三団地C40の204 電話06(872)3050

石川良興

日本冷熱工産株式会社 取締役社長
〒564 吹田市豊津町40番38号 電話06(387)2000
〒560 自宅・豊中市螢ケ池東町4丁目7番12号 電話06(841)0032

石原季夫

株式会社 石原建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪事務所 大阪市北区宗是町1 大ビル916
電話06(443)1225〜6
〒100 東京事務所 東京都千代田区内幸町1—3—6
新日比谷ビル 電話03(502)8921〜4
〒650 自宅・神戸市生田区中山手通6—38 電話078(341)2073

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区真砂町48-1 オオシマビル 電話06(364)9071

板井正彦

西松建設株式会社大阪建築支店 取締役支店長
〒540 大阪市東区釣鐘町2丁目41番地 電話06(942)1131大代
〒272 留守宅・市川市平田3—21—5 電話0473(23)2647

市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101〜5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

市川宏

株式会社 東畑建築事務所 専務取締役
〒541 大阪市東区伏見町5—19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4—32
電話078(811)0216

指宿真智雄

株式会社 建築デザイン 1級建築士事務所
株式会社 緑地デザイン 技術士事務所 代表取締役
株式会社 設備デザイン 設備士事務所
〒541 大阪市東区南本町4—47イトウビル 電話 06(252)1011〜4
〒106 東京都港区麻布台1丁目1番20号
麻布台ユニハウス107号 電話 03(586)1311〜4
〒604 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65 京都朝日ビル
電話075(221)1101〜4
〒606 自宅・京都市左京区下鴨北野々神町8の5
電話075(781)6573

謹賀新年　昭和52年元旦　(50音順)

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役
〒546 大阪市平野区平野北2－9－15　電話06(792)4425代
〒546 自宅・大阪市平野区平野北2－9－15　電話06(792)4404

今西茂雄

株式会社今西建築デザインルーム代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江通2丁目47番地　電話06(541)3051～3
〒630—02 自宅・生駒市東生駒月見町198　電話07437(4)6930

今西壽雄

株式会社　今　西　組　取締役社長
〒543 大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1　上六ビル内　電話06(779)3361
〒592 自宅・大阪府高石市羽衣2丁目4番1号　電話0722(61)1179

今村騰

取締役会長

平木寛

取締役社長

中央電気工業株式会社
〒530 大阪市北区梅ケ枝町56　電話06(312)8881大代

今元康彦

近畿電気工事株式会社　取締役会長
〒530 大阪市北区南扇町11番地　電話06(312)1281
〒560 自宅・豊中市北桜塚4丁目5番5号　電話06(852)5887

名誉正会員

岩佐信也

〒630 自宅・奈良市法蓮町南2丁目1079の1　電話0742(23)2890

名誉正会員

岩崎甚太郎

〒666 自宅・兵庫県川西市花屋敷1丁目32の11　電話0727(59)9317

岩崎久雄

高千穂電機株式会社　取締役社長
〒534 大阪市都島区中野町4丁目8番10号　電話06(358)1171代
〒565 自宅・豊中市新千里南町3丁目34—7　電話06(831)5118

常務取締役
所長

岩崎弘

技術顧問

寺西礼一

株式会社　教育施設研究所　大阪事務所
〒550 大阪市西区立売堀北通2の27　電話 06(531)0913
大信ビル2階3階　電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046　電話0742(22)2217
〒661 自宅・尼崎市常吉字赤田9の5　電話 06(431)2101

岩本義心

野村建設工業株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話06(202)4791代

上西圭治

株式会社　大　氣　社　代表取締役社長
〒530 大阪市北区中之島2—22 新朝日ビル5階　電話06(203)3721
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12—14　電話0797(22)5949

浦野三男

株式会社　浦野設計事務所　取締役社長
〒452 名古屋・名古屋市西区上小田井2丁目10番地　電話052(503)1211・(502)1991
〒113 東京・東京都文京区本郷1—27—8　本郷ハウス　電話03(811)9128・9585
〒452 自宅・名古屋市西区上小田井2丁目10番地　電話052(502)1991・4501

浦辺鎮太郎

株式会社　浦辺建築事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区梅田8番地　新阪急ビル　電話 06 (341)1727
〒662 自宅・西宮市甲東園1丁目7の8　電話 0798(51)0389

遠藤剛生

株式会社　遠藤剛生建築設計事務所　代表取締役
〒541 大阪市東区伏見町2丁目22　電話06(203)0888代
〒562 自宅・箕面市桜ケ丘3丁目10番4号　電話 0727(22)2064

小川正

株式会社　環境開発研究所　取締役社長
〒541 大阪市東区北久太郎町4丁目68－3
大阪センタービルディング13階　電話 06(252)2507

小河吉之助

株式会社　小河建築設計事務所　代表取締役会長
〒542 本社・大阪市南区瓦屋町4番丁8　電話06(763)2301代
〒106 支社・東京都港区六本木5—18—3　六本木ベニービル7階　電話 03(583)9501代
分室・和歌山・北陸金沢・滋賀・京都
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘12丁目22—37　電話 0720(54)0690

名誉正会員

小津利一

内外木材工業株式会社　顧問
〒574 大阪府大東市谷川2－100　電話0720(72)2161
〒658 自宅・神戸市東灘区魚崎中町4－2－18　電話078(411)8322

尾亀清四郎

株式会社　三晃空調　取締役会長
〒530 大阪市北区富田町16　電話 06 (363)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4　電話0720(41)3427

尾原庸夫

株式会社 松田平田坂本設計事務所　大阪事務所長
〒530 大阪市北区堂島上3－10　電話 06 (344) 7821
〒338 自宅・埼玉県与野市大字上落合540—1—1—103　電話0488(52)7544

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目76福岡ビル 電話06(444)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4—11　電話 0727(21)4113

謹賀新年

昭和52年元旦

（50音順）

名誉正会員

大倉三郎

西日本工業大学　学長

〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町33　電話 075 (781) 0636

大下繁樹

日成建設株式会社　取締役社長

〒730 広島市牛田新町3丁目2番44号　電話0822(28)0281代

〒730 自宅・広島市安古市町上安光ケ丘530～301　電話08287(8)3877

名誉正会員

大下順三郎
大下順良
大下浩正
熊澤六朗

平和建設株式会社

〒536 大阪市城東区関目1丁目2番4号　電話 06(939)4741代

大鳥居満也

株式会社　大鳥居工業所　取締役社長

〒615 京都市右京区西院西田町30　電話075(313)2191

〒615 自宅・京都市右京区川島有栖町143-1　電話075(381)3647

大林芳郎

株式会社　大林組　取締役社長

〒540 大阪市東区京橋3丁目37番地　電話 06 (943)1131

〒658 自宅・神戸市東灘区御影山手1丁目17番1号　電話 078(85)2501

太田儀一

株式会社 団地サービス西部支社　取締役西部支社長

〒536 大阪市城東区森之宮1丁目5番101号　電話06(969)1001

岡澤勇

岡澤建築設計事務所　所長

〒567 大阪府茨木市大字清水433　電話 0726(43)8953・5230

〒530 大阪事務所・大阪市北区梅ケ枝町146　梅ケ枝ビル2階　電話 06(362)6082代

名誉正会員

岡田孝男

帝塚山学院大学　教授

〒589 大阪府南河内郡狭山町　電話 0723(65)0865

〒565 自宅・吹田市千里山西5丁目40—4　電話 06 (384)3019

岡橋作太郎

〒659 自宅・芦屋市打出春日町156—1　電話0797(22)4500

岡本繁一

近畿電気工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南扇町11番地　電話 06 (312) 1281

〒640 自宅・和歌山市三木町南ノ丁18　電話0734(23)0308

名誉正会員

岡本茂樹

〒657 自宅・神戸市灘区楠丘町6—2—9　電話078(851)2020

岡本行善

株式会社　昭和設計　代表取締役社長

〒550 大阪市西区長堀北通1丁目8番地　四ツ橋ビル　電話 06(532)3421代

〒659 自宅・芦屋市岩園町35—7　電話0797(31)3201

岡本全男

篤組建設株式会社　取締役社長

〒543 大阪市天王寺区東高津町14—5　電話06(768)1515代

〒557 自宅・大阪市西成区玉出東1丁目6番15号　電話06(661)3317

岡本吉弘

株式会社 汎美建築設計事務所 代表取締役

〒604 京都市中京区御池通御幸町西入 京都府旅館会館ビル2階　電話075(231)4638・6472

〒605 自宅・京都市東山区粟田口三條坊町2—12　電話075(561)7433

岡山竹雄

株式会社　岡山建築事務所一級建築士事務所　代表取締役

〒604 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町670　京都フクトクビル7F　電話075(255)0537～8

〒612 自宅・京都市伏見区深草平田町18　電話 075 (641) 0536

奥野晴弘

株式会社　和光建築設計事務所　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区新川3丁目630　電話 06(633)0141～3

〒550 自宅・大阪市西区北堀江御池通3丁目40番地　電話06(541)0261

奥村安太郎

奥村組土木興業株式会社　代表取締役社長

〒552 大阪市港区市岡3丁目5番18号　電話06(572)5301

〒552 自宅・大阪市港区市岡3丁目8番3号　電話06(571)0571

音羽倫宏

株式会社 第一サービス　代表取締役

〒556 大阪市浪速区戎本町1丁目3番地　電話06(649)5301

〒584 自宅・富田林市高辺台3丁4番54—202号　電話07212(9)9737

海上静一

株式会社 海上静一建築事務所 代表取締役

〒541 大阪市東区博労町2丁目41番地　中博ビル　電話 06(271)1149・(261)4428～9

〒591 自宅・大阪府堺市日置荘西町13番地2　電話0722(86)7018

梶本秀尾

八千代電設工業株式会社 取締役社長

〒540 大阪市東区森之宮東之町392　電話 06(941)6531代

〒588 自宅・堺市大美野107の4　電話 0722 (37) 2548

数井利美

株式会社 西村建築事務所　取締役社長

〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番地　旭ビル　電話 078(521)0205・0207

〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13　電話078(741)5862

謹賀新年

昭和52年元旦

(50音順)

兼高勇

有限会社 兼高設計事務所 代表取締役

〒590 堺市翁橋1丁4番5号 スカイビル堺6F 電話0722(22)1643

〒590 自宅・堺市三国ケ丘御幸通81-2 電話0722(32)1603

川崎敬三

株式会社 近畿建設 取締役社長

〒550 大阪市西区江之子島1丁目2番2号 電話06(448)5601

〒556 自宅・大阪市浪速区新川2丁目666 電話06(632)7369

名誉正会員

城戸武男

株式会社 城戸武男建築事務所 代表取締役所長

〒460 名古屋市中区栄1—22—27 電話052(231)5451代

〒460 自宅・名古屋市中区栄1—22—27 電話052(201)4061

鎌谷秀男

修成建設専門学校 校長

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19—30 電話06(474)1644

〒665 自宅・宝塚市千種4丁目3番3号 電話0797(72)1380

川瀬啓一郎

扶桑管工業株式会社 代表取締役

〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地 電話075(861)1157
大阪支店 電話06(353)0222 東京支店 電話03(263)0501

〒616 自宅・京都市右京区太秦安井車道町21 電話075(811)1509

楠本昌造

住友建設株式会社大阪支店 取締役大阪支店長

〒541 大阪市東区北浜5丁目22 電話06(220)8712

〒532 自宅・大阪市淀川区西中島1丁目11の16
メゾン淀川718号

亀井晃治

一級建築士事務所
株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所 代表取締役社長

〒542 大阪市南区谷町7丁目12番地の1
新谷町第3ビル・2F 電話06(768)1771代

〒631 自宅・奈良市中町1番地の479 電話0742(43)1226

川谷勇

川谷建築設計事務所 自営

〒606 京都市左京区一乗寺清水町15 電話075(781)1148代

〒606 自宅・京都市左京区一乗寺清水町15 電話075(781)1148代

栗山和三

株式会社 シエル石油 大阪発売所 本部長

〒530 大阪市北区堂島浜通1丁目25—1 (新大ビル9F)
電話06(343)0441

〒651-11 自宅・神戸市北区若葉台1—4—29 電話078(593)7528

亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪出張所 所長

〒530 大阪市北区富田町18番地・島根ビル内 電話06(364)1951

〒560 自宅・豊中市螢池南町1—14—10 電話06(855)5356

河原義夫

新日本空調株式会社大阪支店 取締役大阪支店長

〒530 大阪市北区堂島浜通り1—25—1 電話06(344)6031

〒659 自宅・芦屋市岩園町23番34号 電話0797(31)5492

名誉正会員

黒明澄夫

クロアキ一級建築士事務所 所長

〒536 大阪市城東区蒲生3丁目11番11号 電話06(931)2097

〒536 自宅・大阪市城東区蒲生3丁目11番11号
電話06(981)2097

柄谷吉太郎

株式会社 柄谷工務店 取締役社長

〒660 尼崎市玄番南之町4番地 電話06(411)1451

神﨑吾明

株式会社 神﨑組 取締役社長

〒670 姫路市北條口86の3 電話0792(23)2021代

〒670 自宅・姫路市北條口62 電話0792(23)0210

黒田譲

黒田建設株式会社 代表取締役社長

〒830 久留米市大石町32番地 電話0942(32)3417

〒830 自宅・久留米市白山町547番地 電話0942(34)8527

川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店 代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町2丁目98番地 電話06(532)0461代

〒563 自宅・池田市天神1丁目10—10 電話0727(61)8598

木下國男

内外パーキング施設株式会社 代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目32番地 電話06(441)0477代

〒560 自宅・豊中市北桜塚3丁目9番15号 電話06(853)0892

桑田正造

桑田硝子株式会社 取締役社長

〒650 神戸市生田区多聞通4—9 電話078(371)1861代

〒653 自宅・神戸市長田区五位ノ池町3丁目1-1
電話078(621)3807

川口喜代枝

株式会社 篠田川口建築事務所 所長
株式会社 協同設備事務所 所長

〒461 名古屋市東区泉1丁目21番21号 電話052(962)7581

〒464 自宅・名古屋市千種区稲舟通2丁目7番地
電話052(751)2613

木下正利

清水建設株式会社 常務取締役大阪支店長

〒550 大阪市西区土佐堀通2—2 電話06(443)5431

小池章元

株式会社 小池商店 代表取締役社長

〒557 大阪市西成区出城2丁目2番29号 電話06(562)3038

〒557 自宅・大阪市西成区鶴見橋1丁目5番12号
電話06(631)2361

謹賀新年　昭和52年元旦　(50音順)

小坂忠勝
株式会社 東海設計 代表取締役
〒460 名古屋市中区栄3－7－1 電話052(261)2651代
〒467 自宅・名古屋市瑞穂区岳見町4—20—2 電話052(831)4459

小崎修
株式会社 ミラノ工務店 相談役
〒604 京都市中京区夷川通河原町東入鉾田町310
電話075(231)0177
〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町63番地 電話075(781)0676

小島勝巳
有限会社 小島勝巳建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市東区南本町4丁目41番地 イヨビル6階
電話06(252)8088代
〒101 東京事務所・東京都千代田区岩本町2丁目9番地
藤野ビル 電話 03 (861)9538
〒662 自宅・西宮市五月ケ丘6番35号 電話 0798(33)5120

小西岬
株式会社 田中小西建築事務所 取締役社長
〒550 大阪市西区阿波座南通2の60 電話06(532)4051
〒546 自宅・大阪市東住吉区平野西脇町373の4
電話06(701)0297

名誉正会員

小早川美武
美工装飾株式会社 社長
〒557 大阪市西成区玉出東2丁目9—41 電話 06(651)0105
〒557 自宅・大阪市西成区玉出東2丁目10—17
電話 06(653)0023

小林一夫
甲南建材興業株式会社 代表取締役 常務取締役
〒532 大阪市淀川区十三本町2-4-28 電話06(309)0841

小林清
株式会社 新住宅社 代表取締役
〒530 大阪市北区常安町17番地 電話06(443)6641
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号 電話06(654)0584

小林政一郎
東洋土建株式会社 常務取締役
〒546 大阪市東住吉区田辺東之町6-33 電話06(692)1331代
〒518-64 自宅・三重県名張市桔梗丘1-6-61 電話05956(5)0400

小林三甫朗
小林住宅産業株式会社 社長 一級建築士
〒541 大阪市東区南久宝寺町5－18 電話06(245)2181

小林得志
株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役所長
〒530 大阪市北区堂島北町20 藤田ビル 電話 06(341) 5650 5658 5659
〒662 自宅・西宮市丸橋町6－16 電話0798(66) 2394

高武主計
コータケ建築設計事務所 所長
〒550 大阪市西区江戸堀5丁目110番地の2 末弘ビル
電話06(448)2408・0178
〒550自宅・大阪市西区北堀江御池通6丁目21
北堀江コーポ706号 電話06(531)2812

河内義就
有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役
〒730 広島市上幟町2番37号 電話0822(28)2271代
〒739-17自宅・広島市高陽町字翠光台1—237 電話08284(2)4141

鴻池藤一
株式会社 鴻池組 取締役社長
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

近藤貢
日本住宅パネル工業協同組合 大阪支所長
〒530 大阪市北区富田町46番地第二富田町ビル
電話06(313)3321

佐々木群
株式会社 佐藤武夫設計事務所 代表取締役社長
〒105 東京都港区新橋4丁目6番15号 電話 03 (436)3511
〒272 自宅・市川市国府台1－5－2 電話0473(71)5162

佐々木米太郎
社団法人 日本建築協会京都支部 支部長
〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町645
電話075(211)2857 (211)2877

佐治誠次
株式会社 佐治建築事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区立売堀南通1—24 カクダイビル
電話06(541)5831
〒662 自宅・西宮市苦楽園一番町1—36 電話0798(36)2516

佐野正一
株式会社 安井建築設計事務所 取締役社長
〒540 大阪市東区島町2丁目7番地 電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9 電話0798(22)1569

雑賀孝夫
株式会社 雑賀建築設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市西汀丁1番地 電話0734(31)1371代～5
〒640 自宅・和歌山市小松原通り5丁目1番地
電話0734(23)5888

雑賀幸夫
株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区東平野町5丁目9番地 吉盛ビル
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘7丁目11—16 電話0720(54)0004

斉藤國義
株式会社 斉藤工業所 代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号 電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

謹賀新年　昭和52年元旦　(50音順)

斎藤　博
株式会社 三晃空調 取締役社長
〒530 大阪市北区富田町16　電話06(363)1371
〒562 自宅・箕面市百楽荘3－4－3　電話0727(21)2341

名誉正会員
篠原太郎
株式会社 なにわ建築設計事務所 取締役所長
〒550 大阪市西区南堀江通2の48　電話06(531)4428
〒562 自宅・箕面市箕面5－7－6　電話0727(23)3836

須賀好富
近畿大学理工学部 助教授 電話06(721)2332 内線271
株式会社 近畿建築構造研究所 所長
〒543 大阪市天王寺区椎寺町76天王ビル　電話06(771)3216代
〒577 自宅・東大阪市下小阪172－2 近鉄グランドマンションB－911　電話06(789)8114

名誉正会員
作間日出生
〒664 自宅・伊丹市桜ケ丘4丁目2－25　電話0727(82)5340

島田孝治
株式会社 片山鉄工所 代表取締役社長
〒551 大阪市大正区南恩加島6丁目2番21号 電話06(552)1231大代
〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘3丁目1-1 イトーピア308　電話06(432)7387

菅谷健児
大阪電気暖房株式会社 取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1－60　電話06(441)8231

四方靖郎
四方設計工務株式会社
一級建築士事務所 代表取締役社長
〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32－2　電話075(641)6091～2 6324
〒851－33 長崎出張所・長崎県西彼杵郡西彼町大谷脇1684 電話09592(7)0172
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32－2

名誉正会員
島村佐次郎
島村建築事務所
〒640 和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335
〒640 自宅・和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335

杉村正三郎
阪急電気工事株式会社 取締役社長
〒532 大阪市淀川区新北野1丁目4番21号　電話06(302)0231代
〒665 自宅・宝塚市栄町3丁目9番20号　電話0797(86)3623

紫冨田忠雄
日新工業株式会社大阪支店 支店長
〒533 大阪市東淀川区瑞光通4丁目30番地の2 電話06(329)7737大代
〒533 自宅・大阪市東淀川区瑞光通4－30－2　電話06(328)3343

島村忠男
西日本建設業保証株式会社 取締役社長
〒540 大阪市東区上町5番地　電話06(762)5701代

銭高輝之
株式会社 銭高組 取締役社長
〒550-91 大阪市西区阿波座上通3丁目2番地 電話06(531)6431大代

清水愛明
株式会社 清水工業所 代表取締役
〒531 大阪市大淀区南浜町3－14　電話06(372)2851代
〒662 自宅・西宮市南郷町3番12号　電話0798(22)1184

名誉正会員
白石登喜男
株式会社 藤木工務店 常務理事
〒541 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(942)1461
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江中1の68　電話06(671)3792

仙田四郎
株式会社 カンダン 取締役社長
〒558 大阪市住吉区万代東6丁目3番地　電話06(672)1281大代
〒588 自宅・堺市大美野76番地の6　電話0722(37)6513

清水和彌
株式会社 清水和彌設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区万才町43 浪速ビル　電話06(312)7278
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目3番10号　電話06(852)7056

城口庸平
株式会社 大阪城口研究所 取締役社長
〒530 大阪市北区高垣町1番地　電話06(372)7151代

田賀勉
株式会社 田賀建築設計事務所 取締役社長
〒550 大阪市西区北堀江通4丁目33番地　電話06(531)7193代
〒586 自宅・河内長野市千代田台町13－13　電話07215(3)0455

名誉正会員
設楽貞三
株式会社 洋建築事務所 取締役会長
〒530 大阪市北区松ケ枝町88 大徳ビル　電話06(358)6372代
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉町東町2－6－21 電話078(811)7534

進藤汎海
株式会社 企画設計社 代表取締役
〒556 大阪市浪速区日本橋東4－16　電話06(643)3631
〒662 自宅・西宮市柏堂町7番7の303　電話0798(72)3070

田口信夫
株式会社 恵美須建設 代表取締役
〒606 京都市左京区浄土寺馬場町151 電話075(761)1151
〒606 自宅・京都市左京区鹿ケ谷法然院町7 電話075(771)3543

謹賀新年

昭和52年元旦

(50音順)

田中幸三郎

田中建設株式会社　取締役社長

〒543 大阪市天王寺北河堀町54　電話06(771)2391代

〒545 自宅・大阪市阿倍野区阪南町5—9—24　電話06(622)0494

竹中邦博

竹中設計事務所所長

〒673 明石市大明石町1丁目7—4　白菊グランドビル4階　電話078(914)4855

〒673 自宅・明石市別所町16—8　電話078(923)3199

地頭政人

小俣シャッター工業株式会社 大阪駐在監査役

〒530 大阪市北区此花町2丁目51　第5新興ビル　電話06(353)7377代

〒661 自宅・尼崎市東富松字長溝331-25　電話06(421)5228

田中政二

大島應用化学工業株式会社　取締役社長

〒578 東大阪市新庄114番地　電話06(745)5121代 06(745)6736～8

〒536 自宅・大阪市城東区野江東ノ町4-99　電話06(931)3506

竹村通世

近畿電気工事株式会社 広島支社　支社長

〒730 広島市稲荷町4番1号　住友生命広島ビル　電話0822(62)1471

〒733 自宅・広島市南観音7丁目16番34号　南高雅荘　電話0822(93)3293

千原大五郎

株式会社　大建設計　代表取締役副社長

〒105 東京本社・東京都港区新橋1—10—7　大和銀行新橋ビル　電話03(572)4595代

〒550 大阪本社・大阪市西区江戸堀1—12—8　安田生命大阪ビル　電話06(441)9351代

〒251 自宅・神奈川県藤沢市鵠沼松が岡1—15—25　電話0466(23)3124

田中貞司

凸版印刷株式会社関西支社　専務取締役 支社長

〒553 大阪市福島区海老江3—22—61　電話06(458)2251

立田清

有限会社　柳々堂（建築専門書店）

〒550 大阪市西区京町堀2—49　電話06(443)0167～8

営業所：鴻池ビル　電話06(251)8233

津村健児

オリエンタルメタル製造株式会社 代表取締役

〒660 尼崎市昭和南通り3丁目26番地　電話06(412)5131代

〒662 自宅・西宮市神垣町5番8号　電話0798(33)5591

田渕誠也

株式会社 田渕建築設計事務所 代表取締役

〒640 和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2

〒640 自宅・和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2 0734(33)4115

舘林彦四郎

株式会社 タテバヤシ商店　代表取締役

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話075(681)7221代

塚本猛次

株式会社　日建設計

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地　電話06(203)2361

高橋慶夫

株式会社　大建設計　取締役社長

〒550 大阪市西区江戸堀1丁目12番8号　安田生命大阪ビル　電話06(441)9351

〒533 自宅・大阪市東淀川区相川中通2丁目2-4　電話06(340)0935

谷川丈夫

株式会社　西原衛生工業所大阪店　代表取締役専務

〒531 大阪市大淀区中津南通4丁目11番地　電話06(458)3531代

辻本豊

株式会社 辻本豊一級建築設計事務所代表取締役

〒640 和歌山市東長町中ノ丁12—3　電話0734(24)6346代

〒640 自宅・和歌山市東長町中ノ丁12—3　電話0734(24)6346代

名誉正会員

滝口開

三井建設株式会社　常務取締役 大阪支店長

〒530 大阪市北区中之島3丁目7番地　電話06(444)1321代

〒659 自宅・芦屋市東山町137 芦屋パークマンションA—701号　電話0797(31)0588

玉置豊次郎

大阪工業大学　教授

(財)大阪住宅センター　理事長

〒557 自宅・大阪市西成区天神森1—19—15　電話06(661)7680

手塚尚義

大垣セメント工業株式会社　代表取締役社長

〒530 大阪市北区金屋町1丁目1番地　電話06(353)4101

〒567 自宅・茨木市西駅前町4の1012　電話0726(23)3833

名誉会長・名誉正会員

竹腰健造

株式会社 双星社竹腰建築事務所

〒530 大阪市北区豊宮町3番2 豊崎ビル　電話06(373)2281

〒662 自宅・西宮市松園町7番22号　電話0798(34)2650

知見義夫

春日設備工業株式会社　取締役社長

〒601 京都市南区西九条春日町48　電話075(681)6455(691)9228

〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48　電話075(691)3860

寺田徳重

大成建設株式会社　常任顧問

〒541 大阪市東区本町4丁目27　電話06(262)1131

〒562 自宅・大阪府箕面市桜井2丁目4-39　電話0727(21)4641

謹賀新年　昭和52年元旦　(50音順)

寺西芳明

株式会社 寺西建築設計事務所 専務取締役
〒658 神戸市東灘区本庄町2丁目13番24号　電話078(451)2456
電話078(411)0139
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台1丁目1－302　電話0797(71)2823

時実丹一

共立建設株式会社大阪支店　取締役支店長
〒540 大阪市東区内本町2丁目45番地　大阪内本町電電ビル6階
電話 06(942)2491
〒662 自宅・西宮市門戸荘17－12　ルネ門戸314号
電話0798(53)0780

中川匠

中川匠建築設計事務所　所長
〒530 大阪市北区浪花町38　新興ビル　電話06(371)3651
〒665 自宅・宝塚市売布4丁目15-18　電話 0797 (86) 2391

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町2丁目47番地　第2青野ビル
電話06(441)0378大代
〒531 自宅・大阪市大淀区中津浜通1－3
中津リバーサイドコーポC－929　電話06(371)0385

時山龍太郎

時山設計事務所　所長
〒530 大阪市北区曽根崎上2丁目21番地　美都ビル
電話06(361)6248
〒532 自宅・大阪市淀川区三国本町2丁目7番21号
電話06(393)9557

中川真佐吉

アポロ印刷株式会社　代表取締役
〒540 大阪市東区北新町2丁目7　電話06(942)2951～5

土上三之丞

株式会社 間組大阪支店　専務取締役 大阪支店長
〒541 大阪市東区瓦町5－20－1　電話06(201)2751
〒565 自宅・吹田市山田西3－6－14　電話06(877)3983

友田俊夫

友田工業株式会社　取締役社長
〒534 大阪市都島区都島中通3丁目3番6号　電話06(921)0331代

中川道夫

日研工業株式会社　代表取締役
〒530 大阪市北区大工町50　千代田第一ビル　電話06(353)7272
〒569 自宅・高槻市日吉台2－11－3　電話0726(82)5923

東郷武

大和ハウス工業株式会社　技術担当 常務取締役
〒550 大阪市西区阿波座中通1丁目40番地　電話06(532)6351

内藤資忠

株式会社　内藤建築事務所　代表取締役会長
〒606 京都市左京区田中大堰町189　電話075(781)6195
〒606 自宅・京都市左京区北白川山の元町38　電話075(781)3353

中出隆俊

(各種防水工事及スレート工事施工請負)
株式会社 中出商会　代表取締役
〒652 神戸市兵庫区上沢通6丁目1－1　電話078(511)4501～4

名誉会長・名誉正会員

東畑謙三

株式会社 東畑建築事務所　代表取締役
〒541 大阪市東区伏見町5－19　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4－4－35　電話078(851)5043

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所　代表取締役所長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240小野ビル　電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話07946(2)4668

中西隆一

株式会社 中西建築　代表取締役
〒550 大阪市西区江戸堀5－32　電話06(445)0585大代
〒547 自宅・大阪市平野区瓜破西2－8－1　電話06(703)7636

栂野正春

株式会社 栂野建築事務所　一級建築士 代表取締役社長
〒640 和歌山市五番丁4番地　電話 0734 (22) 2826

中井康勝

株式会社 中井總組　代表取締役社長
〒660 尼崎市常光寺元町1－3　電話06(481)5461代
〒561 自宅・尼崎市東園田町9－17　電話06(491)1386

中原茂

株式会社　中原茂建築事務所　代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町2丁目9番11号　岡崎橋ビル
(昭52.2.1より表示変更、上記住所に)　電話06(445)0039

時岡保雄

株式会社 三和地質　代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町4丁目35番地
電話06(443)7606代・4157

中尾義昭

株式会社 旭設計事務所　代表取締役
〒550 大阪市西区靱1丁目123番地　近畿富山会館5F
電話06(445)2050代
〒657 自宅・神戸市灘区六甲台町7番19　ハイツ六甲308号
電話078(881)2907

中原英雄

株式会社 創美設計　代表取締役
〒530 大阪市北区末広町17　星和地所扇町ビル6階
電話06(312)3587代
〒659 自宅・芦屋市打出小槌町1番地405

謹賀新年

昭和52年元旦

(50音順)

中村　豊

株式会社　日邦建築企画設計　代表取締役
〒530 大阪市北区梅ケ枝町114 関西ビル　電話06(362)1766代
〒600 自宅・京都市下京区七条通東堀川西入八百屋町12
電話075(371)2755

野中駒市

野中建産株式会社　取締役会長
〒550 大阪市西区靱本町2－29　電話06(441)6631

林　唯夫

株式会社　昭和設計　代表取締役専務
〒550 大阪市西区西長堀北通1丁目8番地　四ッ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41—11　電話06(872)3608

永井賢城

株式会社 久米建築事務所　取締役社長
〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話03(403)0251大代
〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26　電話0466(36)7706

能勢次郎

株式会社 能勢建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区江戸堀5丁目118番地　和光ビル7階
電話06(443)6451代

原　正太郎

アスニュー工業株式会社　取締役会長
〒532 大阪市淀川区西中島1丁目8番29号　電話06(301)9081～4

永井　基

住友ウォールシステム株式会社　社長
〒100 東京都千代田区神田美土代町1 住友商事美土代ビル
電話03(294)8511大代

能勢善樹

株式会社 能勢建築構造研究所 代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町2丁目107　新興産ビル
電話06(538)0378～9
電話06(538)2829
〒810 福岡市中央区赤坂1－6－22　第2野田ビル
電話092(761)0902

原　精一

甲南建設工業株式会社　代表取締役
〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話06(308)1551
〒662 自宅・西宮市名次町12番9号　電話0798(22)1504

成田正彦

株式会社 設計事務所ゲンプラン 代表取締役
〒550 大阪市西区土佐堀通3—61　電話06(443)8216
〒662 西宮市甲子園九番町12—10　電話0798(47)3227

橋詰一雄

株式会社　橋詰工務店　取締役社長
〒604 京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326
電話075(801)2356代
〒604 自宅・京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326
電話075(841)2803

代表取締役会長 原田重信
代表取締役社長 原田孝太郎

原田セメント化工株式会社
〒554 大阪市此花区西九条4丁目3—34　電話06(462)1212代
〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41—8　電話06(421)4518

名誉正会員

西澤藤生

株式会社　大林組　顧問
〒540 大阪市東区京橋3—37　電話06(943)1131
〒659 自宅・芦屋市東山町112－26　電話0797(23)2137

橋本久清

吉野石膏株式会社大阪支店　取締役支店長
〒530 大阪市北区堂島浜通1-25　新大ビル　電話06(344)6691

名誉正会員

坂静雄

財団法人　日本建築総合試験所　理事長
〒565 本所・大阪府吹田市藤白台5—125　電話06(872)0391
〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西通2—35 電話06(351)7217

西嶋徳太郎

株式会社 大建企画設計 取締役会長
(大建設計 取締役会長 兼務)
〒550 大阪市西区京町堀2－75　電話06(443)8261代
〒562 自宅・箕面市桜ケ丘3丁目11番地35号 電話0727(21)2432

名誉正会員

浜口幹三郎

株式会社　淺沼組　相談役
〒543-91 大阪市天王寺区東高津町8の1　電話06(768)5222
〒631 自宅・奈良市二名町南登美ケ丘3336—7
電話0742(43)1091

伴一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長
〒531 大阪市大淀区中津南通4—11　電話06(458)3531代

野崎謙三

株式会社　山下設計　取締役会長
〒104 東京都中央区八丁堀2の7の1　電話03(552)8311代

林　茂

株式会社　林設計事務所　代表取締役
〒531 大阪市大淀区長柄中通り3-45　電話06(351)6831
〒565 自宅・吹田市竹見台2丁目11番5号　電話06(871)8625

伴中信次

春日建設株式会社　代表取締役
〒102 東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号
電話03(264)4011代
〒162 自宅・東京都新宿区細工町27番地　電話03(260)4725

謹賀新年

昭和52年元旦

(50音順)

一坪古寿

三井プレコン株式会社大阪支店　常務取締役 大阪支店長

〒541 大阪市東区博労町2—41中博ビル406号　電話06(271)7936

〒594 自宅・大阪府和泉市観音寺町312-5　電話0725(43)1128

藤井章

株式会社 藤井工業所　取締役社長

〒520 大津市本宮2—2—9　電話0775(23)0119代

〒606 自宅・京都市左京区松ケ崎泉川町23　電話075(781)5333

星廣文 / 星利安

取締役会長 星廣文

代表取締役 所長 星利安

株式会社 星建築設計事務所

〒537 大阪市東成区東中本1丁目15番25号地下鉄緑橋東 緑ビル　電話06(972)9265

〒571 自宅・門真市城垣町7—6　電話0720(81)1318

〒571 自宅・門真市城垣町12—16　電話0720(81)0667

広谷嘉秋

合資会社中建築設計事務所　代表社員

〒460 名古屋市中区西瓦町11番地の1　広瀬ビル　電話052(262)4411

〒464 自宅・名古屋市千種区月ケ丘2丁目2—83　電話052(711)8010

藤井静光

株式会社 大氣社大阪支店　取締役支店長

〒530 大阪市北区中之島2—22 新朝日ビル　電話06(203)3721

〒582 自宅・大阪府柏原市旭ケ丘1—7—8　電話0729(78)6491

堀元也

神戸材料株式会社　取締役社長

〒651 神戸市葺合区熊内町2丁目1の37　電話078(222)2251

〒657 自宅・神戸市灘区篠原北町2丁目1—9　電話078(882)0755

福田朝生

株式会社 双星社竹腰建築事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区豊宮町3番2 豊崎ビル 電話06(373)2281

〒677 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号　電話0798(48)0989

藤井稔

阪神不動産株式会社　常務取締役

〒530 大阪市北区梅田町47　電話06(346)1171

堀内史郎

第一工業株式会社大阪支店　取締役支店長

〒530 大阪市北区富田町30番地　電話06(364)6661代

〒573 自宅・大阪府枚方市朝日丘町12-18　電話0720(41)5396

福田好雄

住友ウォールシステム株式会社　相談役

〒541 大阪市東区南本町5丁目14番地　南本町ビル　電話06(252)1881

〒558 自宅・大阪市住吉区帝塚山東3丁目37　電話06(671)3254

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店　取締役社長

〒540 大阪市東区両替町1—13　電話06(942)1461代

名誉正会員

本多正道

〒658 自宅・神戸市東灘区御影町岸本1566　電話078(851)7604

福中定三郎

社団法人 日本建築協会　常務理事

〒541 大阪市東区北浜3—37 電話06(231)9648代

〒573 自宅・枚方市香里園町26—68 電話0720(31)0549

藤田邦昭

株式会社 都市問題・経営研究所　所長

〒530 大阪市北区太融寺町98-5 阪急東ビル　電話06(312)3918

〒658 自宅・神戸市東灘区岡本8丁目10-1　岡本ハウス605　電話078(411)3989

前野慶太郎

株式会社 あめりか屋　取締役社長

〒530 大阪市北区常安町17　電話06(444)1501

〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町4番18号　電話0797(22)2005

福永薫

株式会社 建設技術センター　代表取締役

〒530 大阪市北区岩井町2丁目49番地　古林ビル5階　電話06(353)0651

〒542 自宅・大阪市南区順慶町通4—61 電話06(251)3102・5189

藤原稔恭

株式会社 藤原工務店　取締役社長

〒562 箕面市箕面3—1—60 電話0727(21)7268

〒562 自宅・箕面市箕面4—15—40　電話0727(21)2774

松浦潤一郎

株式会社 松浦構造設計事務所　代表取締役

〒657 神戸市灘区八幡町4丁目9—27　六甲ビル　電話 078(861)3304 (881)3302

福賴圭蔵

株式会社 新興建材工業所　取締役社長

〒550 大阪市西区南堀江通6—39 電話06(541)5757代

〒558 自宅・大阪市住吉区住吉町242—22　電話06(673)5120

藤本庄之助

株式会社 工盛社　代表取締役

〒536 大阪市城東区鴫野西5丁目16—43　電話06(961)4460 (962)1288

〒536 自宅・城東区鴫野西5丁目16—43　電話06(962)1862

松岡晃一郎

アイエム換気工業株式会社　代表取締役

〒556 大阪市浪速区芦原町1183番地　電話06(561)3901

〒590 自宅・堺市車之町東2丁2—9　電話0722(38)2582

謹賀新年　昭和52年元旦　(50音順)

松永嘉一郎

株式会社 梅彦　代表取締役社長
〒530 大阪市北区道本町40番地 電話06(312)6171代
〒659 自宅・芦屋市山手町42の7 電話0797(22)4761

三谷忠義

株式会社 三谷設計　代表取締役
〒694 島根県大田市久手町波根西777の1 電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2 電話08548(5)8320

名誉正会員

村野藤吾

有限会社 村野・森建築事務所 代表取締役
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2—3—8 電話06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市清荒神2丁目18—27 電話0797(86)2559

松村慶三

株式会社 浦辺建築事務所　取締役副所長
〒530 大阪市北区梅田8 新阪急ビル11階 電話06(341)1680

水野喜一郎

水野建設株式会社　取締役社長
〒600 本社・京都市下京区西七条市部町77番地 電話075(312)0431代
〒530 支店・大阪市北区鶴野町72番地 電話06(372)7761代

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役社長
〒650 神戸市生田区北長狭通4丁目1 芙和ビル 電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市生田区山本通4丁目108の37 電話078(221)5050

松本六郎

松本金物株式会社　取締役社長
〒543-91 大阪市天王寺区上綿屋町6 電話06(779)1581大代
〒580 自宅・松原市北新町2丁目3—7 電話0723(31)0158

代表取締役会長 **南長吉**
専務取締役大阪支店長 **齋藤久典**

斎久工業株式会社
〒530 大阪市北区常安町11番地 電話06(443)5041代
〒661 自宅・尼崎市塚口町6—20—7 電話06(421)5136
〒663 自宅・西宮市甲子園7—17—7—313 電話0798(45)0145

森忠一

村野・森建築事務所
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2—3—8 電話06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市武庫山1—10—8 電話0797(72)4461

名誉正会員

松本与作

第一生命保険相互会社　顧問技師
〒100 東京都千代田区有楽町1—13—1 電話03(216)1211
〒145 自宅・東京都大田区田園調布3—17—3 電話03(721)4723

宮後健

株式会社 宮後建築事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区上沙町6丁目35番地 電話06(772)0165代
〒543 自宅・大阪市天王寺区上沙町6丁目35番地 電話06(772)0167

名誉正会員

守谷茂

株式会社 竹中工務店広島支店　顧問
〒730 広島市中町8—12 電話0822(48)3321
〒730 自宅・広島市牛田早稲田1丁目16—39 電話0822(21)2650

丸橋博行

社団法人大阪ビルメンテナンス協会　会長
〒531 大阪市大淀区中津本通1丁目4の10 電話06(372)9120

宮崎辰敬

宮崎辰五郎建築事務所　所長
〒466 名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096
〒466 自宅・名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096

八木俊一

菱和調温工業株式会社　常務取締役大阪支店長
〒530 大阪市北区金屋町1丁目17番地 電話06(352)4881
〒662 自宅・西宮市樋之池町13—28 電話0798(22)3819

丸山信

株式会社 丸山建築事務所 代表取締役
〒107 東京都港区北青山3丁目5番25号 電話03(401)2287・6703・2426
〒901-22 出張所・沖縄県宜野湾市大山1003 電話09889(7)2974・4077

宮武伊三郎

社団法人 大阪建設業協会　常務理事
〒540 大阪市東区京橋3丁目70 電話06(941)3651

八十島健二

株式会社 竹中工務店　常務取締役
〒541 大阪市東区本町4—27 電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30 電話0798(41)0598

三木清経

エスエム工業株式会社　取締役社長
〒559 大阪市住之江区東加賀屋1—8—16 電話06(685)1661代

村上二郎

サンエス石膏株式会社　社長
〒530 大阪市北区堂島北町20 藤田ビル 電話06(344)6526
〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号 電話06(384)1002

安井忠生

株式会社 安井建築設計室 代表取締役
〒550 大阪市西区靭1丁目130番地 電話06(448)2765〜6
〒558 自宅・大阪市住吉区長居町東6丁目24 電話06(698)2422

謹賀新年

昭和52年元旦

（50音順）

安田誠一

安田株式会社 会長
（建築金物・アルミ型材製造）
〒542 大阪市南区末吉橋通1丁目17 電話06(251)7091代

山田昌次

花豊造園株式会社 専務取締役
〒600 京都市下京区大宮通五条下ル 電話075(341)2246代
〒600 自宅・京都市下京区大宮通五条下ル 電話075(341)6980

山本哲夫

昭和鉄工株式会社 取締役社長
〒812 福岡市東区箱崎5丁目11番93号 電話092(651)2931
〒810 自宅・福岡市中央区薬院2丁目11番4号 電話092(741)5095

籔本弦三

株式会社 笹川組 取締役社長
〒520 大津市打出浜13－15 電話0775(23)2314
〒520-21 自宅・大津市瀬田南大萱町2087—4 電話0775(45)3966

山田保

有限会社 山田保建築設計事務所 代表取締役
〒730 広島市紙屋町2丁目3番1号 革屋町ビル4階 電話0822(48)2562代

山本博三

朝陽電気株式会社 代表取締役
〒530 大阪市北区中之島3－3 朝日ビル内 電話06(385)1361代
〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号 電話06(872)9087

藪本芳一

藪本一級建築士事務所
〒640 和歌山市東長町10丁目13番地 電話0734(22)9930
〒640 自宅・和歌山市東長町10丁目13 電話0734(22)9930

山田恒治

株式会社 山田工務店 取締役社長
〒650 神戸市生田区北長狭通3丁目13番の1 電話078(321)6451代
〒651-12 自宅・神戸市北区山田町上谷上古々山29 電話078(581)2055

吉岡源治郎

高砂熱学工業株式会社大阪支店 取締役大阪支店長
〒530 大阪市北区芝田町55番地 北阪急ビル 電話06(372)2511
〒560 豊中市上野西2－20－36－302 電話06(849)6491

名誉正会員

山家啓助

株式会社RIA建築綜合研究所大阪支店 支店長
〒530 大阪市北区太融寺町33大阪合同ビル 電話06(312)9154代

名誉正会員

山田文次

山田工業株式会社 取締役会長
〒550 大阪市西区京町堀 1—62 電話06(443)8161
〒665 自宅・宝塚市南口1丁目2－2 電話0797(72)2511

吉田光太郎

〒156 自宅・東京都世田谷区桜丘2－7－18 電話03(420)6476

名誉正会員

山口吾郎

不二建設株式会社 取締役社長
〒550 大阪市西区西本町3丁目1番9号 電話06(541)5534代
〒665 自宅・宝塚市雲雀丘1丁目13番25号 電話0727(59)2018

山手研吾

〒180 自宅・東京都武蔵野市中町2—15—13 電話0422(51)6265

吉田信武

株式会社 吉田建築事務所 取締役社長
〒550 大阪市西区北堀江上通3丁目22番地 電話06(538)2991代
〒574 自宅・大東市住道1丁目7－5 電話0720(72)0409

山崎敏明

辰巳興業株式会社 取締役社長
〒650 神戸市生田区栄町2丁目21 電話078(321)0655代
〒662 自宅・西宮市五月ケ丘5の7 電話0798(26)2763

山西啓之

阪神興業株式会社 代表取締役
〒541 大阪市東区平野町2丁目2番地 電話06(203)7131代
〒658 自宅・神戸市東灘区岡本1丁目9—28 電話078(411)5736

米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合 理事長
〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号 電話03(945)2311代

山下密男

合同特許建材工業株式会社 代表取締役
〒546 大阪市東住吉区駒川町3—54 電話06(702)7814代
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東之町3—193 電話06(621)9086

山根正次郎

株式会社 日建設計

和田眞一

株式会社 東和組 代表取締役
〒530 大阪市北区梅ケ枝町175 電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8 電話0797(22)3282

謹賀新年

昭和52年元旦

(50音順)

名誉正会員

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社会長

〒564 摂津市東別府3丁目7番8号 電話06(349)9193～5

〒605 自宅・京都市東山区滑水2丁目232 電話075(561)6283

名誉正会員

若林季雄

鹿島建設株式会社大阪支店

〒542 大阪市南区鰻谷西之町6不銀ビル 電話06(245)2311大代

〒636 奈良県生駒郡三郷町信貴ケ丘211 電話0745(72)4121

若山繁

近畿電気工事株式会社 専務取締役

〒530 大阪市北区南扇町11番地 電話06(312)1281

〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘2丁目25番11号 電話06(436)1381

鷲尾健三

明石工業高等専門学校

〒674 明石市魚住町西岡679 電話07894(7)1151

渡邊勇

中央ビルディンス土地コンサルタント 一級建築士 不動産鑑定士

〒164 東京都中野区中央4-6-12-105 電話03(384)4810

〒465 自宅・名古屋市名東区神丘町2-48-3 電話052(701)4203

渡辺忠

東洋シヤッター株式会社 取締役会長

〒540 大阪市東区両替町1—12 日生ビル 電話06(943)6571代

〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号 電話06(856)0988

追補

星野晴彦

株式会社熊谷組大阪支店 常務取締役大阪支店長

〒534 大阪市都島区2丁目10番5号 電話05(352)1151

名誉正会員

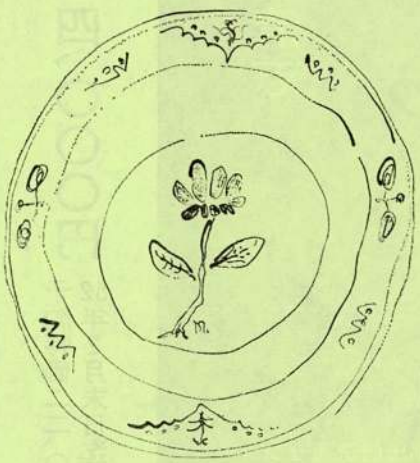
岡本弘

〒573 自宅・枚方市東香里2-7-20 電話0720(54)4123

追補

事務局一同

社団法人 日本建築協会



徳永正三画集「顔」より

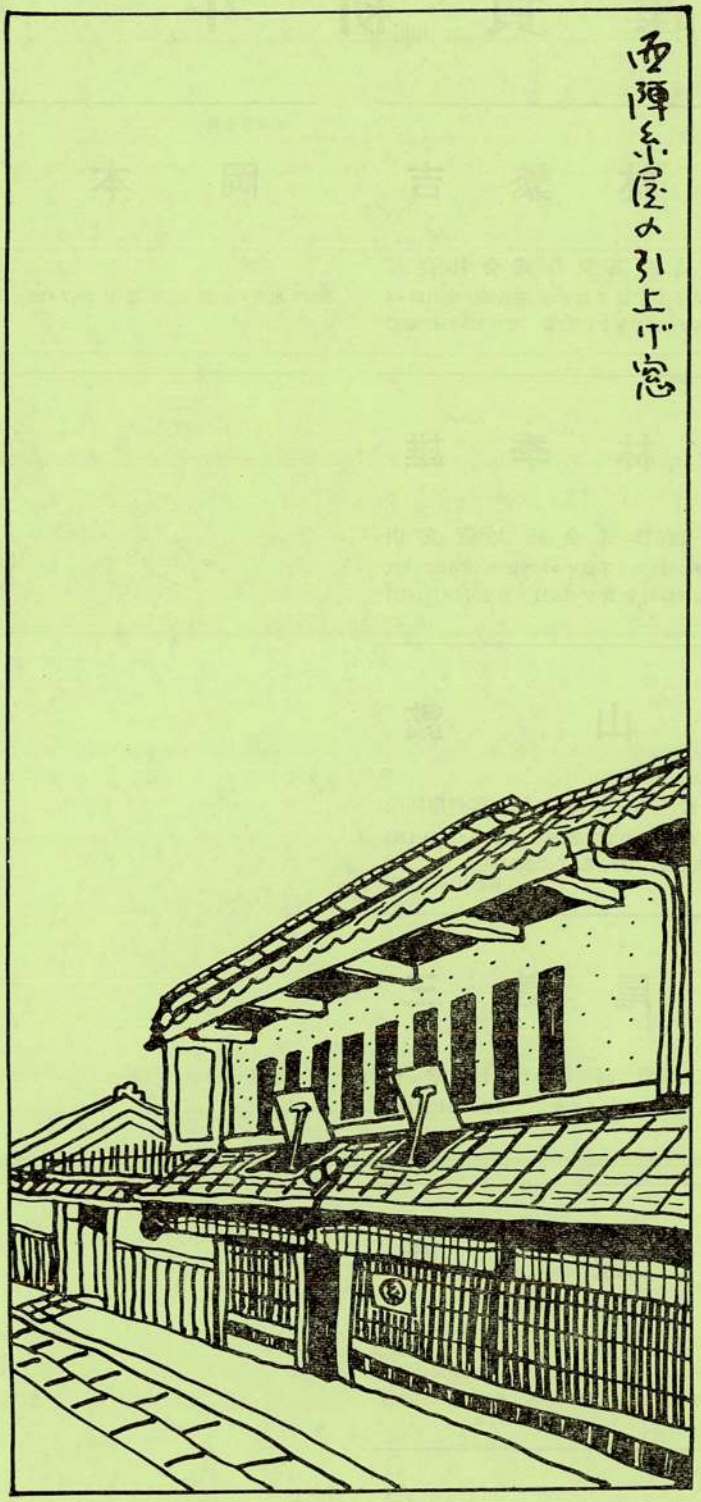
京都民家譜

毎日新聞社京都支局編

編者／岩井武俊／武居清志
写真撮影／森田蘆舟
装釘／河井寛次郎
民家調査指導／藤田元春

発売／地方、小出版流通センター
東京都千代田区神田小川町３の14
第1万水ビル2F TEL 03-291-8474
発行／日本資料刊行会

民家建築の宝庫——京都とその周辺部の代表的民家を網羅した貴重な写真資料



本書は京都市およびその周辺地域より建築学上より見て資料価値の高いと考えられる民家290戸を選び、300点の写真と解説文でその概要を紹介している。

本書に収録されている民家の大半は失われ、あるものは外観を変え、いまに残るものもその周囲の環境は大きく変貌し、その点本書に収録された300点の写真は、京都およびその周辺の民家の本来の美と機能とをありのままに伝える貴重な記録である。

52年1月下旬発売

お申込受付中

A4判型特製
函入三二〇頁

定価二四、〇〇〇円

予約特価二二、〇〇〇円
52年2月末日迄

1．年令と専門職種は必ずご記入下さい……▶
（氏名、住所欄は記入自由です）

2．「建築と社会」のどの頁を読みますか〈○印のこと〉……▶
（とくによく読む頁には◎印のこと）

3．「建築と社会」の内容について〈○印のこと〉……▶

4．特集テーマ・新設欄・執筆者など……▶
ご希望をお書きください。

5．最近とくに関心をもたれた特集はどれですか〈○印のこと〉……▶

ご協力ありがとうございました。
最近、とくに関心をおもちの問題、また、ご意見、ご希望など、表面通信欄に自由にお書きください。
なお、アンケート締切りは昭和52年３月１日とします。

1．
年令　　才
職種（都市計画・設計・施工・構造・設備・材料 学生・（その他　　））
氏名
住所

2．a．会告　b．法令コーナー　c．読者の頁　d．ニュース　e．スケッチブック　f．新建材紹介コーナー　g．建築の眼　h．都市設計資料
i．作品紹介　j．本文特集記事　k．構造の頁　l．設備の頁
m．施工材料の頁　n．若い会員レポート　o．月間の動き
p．広告（普通・資料頁）　q．データーシート

3．a．興味あるテーマが（イ．多い　ロ．少ない）
b．内容が（イ．適当　ロ．やさしい　ハ．むつかしい）
c．考えるうえで役立つ記事が（イ．多い　ロ．少ない）
d．実用記事が（イ．適当　ロ．多い　ハ．少ない）
e．とくに印象にのこった記事
（　　）

4．a．特集テーマ：
b．新　設　欄：
c．執　筆　者：
（執筆テーマ）：　　）
d．その他ご希望：

5．〈1975年〉
1．図書館
2．東海の新建築
3．インテリア
4．ＰＣ板を使用した工業化住宅
5．社会・建築・法
6．都市の景観と施設
7．建築とプレストレストコンクリート構造
8．生活排水処理施設のあり方
9．人間環境としてのターミナル
10．騒音対策と防音材料
11．第22回青年技術者
12．集合住宅の設備

〈1976年〉
1．証言'76―デザインの動向
2．建築基礎構造の問題点
3．医療施設
4．床工法と材料
5．建築防災と法
6．市街地整備
7．工場建築の設備
8．鉄骨構造のジョイント
9．集住体のハードとソフト
10．結露防止対策と断熱材料
11．第23回青年技術者
12．設備からみた建築の問題点

〈1977年〉
1．デザインの動向―部分と全体

漏水のなやみはサンロイドDN防水システムで解決しました


明治村、帝国ホテル屋根防水

―新設は勿論改修工事にも威力発揮―

- 優れたサンロイドＤＮシートがご使用目的に応じて用意されています。
- 特殊固定法による絶縁工法です。
- シート同志の接合は完全溶着一体化です。
- プレハブ化も可能です。

サンロイド DN 防水システム

屋根防水・プール防水・受水槽・蓄熱槽・池防水に……

筒中シート防水株式会社

本　　社：大阪市東区道修町2-40　〒541 電話(06) 203-5721
東京事務所：東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル) 電話(03) 292-8255

料金受取人払　郵便はがき

5 4 1 − □□

大阪東局承認
1909

（受取人）

差出有効期間
昭和52年12月
31日まで

大阪市東区北浜3丁目37

社団法人 **日本建築協会編集部** 行

最近とくに関心をおもちの問題・ご意見などご自由にお書き下さい。（キリトリセン）

「建築と社会」誌について ご意見をお聞かせください。

日本建築協会は昭和52年3月をもって創立60周年を迎え、「建築と社会」も52年3月号をもって創刊以来660号に達します。

編集委員会では、本会誌を会員のみなさまとともに、ますます充実した内容のものに育てていきたいとおもいます。

あなたの本会誌に対する卒直なご意見を伺い、これからの編集に役立てたいと存じますので、裏面アンケートによりご回答下さいますようお願いいたします。

社団法人　日本建築協会
編集委員会

セキスイ●新しい接着混和材

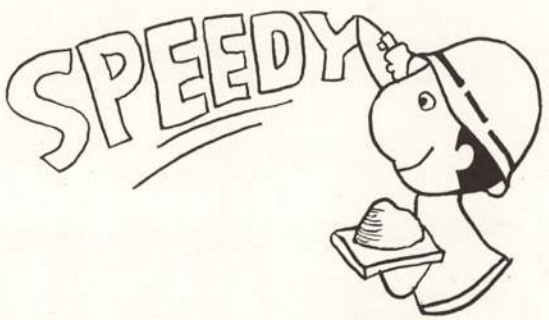
ティエスサンド

モルタル下地づくりの省力化―ワンタッチ工法登場!!

「接着剤の塗布」…も、「モルタル下塗り」も、
「櫛目引き」…も、セキスイティエスサンドなら
1回塗り付けですべてOKです。

従来の左官用下塗材の常識をガラリと変えた
新しい下塗用混和材の…「登場」です。
〈発泡スチロールの微細粒〉を主要骨材に
〈強力接着剤〉と〈継ぎ材〉をプラスしたティエスサンド。
従来工法の、セメントノロの塗りつけや、
樹脂接着剤を塗布し、追いかけてモルタルを塗り付け
櫛目を入れる、といった煩わしい作業を一挙解決。
ティエスサンドなら1度の塗り付けだけで
櫛目引きまですべてOK。
なんとも便利で、作業能率も抜群。
発泡スチロールの微細粒と強力接着剤の相互作用で
粘着性、保水性に優れ
塗り付け後も、ムラのない安定した接着力を発揮し、
剝離を生じない……
まったく、理想的な新しい左官下塗混和材です。

セキスイ・ティエスサンドの特長
(1)弾力性があり、亀裂がおこりにくく剝離を生じません。
(2)接着剤の塗布、およびモルタルの下塗りがいりません。
(3)櫛目を入る必要がありません。
(4)塗り厚が薄く仕上ります。
(5)軽量なので作業性は抜群です。



セキスイ 積水化成品工業株式会社

本　社　大阪市北区絹笠町2番地　530 大阪 06(365)3044
(堂島関電ビル)
東京事務所　東京都新宿区西新宿2丁目1番1号　160 東京 03(347)9640
(新宿三井ビル)

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

申請者（代理者）が建築確認申請書を行政庁（建築主事）へ提出する場合、その前に関係法令について、所管行政機関の下見、副申、協議等を要するものがあります。これらの主なものを分類整理し、規制の主な内容と大阪府下における取り扱い窓口の一覧表を掲げました。ただし、紙面の都合で残りの部分は2月号に掲載します。なお、この表以外にも各特定行政庁によって独自の運用をされているものもあり、また職制変更によって窓口が変わることもありますのでご注意下さい。

当法規委員会では、建築確認および開発指導関係の申請諸手続きについて実務に役立つ資料を連載する予定ですのでご期待ください。（大阪市建築指導部　西川幸之輔　松本好雄）

110 建築確認申請前の関係法令の下見について

1．地域、地区に関するもの

種類	規制の概要	担当部局
市街化区域（**都市計画法**）	敷地面積が1,000㎡（市によっては300㎡の場合もある）をこえる開発行為を行う場合は開発許可が必要である。	●大阪府下 大阪府建築部開発指導課 ●大阪市内 大阪市建築局建築指導部指導課 ●堺市内 堺市都市計画部開発指導課 ●豊中市内 豊中市建築部開発指導課 ●高槻市内 高槻市建築部建築指導課 ●東大阪市内 東大阪市建設局計画部開発指導課
市街化調整区域（**都市計画法**）	原則としてすべての開発行為について開発許可が必要である。	●大阪府下（全域） 大阪府建築部開発指導課
都市計画道路 〃　公園 〃　緑地 〃　広場 等の都市施設区域内 市街地再開発事業施行区域内 （**都市計画法**）	許可基準 1．都市計画施設に関する都市計画に適合する場合。 2．次の各号に該当し容易に移転しもしくは除却することができるもの。 (1)階数が2以下でかつ地階を有しないこと。 (2)主要構造部が木造、鉄骨造コンクリートブロック造等であること。	●大阪府下 （市町村経由） 大阪府建築部開発指導課 ●大阪市内 大阪市総合計画局都市計画課および都市再開発局第2課
土地区画整理地区内（**土地区画整理法**）	1．許可を受けなければならない。 2．境界明示の申請	●大阪府下 （市町村経由） 大阪府都市整備局都市整備課 ●大阪市内 大阪市都市再開発局整地課または区画整理事務所
屋外広告物制限地域または場所（**屋外広告物法**）	知事（大阪市内は市長）が指定する地域または場所では広告物を表示しまたは広告物を掲出することはできない。ただしその他の地域または場所では原則として知事（大阪市内は市長）の許可を受ければ設置することができる。	●大阪府下 大阪府土木部計画課 ●大阪市内 大阪市土木局管理部路政課
風致地区（**都市計画法**）	許可を受けなければならない。 許可基準 1．建築物の高さ 15m以下 2．建ぺい率 4/10以下 3．外壁後退距離 (1)道路境界 1.8m以上 (2)隣地境界 1.0m以上	●大阪府下 （市町村経由） 大阪府土木部公園課 ●大阪市内 大阪市総合計画局都市計画課
大阪港臨港地区（**港湾法**）	●商港区 同条例別表第1に掲げるもの以外のもの ●工業港区 同条例別表第2に掲げるもの以外のもの ●特殊物資港区 同条例別表第3に掲げるもの以外のもの ●マリーナ港区 ●修景厚生港区	大阪市港湾管理部管理課
泉北港 阪南港 （**港湾法**）	下見について打ち合わせ中	各港湾事務所
1．飛行場の周辺地域 2．超高層建築物および超高架建築物等（**航空法**）	飛行場の滑走路を中心として進入表面、転移表面、水平表面等の区域内における地表面からの高さの限度が定められており、これらについて承認または許可を受けなければならない。 1．建築物等の高さの制限 2．航空障害標識の設置	大阪国際空港および八尾飛行場内の空港事務所
電波、電搬障害防止区域（**電波法**）	高さ31mをこえる建築物その他の工作物を新築・増築等をしようとする場合は、郵政大臣に届け出なければならない。	近畿電波監理局
宅地造成工事規制区域内（**宅地造成等規制法**）	許可を受け、かつ検査済証の交付を受けなければならない。	●大阪府下 大阪府建築部開発指導課 ●堺市内 堺市計画部開発指導課 ●高槻市内 高槻市建築部建築指導課 ●豊中市内 豊中市建築部開発指導課 ●東大阪市内 東大阪市建設局計画部開発指導課
河川区域 河川保全区域（**河川法**）	許可を受けなければならない。 許可対象 1．河川区域内において建築工事等を行う場合 2．河川保全区域内においては、河川敷地の境界より18m（9mの区域もある）以内で埋立工事等の宅地造成または、建築工事等を行う場合	●大阪府下 大阪府土木事務所 ●大阪市内 大阪市土木局河川課 近畿地方建設局（淀川・大和川）
砂防指定地内（**砂防法**）	許可を受けなければならない。 許可対象 1．道路、橋りょう、その他建築物等の建築、改築する場合 2．開こんその他地形を変更する場合 3．その他	●大阪府下 大阪府土木事務所
急傾斜地崩壊危険区域内（**急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律**）	原則として建築物の建築は禁止されている。	●大阪府下 大阪府土木部河川課
急傾斜地災害危険区域		●大阪府下 大阪府建築部建築指導課
駐車場整備地区内（**駐車場法**）	大規模建築物について次のとおり駐車施設の設置義務がある。 1．特定用途で延べ面積が2,000㎡をこえる建築物 2,000㎡をこえる延べ面積について300㎡までごとに1台 2．非特定用途で延べ面積が3,000㎡をこえる建築物 3,000㎡をこえる延べ面積について450㎡までごとに1台	●大阪府下 大阪府都市整備局総合計画課 ●大阪市内 大阪市総合計画局都市計画課
近畿圏整備法による工場、学校の制限区域内（**近畿圏の既成都市区域における工場等の制限に関する法律**）	次に掲げる規模の工場、学校の新設増設もしくは用途変更等をする場合許可を受けなければならない。 1．工場 1,000㎡以上 2．学校 (1)大学および高等専門学校 1,500㎡以上 (2)各種学校 800㎡以上	●大阪府下 大阪府建築部建築指導課 ●大阪市内 大阪市総合計画局都市計画課
文化財の埋没区域（**文化財保護法**）	文化庁の許可が必要である。	●大阪府下 （市町村教育委員会経由） 大阪府教育委員会文化財保護課 ●大阪市内 大阪市教育委員会文化振興課
自然公園内 （国立公園） （国定公園） （府立自然公園） （**自然公園法**）	許可を受けなければならない。	●大阪府下 大阪府農林部自然保護課
近郊緑地保全区域内（**近畿圏の保全区域の整備に関する法律**）	届出もしくは許可を受けなければならない。	●大阪府下 大阪府農林部自然保護課

2．建築物の用途・規模に関するもの

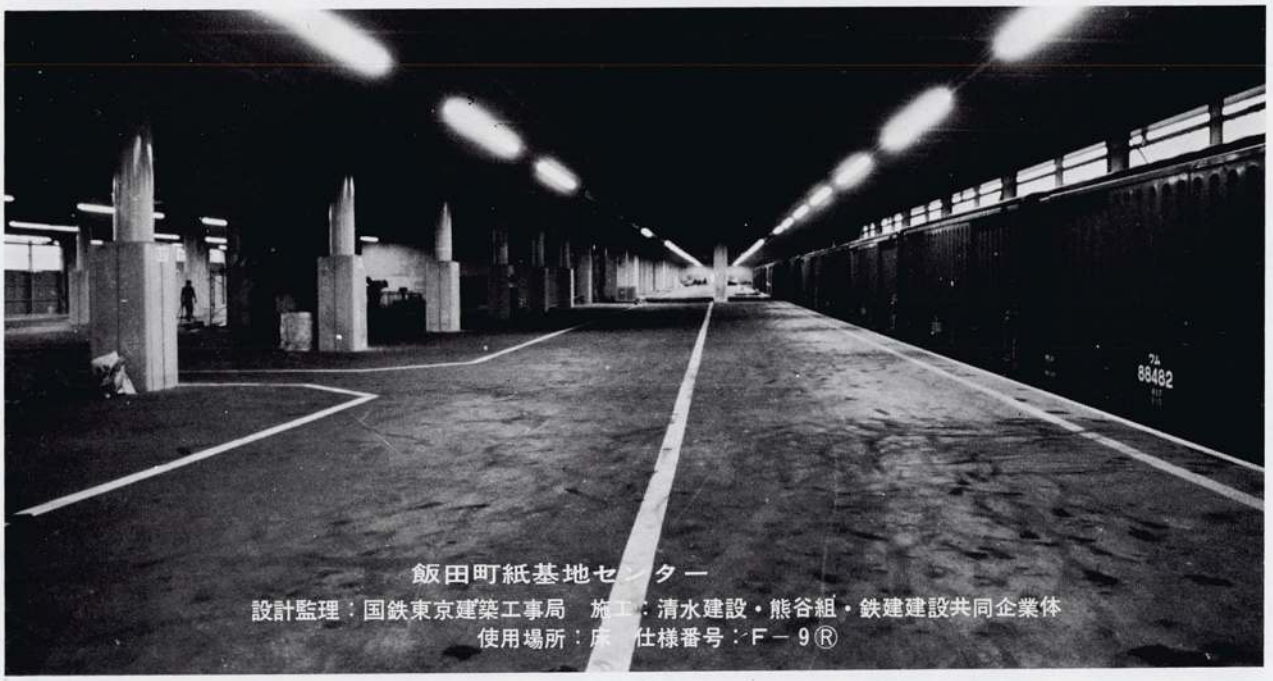
種類	規制の概要	担当部局
学校（**学校教育法**）	新築および増築のいずれの場合でもそれぞれの設置基準に適合しなければならない。	●大阪府下 1．私立学校および各種学校 大阪府企画部私学課 2．公立学校 大阪府教育委員会指導第1課 3．大学は文部省
児童福祉施設（保育所・託児所）（**児童福祉法**）	設置しようとする者は、知事（大阪市は市長）の認可を受けなければならない。	●大阪府下 大阪府民生部児童課 ●大阪市内 大阪市民生局総務部庶務課
病院 診療所 （医院） 助産所 （**医療法**）	構造基準等 1．病室の床面積 2．階段の数2以上（屋内階段） 3．幅1.2m以上、けあげ20cm以下、踏面24cm以上 4．避難階段（3階以上の階に病室のある場合のみ）を2カ所以上 5．エックス線装置等の防護 6．その他	●大阪府下 大阪府衛生部医療対策課
ホテル 旅館 簡易宿泊所 下宿 （**旅館業法**）	1．構造基準等 (1)客室の数 (2)客室の床面積 (3)その他衛生設備等 2．ホテル等の建築が禁止されている場所 学校、児童福祉施設、社会教育に関する施設等の周囲でおおむね100mの区域	●大阪府下 大阪府衛生部環境衛生課 ●大阪市内 大阪市環境保健局環境衛生課 ●吹田市（事前同意） 吹田市環境保健局環境保全課
市場 マーケット スーパーマーケット （**小売商業調整特別法**）	10以上の小売商の店舗の用に供される建築物でその中に野菜・生鮮魚介類の販売店舗がある場合許可が必要	●大阪府下 大阪府商工部商業課 ●大阪市内 大阪市市場局小売市場課

以下、収録できなかったものは2月号法令コーナーで紹介します。

フリントコート®

マスチックフローリング

耐久性のすぐれた防湿床材



飯田町紙基地センター
設計監理：国鉄東京建築工事局　施工：清水建設・熊谷組・鉄建建設共同企業体
使用場所：床　仕様番号：F－9®

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　復元性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート施工販売部

大　阪　〒532　大阪市淀川区西中島２丁目11番30号　☎(06) 303－7131
東　京　〒104　東京都中央区宝町2丁目4番地(第2ぬり彦ビル3階)　☎(03) 562－4646
名古屋　〒461　名古屋市東区東門前町3の47(日本橋ビル4階)　☎(052)931－8537
広　島　〒730　広島市東白島町１５番６号(西林ビル３階)　☎(0822)21－1224
福　岡　〒810　福岡市中央区舞鶴１－１－５(舞鶴ビル３階)　☎(092) 77－1961

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介No.17》

『Sプラ』（下地調整用プレミックスプラスター）

富士川建材工業株式会社
本社：〒236　横浜市金沢区鳥浜町13　TEL045-772-1811
大阪：〒567　大阪府摂津市鳥飼西460-19　TEL0726-54-4181

石膏プラスター（以下、単にプラスター）は現在知られている左官材料の中では、収縮亀裂をおこさず、乾燥時間が速い点で、最も優れたものといえる。また、左官材料一般の特徴として防火・防音・保温などの性質も具備している。標題の『Sプラ』もそのプラスターの範ちゅうに入るが、在来のものがβ型石膏を主成分としていたのに対しこれはα型石膏を主原料とし、それに骨材をプレミックスしたものである。

α型とβ型の物理的性質は別表のとおりで、明かにα型の方が優れている。すなわち、混水量で約⅓、凝結時間で約½、強度は引張で5倍、圧縮で10倍である。

別表　α、β型半水せっこうの物理的性質

（ASTMC26の試験法による）

種別			α型	β型
標準混水量（%）			35	90
凝結時間（分）			15～20	25～35
凝結線膨張率（%）			0.28	0.16
強度（kg/cm²）	1時間後	引張	35	7.0
		圧縮	280	28
	乾燥	引張	70	14
		圧縮	560	56

石膏石灰学会編「石膏石灰ハンドブック」による。

もっとも、これはそれぞれ純粋な石膏を比較した場合であって、プラスターとして使い易いように調整したものでこれほどの差が出るとは思われないが、ともかくα型の方が左官材料として好ましいことは否めない。

また、在来のプラスターが塗下地の制約を受けた（例えばボード下地の場合はボード用プラスター、コンクリート・モルタルのときはそれに適するプラスターなど）のに対し、『Sプラ』は通常の左官用塗下地の他、合板・各種成型版にも直接塗付けが可能なように作られている。（ただしALC版やプラスチック発泡材のように多孔質で吸水の激しいものにはシーラー処理が必要。）標準塗厚も3～5mmと在来品に比し薄くてすむが、これはα型を使用することで強度を増し、精選した骨材を既配合にした成果であろう。なお、材料は殆ど中性であるから、その上に壁装・塗装・吹付・左官上塗などの仕上げを自在に施すことができる。

以上のことから『Sプラ』は各種プラスターの中でも、新しい使用分野を開拓したものといえるだろう。

使用法は在来のプラスターと同様である。ただし薄塗であるため構造上亀裂の入り易い個処や下地の接合部分には、ジョイントテープ・寒冷紗などを伏込むことが望ましい。また、α型といえども石膏であることには変りないから、水のかかる処や常時高湿度の場所（外壁・地下室・浴室など）への使用は避けなければならない。

Sプラの性能・包装などは次のとおりである。

■ 性　能

硬化時間――2時間±30分

曲げ強度――43.8kg / cm²

接着強度――石膏ボード…… 2.6kg / cm²（紙層間剝離）

ベニヤ板…… 2.7kg / cm²

モルタル……13.4kg / cm²（Sプラ内部破断）

ニューラスボード…… 1.9kg / cm²（紙層間剝離）

フレキシブルボード… 3.9kg / cm²

凝結線膨張率――0.02%

■ 包装・その他

Sプラは25kg、紙袋入り。基準塗厚 約3mm～5mm

塗り面積 3mm―6.6m²　5mm―4m²

建材委員長/山田幸一　（関西大学）

《新建材紹介No.18》

『セラミタイト』（不燃セラミック系無機質塗料）

四国化研工業株式会社
本社：〒567　大阪府茨木市中穂積1-6-51　TEL　0726-26-6231
東京：TEL03-344-9461　　名古屋：TEL052-931-4149

建築材料の表面保護と美装を目的とした、新しい不燃セラミック系無機質塗料が開発された。「セラミタイト」と呼ぶこの新製品は、従来広く利用されてきた合成樹脂エマルジョン塗料に代わるべく開発され、その特長は珪酸塩無機質組成をその結合媒体とし、また、各種セラミック質国内資源の活用で原料の安定確保と共に、合成樹脂塗料では解決されなかった不燃・耐火・無煙・無毒性などの特性を有し、とくに、建材用塗料として抜群の性能を発揮する水性型新塗料として期待される。

■ 特　長

(1)不燃性

熱的に安定なセラミック複合体が塗膜構成をするので、加熱による発熱・発煙などがなく優れた防火性能を発揮する。

(2)密着性

石綿板を含む各セメント質系の素材に対し、化学的結合を伴い優れた密着性を示す。

(3)化学的性質

耐アルカリ性・耐酸性・耐有機溶剤性など化学的性質が優れている。

(4)防汚性

塗膜は硬く強靭性をそなえ完全無機質であるため、有機質系と比較してカビの発生や静電気の影響などがなく、各種のよごれに対し効果的である。

(5)無公害

エマルジョン塗料と同様の作業性が得られ、化学的に安定で、しかも完全無機質のため排気・廃水などの処理を必要とせず公害対策に有効である。

■ 塗装方法

(1)素地調整　　油・ほこり・離型剤などの付着物を完全に除去し、素地をよく乾燥させ、含水率10%以下、PH10以下とする。

(2)下塗り　　清水で0～5%の範囲で希釈し、スプレー・刷毛・ローラー塗りする。塗着量は0.15～0.2kg/m²。

(3)清水で0～5%の範囲で希釈し、スプレー・刷毛・ローラー塗りする。塗着量は0.15～0.2kg / m²。

（注）素地の状態によりパテ処理を行い、研摩紙ずりはパテかいの後行う。

■ 荷　姿

セラミタイトシーラー（15kg / 缶）

セラミタイトパテ（20kg / 缶）

セラミタイトN－4（20kg / 缶）

セラミタイトN－300（25kg / 缶）

セラミタイトN－500（25kg / 缶）

セラミタイトN－1000（主材20kg/缶 骨材4kg/缶）

■ 設計価格

セラミタイトN-4（フラット仕上げ）800円/m²

セラミタイトN-300（じゅらく調仕上げ）900円/m²

セラミタイトN-500（リシン状仕上げ）850円/m²

セラミタイトN-1000（防結露用仕上げ）1,000円/m²

■ セラミタイトの性能

試験項目	試験結果	試験基準
低温安定性	異常なし	JIS－A6909 －5℃～常温 3回
耐水性	1ヵ月間異常なし	JIS－A6909 96時間浸漬
耐アルカリ性	1ヵ月間異常なし	JIS－A6909 水酸化カルシウム飽和容液48時間
耐沸とう水性	4時間異常なし	JIS－K5400 しわ、膨れ、われ、はがれなし
耐洗浄性	1000回異常なし	JIS－A6909 内装300回、外装500回
鉛筆硬度	8H以上	JIS－K5400
密着性	100 / 100	クロスカット剝離テスト
付着強度	10kg / cm²	JIS－K6909 5kg/cm²以上
耐衝撃性	衝撃による変形でわれ、はがれなし	JIS－K5400 荷姿300g、高さ500m/m
防汚性	菌糸の発育なし	JIS－Z2911 30℃、1週間の防かび抵抗
防火性	難燃1級	JIS－A1321 温度上昇50℃以下（基材）発煙係数30以下（表面）基材同等（第0001号）
透水性	0.7ml/24hrs	建研法 15ml/24hrs. 以下

■ 今後の研究課題

前記のごとく種々特性を有しているが、下地がセメント質系でないもの、例えば鉄板などには接着性がよくない。（本部はセラミタイトシーラーを使用すれば接着性よく施工できる。）

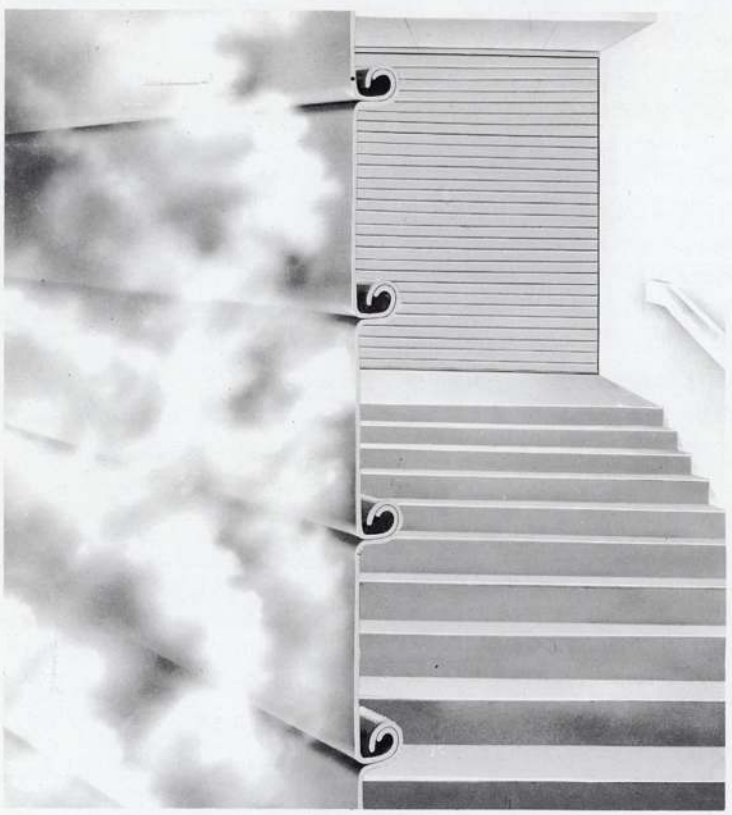
また、色彩面からみると、無機質顔料使用のため原色および彩色は出しにくいなど、将来の研究に待つ面もある。

建材委員/羽生永紀　（大成建設㈱建築部工事課係長）

煙の惨事を未然に防ぐ 防煙シャッター

NS防煙シャッターは建設省告示第2564号の規定に適合!!

政令基準、火災時の空気圧2kg/m²時、煙の漏気量0.2m³/min. m²をはるかに下廻る0.03 m³/min. m²（業界No.1）を記録しました。



近年、ビル火災でのいたましい、犠牲者の続出はそのほとんどが《火》よりも《煙》によるものでその為建築物の防煙性能の向上が一段と重要になってまいりました。

建築物の設計上、防煙、防火区画でのシャッターの役割は非常に重要なポイントとなっております。

その防煙区画に、すばらしい遮煙性能を備えた、　ＮＳ防煙シャッターを、御採用下さい。

防煙シャッターの開閉には、業界最高の性能を誇る、L型電動開閉機を使用しております。



御一報次第カタログお送りします。

株式会社 日本シャッター製作所

大阪本社　大阪市淀川区田川北３丁目２番４号　電話06(301) 3656～9
大阪工場　大阪府枚方市招提田近１丁目７番地　電話0720(57)4535～9
東京工場　川崎市中原区新丸子東３丁目１１５９番地　電話㈹044 (411) 6325
名古屋支店　名古屋市中川区北江町２丁目１２番地　電話㈹052 (361) 7441
九州支店・工場　福岡県粕屋郡粕屋町大字仲原字明神984－4　電話 09293 (８) 4661

営業所　横浜・大宮・静岡・千葉
北陸・京都・神戸・高松
広島・北九州・大分・宮崎
鹿児島・佐賀・長崎

読者の頁

人間・空間

上谷　重男

仏道を修行する者は先ず須らく仏道を信ずべし。仏道を信じる者は須らく自て本より、道中に在って迷惑せず、妄想せず、顛倒せず、増減なく、誤謬無しということを信ずべく、是の如くの信を生じ、是の如く道を明らめて依って之を行ずる。乃ち学道の本基なり。仏性は草木の種子のごとし、法雨のうるひしきりにうるほすとき、芽、茎、生長し、枝、葉、花果もすことあり、果実さらに種子をはらめり。　　道元集ヨリ

私が建築に足を踏み入れた時、我々の眼前には色々の巨匠と呼ばれる建築家の存在が何となく眩しく眼にうつった。あのモンパリはなやかな頃のパリ画壇の画家のような「コルビュジエ」、田園で見い出すことが出来るかのような優しい眼をもった百姓風な「フランク、ロイド、ライト」、私の手元にあった道元集の中の上記の文章に、私達が言われて来た〝建築空間の絶対性を信じて学ぶ〟に通じるものを見い出したりして、単細胞的に時を過して来たが、しかし、今こうして筆をもっている私の頭の中からは、建築空間の神話は消え失せてしまいつつある。この建築空間神話が失なわれてきた所から、私にとって空間そのものが何となく、日本書紀の「天の岩戸」のような感じになり、その「岩戸」を開けてみたいという願望にも似た方向へと心が変わっていったが、それと同時に、他のものを排除するようにして伝統的な手工業的手法に似たものの中へ入ってゆきたい気持が強く走り始めた。郊用技術としての職人的手仕事は時代の波に押し流されて、次第に社会の辺境の地に退ぞいてゆき、現代では全く意義を失っているかのように思われがちである。しかし、我々はそういう非能率、不便な技術に対する愛着を断ち切れるであろうか。それはあたかも、建築設計の手法が個人の手から完全に離れていて、その事実が自己の実感として存在しているにもかかわらず、そのことを考えたくないということと結びついている。しかし、それらの考えが、過ぎ去ってゆこうとしている物への単なる感傷的郷愁であるとは言えないのではないだろうか。もっと本質的なものとして、貴重なものが科学技術以外の手工業的なものの中に存在しているかも知れない。建築空間が人々を包んでいる以上、その手工業的手法というものをもっと人間個人と結びつけてゆくことを重視してもよいのではないだろうか。

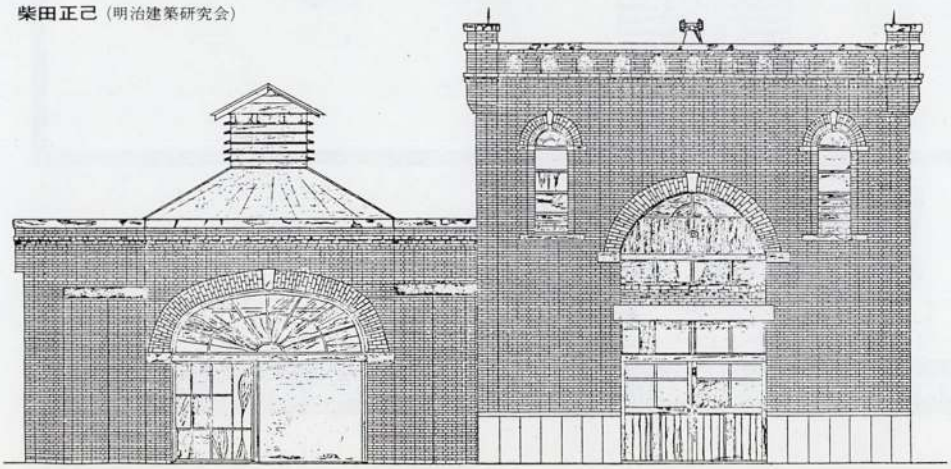
20年に一回行われている伊勢神宮の遷宮の儀も、金細工師や宮大工が高齢の為、正式な型式の中で造型が行えるのは今回が最後ではないかと言われている。もしそれが本当であり、機械技術の中で創られた金具があの白木の柱に取り付けられるようになれば、あの伊勢神宮のもっている空間はどういう方向に歩み始めるであろうか。あの古式に包まれた「遷宮の儀式」の伝統的方法と、現代建築との間のギャップが埋めれなくなるかも知れない。あの式典の持っている独特の雰囲気は失なわれてゆき、人々の伊勢に対してもっている「神話」も徐々に失なわれてゆくだろう。これらのことを考えてみると、科学を基とした技術は抽象化してゆく手法を必然的に探し出しにくいのかも知れない。それと共に、科学手法の中には、人間性の本質の方向への復帰志向がないのかも知れない。手法には、感情的ともいえる純粋、直感的なものと、技術数量的なものとがあるが、それらのどちらが良いかということではなく、人間の中にある生理的なことからの労働の継続不可能性を思い、手法の中にある抽象化ということを考えれば、人間性の中にある本質的なものは刹那的とも思える直感であり、そのことについて考えてみるのも大切ではなかろうか。現代では技術的手法と芸術的手法とは全く異っているかのように考えられがちであるが、歴史的に振り返ってみるなら、古来、日本語には「わざ」という言葉があり、その「わざ」という言葉はかっては芸術と技術を含む概念的用語としてとらえられていただろう。しかし最近、日本において多く見ることの出来る超高層ビルは、建築空間の本来もっていた芸術の分野を科学技術的手法によって食い荒して成立した建物である為に、芸術の分野から離れてしまったものが多いのではないだろうか。職人の手工業的手法にも似たものの中から創られた「小さな住宅」のような建物の中に「わざ」に似た芸術性や人間性がより多く残っている。設計の本来のものは芸術手法をおいて他にないということを考えれば、もっと具体的、人間的、本質的なすなわち芸術的なものへと手法を進めてゆくことが必要であろう。芸術家が自然素材を加工し、それを芸術作品へと高めてゆくように、科学も自然素材を加工して物を作ってゆく。同じ自然素材を使用しても結果が大きく両極に別れて行ってしまうという違いは何なのであろうか。芸術家の手の中にはいってきた素材は非合理的素材として扱われるのに、科学手法では、合理的素材として扱われるということではないだろうか。肥えた土の中に植えられた花々の種子が地上に出てくる時は必ず美しい花に姿を変えて出てくるように、設計という行為の中から出てくる作品は自然の樹木のように美しく、人間味あふれた本質的果実となって出てくるべきものである。

芸術家にとっての直感は、他の人々には刹那的なものに思われるが、直感的に出てくる作品は彼らにとっては全く自然物として、自らの本質を無意識に咲かせたものだろう。直感とは、精神とか思索の欠如したものではなく、むしろ花火が一時に咲くようにその人が今まで歩んできた人生が爆発的、瞬間的に出てくるものだ。しかるに、科学技術というものはあまりにも数量的すぎる為、汽車がレールの上を走っているのと同じようにあらゆるブレーキがかけられる為に瞬間的に爆発して出てくるということは起り得ないのであろう。芸術は本来永遠的性格をもつものであり、それ故、直感的現在は超時間的空間として生きてゆく。比ぶるに、科学は現代に視点を置き、現代の分析の中から生まれてくる為に現代を超えたものは出にくいのであろう。建築空間の中にある超時間的空間、直感的現在と精神的現在との結合の中から生じてくる空間、それを探し出す為には、人間の手から離れてしまった建築が多くなった今こそ、もっとじっくりと自然に対しての非暴力性を考え自然のもっている時間と建築のもっている時間との一体化を考えてゆかなくてはならない。こうして科学的手法と手工業的手法との比較検討を自己の胞内のものとして考えてきたのは、自己の手法の中で現在直面している問題に解決点を与えてみたいと思ったからにほかならない。建築空間を完結性がなく、超時間的なるものとしてとらえるなら、創るという作為も超時間的なものとして考えてみたいと思う。

本来、空間のもっている要素は仏教用語の中に多く見い出せる「空」に含まれている意味に近い。それならば、現世には存在し得ないものとして空間の要素をとらえることが正しいのではないかと時々思うことがある。また反対に、それは仮の姿を建築空間としてむなしく私達の眼前に現わしているのかも知れないと考える。むなしい建築空間、それは自然に対して非暴力的でなくてはならない？……むなしい建築空間、それはなんとなく存在している空気のような自然体そのものであろうか？……。

また消えた明治の遺産 ―旧堺紡績会社―

柴田正己（明治建築研究会）



以前より一部建造物の保存要望があった明治時代の紡績工場が取り壊された。

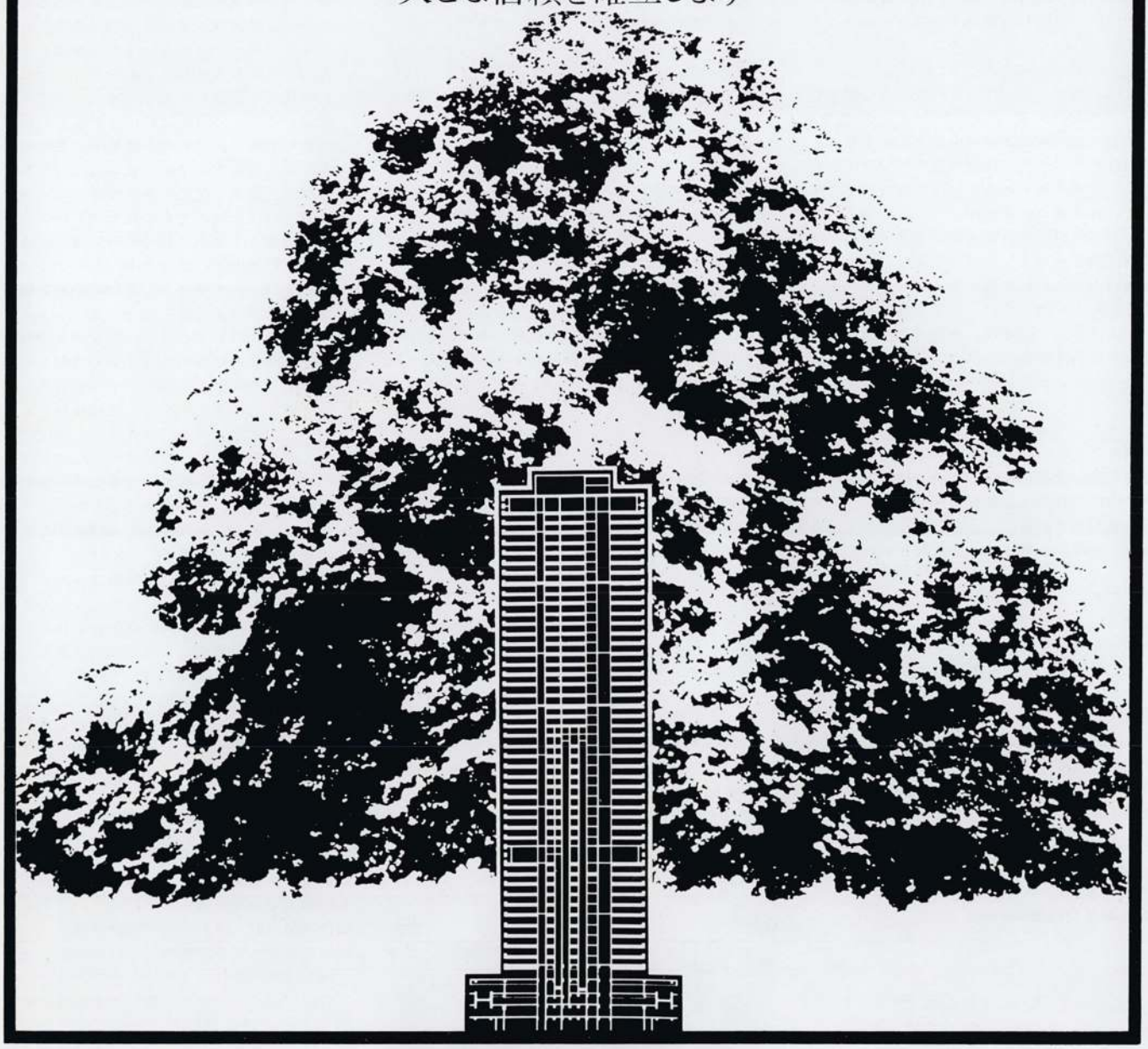
明治25年に創立された旧堺紡績会社のノコギリ屋根の工場で、明治29年竣工、泉州地方に残っていた煉瓦造建築では最も古いものであった。取り壊し中の調査で、ノコギリ屋根の木造骨組構造の特異な方法、鋳鉄製柱をトユとして使用していたことなど、今までわからなかったことが多数判明した。また、大阪府教育委、大阪市大建築史研究室、堺市教育委の指導のもとに記録保存のための実測調査をした。

一方、貴重な鋳鉄製柱（中空）や刻印のある煉瓦、鋳製鉄の梁受金物などは、喜福工業㈱、前田建設工業㈱の好意でゆずり受け、明治建築研究会で保管している。将来は、跡地に建てられる公民館のホールなどに展示する予定である。また、旧変電所（図面）の煉瓦造建物の一部が喜福工業㈱によって保存され、同社の社宅の庭に移されている。

近畿電氣工事株式會社

信頼の大きさ…近電工の技術です。

脈動し 呼吸し 成長する都市…
その生命のシステムを支え構築する近電工
きたえあげた技術と組織を集中し
緻密さとパワーで
快適と安全と能率の
大きな信頼を確立します



システムの信頼を高める
近電工

電気・計装・空調・防災・土木●取締役社長 岡本 繁一

北海道・東北・東京・名古屋・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州・沖縄

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

第6回新建全国大会開催さる

去る51年11月21～23日の三日間にわたって、神奈川県湯河原町文化福祉会館において、新建築家技術者集団（新建）の第6回大会が開催された。今回の大会の特徴は、「大会報告」にあるように、「広い視野と豊かな発想で新建運動の発展を」という総合テーマで、「住民のためのまちや施設づくりに新しい地平をきりひらこう」「経験を理論化して新建の考え方を広く建築界に提起しよう」という念願で開かれたところにある。きびしい経済不況や仕事の少ない世の中にあって、設計事務所問題、官庁技術者問題、まちづくり運動等々をめぐって具体的な悩みや課題がうきぼりにされた。とくに、全国40万の建築士はじめ建築産業に働らく技術者の要求にこたえしかも使う人々の住民の立場にたったまちづくりとは何か。それは、単に計画者だけの問題でなく、ひとつひとつの施設づくりにおける単体設計者の大きな課題でもあることをはっきりさせたところが、今後の建築運動の地平をあらたにきり開くものとして注目される。

参加者は、代議員、評議員あわせて百数十名で最後に、46名の新役員が選出された。

ロンドンから建築学生の手紙

12月1日付で、ロンドンより、W.T.Shuという建築学生が日本の建築事務所で一年程働きたいという希望の手紙が日本建築協会あてにまいりましたので、以下に、その英文の手紙を掲載します。

希望に応じられる向きは、直接同君にご連絡下さい。その場合、日本建築協会にもその旨ご一報いただければ幸いです。

Dear Sir,

I am a stubent of architecture in my final year of a B.A. course. As it is part of the course requirements that I should spend a year out as an architectural assistant in an architect's office before returning to school to complete the professional study, I would like to take this opportunity to come to Japan both to learn and to gain practical experience.

I hope you can be kind enough to give me advice regarding the matter and whether such facilities for students exist. And if there are, I trust that you can recommend a few practices who will employ students such as myself. Thanking you in anticipation.

Yours faithfully,
W. T. Shu(Mr.)

47, Bernard Ave.,
W. Ealing, London W.13 9UG, U.K.
1 Dec. 1976

歴史的風土の保存に関する国際会議への参加募集

歴史的風土の保存と当該地域の現実的な生活乃至は産業の両全をはかることは極めて困難な事業であり、古い風土と融和した現代社会の創造には、土地利用政策、経済対策はいう迄もなく、自然及び人文景観の保全技法等多くの専門的研究には、多数の人々の関心と専門エキスパートによるアドバイスが何よりも必要であり、更に又、土木、造園、建築関係工法の新しい開発も必要としている。

今般ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、日本国を舞台とする歴史的風土保存に関する国際会議をもつことを決定し、日本造園学会（会長：本多侔）に対し提携主催方を要請されたので、建設省当局の支援を得て、同学会内に歴史的風土の保存に関する国際会議実行委員会（委員長：横山光雄）を組織し、専門家、一般参加希望者等の御後援御賛同をうべく、先般来活動を開始している。

会議の名称

歴史的風土の保存に関する国際会議

会期及び会場

会期　昭和52年3月26日～28日

会場　京都市左京区宝ケ池「国立京都国際会館」

会議テーマ

Ⅰ　歴史的風土保存の理念および原則
　－概念規定および保存の論理－

Ⅱ　都市計画における歴史的風土保存の方法
　－土地利用と保存計画における行政および住民参加の役割－

パネリスト

J.B.PERRIN(仏、住宅省緑政局長、造園)
B.HACKETT(米、ニューキャスル大学教授、植生)
A.FEIN(米、ロングアイランド大学教授、造園史)
H.F.WERKMEISTER(独、イフラ副会長、造園)
佐藤　昌氏（日、農学博士、造園）
横山光雄氏（日、日本大学教授、造園）
西山夘三氏（日、京都大学名誉教授、建築）
都留重人氏（日、一橋大学名誉教授、行政）
H.DAIFUKU(ユネスコ代表、記念物部会長)

問合せ、申込み

〒102 東京都千代田区平河町2－16－14
（財）都市計画協会内
「歴史的風土の保存に関する国際会議実行委員会事務局」　電話　(03)262－3491(代)

参加登録料

一般個人　15,000円（先着100名限り受付）
各種法人参加　1人30,000円

樹の話シリーズ・28

もちのき

Ilex integra Thunb.
もちのき科

子供の頃育った古い家にもちのきがあった。正月にはしめ縄をすることもあったが、私はもっぱら樹の肌にいたずらをしたものである。傷口はすぐ直り、その跡が残るのが嬉しかった。夏には気持ちのよい木影となり、小鳥がよく飛んできて、小鳥たちが落とした糞からやがてくすのきなどが生えてきた。それにまたアオスジアゲハが飛んできて卵を産み青虫がでてくる。やがて蝶になるまで観察するのが毎年の夏休みの楽しみであった。秋には赤い実をいっぱいつけたが、黒ずんでいたのはスス病にかかっていたのだろう。近くの植木屋のおっちゃんが風通しを良くしてやると枝をバサリと落としてしまうと淋しいくらいだが、翌年にはまた大きな木影をつくってくれた。頼もしい木であった。

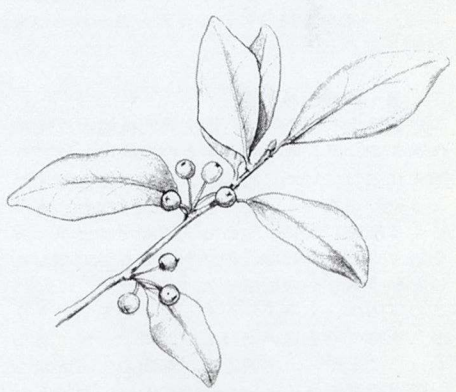
もちの木は、昔の庭には必ずみられた常緑樹である。陰樹でカイガラムシの害をうけスス病になりやすいので近年あまり使われない。灰白色のずんぐりとした幹や枝をもつが、樹皮から鳥もちが採れるので、この名があるらしい。夏に樹皮をはぎ取り、2～3か月水に浸して腐らせたものを臼でついて鳥もちをつくる。ハエ取紙とか、絆創膏の材料に使われたという。とりもちのもちは餅ではなく黐の字をあてるので、もちのきは黐木あるいは橲である。橲とは大木になって何か意志を秘めている木という意味であろうか。また、橲は櫃と同じで堅い材で印材や弓にも使われた。

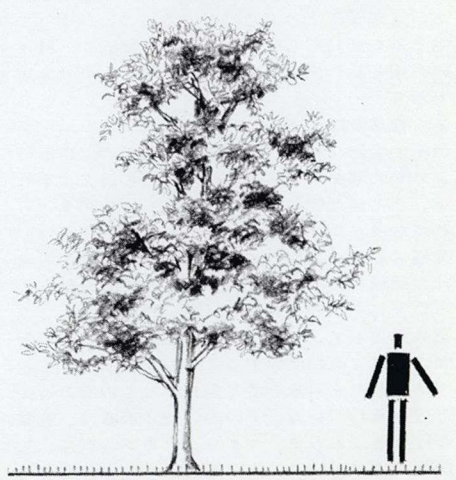
もちのきは雌雄異種である。私の家の木は雌の木であったわけである。黄色の実をつける栽培種をきみのもちのきという。もちのき科には赤い実をつけるものが多い。常緑ではくろがねもちやそよご、たらようなど、落葉ではうめもどきがある。いぬつげは黒い実だが同じ科である。

Ilexは旧ラテン名の生垣の意からきているという。もちのきの仲間にいぬつげやセイヨウヒイラギがあるから何となくわかる。セイヨウヒイラギはひいらぎに似ているがひいらぎの方はもくせいの仲間である。もくせい科のねずみもちやばら科のかなめもちという、よく似た名が少しまぎらわしい。セイヨウヒイラギはアメリカではHollyで秋から冬にかけて赤い実をつける緑葉ということでクリスマスには欠かせない。ちょうど日本で正月にまんりょう、やぶこうじ、あるいはなんてんを賞でるのと同じである。もちのきの葉は濃緑で光沢があるが、縁にはギザギザがない。これを全縁といいintegraはこれを意味する。もちのきはTall Hollyである。

もちのきは大木でも移植が可能である。私の思い出のもちのきは私共の引越したあと無残にも伐られてしまった。しかし何の因念か、今度は仕事で仲間の木を助けることになった。神社の参道にあったくろがねもちで、道路拡張で残されたがずん胴切で内部に洞ができて外科手術が必要であった。洞の中に入って腐れを取るとテッポウムシの幼虫がたくさんでてきたが、皮だけでもっている生命力には恐れいる。洞の中を山土で埋め、口を鉄筋ラス張モルタル塗で仕上げ、頭にはプラスチックのタライをかぶせた。この木が今では大阪府の天然記念物になっている。くろがねもちはもちのきに比べて葉の柄が暗紫色で、冬から春までわりと長い間実をつけており、また陽樹でカイガラムシの害もうけにくく、関西ではこちらの方が適しているようだ。もちのきの仲間のつける実にはツグミやヒヨドリといった、わりに都市近郊に多い小鳥が飛んでくる。ぜひとも街の中にもふやしてゆきたい木である。

（関根記）





都市設計資料―16―

《生活空間としての土木構造物　Ⅱ》

神戸都市設計資料研究会

前回まで各種の土木構造物について、いろいろと検討してきた。また以前に〈生活空間としての土木構造物〉として、各種の土木構造物の機能や造る目的についても検討したが、今回、こういった土木構造物のかかえている問題はどういうところに原因があるのか、さらに、より良い生活空間としての土木構造物を生み出していくにはどうしていけば良いのか、検討してみることにする。（稲毛政信）


巨大な高架道路

1．現代における土木構造物の性格と問題点

――土木工学の見落したもの――

まずここでは、現代の土木構造物が種々の問題を引き起している原因および、より良い都市構造物への変身を妨げている要因と思われる点を列挙してみる。

1）単一機能主義の害

これまで土木構造物は、第１義的機能が重視され過ぎて、第２の機能、第３の機能についての配慮に欠けていた。例えば、道路は車を通すことばかりに熱中し、歩く人や沿道に住む人々に対する配慮に欠けていたし、防潮堤や護岸は波を防ぐことばかりで、釣りをしたり水に接したいと願う人々への配慮に欠けていた。

この原因は、土木工学があくまでも工学であり、絶えず物のみを追いかけて空間概念を育て得なかったことや、土木構造物が都市の生活空間の一構成要素であるという認識が低く、周辺との関係など他利用について無関心であったことがあげられる。土木構造物ができることによって生じる空間に対して、もっと深く検討し、種々の利用を見い出し、育てていく努力が必要と思われる。

2）自然認識の不足

土木学会誌に載せられた山本学治氏の、「造形美より見た建築と土木との相関性」の論文によれば、土木構造物の基本的性格として２点あげられている。まずその一つとして、「土木建設は、究極の目的は人間の生活であっても直接の対象は自然環境自体であり、それを人工的に整備することに主眼がおかれる」ということ、そして第２点として、「ひとつの土木建設が、個々の人間の生活に直接関係するよりも、集団としての生活の利益を対象とする公共的なものである」と述べられている。その内、特に前者は、重要な性格と思われる。つまり、土木構造物は、生活環境面において、人間の意志からかけ離れた自然を、人間生活の向上に役立つようにつくりかえようとするもの、即ち、人間と自然との仲立ちをするものといえる。

そういった土木構造物に対して、現代の土木工学は自然環境をとらえる場合、防災的・防御的な面のみ追求し、自然を敵対視し押さえつけることばかり考えている。確かに自然災害を未然に防ぐことは最大の目標であるが、これだけで充分とはいえない。自然を人間にいかに近づけていくか、人間が自然の豊かさにどれだけ楽しく接していけるか、といった自然と人間を融合させていく、もっとソフトな技術開発が必要である。つまり、自然は恐ろしいという反面、人間にとってより楽しく快適なものとして認識し、より積極的な利用方法を考えていく必要がある。一方、自然認識という点では、砂防ダムと養浜事業のごとく、単一事業としては目的が明確でも、総体で考えた場合もっと良い方法はないものかと思われる。このように、自然をトータルな循環系としてとらえ、より深く自然の摂理に合った土木構造物の追求も今後の課題と思われる。

3）地域性の欠如

土木構造物と建築や造園との違いに、作家がいない点があげられる。最近の土木構造物は、全国的にどこへ行っても同じ場合が多い。地域にはその土地独自の風土（自然）と、人間が築いてきた歴史（人工）があり、この二つの要素によって地域は特色を持っている。ところが、この中に土木構造物を造る場合、何人の人がこの地域特性を考慮しているであろうか。現代は標準化された規格部品を、どこにでもほうり込んでいるとしか思えない。

この原因は、一つには、これまで土木構造物は国家的重要施設ということで、地域の裁量の余地が少なかった点にあると思われる。つまり、土木構造物は公共施設であり、民間ではやれない場合がほとんどで、国の補助に頼っている。そのため、画一化し標準化されている国の補助基準そのままに設計され、地域でコントロールしていくことがなされない場合が多かったためであろう。

もう一つの点として、土木構造物をあくまでも工学的にとらえ、造形的にはあまり考慮してこなかったことにもよると思われる。もっと地域特性に合った多様な造形的発想が必要であり、この日本の国土の豊かな多様性をさらに伸ばしていく土木構造物を生み出していく努力が必要だろう。

4）総合計画の欠落

都市の構造は、土木構造物で決定されているといえるが、現代において土木構造物は、人間のスケールを越えるものが多くなってきている。例えば、高速道路や幹線道路、巨大な擁壁や法面、また、人工地盤など膨大な費用をつぎ込んで巨大な構造物が造られている。そういった現代において、単に構造的可能性の追求だけではなく、人間が生活している生活空間とつないでいく技術の開発が必要である。例えば、本来的に都市になじまぬものは都市の外に出したり、生活空間とつなぐもっと中間のものを考えていく必要がある。現代は、荒々しい男性的土木の時代であるが、もっときめ細かなところが必要であり、いわば、繊細な女性的土木の技術開発が必要と思われる。

最近、ニュータウン造りなどで行われつつあるが、都市計画の一環として、さらに地域計画の一環として、計画し設計していくことが重要と思われる。例えば細かい話しとして道路を見ても、電柱、ポスト、外燈、並木、交通標識、ゴミ箱、バス停、タクシー乗場、案内標識、周辺建築物など種々の構造物があり、種々の建設主体によって、建設時期もまちまちに造られている。そういったものも、もう一度総合的に見直し、検討し、相互調整していくことも必要と思われる。

5）市民性の欠如

身近に接する市民からのフィードバックシステムが、現在開かれていない。例えば、道路を造る場合でも、それによって影響をこうむる市民が計画に参加するのは、反対運動によってぐらいで、市民の合意を充分に得られないままに進んでいる。土木構造物は、本来的には、市民社会が協力して市民生活を営んでいくための公共施設であり、市民に代って公共団体が造るものである。そういう意味からも日本における何か、一方的押しつけともいえる土木事業は、どこかサイクルが狂っていると思われる。

一方ではこれまでの産業優先の都市づくりも大きく原因している。この結果、近隣に騒音・排気ガスなどをばらまく幹線道路を充分な考慮もなく通してみたり、市民の海を埋め立てて人が近づけない海を造ってしまったり、市民の生活を犠牲にした土木構造物も多く造られてしまった。今後は、地域に貢献し市民に喜こばれる土木構造物をめざし努力するとともに、いかに市民の意見や考えを取り入れていくか、計画設計のフィードバックシステムの開発が必要である。

2．生活空間としての土木構造物へ


神戸・須磨海岸

現代の土木工学のかかえている課題は多様であるが、とくに市民の生活空間とその中の土木構造物の役割について検討すべき課題を列挙すれば下記のようになるだろう。すぐに実行に移せる程度のものから、じっくり腰を落ちつけ十年タームで事業化すべきものまで多種多様なものがある。また、土木工学のみでは対応しきれぬ課題もある。工学の領域を越えて政策方針にかかわるものもある。しかし、いずれにしても最終的に形をつくっていく土木工学の役割は大きく、都市を住み良く改造する事業に貢献する度合いははかり知れないものがある。

1）「使われ方に関する研究」の取り組み

生活空間に占める土木構造物の比重から見て、その使われ方に関する研究は一つの独自の学問領域として発展する可能性があるのではないだろうか。土木構造物が実際にどのように使われているか調査し、計画・設計にフィードバックするわけである。建築工学の分野では戦前から「住い方研究」「使われ方研究」などが行われているが、土木工学においても生活空間の中での土木構造物の意味づけにもとづく調査研究が必要である。

①　大都市の河川は「第３の機能」＝親水的利用面から生活空間でどのように整備され、市民にどのように利用されているのか、また、そうした河川をどのように評価しているのかも含め


ストックホルムの海岸

て事例調査する。京都の鴨川、西宮の夙川、東京の江戸川などは市民生活に溶け込み〝暮しの中を流れる河川〟となっている。

② 都市の海岸線がどのように利用され、市民はどのようにかかわっているのかを調査する。海洋国日本においては海岸線の恵みと効用ははかり知れなく大きいはずだが市民の実感としてはどうか。その恵みと効用は生かされきれているのだろうか。

③ 都市の道路においては、いかにしたらスムーズに車を流すことができるかという交通流理論については既に一つの学問領域となっているが、その他の第2、第3の機能についての理論についてもその解明が望まれる。まず、その利用形態の調査から始めたらよいだろう。

④ 横断歩道橋について利用者の評価を調査する。基本的な考え方として、いったん4.8mまで登らされ道路を横断し、また下りるというところに無理があるのではないか。都市には身障者、老人、子供連れの母親などいわゆる社会的弱者も生活している。現行のほとんどの歩道橋は弱者に対する交通安全施設としては失格だろう。東京銀座三丁目のエスカレーター付歩道橋はどうだろうか。その他にも種々のことがあげられるだろう。

2）「景観形成に関する研究」の取り組み

「大規模化した土木施設は視覚的に相当広く影響を与えるにもかかわらず、造形的な配慮はされてこなかった。」（八十島義之助氏「シミズブリテン」）そして今後の橋梁設計に望むこととして伊藤学氏は次のように述べている。「技術者のこの面（造形面）での教育、啓蒙、アーキテクトと技術者の協同、設計競技制度の普及、優れた設計者の活動範囲の拡大、そして美観に優れた構造物の表彰などが問題解決へのステップとなろう。」（スチール・デザイン）

研究内容としては、土木構造物そのもののヒューマンスケール化、美観を考慮した計画をはかり人間とつなぐやり方、また植樹などによって人間の視覚から離す方法などがあるだろう。

構造物自身の造形的美しさを追求する試みは、橋梁、高速道路などで既に行われているが、土木構造物が市民社会の生活空間の中に建設された場合の景観保全に関する研究がなされるべきである。

一方では、地域それぞれに存在する景観にマッチした、いわゆる風土に根ざした土木構造物を追求していく試みも大切である。これまでの、ともすれば景観ぶちこわし的であった面を反省し、逆に良き景観を生み出す手段として、もっと研究が必要である。

3）「歴史的土木技術の研究」の取り組み

歴史的時間を経て淘汰され今日になんらかの形で残る土木構造物の考察を以前にした。（本誌76年10月号）。これをさらにひとつひとつに立ち入ってその再評価をすると同時に、その設計思想・設計手段などの歴史的変遷を体系的にとらえることにより、日本の気候・風土のなかで培われてきたものを学ぶことができる。明治の欧化主義によりハードな物理的技術面のみを導入したが、ソフトな精神面においては見るべきものがなく、かえってよき東洋的発想法が失なわれたというそしりに応えるべきひとつの努力方向でもあるだろう。

そういった中から、自然に対する考え方や風土に根ざした土木構造物の意味を、さらに深く考えられるのではないだろうか。

4）自然認識を深め、都市に自然を回復する

自然認識を深め、自然の違大な力の源泉を人間に有用なものに転換する努力は、今も変わらぬ土木工学の最大の命題である。しかし、今まではあまりにも人間中心であり、自然を生かす、あるいは自然を再生するということには無頓着であった。生物の棲めない河川改修はその典型であろう。これからは深い自然認識のもと自然と人間が共存し、自然の恵み――木々の緑・川のせせらぎ・魚・小鳥のさえずり・虫の音――を受けられるような手法を開発していくことが大切である。エコロジカルな計画・設計・施工法により都市の中に自然を回復したいものである。ヨーロッパの都市林や明治神宮の森、六甲山の緑は人の手によるものである。

5）総合的な計画のなかでの土木構造物へ


ストックホルムの歩行者天国

治水において、単に計算された流量に基づいて護岸などの治水工事を行うのではなく、流量を減らすという観点から保水能力を高めるため、植林や開発規制、あるいは普段は公園緑地として利用される遊水池の設置などの施策が総合的になされる必要がある。道路の計画においても路面の計画だけでなく、街路樹・街灯・標識などの路上装置、建物などの沿道利用を含めて、総合的になされる必要がある。

このことは一つには、土木構造物を単に単一目的機能としてとらえるのではなく、各種の機能があるという認識に立つことであり、第二点としては、ある目標に達するためには、各種の方策があるということを認識する必要がある。そういった発想の転換の中から、総合的な計画が生まれてくると思われる。また、この発想の転換をはかるためにも他分野の学問領域、例えば、生態学や造園学、建築学、さらには、社会学などの分野との協同研究が必要と思われる。

以上、これまでの土木構造物の計画にほんの少しの工夫を加えることが、第3の機能を生みだすことができることも多いで、さらにそれを発展させることには種々の困難が横たわっている場合も多い。こうした状況の下では、第3の機能を直接開発する事業、例えば公園事業とか余暇開発事業とかとを合併施行することにより、お互いの事業効果がよりあがるのではないだろうか。例えば河川改修と河川沿いの公園事業を組み合わせることにより、遊水池のある河川と流れに親しむことのできる公園とが生まれることになるわけである。

六甲山などで良く行われている砂防ダム事業も、ハイキングコース整備事業とも兼ねられるのではないだろうか。かの有名なTVA（アメリカのテネシー川流域開発公社）は、電力供給とレクリエーション確保という、二つの要請を調和させた先駆的な例だといわれている。

6）市民からのフィードバックシステムの確立

これまでの土木構造物は、国家的要請を受けて発達し利用されてきたため、市民的なコントロールに欠けていた。これからの土木工学は、市民の持つ設計要求を組織化し、現実の建設に反映するような市民参加のシステムを開発する必要がある。

デザインコンペにより設計を決めていくことや、プロジェクトの事前公開制などが市民的関心を引き起こすために考えられてよいだろう。

これまでは一般市民にしても、自分の生活で精一杯という面があったと思われるが、ここ数年の間における生活環境の悪化や、余暇の増大とともに、自分の住む地域への関心が非常に高くなってきている。その結果、住民運動が盛り上り、次第に住民参加がなされてきているが、まだまだヨーロッパで見られるような民主的な都市計画のルールが確立されていない。もう一度、土木構造物が造られる原点、つまり市民の為に市民に代って公共が造っているということを自覚し、公共側は、市民一人一人に対して正しく詳細に情報を提供し、市民一人一人の意見を聞いていく努力と、そういったことに対応していける事業方式なり、設計思想を深めていく努力が大切と思われる。

7）新しい積極的管理方法の開発

市民の求める「新しい型の土木施設」は、新たな管理需要を引き起こす。公共的（Public）な管理だけでなく、市民社会の共同的（Common）な管理方法の開発なくしては、うるおいのある環境を創り育てることはできない。

神戸の小学生は年に何回か付近の住吉川のクリーン作戦に参加する。一度でもクリーン作戦に参加した児童は、川にゴミを捨てる大人を見つけると、声をかけて止めさせるという。窓辺の美しい草花で有名なスイスでは、花壇コンクールに参加するために市民が競って飾っている。

地域の公園愛護組織である公園管理会、街の中を流れる水路で鯉を飼う津和野の市民など、市民の自主的な共同管理によって美しい環境が守られている。


神戸・花山駅前の住民花壇

これから建設していく時、なにが何でも公共的に管理しなければならないと恐れるあまり、新しい試みに消極的になるのではなく、住民の管理エネルギーを組織化していくようなしくみを開発することが求められよう。

8）土木技術者による技術運動のすすめ

土木施設のほとんどは、公共団体によって計画され、組織的に一定の施設別基準に従って建設されている。従って、土木技術者が、新しい試みを事業に生かそうとする場合、一人ではなかなか実現しえない。個々の土木技術者の発想・デザイン力を生かすためには、担当者レベルの技術的提案が、優れたものであるならば、評価し受け入れていく柔軟な組織が望まれる。

土木技術者を対象とした論文コンペ、「市民に親しまれる河川の設計競技」といったデザインコンペなどにより、創意をつのることも有効である。技術者の創意工夫が生かされることは、技術者にとってだけではなく、市民にとってもまた、よろこばしいことである。

9）学校教育

以上見てきたように、土木構造物の市民社会に果たす役割の重要性及びその重要性の増加を考えると、必然的に土木技術者の養成という問題に至る。それは、今までのような構造技術一辺倒ではなく、一つには総合的見地から判断を下す計画学の教育、いま一つは橋などにあらわれる美の創造のためのデザイン教育、さらに生態学などによる自然認識を深める教育など総合教育を必要とするものである。

10）ひな型づくり

「大土木的」ではなく「市民的」な土木施設が全国各地で建設され、市民に利用され喜ばれている。この市民社会に調和し、新しい生活空間を創っているこれらの施設を広く知らせるために「設計資料集成」としてまとめ、他に普及していく上での有効な資料が必要である。人間・自然・土木施設のかかわりを写した写真、ディテールその他の図面が資料集成に入れられ、設計者のハンドブックとして生かされてゆく。

こうしたひな型の積み重ねとその絶え間のない修正が、新しい技術の発展、豊かな都市環境の創造につながってゆくだろう。

このような意味で、私達は「建築と社会」に、〈都市設計資料〉を載せ続けている。ふり返ってみると始めた2年前と時代は大きく変ってきた。ヨーロッパの主要都市では、歩行者天国はあたり前となり、一方では、海岸や、河川のあり方も入浜権の問題として、議論にのぼるようになってきた。これからは、資源を大切に使う点からも、一つ一つの建設行為の意味を確かめ丁寧に造っていくことが必要だろう。そういった中であらゆる建設行為が、生活空間を破壊するものから、逆に生活空間をより良いものへと変えていく行為へと変っていくことだろう。

集合住宅におけるガス設備と安全（その1）

大阪瓦斯株式会社

はじめに

都市ガスはクリーンな熱エネルギーとして、年々その重要性を増している。その反面、昭和50年11月に発生した東京・八王寺市の高層マンションのガス爆発事故などを契機として、集合住宅におけるガス設備の安全性が見直されるようになってきた。

そこで、従来の検討経過も含めて、集合住宅のガス設備と安全について述べてみたい。

1．住宅におけるガス事故の原因と対策

住宅におけるガス事故は、ガスもれによる中毒や爆発と、ガス消費機器の不完全燃焼による中毒の2種類に大別できる。

これらの事故原因の調査結果によると、最も多いのはガス消費機器使用中の換気不良による不完全燃焼中毒事故であり全体のほぼ45%を占めている。次いで、ガス消費機器の器具せんの閉め方の悪かったもの、不完全な点火確認によるもの、ゴム管の外れ、踏みつけ、ガスせんの誤操作など、使用時のミスに起因するものが約35%、その他が約20%となっている。

このように、事故原因は単なる機器や設備の不良によるもののみではなく、非常に多岐にわたっていることから、集合住宅におけるガス使用時の安全性を確保するためには、ガス設備、ガス機器およびその設置も含めた改善をはじめとして、保守管理の方法、使用者のガス安全使用に関する周知徹底など、全体にわたりバランスのとれた配慮が必要といえよう。

ところで、前述の事故原因の調査結果で明らかなように、ガス消費機器使用時、使用者自身が十分な注意を払い、また、安全使用に必要な知識をより一層周知徹底することにより、事故を大幅に減少することができる。しかし、その事故原因をさらに詳細に分析すれば、使用者の不注意とみなされる内容が比較的単純な操作ミスや管理ミスであり、このような不注意を直接事故に結びつけないようにするための配慮が、ガス消費機器や設備の側にも必要であるという結論が容易に推察される。このような考え方にもとずき、ガス消費機器や設備の点から、ガス事故対策を大きくまとめると次のようになろう。

まず第1に、室内にガスもれを生じないための対策として、ガス消費機器をベランダなど屋外に設置するか、密閉燃焼式機器（BF、FFなど）を使用し、給湯や暖房など熱源を集中化できるものは、できるだけ集中化をはかることが考えられる。

第2に、厨房用機器など屋内に設置せざるを得ない開放燃焼式機器については、室内にガスもれを生じても事故に至らないようにし、また、室内環境の汚染による事故を防ぐための対策が必要であると考えられる。具体的には、万一ガスが消火した場合、確実にそれを検知し、生ガスの放出を防止する消火安全装置を機器に組みこんだり、ガス消費機器の使用に連動して強制換気を行わせたり、ガスもれ検知器により警報などの注意喚起や換気と連動させたりすることなどが考えられる。

これらの他、機器自体を誤操作の起こりにくい構造にすることも重要であり、同時にこれら機器の安全性の向上とあわせて、使用者の安全使用に対する認識不足からくる誤操作や不注意な使用を防止する対策も不可欠であると考えられる。

2．各設備についての考え方

この頃では、ガスせん、ガス接続管、ガス消費機器および給排気設備について安全対策上留意すべきと考えられる内容を順を追って説明したい。

2・1　ガスせん

ガスせんによるガス事故の大半は、ガス消費機器を接続していないガス詮を誤って開けるといった不注意によるものである。したがってガスせんについては、次の点に特に留意する必要がある。

(1) 使用するガス消費機器1台に1つのガスせんを取り付け、ガスせんと機器との対応を明確にする。

(2) ガスせんどうしの間隔を十分に離し、誤って他の機器用のガスせんを開く可能性をなくす。

(3) 予備のガスせんは、誤ってつまみを開いてもガスが噴出しない、しゃ断機構付きのものとする。

(4) ガスせんの取り付け位置は、機器との対応を十分配慮した位置とする。

(5) ガスせんは、誤って体がふれた程度では開かない押し回し操作式のものとする。

2・2　ガス接続管

ガス接続管によるガス事故の大半は、ゴム管のさしこみ口が外れたことによるものである。このような事故は、移動することの多いガス消費機器に主にみられ、その原因は、ゴム管の差しこみ不十分や、弾力性を失い抜けやすくなった老朽ゴム管の使用によるものと考えられる。したがって、ガス接続管については、特に次の点に留意する必要があろう。

(1) ガスレンジ、先止式湯沸器など、固定して使用する機器は金属管（フレキシブル管を含む）接続とする。

(2) 屋外や、常時水のかかりやすい浴室に設置される風呂釜（BF釜を含む）は、耐水性のすぐれたゴム管で接続する。

(3) ゴム管は良質のものを使用し、ガスせんや機器のホースエンドに十分さしこみ、必ずゴム管止めで固定する。

(4) 移動して使用されることの多い機器には、良質ゴム管を用い、接続部には誰が操作しても確実に装着できる迅速継手を使用するのが望ましい。なお、ゴム管はできるだけ短かくすることも必要である。

2・3　ガス消費機器および給排気設備

ガス消費機器による事故原因は多岐にわたっているが、換気不良による不完全燃焼事故が圧倒的に多い。また、機器自体に付随する原因は、器具せんの誤操作、点火不確認などである。これらに対処するため、機器および給排気設備については、特に次の点に留意する必要があろう。

(1) 風呂釜、大型湯沸器（ガス消費量が10,000kcal/hをこえるもの）および暖房器などは、ベランダなど屋外設置とするか、密閉燃焼式、または強制排気式とする。給湯や暖房について熱源の集中化がはかれる場合には、できるだけ集中化することが望ましい。

(2) 小型湯沸器（ガス消費量が10,000kcal/h以下のもの）は、機器使用時に換気扇が連動するような装置と組み合わせて設置し、また、厨房用機器にはレンジフードや換気扇を設け、機器使用時には必ず換気装置を作動させる。

(3) ガス消費機器自体は、炎が消えたときガスをしゃ断する安全装置付きのものを使用するのが望ましい。

2・4　ガス配管設備

ガス配管設備自体による事故はないが、特に次の点に留意するのが望ましい。

(1) 屋内配管は、点検の容易な場所に露出配管するか、またはパイプシャフト内に設置する。

(2) 共用内管の屋内配管は、建物の共同部分またはそれに準ずる部分に配管する。

(3) パイプシャフトまたはピット内などに配管する場合は、可能な限り換気を確保する。

(4) 埋設・いんぺいなど外部から配管位置の推定が困難な場合配管位置の明示を行うことが望ましい。

(5) 天井配管、パイプシャフト内配管などについては、特に電気設備との離隔に注意する。

（このつづきは、52年3月号に掲載いたします。）

建築の眼

子どもの自由領域・禁止領域

千里中央駅の近くに日本庭園風の池がある。いい池である、その水際に鉄条網が張りめぐられていなかったなら。これを見たとたん、母親パワーの凄さと管理者側の恐れ入りようが目に浮んできた。ある建築家が中国を訪れたとき「この池は子どもたちに危ないのでは」と聞いた。すると早速「お国ではこんな場合、柵などをめぐらすそうですね。私たちは子どもたちに近寄らないようシツケます」という答えが返ってきた、そうである。

他方、大阪は住吉の公団高層団地には、最近こんな貼紙が貼りだされている。「女の子はエレベーターにはかならずおとなの女の人と乗りなさい」聞けばこのような「シツケ」はもはや高層居住者の常識だそうである。欧米はもちろんわが国でもエレベーターは、網入りガラスがはいっていようといまいと、少女わいせつなどの犯罪の恰好の場になってきているからである。

わが建設界は、子どもたちだけで出入りすることを、禁止すべきを禁止せず、自由にすべきを不自由にしているのだといえそうである。住居内部についても同じことがいえるかもしれない。これらのことには、いままでの安易すぎた住環境設計理論を立て直すカギのひとつがひそんでいるように思えるのだが…。(U)

都市景観再考

低成長時代を迎えて、国民一般の欲求も、物質面偏重の傾向からようやく精神面への指向のきざしがみられるようになり、世の中の価値感も変りつつあるようにみえる。都市建設の分野においても、当然これらの要請にこたえていかねばならないと思う。

私は、ここで「都市の景観」というものを改めて見直すことを提言したい。そもそも私達が外界を知覚し、自分の存在を確めようとするとき、最も頼りになるのは視覚である。曇った日には私達の心も沈み、晴れ上った青空の下では、私達の心もはずむ。郊外に無秩序に広がるチマチマとした住宅街、雑然とおもちゃ箱をひっくり返したような街頭、どこの都市へ行っても同じような駅前風景、無味乾燥な都心街、こういった息のつまるような環境は、知らず知らずのうちに人々の情緒を不安定にし、人心の荒廃を招く。

ある地域の景観は、そこに住み働く人達の日常生活や経済活動の結果として現われているものであるが、そこに一つの情緒とか雰囲気というトータルな大きい力をもっており、その力によって逆にその地域の生活や経済活動に影響を与え、徐々に変えていく性格をもっている。都市計画の重要な要素として見直す必要があるのではなかろうか。また、多くの場合、物的な地域というものは、目に見える景観という媒体によって、住民の心につながっていく。町づくりにおける住民の意識統合の象徴としても、重視されるべきと思うが、いかがなものであろうか。 (O)

〝工事のはじめに思う〟

新しい年の初めに、願いや誓いをたて、目標に向って決意をあらたにするのは、誰でも共通のことと思う。施工者の立場にある者は、工事着工にあたって、新年の決意の如く、創造への意欲をかりたて、信義をもって、誠実な仕事の完遂をと願うものである。工事のスタートは、契約であり、これによって青写真の具現が、はかられるのである。この契約のなかの一つに約款がある。建築技術者の約款に対する認識は、図面や仕様書と同じ程度に理解しているとは言えない。この約款の重要性について、日頃思っていることをのべて、その認識を深めていただけたらと思う。

約款の精神は、注文者及び請負人が、それぞれ対等の立場の合意に基いて、　約を行ない、信義に従って誠実にこれを履行し、努めることである。しかし世間の取引慣行は、買手市場のため、片務性を是認しているのが、大かたの現状といわれている。施工者は注文者の意思に制約されがちになったり、また約款の運用が忠実に行なわれなかったりすることは、建設業の健全な発展を阻害するものである。また近年海外での国際工事の増大に伴い、こうした約款の運用に日頃から慣れておき、その効用を十分生かすことは、国際競争に打ちかつためにも大切なことと思う。 (Ok)

新大阪駅にて

出張を終えて新大阪駅に降りたら、駅前のさまざまな建築群を見、目を転じてここ2、3年のうちに姿を現わしたいくつかの超高層建築物を眺めるとき、それらの建築群の有機的な関連や、都市の適正な規模とは、果してどのようなものであろうかとフト考えるのである。今日の社会状況のなかで、必然的に都市は巨大化し無制限な膨張を続けてゆくのであろうか。

勿論、手放しでこのような膨張が行なわれたとはいわない。都市の機構なりその中の建築単体なりに対して、何らかの方向づけが為されていることは確かなのだが、まだまだ充分に論じられているようには思われない。

建築にかかわるものすべてが、行政管理の分野であろうと、創作造形の分野であろうと、技術工学の分野であろうと、企業経営の分野であろうと、社会システムのなかでその建築が存在しうるかどうかという問題について、はっきりしたプランニングをもち方向づけをしてゆかない限り、今日の都市の生態学的危機をのりこえることは出来ないのではないか、いま盛んにいわれる資源や環境問題の最も身近な位置に、建築こそ立たされているように思われるのである。 (Y)

湯川利和
奈良女子大学教授
家政学部住居学科

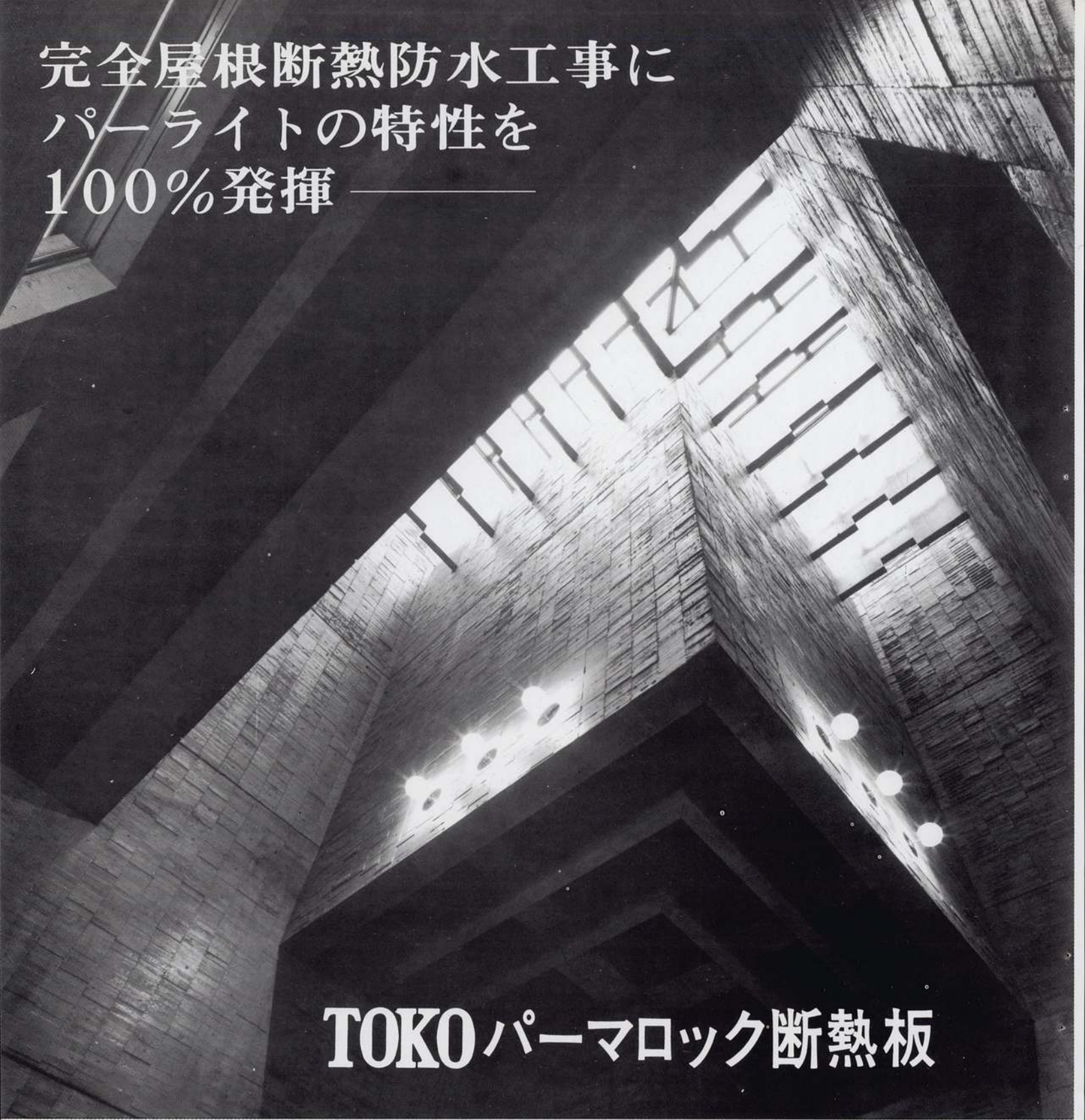
大西国太郎
京都市都市計画局風致課主幹

大生仁雄（おおぶきみお）
鹿島建設大阪支店建築部次長

山口安男
日建設計業務部長

★1月号から6月号まで上記4氏が担当

完全屋根断熱防水工事に
パーライトの特性を
100%発揮



TOKOパーマロック断熱板

■米国ジョンス・マンヴィル社技術提携

東興アスファルト工業株式会社

大阪営業所　〒550　大阪市西区阿波座上通１－２０(産双ビル)
☎ 06 (541) 7583~4

本社・工場　〒210　神奈川県川崎市藤崎３の６５
☎ 044 (28) 4534 (代)

本社営業部　〒105　東京都港区新橋５丁目８番９号(東興ビル)
☎ 03(432)2151(代) 直通(436)4531～２

各地営業所　札幌・仙台・富山・名古屋・広島・福岡

高石市庁舎



建築と社会

ARCITECTURE AND SOCIETY

©1917年創刊

第58集

658号

CONTENTS 1977 1

特集・デザインの動向—部分と全体

SPECIAL FEATURES ON THE ELEMENTS & TOTALITY ON DESIGN

1　年頭のことば　'77年を迎えて / 日本建築協会会長　塚本猛次

2　作品作風・新建築
- 2……立正校成会大阪善門館……設計施工 / 錢高組
- 6……神戸女学院100周年記念館……設計施工 / 竹中工務店
- 8……大阪府立大阪女子大学……設計 / 大阪府建築部・昭和設計　施工 / 大末建設・海原建設ＪＶ、不動建設
- 10……愛知県豊橋勤労福祉会館……設計 / 愛知県建築部・東畑建築事務所　施工 / 鴻池組
- 12……京都伝統産業会館＋日固会館……設計 / 京都市住宅局・川崎清＋㈱建築研究協会　施工 / 松村組
- 14……大阪駅前第２ビル……設計 / 大阪市都市再開発局・安井建築設計事務所　施工 / 鴻池・奥村・錢高・松村共同企業体
- 16……富士火災海上保険茨木ビル……設計施工 / 清水建設
- 18……安田生命大阪ビル……設計 / 日建設計　施工 / 大成建設
- 20……住友不動産京都ビルディング……設計 / 日建設計　施工 / 竹中工務店・鴻池組共同企業体
- 22……高槻カントリー倶楽部クラブハウス……設計施工 / 大林組
- 24……十津川村庁舎……設計 / 小河建築設計事務所　施工 / 奥村組
- 26……大阪府西淀川警察署……設計 / 大阪府建築部・大建設計　旋工 / 三木組
- 27……大阪市消防局消防学校……設計/大阪市建築局・東畑建築事務所　施工 / フジタ工業
- 28……日本チバガイギー篠山工場……設計 / 安井建築設計事務所　施工 / 竹中工務店
- 30……天理教玉島分教会……設計 / 井上久雄建築設計事務所　施工 / 藤木工務店
- 31……エバーグリーン淀川……設計 / 井上久雄建築設計事務所　施工 / 熊谷組

32　本年の抱負　日本建築協会常設委員長

33　会告　生田署庁舎建築工事・兵庫県警察生田独身寮建築工事の見学会。清酒大関本社工場の見学。会員の受章。関西地方第２回建築積算実技教室案内。寄附金の受領。

51　法令コーナー110　建築確認申請前の関係法令の下見について / 西川幸之輔・松本好雄

53　新建材紹介コーナー10　「Ｓプラ」/ 山田幸一。「セラミタイト」/ 羽生永紀。

55　読者の頁　人間・空間 / 上谷重男。また消えた明治の遺産 / 柴田正己。

52　建築と社会ニュース　第６回新建全国大会開催。ロンドンから建築学生の手紙。歴史的風土の保存に関する国際会議の参加募集。樹の話シリーズ28：もちのき。

58　郡市設計資料16　生活空間としての土木構造物Ⅱ / 神戸都市設計資料研究会

60　レポート　集合住宅におけるガス設備と安全(その１) / 大阪瓦斯。

61　建築の眼　子供の自由領域・禁止領域 / 湯川利和・都市景観再考 / 大西国太郎　“工事のはじめに思う” / 大生仁雄・新大阪駅にて / 山口安男

64　デザインコンクール　第22回工高生デザインコンクール入選作品。

特集・デザインの動向—部分と全体

総論

68　座談会「デザインの動向—部分と全体」　岩本博行 / 西沢文隆 / 樋口治 / 富安秀雄 / 水谷穎介　司会：川崎清 / 紙野桂人

各論

79　アンケート「デザインの動向—部分と全体」
- ●計画（含造園）：近藤達夫 / 山地英雄 / 藤田邦昭 / 西岡康夫 / 梶浦恒男 / 大西国太郎 / 井口勝文 / 山田俊満 / 中村一 / 島村昇 / 吉村元男 / 杉本正美
- ●建築：小角亨 / 松村慶三 / 竹山清明 / 徳岡昌克 / 遠藤剛生 / 出江寛 / 吉村篤一 / 中筋修 / 山崎泰孝 / 松村賢治 / 渡辺豊和 / 瀧光夫 / 東孝光 / 太田隆信 / 安藤忠雄 / 北島道生 / 竹本丈太朗
- ●インテリア：福岡喜久雄 / 藤川宏允 / 坪居恭平 / 柏原秀夫 / 谷本衣子 / 伊吹弘 / 中村隆一 / 平井進 / 佐々木恵子 / 安永一典 / 山口道夫 / 山内陸平
- ●インダストリアル：坂下清 / 日野永一 / 巽正和 / 多田愛実 / 鶴岡英世 / 熊谷和郎 / 高井一郎 / 東方洋雄

107　まとめ

108　構造の頁31　梅田阪急ビル第９期工事の構造計画(その２) / 久徳敏治
設備の頁　(本号休載)。

109　施工材料の頁31　大阪の地下水の変化と地下工事 / 丹羽稔

110　若い会員の集いレポート　高野山サマーセミナー・「新しい学校の風景」/ 赤木圀文

111　月報　日本建築協会月間の動き(昭和51年11月分)

表紙絵・渡欧スケッチ—小泉豊(吉田建築事務所)
サンドニの門(パリ)

表紙デザイン：松井昭光

次号特集予告

■２月号特集 / 兵庫県—兵庫の風土と建築・建築界

■３月号特集 / ニュータウンの管理および60周年記念号

■４月号特集 / 施工材料特集

編集委員会(昭和51年度)　○印副委員長　△印幹事

編集委員長	隅谷康彦	西村喜卿
中村甲一	田中弘成	石塚克彦
	中川洋一	△藤田孝吉
編集理事	横川隆一	古荘昭憲
井上　滉	若野暢三	△西尾宗晴
岡田光正	△荒木兵一郎	松本好雄
北垣智造	石東直子	○芝山　昭
小西　岬	稲垣雅彦	高羽俊治
窪田　祐	五島信明	鈴木　武
松村慶三	塩崎賢明	船井美彦
三浦二三男	鈴木良介	阿部　坦
山田幸一	西岡康夫	上森肇
前野慶太郎	大井恭二	岡田満夫
菅谷健児	△須賀好富	桑田和明
伴　一郎	中塚　佶	十倉毅
渡辺　恵	中東達男	中野孝治
	内田昌文	○伴　一郎
	大倉良司	星　忠甫
編集委員	河津隆之	松原孝史
○大辻眞喜夫	佐々木友喜	水嶋繁樹
黒田達男	志田　康	渡辺　恵

編集人	松井昭光
印刷	昭和52年1月20日
発行	昭和52年1月25日
発行人	福中定三郎
発行所	(社)日本建築協会 大阪市東区北浜３－37 電　06－231－9648 振替口座　大阪39975
印刷所	凸版印刷株式会社　関西支社 大阪市福島区海老江３－22－61 電　06－458－2251㈹
売価	600円(送料別)

第22回工高生デザインコンクール入選作品

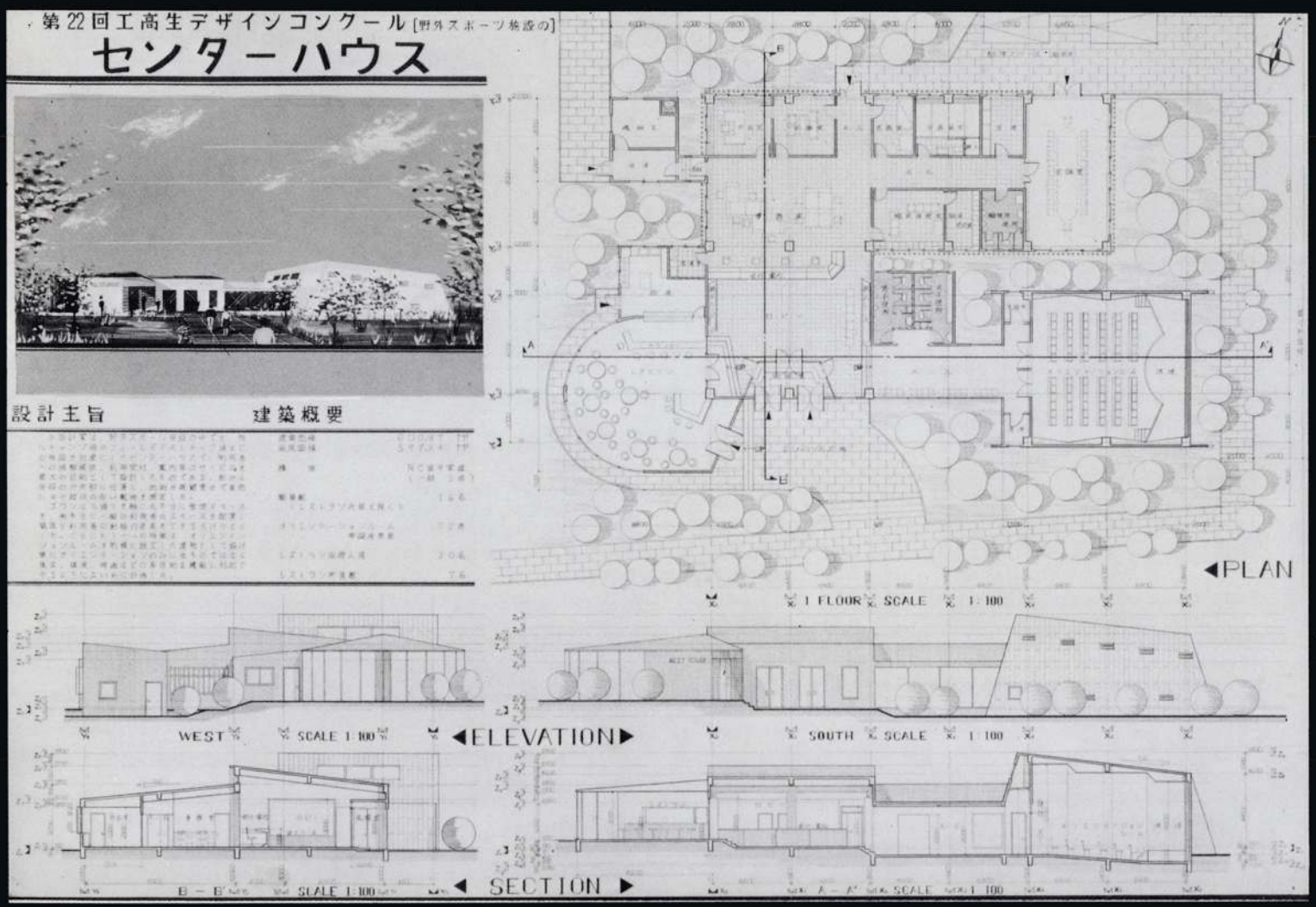
設計課題：野外スポーツ施設の「センターハウス」
主　　催：日本建築協会

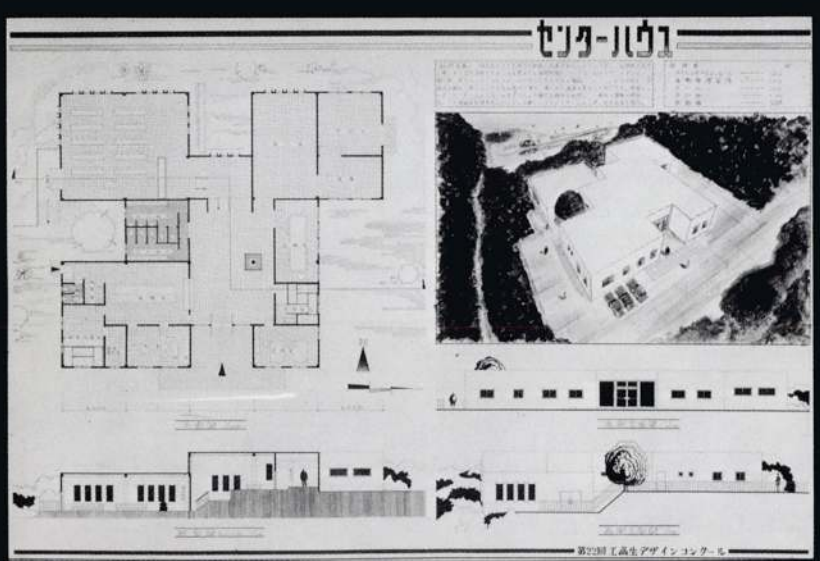
応募作品103点のうち、予備選考、第1次から第4次までの本審査を経て、入選作品10点を決定し、うち最優秀作品1点を選定した。

応募校　18校　　**応募点数　103点**

審査委員長／横山誠一　**審査員**／井上都志弘／打出英樹／太田隆信／小角　亨／笹田剛史／篠塚宏三／芝山　昭／鈴木良介／中村銀之助／福田晴虔／星　忠甫／毛利喆夫
（50音順・敬称略）

〔掲載50音順〕





▲最優秀賞　北川 智之

（大阪市立都島工業高校・3年）

この課題は規模や機能のイメージがまとめにくくやりにくかった。自然環境にあることを重視して、総合案内・休憩所としての機能をもたせること、多目的なオリエンテーションルーム、眺望のあるレストランなどどっしりと自然の中に構えた建物を、と一生懸命取組んだ甲斐があった。

◀入選　稲毛 美智雄

（香川県立多度津工業高校・3年）

センターハウスが大自然にどれだけマッチしたものになるかに重点をおき、また自分自身が利用者の立場にたって、イメージづくりに専念した。入賞の通知を受けた時は、まったく思いがけなかっただけに、喜びは感無量である。

設計要項

1. 敷　地：施設の入口附近又は中央部で自由に想定する。
2. 規　模：2階建以下の独立した建物として延べ面積600㎡以内。
3. 構　造：自由とする。
4. 所要室

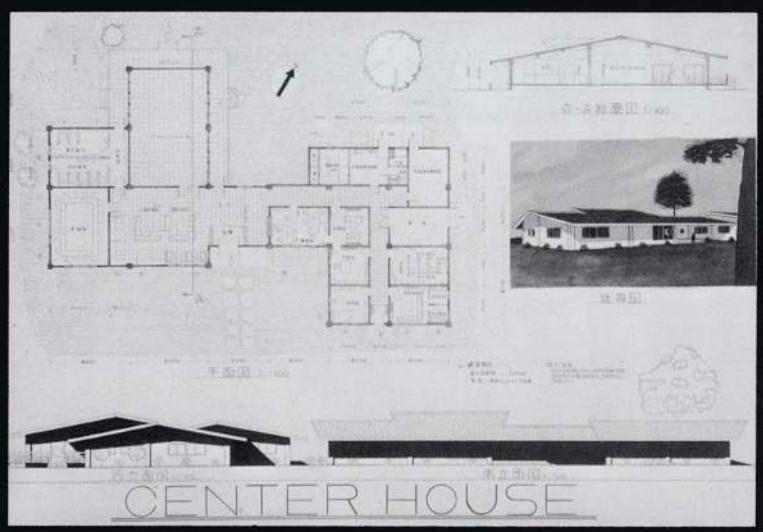
ⓐ 展示のできるロビー
ⓑ オリエンテーションルーム（50名程度）
ⓒ 所長室
ⓓ 応接室
ⓔ 事務室(10名程度)
ⓕ 会議室(20名程度)
ⓖ 職員更衣室
ⓗ 職員休憩室
ⓘ 医務室
ⓙ 用務員室
ⓚ 湯沸室
ⓛ 倉　庫
ⓜ 便　所（職員、利用者を区別する）
ⓝ その他所要室

総評

野外スポーツ施設の「センターハウス」は、工高生にも親しみのある今日的な課題であるが、内容としては例年の課題に比べて難しく、応募作品それぞれに苦労のあとがうかがわれる。

審査は、応募作品103点のうち、規定不適合作品66点も含めて、設計技術と創造性のどちらにも偏ることなく、できるだけ長所を拾いあげる方針とした。結果として、入選作品は規定適合の作品が選らばれることになったが、応募規定は設計条件として守られなければいけない。全体を通して、学校別によく似た傾向のものが多く、各校の教育方針が強く感じられて興味深いものがあった。

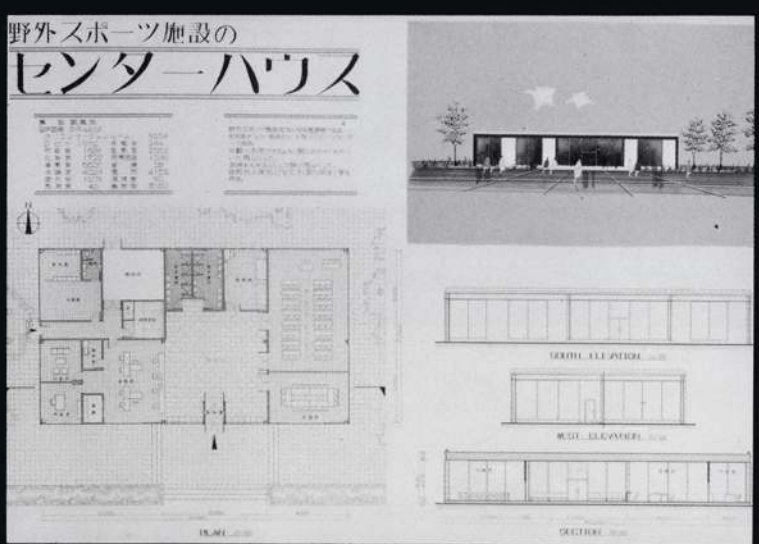
建築の勉強のなかで、設計技術の習得は非常に大事な基本である。それにもまして大切なのは、計画内容の正しい理解と説得力のある提案ができる訓練をすることだと思う。技術に溺れることなく、いつも若々しい創造性のある提案を期待したい。　（横山　誠一）



▲入選　田中 芳秀

（京都市立伏見工業高校・3年）

野外スポーツ施設の「センターハウス」とするために、利用者・管理者が使いやすく、周囲の環境に合わせた建物として設計した。入賞の通知は学校で先生から聞いた。だめだろうと思っていたので、とてもうれしかった。



▲入選　西丸 政伸

（大阪市立都島工業高校・3年）

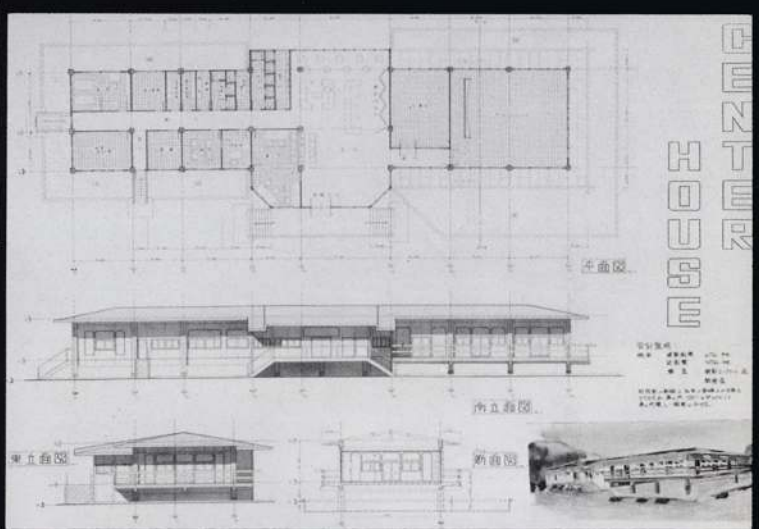
このコンペには毎年先輩達が入選して好成績をあげているので、自分も応募する限りは、きっと入選できるようにと意気込んで取組んだ。

利用者の便利さを設計の主眼とし、内部機能の有機性をまとめることに考えすぎ、デザインにもう少し工夫をしてみたらよかったと思う。

▼入選　西長 知之

（京都市立伏見工業高校・3年）

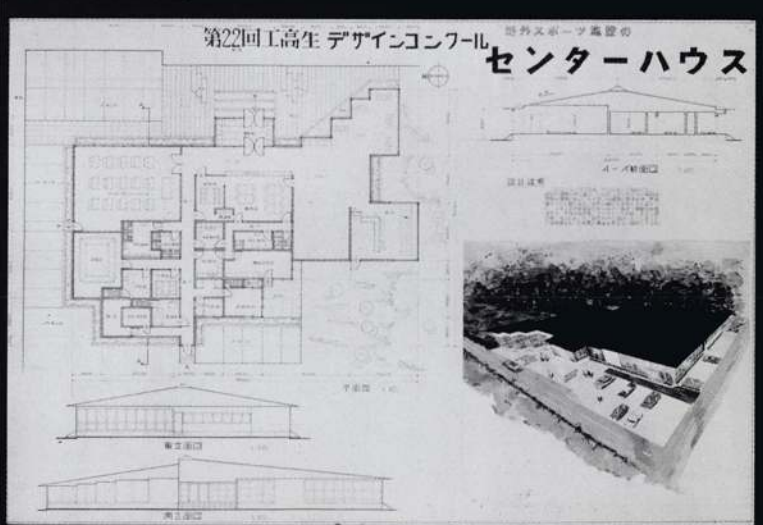
センターハウスの機能を考えて使いやすい建物であること、また、その施設のシンボルになるような建物で、周囲の環境と調和のとれた建物になるようにと考えた。まったく自信がなかったので、入賞の知らせを聞き大変うれしかった。高校時代のよい思い出ができた。

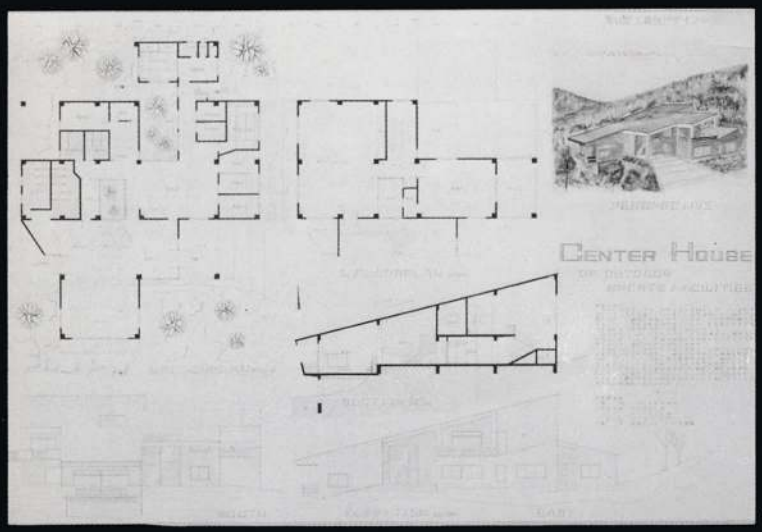


▼入選　野口　明

（群馬県立桐生工業高校・2年）

センターハウスというものがどういうものかとまよったが、人々が親しめる建物とした。色彩計画は周囲の環境にマッチするように工夫した。入賞の知らせを聞いて、驚いたが、夏休みにがんばったかいがあり、大変うれしかった。

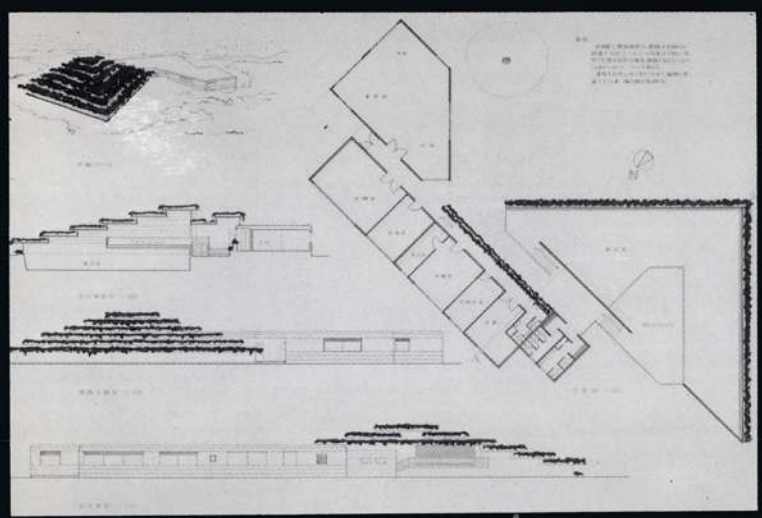




▲入選　橋本 真一

（神奈川県立神奈川工業高校・3年）

センターハウスを施設のゲートのような存在と考え、利用者が自然に立ちよれるようにした。そのため、利用者と職員の動線にとくに気を配り両者の要求を十分に満たせるようにプランニングした。エスキースや図面を書いた時のつらかったことを思い出すが、いまは喜びでーぱいです。



▲入選　三宅 健也

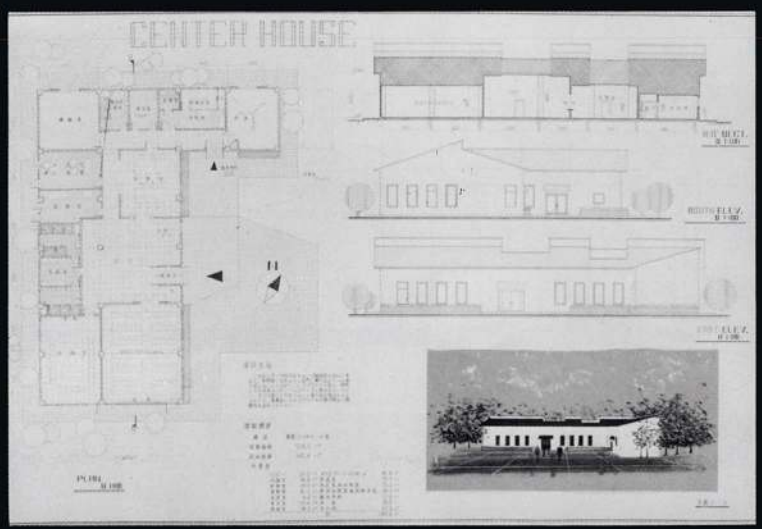
（横浜市立鶴見工業高校・3年）

屋根のかけ方を一番苦労した。壁面をできるだけなくし、屋根を地面までにおろし、自然になじませた。また、建物にはだれもが自由に入れるように、人を引きこむような入口にした。設計期間が短かかったので、十分な設計とはいえなかっただけに、入賞できてただうれしい。

▼入選　平見 直広

（大阪市立都島工業高校・3年）

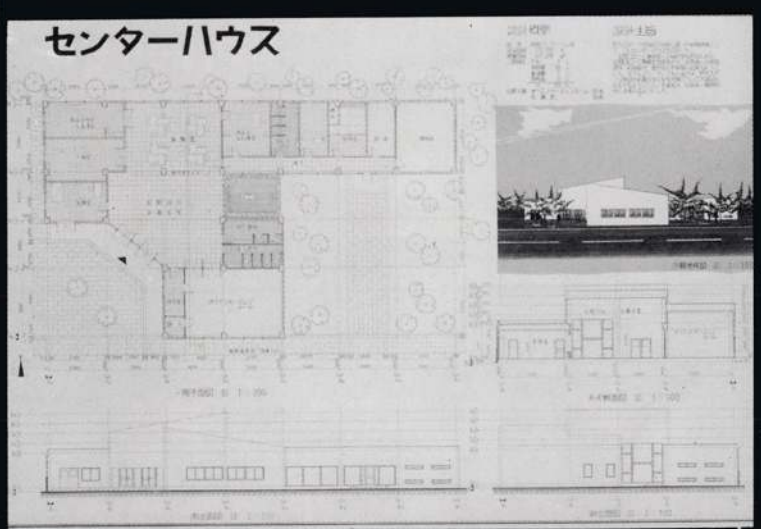
この意図は、利用者にも管理者にも快適で、便利な施設であるようにと考えた。自分の体験からも、もう一度行ってみたいと思うような建物をと工夫してみた。明るいロビーに目をひく展示があり、そして利用者と管理者のスペースが整然と左右に配置されている平面を考えてみた。



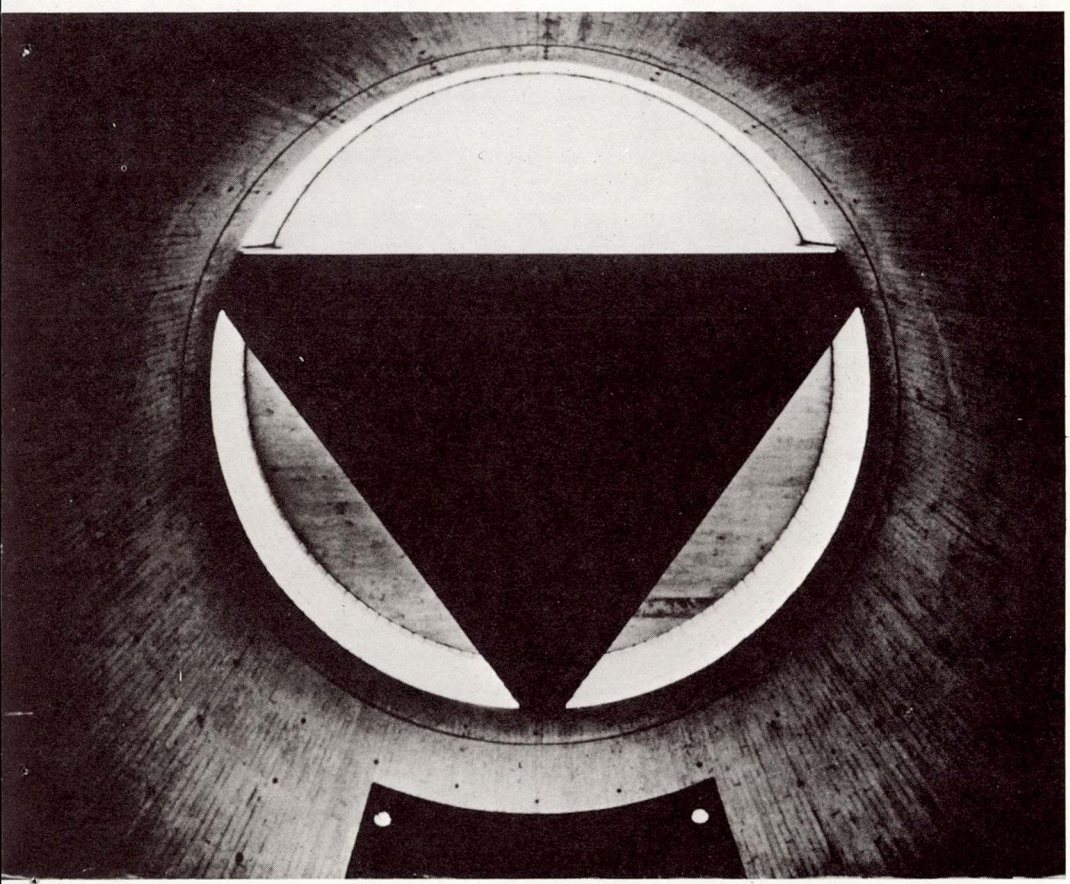
▼入選　吉田 伝

（大阪市立都島工業高校・3年）

平面の各室配置と動線をいろいろと考えてみました。玄関ホールとそれを中心とした空間的な調和を、利用者の感覚的な雰囲気を、とさまざまに考えてばかりでしたから、仕上げたことで満足でした。だから入選することなんて思ってもいなかったので驚きましたが、やはり嬉しかった。



特集
デザインの動向——部分と全体



ルイス・カーンのイエール大学アートギャラリー　GA No.38より

デザインの動向 —部分と全体

1　座談会

・デザイナーは全体からとりかかるか、部分からとりかかるか
・プランナーにおける部分と全体
・材料を積み上げて生まれる都市の景観
・部分の多様性と秩序
・全体にまとまりをもたらすものは何か
・もののつくり方の問題
・美しいまちについて
・部分と職能
・まとめ—部分からの要請にどう答えるか

岩本博行 / 西沢文隆 / 樋口治 / 富安秀雄 / 水谷穎介 / 川崎清 / 紙野桂人

2　アンケート

・計画分野（含造園）

近藤達夫 / 山地英雄 / 藤田邦昭 / 西岡康夫 / 梶浦恒男 / 大西国太郎 / 井口勝文 / 山田俊満 / 中村一 / 島村昇 / 吉村元男 / 杉本正美

・建築分野

小角亨 / 松村慶三 / 竹山清明 / 徳岡昌克 / 遠藤剛生 / 出江寛 / 吉村篤一 / 中筋修 / 山崎泰孝 / 松村賢治 / 渡辺豊和 / 瀧光夫 / 東孝光 / 太田隆信 / 安藤忠雄 / 北島道生 / 竹本丈太朗

・インテリア分野

福岡喜久雄 / 藤川宏允 / 坪居恭平 / 柏原秀夫 / 谷本衣子 / 伊吹弘 / 中村隆一 / 平井進 / 佐々木恵子 / 安永一典 / 山口道夫 / 山内隆平

・インダストリアルデザイン分野

坂下清 / 日野永一 / 巽正和 / 多田愛実 / 鶴岡英世 / 熊谷和郎 / 高井一郎 / 東方洋雄

特集幹事：川崎清 / 紙野桂人 / 河辺聡 / 小角亨 / 鈴木良介 / 荒木兵一郎 / 稲垣雅彦 / 五島信明 / 西岡康夫



ミース・ファン・デル・ローエのベルリン国立近代美術館の庭　GA No.14より

座談会・デザインの動向——部分と全体


岩本博行氏


西沢文隆氏


樋口　治氏


富安秀雄氏


水谷穎介氏


川崎　清氏


紙野桂人氏

出席者（順不同・敬称略）
岩本博行（竹中工務店）
西沢文隆（坂倉建築研究所）
樋口　治（京都工芸繊維大学）
富安秀雄（市浦都市開発建築コンサルタンツ）
水谷穎介（都市計画設計研究所）
司会
川崎　清（大阪大学）
紙野桂人（大阪大学）
編集側
鈴木良介（京都工芸繊維大学）

と　き　昭和51年10月28日（木）
ところ　日本建築協会会議室

川崎　都市とか建築で全体をつかまえる方法といいますと、たとえばシステムとかパーツとか、あるいはストラクチュアとか、そういうものがありますが、今回はそういう話よりもむしろ、もう少し具体的なほうへ話を移して、部分の持ってるテクスチュアとか、色とか形とか、あるいは景観とか、そういうもののお互いの結びつきといったところでお話をねがいます。

部分とか全体は建築だとか都市計画だとかによってその大きさとか意味は違いますけれども、その辺の具象的なレベルの問題にむしろ光を当てたいと思います。

ところで、今日はご経験深い方々に集まっていただいてますので、それぞれのご経験に基づいた生（なま）のお話を聞かしていただきたいというつもりでございます。

まず最初に、岩本さん、西沢さん、樋口さん、若いときから厳しいディテールの修練を通して鍛えられたといいますか、それと同時にディテールを通じて何か物の見方というようなものを培ってこられたんじゃないかと思いますが……。

1

デザイナーは全体からとりかかるか、部分からとりかかるか

西沢　われわれは物を生産していく立場になってきますと、まず大づかみのところを決めといてずーとしぼっていくより手がなさそうですね。このごろ近代建築のあり方に疑問を感じて、ほんとうは部分から始めてずーと花咲かしていくべきだという意見が出ている。私もそれが本筋だと思うのですが、いまの段階では実際の仕事のやり方としてちょっとむずかしいんじゃなかろうかと思うのです。それで全体をしぼっていきながら、どうやるとディテールから組み立てていったような効果が生み出せるかという、努力だけに限られるような気がするんですけどね、われわれのできることというのは……。

川崎　ディテールをリファインしていくといいますか、そうしますとそこに物の性質がわかるとか材料感が出てくるとか、そういうふうなことがたまたま多くあるように思うのですけれど……。

西沢　実は部分と全体とを簡単に切り離せなくって、部分をやりながら全体をにらんでいく、全体をやりながら部分へ押し込んでくるという操作が行われてましてね、まず部分と全体と分けること自身が大へん危険なような気がするんですけれどね。

実際、操作としてはやっぱり全体から部分のほうへ入っていって、また部分から全体へ広げていくという、そういう操作のような気がいたしますけれどね。

川崎　樋口さん、何か……。

樋口　私の場合、インテリアでございますから、取っかかるときは、相当全体の格好がついて、それから一つの空間が与えられるという場合が多うございましてね、どちらかというと部分の部分というようなことになってくるかもわかりませんが……。

西沢　たとえば、この部屋のインテリアを考える場合に、部分から入っていかれるか、全体から……。

樋口　やっぱり西沢さんのお話のように全体からですね。全体を踏まえた上で、インテリアに入ってゆくことです。

西沢　でしょうね。全体としてこうしたいということがあって、そうするには部分をどうせめるかということになってくるんでしょうね。結果として部分の集積として全体が感じられるようにもっていく……。

樋口　そういうことですね。やはり全体からその部分、与えられた一つの空間の全体から部分へ入っていくわけなんですが。

川崎　少なくとも建築というと、ひとつの全体像があるスケールで浮かび上がってきますが、「環境」などというと、具体的にイメージすること

は、なかなかむつかしい。そこのところを、プランナーの方々はどのようにとらえておられますか。

水谷　たとえば建築を建てるときに……与えられた敷地に建物を建てようという形になれば、これはまさに建築全体を考えて、そしてその次に部屋を考えてディテールをやっていくということになるでしょうけれども、建築の中にもいろんな要素がありますね、たとえば人が考える場所だとか物をつくる場所だとか、それからたとえば和室があったりお茶室があったりする。そういうときに、このお茶室はたとえば町の中のあのお茶室とこういうふうにつながっていくんだとか、このアトリエは町の中のほかの機能とこうつながってうまくコミュニケーションをもっていけば非常にチャーミングな仕事ができるんじゃないかしらとかですね、そういう部分が持ってるイメージみたいなもの、その建築がまちの中でどういう働きを持ってほかのものとどうつながるかということのイメージ、それが豊かになって、それで全体を組み立てないと、いい全体にならないと思うのです。いま日本の建築でその辺が非常に問題なのは、そういう部分のイメージとか、その部分が持ってるほかのものとの関連性ということをあまり考えないで、なんか与えられた敷地の中にオフィスビルをパッと建てちゃうとかレストランの格好いいのをつくっちゃうとかね、そういうことだけでまずスタートするところに問題があるんじゃないかなという気がするんですがね。

川崎　水谷さんは、プランニングもやるし建築もやる、両方おわかりになった話なんですが、富安さん、どうですか。

地域全体というのはどんなふうなイメージなんでしょうか。

2

プランナーにおける部分と全体

富安　仕事の仕方は先ほど言われた通りで、やっぱり全体から入るんだと思うのですが、しかし都市の場合に全体というのはなかなかつかめないんですね。それでたとえば京都がいいなんておっしゃっても、京都というのは一体どういう範囲で、たとえば行政区域の京都で話しているのか、飛行機で何となく高くで見てるのか、というふうなこと……。実際にはそうじゃなくて、京都の中の西陣のどこかが好きだとか、東山の清水のあの辺の一画が好きだとかですね。そういう意味で私、都市というのはやっぱり自分の好きな部分をその都市のイメージに拡大しているんだと思うんですよ。

設計するときはそうじゃなくて、清水から町をつくるというようなことは、部分的にはあり得ても、やっぱり大きなところを決めて、軸を決めたりして、その中で、この緑地はどこかみたいにしようとか、サンマルコみたいな広場がいいんだなとかですね。(笑い) やっぱりサンマルコにしても、一つの部分、都市の中の部分ですからね。だからそういう意味ではやっぱり部分のイメージがリッチじゃなければ都市デザインというのは当然できないと思うのです。しかしそれが都市の場合に全体にどういうふうにつながるかというのは、ちょっと建築のようにはとらえられないんじゃないか……。

都市の場合、歩き回ったとしてもなかなか的確にはつかまえられんので、ついぼくら、地図を見たり航空写真を見たりして、全体を見たような気がしてるんですけれどね。そういう意味では、都市の場合はちょっと建築とちがって、感覚的になかなか全部つかまえられないということはあるんじゃないかと思うのです。

西沢　1,200分の1のディテールとか2,000分の1のディテールとかございますね。

富安　はい。だから5万分の1で見てるときと……。

西沢　5万分の1は、もうディテール、ありませんでしょう。

富安　はい。しかし大阪市なんか1,200だと、もう目では見れないですね。

水谷　ただその場合、5万分の1とか2,500分の1というのは、部分が集まってできた結果としてあるのであってね……。

富安　そうそう。

水谷　だから、都市計画を5万分の1でやれば全体の骨組みがつくれるかというと、ぼくは全然違うと思う。やっぱり結果として部分的なものの積み重なったのが5万分の1の地図だということはかなり意識しとかないと……5万分の1と同じような都市をこっちへ持ってきてつくろうかという話はやっぱりあり得ない。

富安　そういう意味では、言われたように、そういう1,200分の1とか500分の1がディテールだとすれば、ディテールのイメージを持ってないと5万分の1というのはほんとはわかってない。読めないわけですね。それは同じだと思うのです、その点では。

川崎　そうするとやっぱり5万分の1でプランニングをやるときに、やっぱりある部分のイメージがあるという話ですね。

富安　そうですね。

川崎　ただ、そのときに、全体のイメージはありますかね。

富安　全体のイメージというのは、ぼくはそういう意味でなかなかむずかしいと思うのです。ただ全体のイメージとこれが言えるかどうか知らないんですが、たとえば奈良の二月堂か何かの階段のところから奈良を見渡しますね、で奈良の全体のイメージというのはやっぱり部分のイメージの積み重ねのほかにあいうものもあると思うのです。だからそういう意味では都市のイメージというのがあるとすれば、やはり人間のイメージという言葉を使う以上、都市にはサイズがあって、やっぱり50万とか100万までです。1千万都市というようなもののイメージを先に頭に描いてイメージをするというのは、私はちょっとむずかしいと思いますね。だからそもそも、いい町、できないんと違いますか。

水谷　ふたつあると思うのですよ、全体のイメージを考えるとすれば。ひとつはいまお話があったランドスケープというのが、その地形に対してどういう町をつくるか——昔のお殿さんがやってこられたようなね、やっぱり大きなランドスケープが必要だと思う。ただそういうことはいまの社会ではできなくなっているわけですね。建築を与えられた敷地は一コマだし、全体をつなぐようなもののランドスケープ・デザインなんてできませんからね。まあ全体が必要だとすれば、そういうランドスケープ・デザインはものすごく大事だと思う。

もうひとつは、都市をつくるという立場に立ったら、どういう人間社会をつくるのだというフィロソフィーが必要だと思うのです。現在のたとえば日本のそういう都市的な仕事の中である意味では非常に欠けてるのはそこらでね。団地というのは家を建てるものだという発想だけしかなくて、家を建ててあとそれが便利に歩ければいいとかね。少なくとも理想社会をつくるんだというようなことは、ヨーロッパがいままでつくってきたものなんかに比べたら、極端に言って弱いですよね。ほとんどないといっていいと思います。だからあまりいい町ができない。

3

材料を積み上げて生まれる都市の景観

岩本　たとえば発生的に考えれば、『アーキテクチュア・ウイズアウト・アーキテクト』という本があったでしょう。あれなんか見ると、部分もいいし全体もいいですね。

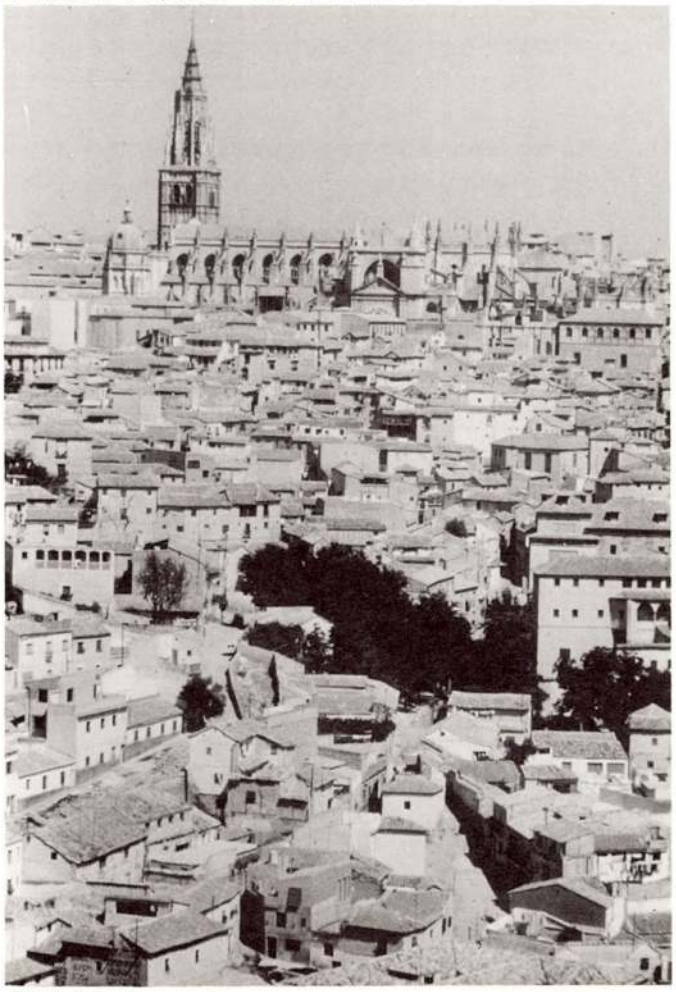
たとえばあれは日干し煉瓦なんですけど、あれは持ちやすいぐらいの大きさでもって一つのブロックをこしらえて、そして積み重ねていくわけですね。皆、土ですわね。で、それを積み重ねていって自分の家をつくって、隣の家も同じようにやっていってそれが全体につながっていった。つまり部分から全体が発生していっているわけですね。そうしてそのよ



部分と全体を切り離すことはむつかしい……



その建築はまちの中でどういう働きをもっているか……



全体のイメージ

さも非常にいいわけですね。

たとえば京都の町を見ても、あのよさは、上から見たときに瓦の波が続いているところに大きな魅力があるわけですね。

そうすると瓦というこの一枚の部分が提供されて、瓦は黒やぞ、この大きさやぞ、で屋根には瓦をふくもんだという習慣みたいなものがあって、それがみんな同じようにやっていった。木は、木しかなかったから木を使う。同じ材料である。皆そういうふうにして与えられた部分を集積していくと、都市という巨大なものになっていった。

京都の町はそうだし、さっき言いましたブロックの集積もそうだし、たとえばボストンなんか煉瓦ばっかしで、煉瓦を積み重ねるという部分が集積してボストンになっている。そうするとある材料をぐーと拡大していくと美しい都市が出ていく。こういうことは言えると思うわけです。

西沢　それはね、その場合、材料だけじゃなくて、やっぱりつくる姿勢のほうが大きくてね、ああいう時代の人というのはつくるということを知ってたと思うのです。いまの人はそういうものを、均一のものを与えたって、できっこないだろう。

> アノニマスな都市が美しく生動しているのは材料や工法が統一されているからだとする岩本説は正しいように思われた。最近気になり出したことはそれが材料工法が統一されているからという原因だけではなく、家をつくる人自身が家の在り方を体でわかっていて、材料の扱いについても身に滲みて理解していたからこそ、一軒一軒が美しくしかも全体としてもまとまり得たのではないかということである。この点を見落として処理すると大変危い。——西沢・注——

水谷　ぼくもそれはちょっと……。いい素材をつなげていった場合に、全体が非常に迫力のあるいい全体ができる、と。おっしゃる通りですわね。日本の景観なんてまさに、瓦だとか、そうだと思います。いま西沢さんがおっしゃったように、それのつながってる人間の気持ちがあるのでね、コミュニケーションがあるからそうなので、たとえばいまやってるプレファブリケーションのユニットを日本国全国へばらまいていったらいいものができるかといったら、絶対にできないわけですよ。それはやっぱり、かなり心の問題というのは大きいと思うのですけれどね。

岩本　おっしゃる通り、プレハブがこうやったら、いやらしいでしょうなあ。(笑い)

だけどね、たとえばさっき言いました、材料が初めから自然の材料だったでしょう、自然の材料がなんぼ積み重なってもかまわないという原則があるわけですよ。

西沢　それはひとつありますね。ありますけど、それだけを信用していいかどうかというと、やっぱりそれだけではだめで、それをつくる人が、つくるということを知ってるからああいうふうになったんだろうという気がしますね。

岩本　そうかなあ。(笑い) それは化学的な変なものをつくり出して、みんな勝手にバラバラの材料つくって、プレハブをこしらえて、それが集まるとややこしいなるのはあたりまえですわな……。はんたいに手づくりで自然の材料でやっていったら、全体を見ないくせに、でき上がったやつがようなっている、事実上。世界の都市見たら、皆そうですよ。石の世界、煉瓦の世界、土の世界、木の世界、これ全部目的なしで部分が集積していって全体がいいわけですね。そこには全体の意志というものは初めからあれしません。

水谷　いや、ただ、その手づくりというのは、自然の材料を加工して手でつくるというときに、やっぱり人間がどう生きて、自分たちの仕事なり労働がどういう意味をもってるかということをお互いに共通の言語としてあると思うのですよ。

いまのプレハブのシステムというのはそうじゃなくて、そういう一番大事なところをみんな省いてしまってもできることは何かと、こういうプログラムのところが一番問題だと思いますね。

西沢　ぼくもそう思いますね。

4

部分の多様性と秩序

紙野　昔の部分というものはおっしゃるように自然の素材をわりに自然に扱って、そのまま伸ばしてでき上がったもんで、それを積み上げていきますね。そういう意味で、よく似たもの、色も形もわりによく似た、ある範囲を出ないようなものが各所にあって、そういう部分をだれも皆積み上げていく。だからたとえば蜂の巣は、一つ一つ比べれば全然違うけれどもやっぱり蜂の巣だという、そういう積み上げていった結果がどこかでおさまるという調和点がありますね。またそれを超えるということもまた非常にむずかしい。それが社会的な枠組みみたいにしてあるという感じですね。

ところが現在の部分というやつは、非常にいろんなものがあって、おっしゃるように悪いものもいいものもある。まあ千差万別である。そういうたくさんあるものの中で、それの中から何かを抜いてくるという考え方をされるのか、あるいはたくさんあるものを片っ端から寄せていって、そうしてそれでもなおかつ、いま言ったように一定の秩序の中へ持っていけるというふうなお考えであろうか。そういうところはどうでございますか？

西沢　昔もかなり同じ方法の中から自分の意思に従って拾い上げてるようでございますね。

岩本　そっちへ進むということは、秩序づくりをしようとしているわけですよ、ある秩序を。だから取り上げてるということは、その人の中にある秩序をつくろうとする意志が働いているわけですね。それはモヤモヤしてる状態かなんかしらんけれど、それを取り上げたやつを集積すると一つの秩序ができとる。こういうやり方が作家のやり方と違いますかしら。

紙野　その場合に、その選んでくるベースがかつてはかなり調和していたわけですね、ベースそのものが。ところが現在はそれが非常に多様化して、もう何でもある、いわば、どうにでもできるという状態もありますね。

西沢　やっぱり選択の意思が弱いから……。(笑い)

岩本　そりゃそうですな。

水谷　昔と今の違いというのは、たとえば昔、瓦であああやってお家をつくりましょうとか、京都の町をああいうふうにしてつくりましょうということが一気にできたわけじゃないですよね。やっぱりああいうものにしてもいいというみんなのコンセンサスを得るまでに非常に長い時間がかかってて、みんな、あれがいいじゃないかということがあって初めてできたんだと思うのですよ。

いまの場合は、結局これでやるぞと言ってみても、だれもがいやだとか、困るとか、何も言わんうちにサーッとできちゃうわけでしょう。

富安　私、それはあまりコンセンサスとか、いいと思って選んだということじゃなくて、それしかなかったんだと思うんですよ。人為的に、みんなが協力してこれがいいから選んだというふうな言い方は、やはり厳密ではない。

西沢　ぼくもそう思いますね。

水谷　しかし瓦だけじゃなくて、建物建てるときは、京都のような町家を通り庭で建てようとかいうのも、かなりいろんな生活だとか仕事の中で継承されて、お互いにそういう仕組みがいいなという同意を得て出てきてるわけですよね。

岩本　それしかなかったいうのか、それしかようつくらんかったいうのか、つくる能力なかったんか、どっちかということですね。瓦以外のものをつくるとややこしいなるさかい、やめとこうというコンセンサスがあったのか、それとも無意識であるものを使っとったのか、ここに日本民族に意志があったかなかったかということですよ。

水谷　それはさっきおっしゃった自然の材料としてそれしかなかったということはありますわね。

岩本　大体において、それしかなかったというのか、それがいいんだからそれにしたのか、どっちだと思いはります？わたしはやっぱり意志が働いていたと思うんですよ。

富安　大きな枠としては選択の余地がなかったのじゃないですか。ある枠の中では選べたとしてもね。

西沢　その中で、どうしたらいい瓦ができるかということで努力はした……(笑い)

樋口　そこでお伺いしたいんですけど、瓦が美しいとか京都の家並が美しいとか、いろんな問題が出てきますね。そうすると今度はそれに対照的に現在の都市——まあ大阪でも東京でもいいですが、あまり美しくない、種々雑多である、あまりにも技術ができ過ぎていろんなものができ過ぎてるから雑多に使ってる、というようなお話のように思うのですが、そうするとそれを美しくさすためにはどうすればいいでしょうか。

たとえば強権者が出てきて、一つのスタイルに統一しろとか一つのモジュールに統一せよとかいうようなものにやっていったほうがいいのか、やはり現在のように、好き勝手なようにやりなさいというふうなことでもっていったほうがいいのか、どっちでしょう？

西沢　格好、好きなようにやりなさいということはいいんだけれども、格好をほんとにつくるつもりでつくれば大丈夫と思うのですが、(笑い)それをほんとにつくらないのが根本的に問題だという……

岩本　私ずばり言えば、強権がないとあかんと思いますわ。そんなもの、みんなで好きなようにさしとったら、ろくなもの、でけしまへんわ。

樋口　たとえば、青い瓦はやめろ、と。製造をやめろ、使うことはまかりならん、と。

岩本　もう瓦は黒だ、皆、黒を使え、といったら、ようなりまっせ。絶対にようなりますわ。

富安　私、それは実は見たことがあるんですよ。鹿児島へ行ったときに、みごとに鹿児島が黒みたいなグレーみたいな瓦で全部なんですわ。こんなにみごとに色がそろってる町というのは私見たことがないので、飛行機からおりていくとき、実に驚いたんですわ。例外ないんですわ。そうしたらね、桜島が噴火して、あそこは黒い灰なんですわ、白じゃなくてね。だから噴火した直後に私行ったもんですからね(笑い)。鹿児島のオフィスビルに至るまで、上が黒くなってるんですよ。ほう、鹿児島というのは徹底した色彩計画をやっとるなと。それは不思議ですよ、町じゅうが全部黒に沈んでるわけですわ。

岩本　それは早い話が、雪が降ったらきれいでっしゃろ。

富安　いや、異様な感じですよ。

川崎　よかったんですか、悪かったんですか？

富安　いや、それでね、私まず驚いたんですわ。やっぱりきれいですよ、まず間違いなくきれいですよ。しかしそれがね、ほんとにいいかどうかね。

> 雪景色は、確かに美しい。白一色に塗りつぶされたためであることは確かだ。あらゆる物と物の関係が雪の白によって消え去った状態をみて嗜虐的な快感を味わっている点もあるのではないか。季感を出すために雪の庭園の写真をよく見かけるが、問題は雪景色と雪のない庭園とどちらが美しいかだ。もし前者の方が美しいとすればその庭園は大したことはないと言える。都市は一つの材質感や色で統一すれば当然統一感は出る。そのことだけで人々に訴えかけてくるかどうかだ。アノニマスな建築群を見て美しいと感じるのは材料工法からくる統一感が原因であるかのように思われるが、それをつくった人々が家の在り方や材料のあり方を芯の底まで知りぬいていたために人が住んでいる姿が実感される——それが観る人々の心に訴えかけてくれるではないか。上から押しつけて形式だけ統一してみても統一による美しさは出てこないのではないか。——西沢・注—

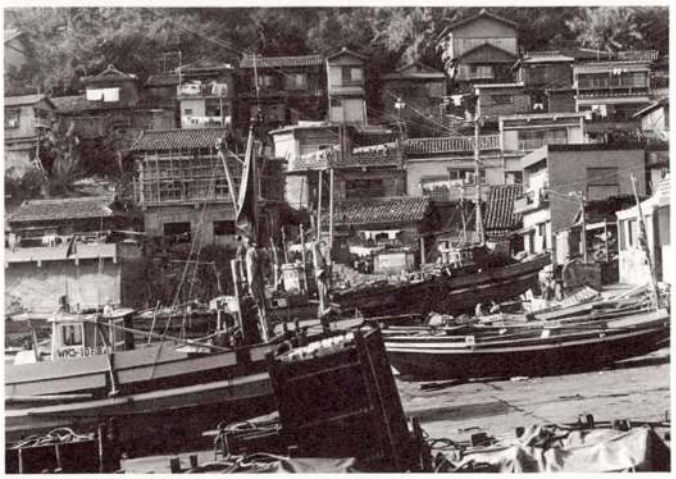
岩本　ほんとにいいのか言ったって、雪降ったら、きれいですやんか。きれいということを肯定せなあきまへんわ。

富安　いや、そういう意味できれいだということが全体がいいということにダイレクトにはつながらないんじゃないか……

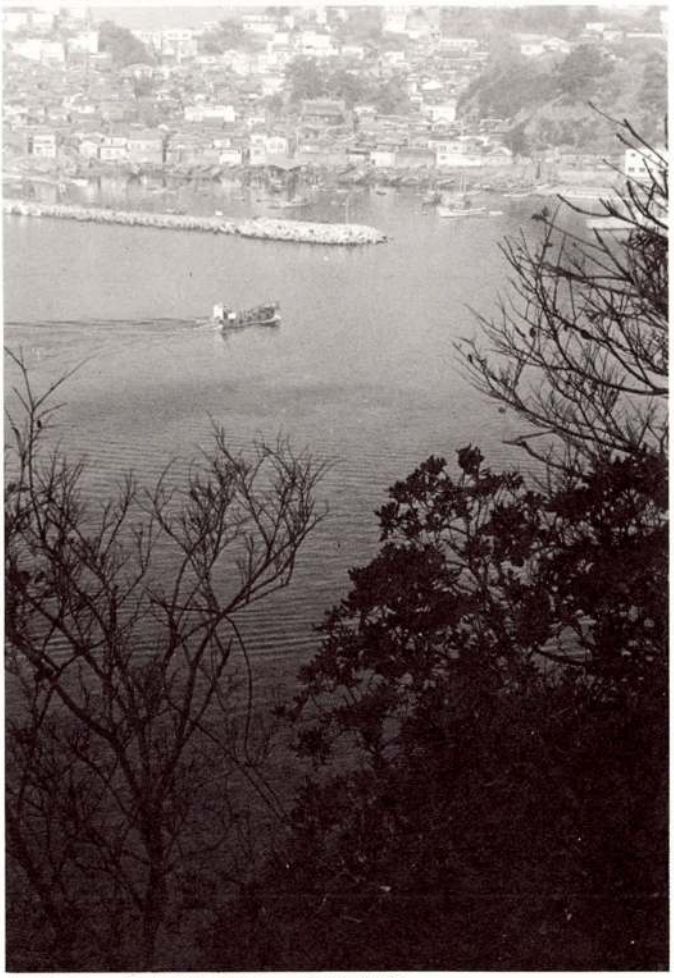
岩本　いやいやつながりますやんか。雪景色、きれいですやんか。



屋根には瓦をふくもんだ……



部分の多様性と秩序



水があるということは緑があるということと同じ……

富安　私はね、ここで部分と全体という話を都市と建築というふうに直しますと、はっきり言ってあきらめてるというかね……。

実際には建物を建てる人がほんとに周りの調和とかそういうのは考えてくれないんだと。われわれ期待できないんだ。そうなると、ゴチャゴチャの中に一番だれにも愛される調和を求めるのはグリーンしかない、というイメージをしてるわけです。

岩本　グリーンというのは木のことですか。

富安　はい。

岩本　グリーンの色とは違いますな。(笑い)

富安　緑が相当育てば、相当見苦しくてもですね。だから緑をどうかということが、ひとつの将来の都市景観の上では非常に大事だと思います。

仮に住宅公団の標準設計がワッと並んでも、あれが緑の中に埋没すれば、だいぶ違うだろうと。また事実、東京の戸山ハイツなんてのは、もう建てて二十何年になりまして、緑が大きくなると、もう見違えるようになりますわね。だからそこにひとつ期待しているわけです。

岩本　それは木ほどええものはあれしまへんわな。そらもう絶対ですわ。

そやけどね、いま木がこうあったら、木の高さよりアパートのほうが高いでっしゃろ、そやから変なものがいっぱい見えよるわけや。大体人間が木より高いところへ住むのがいけまへんのや。(笑い) 木の下で住むのがほんとですねん。だからこれ高うなってるということは、これでもう自然破壊であるし、人間否定ですよ。そんなん、ええもんできるはずないですわ。

川崎　オランダの例は、あそこに川がありますでしょう、あれがかなり大きな要素を持ってると思うのですよ。変化をうまく川で統一してる要素があると思うのです。

だから大阪なんかでも、堀が埋まらなかったら、あるいはもっと違ってたかもしれないという感じがするんですがね。

富安　水があるというのは、緑があるのと同じですね。

水谷　ぼくは緑というものがあればいいということはわかるけれども、町を組み立てる要素は緑じゃなくて、やっぱり人間の住むところと仕事する立場だということになれば、建物がいい町じゃないと本物じゃないと思いますね。だからぼくは富安さんみたいにおりられないの。やっぱりいい建物の町並みができる町ということを、しつこく追いたいですね。

5

全体にまとまりをもたらすものは何か

岩本　いい建物が集まって都市になった場合にどんな都市がええかというたら、たとえば瓦の町、煉瓦の町、石の町、こんなん、みんなよろしいでっせ。それね、そんなことはない、みんな自由だ、というたら、絶対にええのん、でけしまへんわ。

水谷　西沢先生がおっしゃるように基本的に一つ一つがよければいいじゃないかというのは、これは確かに総論としてあるわけですね。しかし具体的にはそうはいかんわけですわね。そうなるとぼくもやっぱりおっしゃるように材料の問題だと思いますね。日本の場合だったら瓦をふいた町をつくることのほうが、フラットルーフの町を一生懸命にデザインするよりは、ずっといい町ができるという気はしますね。

それと、そういうふうなことをむしろすることによって、建築屋さんのディテール喪失ということじゃなくて、やっぱり部分にもっともっと手をかける建築屋さんをつくったほうが、少なくとも建築の質はよくなると思うし、人間の生活にとってもよくなると思うのですよ。

岩本　それだけわかってるのに、なんでみんなグチャグチャにつくるんかな……。(笑い)

樋口　いまおっしゃるの、全く同感なんですが、そういうふうにするために、ブルーの瓦の例を挙げると、みんなブルーの瓦になったら、なん

であんな汚いのを選りよるのやと。ところがいまはみんなブルーが好きで、自分たちの一つのステータスシンボルか何かでブルーをやる。そうするとそれを強権でもって、いかんというのか、自然に皆の嗜好が上がってくるまで待つのか、これはどっちなんですか。

それともう一つ、かじを取る一つの方法として、流行があるんですね。で、流行というやつをうまく使って、もうブルーは流行おくれやというような意識を大衆に持たして、つぎは赤であるとか黄であるとかいうふうな曲げ方をしたらいいのか、方法としてはどういうふうにして……。

水谷　ぼくは強権はやらないほうがいいと思ってるんです。

いまたとえば日本の住宅でも、黒い瓦がいいという人が非常にふえてきているわけです。それはやっぱり黒い瓦のおうちが建ってくると、落ちついた住宅地だということがだんだんわかってきているわけですね。

日本の昔の町を考えても、そういうところへ誘導していく必要があると思うのです。ただ、誘導していくためには、そういう町を片一方につくらないと、たとえば黒い瓦でいいハウジングをつくれば、それを見にいけばやっぱり、いまの標準設計の箱が並んでる町よりもいいじゃないかと、まあ普通の感覚なら大体そう判断してくれると思うのです。残念なことにいまの場合は、そう思わせるものがないわけですよ。

岩本　京都にありますが、瓦がダーッとあったらええということを。それは倉敷へ行ってもあるし、金沢へ行ってもあるし……。

水谷　いやいや、古い町にはあるんですけど、新しい町でないのが、やっぱりわれわれにとって非常に弱いわけですよ。

岩本　新しい町は、みんな好き勝手やるからでけへんわけで、強権をひいて……

水谷　たとえばだから住宅公団が全部黒い瓦をふいて……別に黒とは言いませんよ、それは山陰へいけば赤瓦でいいですけれどね。その地元の瓦を使って家を建てます、たとえば日本の公営住宅は全部それでやります、といったら、そうなりますよ。ただそういう力を持ってるところがそういうことをやろうとしないわけですよ。

逆に、住宅公団とか公営住宅に工業化路線という背景があるでしょう、それはやっぱり、一番初めの話に戻るけれども、人間がつくっていくもののよさというふうなことを全く極端に言ったら否定している。そういう手法的な背景だから、これはいくらやってもよくならんですね。

だからやっぱり建築というのはローカルなすべての技術の基礎であって、いい建築をつくっていったりいい材料をつくっていくことがやっぱりその地域の大工さんの手だとか職人さんの手だとか、工芸だとか、そういうもののレベルを上げるんだという思想にまで建設省が立ってくれればね……。

岩本　その通りですな。

紙野　最近民間の建売りのほうはキャッチフレーズが少し変わってきたでしょう。瓦屋根をふいていることをキャッチフレーズにあげてみたり、あるいはよそのりっぱな公園の横にあるということをキャッチフレーズにしてみたり……。あれはだから、ああいう意味ではおっしゃるベースは、なんか民間ベースでは徐々に上がってきているんではなかろうかという感じはしてるんですけど、どうです、その辺は。

水谷　民間の場合はある程度妥当な線へいかないと……まあファッションという、流行性ということは確かにあるけれど、ある程度妥当な線へいかないと、つぶれちゃうからね。公営住宅はつぶれないからね、間違ったことをしてたって……。

西沢　確かに瓦をふくと、売れがいいんですって。瓦をふいてあると、自分の家だという感じがするらしいですね。それで瓦をのっけるんですけど、そののっけ方が大へん問題で……。

川崎　公営住宅の話、ちょっと出ましたが、富安さんなんかわりとそういうのに携わられるチャンス、多いと思うのですが、一つは、私の最初の感じではかなり絶望的だったんですが、最近わりあい若い公団の人なんかとつき合ってるうちに、非常にやる気になってきているような気がするんですがね、その辺どうでしょうかね、今後の公営住宅の将来というのは。

岩本　公営住宅はたとえば密度に制限があって、これ以上密度を上げないという一つの規則みたいなものがあるでしょう。それが民間だったら、なんぼでも詰めよるですよ。そこらやっぱり公営はええなと思いますな。

富安　その公営住宅の問題はいろいろ批判はあるわけですけれども、ひとつは公営住宅というのは日本の所得の中ぐらいから低い人の住宅の水準を示しているんだと思うのです。だからこれが非常に低いということはやはり日本の底辺の低さを示しているわけでね。だからそれをつくる建築の人が手を抜いていいという意味じゃなくて、管理の問題を含めて非常に水準が低いわけです。だからその水準の低い中で住宅公団とか大阪府の人たちがそれなりの努力はある範囲ではしてる。それは私は認めるべきで、日本の低所得者にできるだけ安い家賃で良好な住宅を少しでも供給しよう、と。

ただ、そのオリエンテーションの中で、安いためにはなりふり構わないんだというふうな面は確かにあったと思いますしね。

それで最近公団の人たちががんばってきたということがあるとすれば、がんばれる状況がだんだんできてきた。前からやりたくてもある条件の中ではできなかったのが、だんだん社会の全体の水準が上がるにつれて、やれる余裕が出てきた。それに飛びついてるというんですかね。

6

もののつくり方の問題

岩本　居住性というものを別にすれば、たとえば九尺二間の棟割り長屋というのがあったでしょう、活動写真を見たらあるでしょう、井戸端会議の。あれなんか、活動写真で見たってよろしいやろ。今日の話はデザインの話でしょう、そうすると昔のああいう九尺二間の一番底辺の家でもよかったですよ。それがいまは同じものをつくってても悪いというのは、材料の悪さですよ、これは。

富安　その辺、比べる対象が……

岩本　比べようがない？

富安　ええ、ちょっと違うものを比べてるんじゃないかという気がするんですがね。

岩本　だけど、底辺ということは一緒でしょう。同じ底辺の家をつくりながら、昔のにはなんか情緒があって、いまのには情緒がない、それは一体どういうことかということを私はここで言いたいわけですよ。

水谷　ぼくは建築のつくり方の問題だと思う。

西沢　私はやっぱりつくる人がつくることを知ってること……。

岩本　昔の人が？

西沢　はい。

岩本　しかしね、昔の人は、私はおそらく大工さんがパーッとやったと思うのですよ。

富安　それをいまのこういう社会情勢で再現しようというのは、実際問題としてはもう非常にコストがかかると思うのですよ。そういう人がいませんしね。

川崎　コストはかかるんですがね、たとえば壁を塗る人は木材のことを非常によく知ってるわけですよ、あるいは建具をたてる人は大工のことをよく知ってるわけですよ。で自分は壁を塗るときに、せっかく大工がやったのを傷つけないようにと、物すごくそういう全体に対する配慮があって自分の部分に対して誠意があるわけですね。つまりそういうものを育てていったら、これはコストの問題じゃないように思うのですがね。

水谷　たとえば内装ひとつにしても、シックイなんて日本にいくらでもあるわけですよ。そういうものをちゃんとした左官屋さんが塗る仕事さえコンスタントにあれば、何も高くないわけですよ。それを左官屋さんの仕事をなくしちゃうから、左官屋さんが困って落ちていくわけで、で結局左官屋さんがいないといって、何してるかといったら、ビニールの壁紙張ってるわけですよ。ナンセンスなんですよ、はっきり言ったら。大体そういうふうにしてきたんですよ。建設産業の政策が完全に間違って



同じ高さで続いてて、ちょっと飽きるところもあるけれど……



ひとつの色、ひとつの材料……



ひとつひとつ変化があって、かつ統一があるという町があったら…
ディンケンスビュール



緑の中に埋没すれば…　ウェルタン、ハワード地区

たんですよ。基本的に間違ってる。

富安　しかし、それは建設産業も間違ってたと思うんですけれど、それをバックアップしているのは、より安く便利でさえあれば少々そういうデザインはどうあろうとかまわないと、支持してる人がたくさんいるわけですよ。建築家が悪くてそれから建設業が悪かったらああいうのができるかというと、そういうことはぼくはないと思うのですよ。

水谷　建築屋、建築業、建築の役人、政策だと思いますね。ほかの人以外、だれも建築のことなんて考えてないんだもの。よその人が考えたんじゃないもん。

富安　それは少なくとも、出てきたときには、選ぶ自由が建てる人にもあったと思うのですよ。だからぼくはやっぱりそれを日本の一部の人が間違ってたということは仮にあったとしても、もっと大ぜいの人が支持してたと思うのですよ。だからそこがやっぱり問題であってね。建設業だけが独走してこれだけのことができるかというと、それはできゃしないですよ。だからやっぱりそういう風土とか価値観というのは、日本全体の問題だと思うのですよ。

紙野　しかし最近は、職人さんを育てる学校だとか、こういうのが要るようになってきたんではないでしょうかね。

樋口　確かに住民意識が悪いということは言えますね。たとえば昔の町並みは確かにいまよりきれいかったけれど、それに加えて住民がそれをさらに美しくしようとする演出力があったような感じがするんですよ。まん幕が、そうですね、祭りとか正月に幕を張る。そうすると、きのうまでの町並みと全然違ったひとつの演出がピューッとできてくる。ああいうことを昔の連中は知ってたんですね。ところがいまのわれわれは、そういう演出をしようと試みないで、とにかく自分だけで、それで何とかして異質なものをつくっていってそれで目立たそうと、そればっかりの押し合いへし合いですからね。ここにひとつの住民意識の問題もかき立てないかんと思いますね。

富安　住民まさに砂漠みたいな状況で、とくに新しい市街地では、建物は新しくても中に住んでる人は砂漠のような人間関係ですからね。

紙野　それと建築家のほうで、やはりいい材料、いろんなものがある中でいい材料、それからいい色といいますかね、そういうものを実際にものを造る中でしぼりあげていくということが要るんではないでしょうかね。

岩本　わたしは要ると思うな。

紙野　さっきの、だれか偉い人がおって、これや！というんじゃなくて、全体で……悪いものは使わない、だからどうしてもつくっても売れないという状況を造り出す必要があります。

西沢　大体こちらで選んでカーテンでも何でも決めますでしょう、そうすると、つぎ、もういっぺんやりかえようと思ったら、絶対にその柄はなくなってる。で、つまらん柄だけがいつまでも永続して残ってますのでね。日本人全体の文化感覚が低くなりすぎているのですね。

7

美しいまちについて

富安　ぼくひとつ……。強権で統一するというのは、まあいろんな意味で反対なのは、まあここではデザインの問題が中心なんでしょうけど、たとえば軍隊で、水兵さんが全部ネービーブルーで、白い襟でサーッと並んで白い手袋はめて歩くと、きれいですよ。しかし、きれいだということと、それがいいということと、私は違う場合が大いにあると思うのですよ。

きれいならいいかというと、私それはちょっとおかしいんじゃないか。

岩本　都市がそういうふうに統一されて、まあきれいだけで大したことないとしときます、いま仮に。そやけどその家の中へ入ったら、みんな

個性があって、自分の好きなようなことをやっとる、プライベートな問題は自我丸出しでやる。しかし建築は社会性があるから、表向きはみんな協力しあいしてひとつの統一をとる。これが本筋だと思いますな。

富安　ただ、その統一を、みんなで相談して決めるんでしょうけど、まずく統一されたら、かなわんですなあ。

私のイメージしてる建築家というのは、たとえば木だけで全部つくればある統一ができて、きっといいですよね。しかし、いろんな材料を使いながら非常にみごとな調和をつくり出せるのが建築家でね。もしドロだけでつくるのがいいに決まってたら、それは建築家じゃなくたってできるわけですよ。建築家というプロフェッションがある以上は、いろんな材料をみごとに使いこなして新たな調和を生み出すから専門家なんでね。土だけでやれるんだったら、ぼくは建築家、要らんと思うんですよ。

岩本　ほんとは建築家なんか、要れしまへんで。（笑い）

富安　ああ、そうですか……（笑い）いや、それならいいんですけどね。

岩本　だけど、歴史的に見たら、そういうすばらしいのんがいっぱいありますのや。歴史的に見て、何もないことなかったんですよ。

西沢　パリは美しいと思われますか？

岩本　パリかって、大阪よりはよろしいですよ。(笑い) あんなん、石がダーッと続いてて、ちょっと飽きるようなところがありますけれどね。同じ高さでダーッといくのは、しんどいですけどね。そやけど、もっとええとこ、いっぱいありますのや。

それでイタリアやスペインなんかへ行ったら、オレンジ色の瓦がダーッと続いてますよ。

あいうひとつの色、ひとつの材料で、どこまでいってもすばらしい都市というものはいっぱいありますねん。それを、単にきれいだけであって何もないということは、絶対にないですよ。それはもう絶対にいいですよ。感激もするし情緒もあるしね。

富安　私はむしろ理想を描くんであればね、やっぱりひとつひとつ変化があって、かつ統一があるという町があったら、一番いいと思いますなあ。

岩本　たとえばオランダは大体同じようなやつが並んどるけど、皆違いますわ。それでもまあまあよろしいわ。そやけど、たとえば京都の町、あれは瓦と木でやってるわけですけれどね、あの格子は皆微妙に違いますよ、それから高さも皆違いますよ。もう微妙な違いで、材料がほとんど一緒でね、もうすばらしい情緒があるわけですね。

富安　まあ京都はいい例ですな。

岩本　だからね、変化があってええというものは、それはあたりまえですよ。変化があって、ええもんもできますよ。それでもね、その変化はだれがつけるのやいうたら、そんなうまいこと、つけしまへんわ。（笑い）

8

部分と職能

樋口　それからちょっと角度違いますけれどね、私の立場から、今度は逆に部分から全体へというような具体例なんですけど、ご承知のように現在のインテリアの仕事の柱というのは、ショッピング・インテリアとハウジング・インテリアなんです。

住宅のインテリアといいますと、どうしてもクライアントは一般消費者、素人になるわけですね。で素人が何か中途半端にインテリアを非常に知りだした。それはたとえば『アンアン』とか『ノンノン』とかいうような婦人雑誌がインテリアというものを非常に浮かび上がらせた。インテリアというものをファッションとして取り上げてきているわけですね。そのインテリアがファッション化することの可否論というのがわれわれにとって非常に大きな問題になってるわけです。

そうなってくると、ファッションのフィロソフィーを考えていかなければならない。ファッションとは一体なんであるのか、インテリアがつながっていっていいもんだろうかどうだろうかという問題がひとつ。

それからもう一方の商業空間のインテリアですが、たとえば、ひとつの店舗の改造等の話である商店に赴くとしまして、主人に会いますと、主人が自分の店の改造の話をする前に、まず言いますことは、ここの商店街全体どうあったらよろしいか、先にそれを考えてくれ、ということです。とくに地方都市ではそうですが、商店街全体一括して考えてください、それからその中のひとつとして私の店舗を考えてくださいと、こうくるわけです。そうなりますとインテリアデザイナーが今度は商業地域問題まで考えんことには、どうしても商売にならんわけです。

それで、私のようなインテリアデザイン専門家がこのごろ考えてますのは、たとえば東京の代表的な商業地域のパターンはどうなってるかということなんです。

これがやってみると、意外に、三越から日本橋、銀座、新橋、赤坂それから青山から渋谷というふうに大きな一本の動脈ができてしまっているということに気づいてみたりね。

京都の中心街はどうなってるかというと、河原町四条から上へ三条まで上がって、東西には四条と祇園の間に延びとる。ところが河原町四条から南へ全然延びないのはどういうわけだろう。それともうひとつ、京都駅とその間が離れてるのはどういうことか、とかですね、インテリアデザイナーがだんだんそんなことを考えないかんような時代になってきている。で逆に部分から全体を取り上げていかなきゃいかんというような状況になるんですがね。

水谷　いまのお話が、たとえばお店屋さんが町を考えるというのは、確かにひとつの流行だし、たとえば『商店建築』なんて、まさにそういうような記事ばっかりふえてきてますわね。でも同じようなことは、建築屋さんが都市を考えるというのは、過去にやってきたわけですね。それから最近は造園屋さんがさっきの環境とか何かでやるとかいう。

そういうとき、ラップの仕方のときに、部分ということをかなり強くこだわる人じゃないと、広げた途端に完全に質が低下するわけですよ。極端に言ったら、個々のお庭の設計とか、個々の木のこともわからないのに、都市全体のグリーンをメッシュで計算してみたりね。

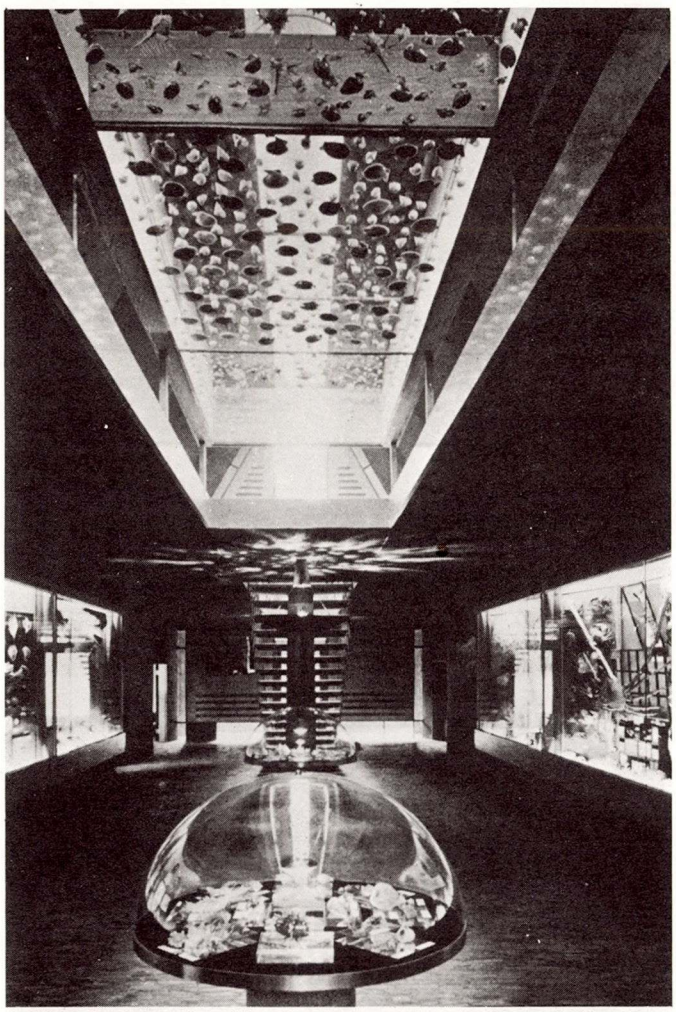
岩本　ルイス・トーマスという人が、『細胞から大宇宙へ』という本を出してますね、これは要するに地球上の全体も、宇宙上全部もそうなんですけど、全部が何らかのかかわりあいがあるというんですわ。それ自体独立して何もないというわけですね。だからひとつの部分があるとしても、その部分は何らかのかかわりあいの部分である。これ、最後までいったら原子になるわけですけどね。そしてかかわりあいを否定したら地球も宇宙も成り立たない。で全部成り立ちあいしてかかわりあいしとる、と。だから部分と全体というやつを論じても、これは別々にすることはどうしてもできないわけですよ。かかわりあいの問題ですね。だからどうしたって両方からお互いに感じ合わないかんわけです。

おもしろい話は、白蟻だとか蜜蜂なんかは、その一匹自体には目的は持っとらんのですわ。それ自体は目的もなし意志もないわけですが、それがひとつの群になると何らかの意志を持ちよるわけですね。それで蜜蜂の家ができたり白蟻の城ができたり、なんか巨大なる意志力を持ってきよるわけです。それ一匹では何もできん。

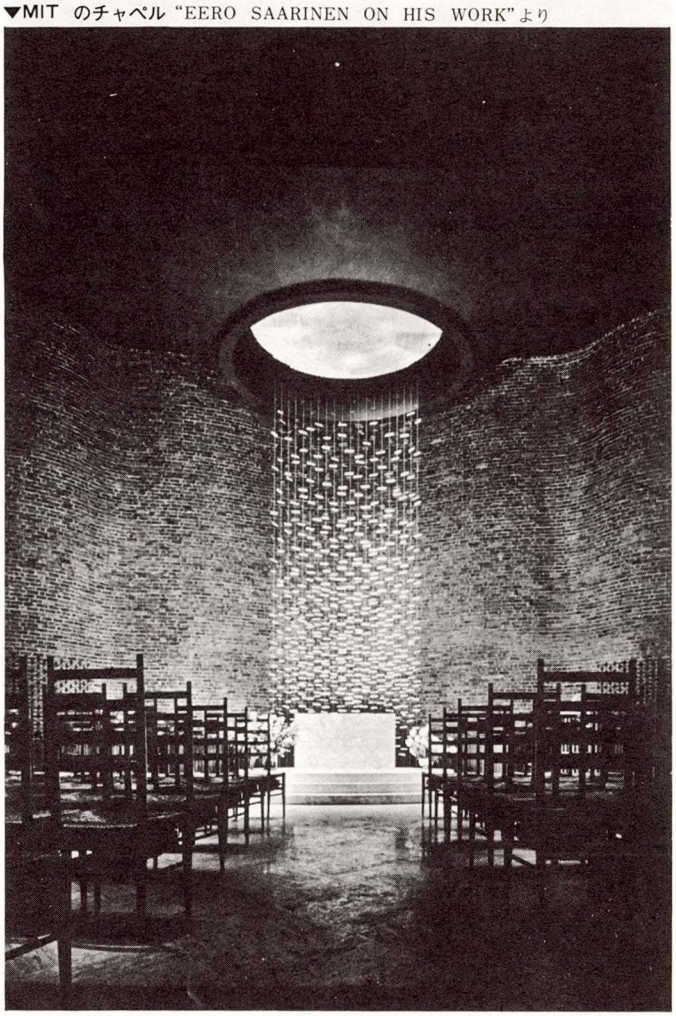
ところが人間の場合は、小さな集落の場合にはなんかまだ意志を持ってるけれども、大東京みたいになったら、今度は意志がないみたいですな。これはおもしろい現象だと思うのですよ。意志を持つにはあんまり巨大過ぎて、もう何もできない。それは今度は人間が、その部分が振り回されてる状態になってるでしょう。だからこういう問題がいまの都市の混乱いうのか、悲劇いうのかね。だからある量から以上になったらもうあかんのんだということを知る必要はあると思いますな。

西沢　それもあるんでしょうね。

岩本　だから部分が全体になるときにはある限度がきっとあるんですよ。だから建築でも、巨大な建築はだめなんですよ。（笑い）　ある大きさというものがあって、それが集積されると、なかなかいいわけですね。たとえば伽藍にしてみたって、回廊があって、中に部分があるでしょう、



▲貝殻の黒田コレクション「海のギャラリー」SPACE MODULATOR No.31より
▼MIT のチャペル "EERO SAARINEN ON HIS WORK"より



で非常にまとまるわけですね。いまの建築といったら、ブワーッと大きいでしょう。何ともこれ、見られしませんわな。

水谷　やっぱり人間の能力というのがあって、たとえばぼくなんか団地なんかやるときにいつも思うんですがね。たとえば五十戸ぐらいの団地を考えるときも一万戸の団地を考えるときも、結局、そこへ注ぎ込んでる密度というのは、あまりかわらないですね。だから、大きいものがそその通りできるということは、やっぱり非常に密度の薄いものができ上がるということにしかならないという気がしますね。それは大きいものを考えるにはそれなりの要素は入れてるとは言ってみても、やっぱり自分で設計できる紙の範囲以上のことはできないという感じがしますね。

富安　その辺はだから分業になるんでね。だから私は一人の人間が都市全体から建物まで建てればいいという考え方が片一方であると思うのですが、それはいま言ったように人間の能力からいってむずかしいんじゃないか。そこでやはり分業が起きてきてね。その部分部分と全体とをつなげるルールというのは、必ずしもうまくいってないんですけれども、しかしねらいとしてはやはり部分部分の専門家をうまくつなげることで、一人で全部やる能力の不足を補うんだと。そういう考え方だと思いますね。

川崎　まあそうなんですけど、しかしおそらくその部分部分にそれぞれの職能が参加してるけれども、その受け継ぎの間になんか不満が残ってるような気がするんですがね、その辺はどうなんでしょうかね。

富安　そこが問題ですね。

水谷　いまのチームワークというのは、まさにそれはチームワークが必要なんだけれども、なんかチームワークをやれば解決するといったようなね、組織をちゃんとすればきちっとできるというような、ちょっと単純な置きかえがあるわけですよ。

川崎　やっぱりその部分部分の心というか、その辺が問題なんですかね。

富安　それはありますね。

9

まとめ——部分からの要請にどう答えるか

川崎　そろそろこの辺で話を閉じさせていただきますけれど、そもそも全体と部分というのは、実は最初から大へんむずかしいテーマでして、話はいろいろ発展してまとまりにくいんですけれども、なぜ部分をテーマに取り上げなければいけないか、と。まあ〝全体と部分〟といいますけど、部分に力点がかかってるわけです。部分の問題になりますと、建築家だけではなくて、一般の人にもかなり具象性を帯びてますんで、やっぱり関心があるし、そういう部分からの反撃というものに対して、必ずしもいままでの建築家はこたえていないように思うのです。で、それにたえ得るものを探さなければいけないということで、こういう問題がテーマになったんじゃないかと思うのですが……。まあ答えは出たかどうかわかりませんけれども、なにか最後に一言ずつでもおっしゃっていただくことがございましたら……。

樋口　私の立場から言うと、インテリアについて批判を承りたかったんです。

先ほど、エクステリアは統一したらいい、中は個々おのおの好きなようにやればいい、と。

確かにそうなんですけども、たとえばインテリアにおきまして、いまはもう世界のあらゆるものが日本へ来ておりますね、バロック、ロココのイミテーションも来ている、そういうものを非常に喜んでとり入れている。それは個性があって、それが好きだったらそれでいいんですけれども、そういう姿でいいだろうかどうだろうか、そういうような点について……。

西沢　ものによりますけれども、建築の骨とか筋肉とは切り離して、ほ

んとは皮膚だけでやるインテリアというのがありますね、あれはかなり問題……どっちみち皮膜ですからね、皮膜の処理でいいんですが、皮膜の奥のほうにやっぱり筋肉が少なくとも感じられるようなインテリアでないといけないでしょうね。

その点はいまのインテリア、私もインテリアの専門家の方とつき合ってみて一番驚いたのはそれで、こっちの壁とあっちの壁といとも簡単に仕上げをかえて痛みを感じない。あれはほんとうに皮膜の処理ですね。もうちょっと奥まで浸透した皮膜であってほしいという気がしますけれどね。

富安　今日の話に関係がありそうで、出そうと思ってとうとう出せなかったのは、その部分と全体とに関係あるものとして、町で最近建築協定を住民が使って、自分たちの手で町の統一をしようという動きがありますね。これはできてる町では非常にむずかしいんですが、新しくできた町で、できれば軒並みをそろえようとか、屋根の色ぐらいそろえようとかね。あまりにでこぼこさせないとか、……勝手に物置をつけ足したりしないで、表通りはきれいにしようとか、そういう運動が方々で起きてますんでね。それが住宅地にもかなり広がりつつある。それは日照権の問題とか、いろんな違う要素からも出てきてるんだと思うのですが、これはわりにおもしろい、新しい行き方だなという気がします。まあ部分と全体というのを個々のほうから積み上げて全体の意識が出てきたというふうな例としておもしろいんじゃないかと思ってます。

岩本　こういうひとつの理屈、いかがですか。たとえば自分といったらひとつの部分でしょう。そうしたら自分といったら一体なんや、自己とはなんやということを考えてみますねん。たとえば自分の中に腎臓はどこにあるやわかれしまへんやろ。胃ぐらい知ってますけれど、肝臓はどこにある、何やらがどこにある、ひとつもわかれしません。しかしそれは自分の腎臓、自分の肝臓でっせ。どこにあるかわかれへんけれど、それはおのずから機能してるわけですわ。〝私〟が動けといって、動いてるのと違いますねん。自動的に動いてるわけです。〝私〟が死ぬまで、心臓は動いてくれよるわけです。動かしてるのじゃなしに動いてるわけです。で自分の頭脳かって、これ自分で考えてんのかいうたら、それは自分の考えですけれどね、その考え自体、それは何やといったら、教育された考え方ですわ。いままでの集積で考えてるわけです。そうしたらそのいままでの集積をもし違えたらとしたら、違った自分があるわけですね。そうすると自分といったら一体何やといったら、まことに不安定ですよ。自己というものはあれへん、自己という部分もあれへんということになるわけですね。そうしたらその部分から全体を、というけれども、自己それ自体が何もなかったら、全体かってあれへんやないかという……

自己と全体、個と総体、無と有の関係を哲学的に論じることができる
―岩本・注―

水谷　さっきの岩本さんの、強権という話とも関係するんですが、ぼくはやっぱり部分というものに対する密度の高いコミュニケーションとか、それを知ってることをはずして、全体をやったらだめだということが、一番大事だと思うのです。

たとえばハウジングで一番問題なのは、部分って、一戸一戸に対するコミュニケーション、ゼロなんですよね。人が決まらないのに家をつくってしまう。それで全体で押していくから、やっぱりまずいんですよね。

京都の町家の場合は、それはたまたま借家という形態はあったかもわからないけれども、やっぱり一軒一軒の人の生活とか好みとか、その人の意志だとか、そういうものを知った上で、その部分を押さえていった上で、全体をつくっていったわけですね。その辺が一番大事でね。だからぼくは建築屋さんの数を少なくして強権的に統一のデザインをつくるというんじゃなくて、やっぱりその一人一人の人が、たとえば五百戸ぐらいのハウジングなら、五百人の人が、その団地に住みたいという人がまずお施主さんになって、その一人一人と話をして、そして五百戸の家をつくる。たとえば、ハレン・ジイドルングがそうですよね、建築屋さんがプロデューサーになって、その団地に住みたいという人をまず協同組合で集めて、そして一人一人の意見を聞きながら住宅をつくっていったわけでしょう。やっぱりああいう行き方をしない限りだめだと。だから部分を知らんで全体をやるのはいかんという気がしますね。

富安　このごろそういうのが出てきましたね。アパートの居住者を集めて、意見を聞きながらアパートをつくるという、何かね。

水谷　そういう行き方が一番大事だと思いますよ。

川崎　まあそういう掘り起こしに対するいままで建築家の努力も確かに少なかったし……

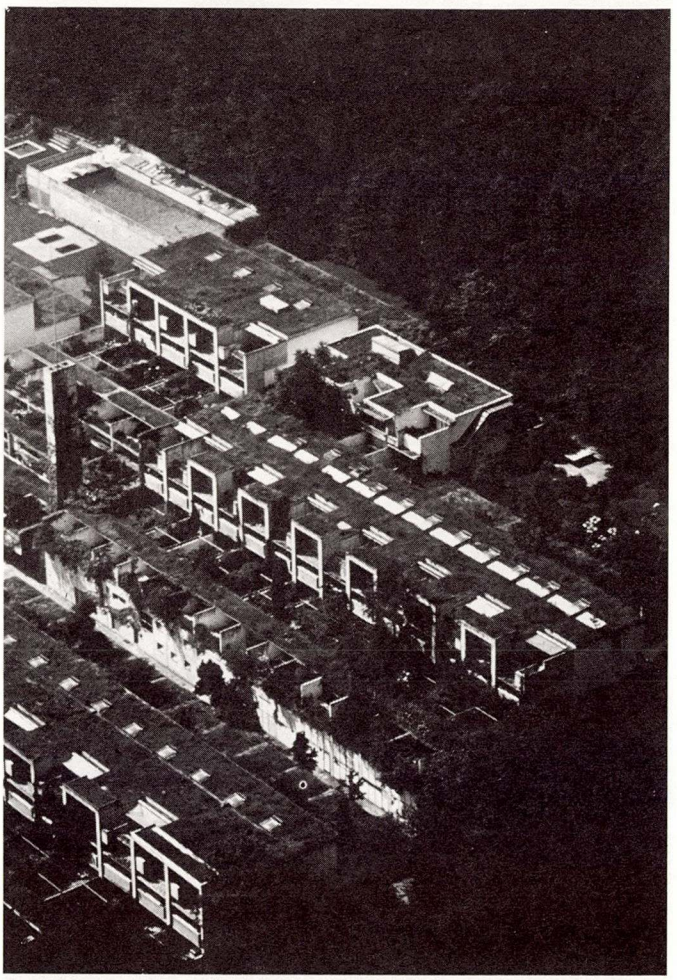
水谷　少なかったしね、そういうことをすべてカットしようとしてきたわけね。そういうめんどくさいことはやめようという……。それと、そんな一人のお施主さんと密度高く話し合いもできへんのに、そんな五百戸のハウジングをするというのが間違うてるわね、はっきり言ったら。

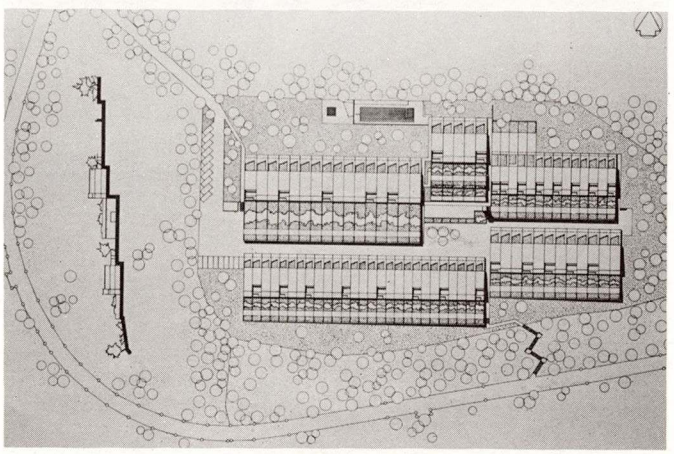
富安　そうですな、基本的にはそれができてないと……

水谷　いや、一軒の住宅の設計もできないのに五百戸のハウジングができるということ自身がおかしいと思うのですよ。建築屋さんの行き方として。姿勢としてね。

川崎　ではこの辺で……。

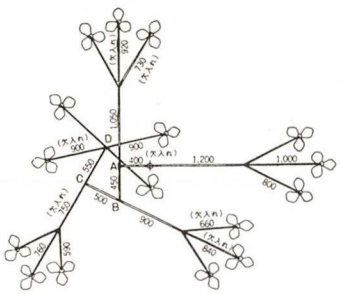
（紙面の都合上、記録の約1/3を割愛しました―編集）





ハーレン団地　　GA No.23より

アンケート
デザインの動向―部分と全体



●最近のデザインの動向として、量より質の問題がクローズアップされ、個の尊重にともなういろいろの役割がいわれるようになってきた。本誌昨年の1月号の特集「証言'76――デザインの動向」における関西の建築家たちのアンケート回答文にも明瞭にあげられていた「部分からの発想」「質への転換」「装飾の理論」「ディテールの評価」などのデザインの流れを一層追跡するために、今回、このアンケートを試みたものである。

●アンケートの趣旨とアンケートテーマは下記のとおりであるが、アンケート依頼先は、とくに関西において、主として昭和生まれでかつ第一線で活躍し、あるいはしようとしておられる計画者、建築家、インテリアデザイナー、インダストリアルデザイナーの四つの分野の約60名の方にお願いした。そのうち、回答をいただいた方は別記の49名で、計画者12名、建築家17名、インテリアデザイナー12名、インダストリアルデザイナー8名である。

●なお、寄せられたアンケート文章の標題は編集の方で付けたことをご了承ねがいたい。また添付された写真などは本人の文章のあたりに集録したが、編集側で挿入した写真はこちらで一応区分けし、説明の末尾に〈編集〉と記した。

●ご協力いただいた各位に厚くお礼申しあげるとともに、このアンケート文から今後のデザインのひとつの動向を読みとっていただければ幸いである。

アンケート主旨

昭和52年1月号は、昭和51年1月号「証言'76―デザインの動向」を受けて、デザインの動向として「部分と全体」をそのテーマにとりあげていきたいと考えております。

われわれをとりまく環境はますます拡大され、巨大化されつつあり、個人的な領域との間をひろげています。安定経済にある今、量より質への転換、個の尊重というように、われわれ自身の足元を今一度見直そうとする気運が高まりつつあるように思います。

部分と全体はデザインにとっても常に重要な問題です。ここで、部分をある状況の中でとくに意識している対象であり、それは人間の五感でとらえられるような、われわれに身近なものと考えます。一方、全体を、先にあげた状況にあたるものとし、それは個々の人間を超えた、よりグローバルな機能や構造などのような体系と考えてみたとき、計画・設計に際して、部分をどのように把え、またそれを全体にどのように関係づけられているかを、おたづねしたいと思います。方法とか道具などというような、日常ご経験のことのいくつかをザックバランにご回答いただければ幸いです。

なお、このアンケートは別紙の方々にお願いしております。比較的若い年齢層の方々ですが、これは、とくに現状を鋭敏な感覚でとらえ、困難にたち向かって実際に第一線で仕事をしておられる方々からのなまなましい経験をお聞きしたかったからです。どうかよろしくお願い申しあげます。

アンケート・テーマ

1 あなたにとって関心のある「部分」は何でしょうか。一般的に述べていただいても、また現在のお仕事の中での「部分」ということでも結構です。

2 また「全体」は何でしょうか。

3 部分の集積がそのままストレートに全体へ連なるという幸福なケースはまれでしょう。部分と全体を繋ぐものは何でしょうか、方法とか道具として考えられるものを、お聞かせ下さい。

4 あなたのすきな部分の具体例をあげて下さい。そして、それについてのコメントをお願いします。できれば、写真やスケッチを添えて下さい。

A 計画分野（含造園）
1. 都市デザインにおける部分と全体 / 近藤達夫
2. 団地空間の組織 / 山地英雄
3. 詩と物語りがあること / 藤田邦昭
4. アプローチ空間とおさまり / 西岡康夫
5. 町づくりと住民の生活 / 梶浦恒男
6. 住民のコンセンサス / 大西国太郎
7. ユーザーの参加 / 井口勝文
8. にんげん回復のまちづくり / 山田俊満
9. 職人 / 中村一
10. 金沢のまち―「水」 / 島村昇
11. 全体学への序説―空気― / 吉村元男
12. つなぎの空間の創出 / 杉本正美

B 建築分野
13. 建築の成熟―部分を磨くことを通じて― / 小角亨
14. 建築のなかの動物 / 松村慶三
15. 都市行政―建築―ディテール / 竹山清明
16. みどり・道・広場 / 徳岡昌克
17. 「筋」の認識 / 遠藤剛生
18. 影（空）の介入 / 出江寛
19. 包括的混成システム / 吉村篤一
20. 住まう人の意志の反映―都市住宅単位― / 中筋修
21. 「部分」と「全体」についての思想 / 山崎泰孝
22. 空間に秘められた暖かさと「心」 / 松村賢治
23. 建築作品の身体化―詳細のくずれは建築のくずれ / 渡辺豊和
24. 詩を読み絵を描きたくなるほどの… / 瀧光夫
25. 帰属感の問題 / 東孝光
26. 1/100、1/50のスケールで考える / 太田隆信
27. 住居と集落をつなぐもの / 安藤忠雄
28. デザインの総合活動と文明 / 北島道生
29. 技術的判断と社会的要求との調整 / 竹本丈太朗

C インテリアデザイン分野
30. 商店街とエレメント / 福岡喜久雄
31. 中心無き全体 / 藤川宏允
32. 標識という部分のいらない世界 / 坪居恭平
33. トータルインテリアとシステムデザイン / 柏原秀夫
34. 椅子と椅子のある空間 / 谷本衣子
35. まともな部分を時間的全体で評価 / 伊吹弘
36. 素朴感と色彩との対比 / 中村隆一
37. 住宅における生活のための装飾 / 平井進
38. 念 / 佐々木恵子
39. 社会的共通の言語 / 安永一典
40. 生活空間における繊維 / 山口道夫
41. ハードとソフトの繋ぎ屋 / 山内陸平

D インダストリアルデザイン分野
42. 作り手と使い手を「正」の相関関係で結ぶ / 坂下清
43. 幸福な鎖と不幸なレンガ / 日野永一
44. 生活空間と電器製品 / 巽正和
45. 製品・人・社会・対話・概念 / 多田愛実
46. デザイナーにとっての部分と全体 / 鶴岡英世
47. 物理的発想から機能的発想へ / 熊谷和郎
48. 実体とイメージ―デザインは妥協の行為 / 高井一郎
49. 地下空間は地上空間の部分ではない / 東方洋雄

●まとめ



A

計画分野（含造園）

デザインの動向―部分と全体
アンケート

都市デザインにおける部分と全体

近藤　達夫

絵画・彫刻等の芸術に比して、現代の「都市」並びに都市を構成する要素としての「建築」に対しては、近代社会経済活動の「うつわ」としての実用性が何よりも強く要請され、この効用を求めて固定資本形成が続けられた所産として今日の都市景観があるといって差し支えなかろう。したがって、都市デザインにおける部分と全体を論ずる場合には、さきに述べた絵画・彫刻並みの芸術観で論ずるわけにはいくまい。

だが、それにしてもわが国の諸都市には、京都・奈良のように美しい、そして由緒ある部分を内蔵した都市もあるが、概して醜悪な都市が多いと思う。この原因は種々考えられるが、さきの高度経済成長に伴う人口・産業の急激な都市集中に際して、これらのうつわとしての市街地および建築物の整備は、その大部分がスプロール地帯に見られるように、なりふり構わず進められたことも一因であろう。そして、このため市街地の景観が一段と乱雑かつ醜悪なものになったことは否めない。

では、今後都市を美しくよみがえらせるためにはどんな配慮が必要であろうか？まず第一に、個々の建築物のデザインが優れていることが必要であろう。しかしながら、都市を構成する基礎的ユニットとしての個々の建築物が美しければ、その集合体としての都市も美しいといえるであろうか？――明らかに「否」である。――部分の美しさは全体の美の必要条件ではあっても、充分条件とは言えない。実は、この辺が非常にむつかしいところであると思う。そして、これを論ずるのは私の能力以上のように思われる。

そこで一歩退いて考えてみたい。「都市美を追求する」ことは裏返して言えば「醜悪なものを排除する」ことであろう。では、何が醜悪か？……スラム、スプロール、ペンシルビル、カンバン、広告、どぎつい色彩やネオン、電柱、電線、トタン屋根、歩道橋や高架道路の裏側、防汐堤……等が列挙されよう。これらの除去もしくは縮小が都市全体の美観の向上につながることは論を俟たない。では、いかにして実行するか？……これがまた大変厄介な問題であって、行政が直接行うことよりも民間ベースで達成される部分が圧倒的に多い。

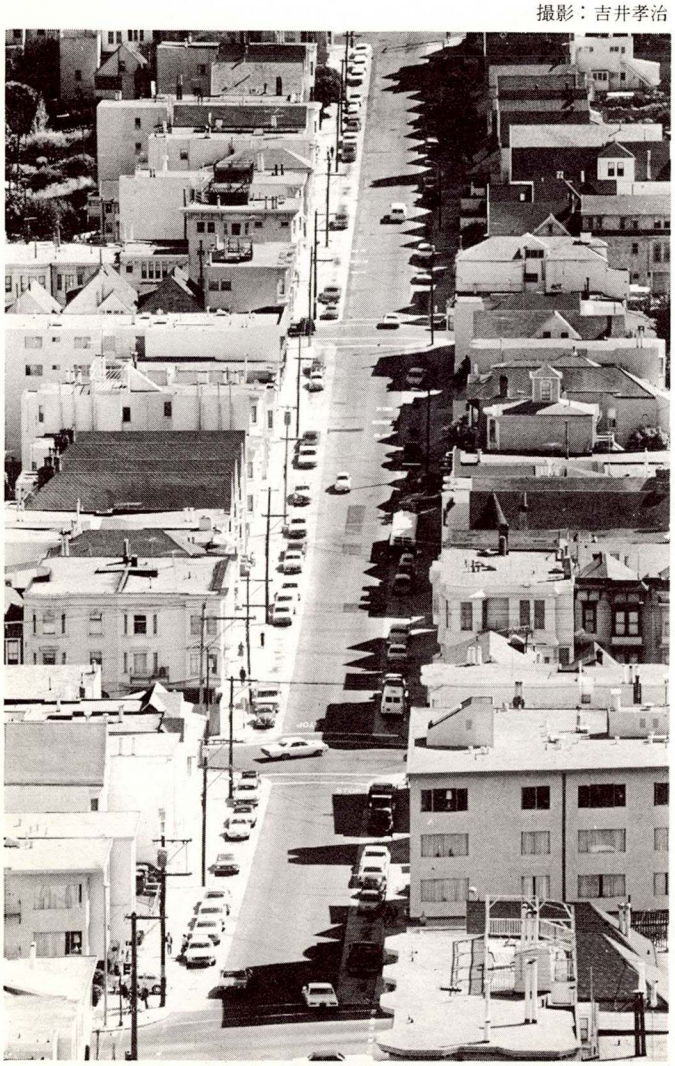
単に私見として述べるならば、防汐堤はスペースさえ取れれば、堤外地をバンキング構造として植樹したい。高架道路は築港深江線の船場部分のように高架下に建築物を併設すればデザインの良い構造物になるはずである。将来はビルの脇腹を縫って高架道路を整備しても良いのではなかろうか。このためには関係法令の改正が必要であるが。

一方、建築物群のデザインについては努めて共同建築による大規模化を図り、ペンシルビルの乱立を避くべきである。そして、公共用歩廊、前庭、植え込み、あるいは低層部屋上のルーフガーデン等のセミパブリックスペースの組み入れが配慮されることが望ましい。これらが適切に設けられた場合、とくに土一升金一升と言われる都心ビル街においては、環境上きわめて貴重な要素になっていることは周知のとおりである。

建築形態に関して、高さの統一、壁面線の統一等による統一性の美を追求する考え方は、パリを見てきた人々は異口同音に提唱するように思われるが、わが国においてはさきの容積制への移行によって、高さの統一は至難のわざとなりつつある。ただ、斜線制限が働く以上、高さにも限度があり、広幅員道路、大公園、水面等に接する大規模敷地内か都市計画で定めた特定街区以外はそう高いビルは建てられない。そこで、都市全体の景観に大きく影響するような超高層ビルの建ちうる敷地は、そうざらにはない。いま、民間数社が共同で計画中のO．B．P（大阪ビジネスパーク、東区弁天町）は、こんな数少ない大規模敷地の一つと言えよう。このような都市景観のポイントとなるような部分のデザインを都市全体のデザインの中でどう位置づけ、どう形成していくかが、今後、公共、民間を含めて大きな課題であると言わざるを得ない。

（こんどう　たつお　　大阪市総合計画局調整部主幹）

撮影：吉井孝治



団地空間の組織

山地　英雄

昔から調和のとれた美徳の表現として、知情意とか霊知心とか知仁勇とか言われてきたが、これを絵で表すと、それらが最もバランスのとれた場合、正三角形の形にでもなろうかと思う。しかしこのような平面的な三角形ではご承知のように、

2辺の長さの和＞1辺の長さ

の範囲でしか成立しない。しかし一般にはそうでない場合も多いはずで、三角形では、そのような一般的なケースが表現し切れない。そこでこれを三角錐の形に想定し直して、その三つの稜線をそれぞれの要素と考えると、ここでは三要素の組み合わせに関する限りは無数に可能となる。しかしこの場合も、その要素は所詮三つに限られるわけで、この要素の数を拡げていくと、結局は円筒形が考えられることになる。



図1

私どもの団地造成の場合は、その規模の大小にかかわらず、その団地を構成する要素（部分）は多岐多様で、これを思いつくままに挙げてみると表1のようになる。そしてこれと先ほどの円筒形とを重ねて表示してみると図2のようになる。

表1　団地造成の要素（部分）

立地選定 区域決定 経営予測	経営計画
住区構成 居住密度 土地利用	空間設定
宅地環境 独立住宅 共同住宅	住宅施設
交通施設 道路施設 公園施設	公共施設
教育施設 購買施設 医療施設	公益施設
地形測量 土質調査 流土計画	宅地整地
上下水道 電気瓦斯 電話塵介	供給処理

このように団地造成の計画というものは、数多くの構成要素（部分）の一つ一つについて、それぞれの理解と解析に努めることはもちろん必要であるが、団地造成の展開に応じて、その部分である各要素をお互いにフィードバックさせながら、円筒形の回りをクルクルらせん状にまわらせて、団地計画全体の精度を徐々に高めていくことになるわけである。

私は団地造りの実態をこのように表現したらよいと常々考えているので、この考え方を述べてアンケートの答えに替えた次第である。

しかしこのような考察は、団地空間の決定に対して、いかにその生成の契機を正確に把えようとしても、一視点から眺めた冷たい一こまのパースペクティブにしかすぎない。私はむしろ、このような団地空間をつくり出す組織、――その中では安易な妥協ではなくて厳しい対決が、また見えすいた打算でなく無駄な挑戦が、常にふきあげる個人と全体とのつながり――そのような組織自体への関心をより深めている。

（やまじ　ひでお　大阪府建築部営繕長）

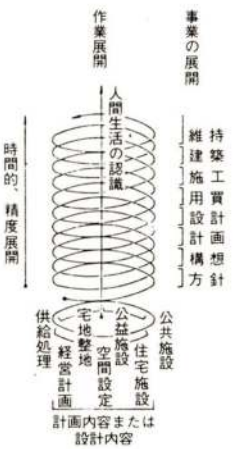


図2　団地造成の展開

詩と物語りがあること

藤田　邦昭

1 街を構成する小道具類

街の中には街路灯、ベンチ、道路表示、郵便ポスト、看板、ベンチ、信号灯、電柱、方向表示札、いろいろなものが存在しています。

これらの一つ一つが心あたたかく、それぞれの街の特色をもってデザインされておれば街はどれだけ楽しく、美しいものになるでしょうか。街全体をつくり変えることも必要でしょうが、まず手近くのこのあたりで街の人達が話し合ってきれいにしていきたいものです。

2 街全体に詩と物語りがあること

それぞれの街区、通り、街全体がたんに機能的に整備されているだけでなく、その一つ一つに詩があり、物語りがあり、町全体が、またそれらの構成の上になりたっておればどんなに楽しいことでしょう。現在小京都といわれている都市は大体そのような都市のようです。大都市、工業都市、港湾都市それぞれの歴史と伝統、あるいは未来に対して市民が誇りにできる物語り、詩哲学があって欲しいものです。

3

ハードな面として街路、緑道、前記小道具類、ソフトな面としての市民のつどい、これらが融合して展開されることに期待したいと思います。

4 神戸の街

全体に詩を感じます。街を10分～20分歩けば六甲の緑にふれられ、港に出れば外国船が見えます。それぞれの通りが特色を出しています。今後、港附近が散策できるところとして順次整備されれば、100万都市として世界に誇る街となりましょう。

（ふじた　くにあき　　ＫＫ都市問題経営研究所所長）

神戸・北野町〈編〉



アプローチ空間とおさまり

西岡　康夫

1

私の関心ある部分は、前面道路から建物までの空間（アプローチ空間という）および広場を構成している材料の「おさまり」である。

建築家が建物を設計する場合、機能を満足すべく、平面プランを検討するのはもちろんのことであり、外見的には建物の形およびファサードをとくに重要視しているように思われる。

建物を人にたとえるなら、形はスタイルであり、ファサードは顔であるが、アプローチ空間は髪の形になるのではないだろうか！　昔から、襟足の美しい女は美人と言われているように、アプローチ空間はとくに建物の良さを決めるポイントであり、重要視しなければいけないと思っている。

最近、とくに建物の立地が都心において、高層、高密化により、容積規制で空地の確保が義務付けられている。また、都市の拡大によって、丘陵地における建設が、余儀なくされ、前面道路に対する敷地の取り合い、および法面の処理が必要になっている。

以上のことから、道路と敷地の「おさまり」として、とくに注意したい点は、

(1)　排水の構造

容量的に処理可能な構造であることはもちろんのこと、仕上材料、道路および土地との取り合いについてもていねいな設計が必要である。

(2)　広場のペイブの仕方と、土地の処理

最近、空地があれば、人工的なペイブの仕上げが目立つ。これは土地処理の難しさ、維持管理上のためによるものかもわからないが、都市では自然にしたしむ空地が少ないため、土地のあつかい方に注意すべきである。

(3)　法面のおさめ方（擁壁の構造、植栽の方法）

擁壁は防災上、かつ、敷地の有効利用上から必要であり、構造上の安全性は言うまでもない。外見上、擁壁は一番目につくため、仕上材料に注意する必要がある。法面の植栽についても、メンテナンスの影響にもよるが、植栽計画の良し悪しにより、建物に対する効果も大である。

2

全体とは、都市と思われる。

3

都市の良さを表現する主要素は幹線道路の街並みではなかろうか。この街並みは、建物の形およびファサードにも多少影響されるが、道路と建物との空間のおさまりによって、大きく左右される。

また、都市の表玄関となる駅前広場および地区の拠点となる広場も、整備の仕方により、都市の良し悪しを決定する大きなポイントになると思われる。

（にしおか　やすお　　大阪府建築部営繕計画課）

町づくりと住民の生活

梶浦　恒男

アンケートについて、全体的な回答になります。

私が目下関心をもっているのは、豊中市庄内地域でとりくまれている住民参加の住環境整備事業です。このとりくみの過程で、部分と全体という問題は、いくつかのテーマとして提起されているようです。一つは、都市を構成する居住地の単位をどうとるべきかという全体（都市）に対する部分（対象エリア）の問題です。この点について説明は略しますが、住民参加という点でいえば、部分はかなり小さいことが望まれます。200～500戸ぐらいではないか。ところが、日本の都市は都市のストラクチャーが定まっておらず、住環境整備はかなり広いエリアの骨格づくりをみとおすことと同時にすすめねばなりません。イギリスのＧＩＡやＨＡＡが数百戸単位でなされているのに対して、庄内では住民の再開発協議会のエリアは4000～16000戸といった状態です。このような広いエリアでの住環境整備計画づくりと、数百戸単位での計画づくりとでは住民の要求の出方がことなっています。すなわち、二つめに、住民の町づくりなり、環境整備に対する要求についても部分と全体の問題が存在するのです。住民の要求にもとづく町づくりにおいて、住民の身のまわりの環境整備という要求（部分）と、一定の地域なり、都市に対する市民なり国民のトータルな要求（全体）をどう繋ぎ、統一するかということが重要な、具体的課題となってでてきます。その方法や道具とは何かという問いですが、その回答は容易でない。目下のところ、漠然としたいい方ですが、それは住民の組織であり、住民の町づくりの実践であり、多様な試行錯誤の過程であろう、別のいい方をすれば、教育であろうと考えています。

ところで好きな部分の具体例ということですが、好きだというより、きわめて興味をひかれるのは、何といっても“街のたたずまい”です。“文化”やアパートの建てこんだ街区、おかみさんの立ち話しする小路、ハチ植えの並ぶ日溜り、住み手にとって居住環境は決して快適なものではなく、改善されるべき点は多いのですが、しかしそこは住み手のいろいろな工夫された空間づくりもみられ、興味がつきません。その空間の面白さは、変化の面白さでもあるようです。子供をしかる母親の声がきかれ、子供の遊ぶ声、泣く声、笑う声、人の動き、昼と夜では、同じ通りが全く別の場所のように趣を変えてしまう。それはとくに商店と人家が混在しているようなところに多いようです。

話は違いますが、マンションのベランダに洗濯物を干すと見苦しいという意見がよく聞かれ、とりしまりのきびしいマンションも多いとのことですが、どうも私にはその感覚がわからないのです。生活の動きのある空間、そのような「部分」こそ飽きのこない「部分」ではないでしょうか。生活の動きに負けてしまう「部分」のデザインとは本当によいデザインなのでしょうか。

（かじうら　つねお　　大阪市立大学生活科学部講師）



建築と社会2生活と空間の原理・京の町内5より

住民のコンセンサス

大西　国太郎

1 および 2

十数年前までは主として建築を、その後においては都市を対象とした仕事にたずさわってきた私にとって、部分とは建築であり、全体といえば都市をおいてほかにはない。この両者をつなぐ課題は、私にとって最大の関心事ではあるが、一方この両者がいかに遊離しているかを常に思い知らされているのが現実である。端的に言えば、明治以来わが国においては、建築は本当の意味で都市計画の要素としては扱われてこなかった。むしろ、建築は都市の秩序を維持するために押さえ込む要素として扱われてきたとさえ言える。

しかも、現在のように都市における建築が高密度に達した段階では、建物が建てば建つほど環境が悪化する状況を呈し、建築規制の強化を望む声がたかい。しかし、こういった消極的規制だけでは、都市の環境を良くしていくことはできない。

3

都市に再び住み憩うことのできる良い環境をもたらすためには、さらに、一歩を進めて、都市に空間的なゆとりや情緒を生みだすデザインが必要である。このデザインの実現をはばむ最大のネックは、都市における土地の細分的所有である。その根本的解決は、土地所有制度の改革にあるが、いますぐその実現は望むべくもない。当面このネックを打開する道は、二通りの方向で考えられる。その一つは建築の共同化を進める道である。市街地再開発事業等がこの線上にある。いま一つは、建築は敷地単位で行うが、住民のコンセンサスによって町筋ごとに町づくりのストーリーをつくりあげ、その実現に必要なルールを設定し、これに従って徐々に町筋を整備していくという方向である。

たとえば、ある町筋では、1階部分の前面をアーケード化して歩行者の用に供するとか、あるいは容積制で生まれた空地を緑化し半公共的利用に供したり、これらを連けいし視覚的なゆとりをもたらすためのデザインをするなど、あるいはまたその町筋に特定の情緒を生みだすためのデザインのルールを設定するなどが考えられる。この場合、一番大切なことは、このルールに従って行う整備が、大きい意味でその地域の発展や環境の改善をもたらし、将来大きく還元されるのだという明確なコンセンサスを得ることである。このようなミニ再開発ないしは整備修景事業ともいうべき事業を誘導し奨励する制度を生みだす必要がある。この着想は、つぎにのべる伝統的な町並みの保全修景事業に取り組んでいる間に生まれてきたものであり、両者は本質的には何ら変わりないものと私はみている。

京都市では、現在清水産寧坂と祇園新橋の両地区に特別保全修景地区（京都市市街地景観条例に定める制度の一つ）を指定し、その保全につとめている。その地域にふさわしい特定の建築様式（外観木造2階建、京風町家）をいくつか用意し、その基準にもとづいて修理したり、修景したりするというかなりきびしい規制である。多少の補助金があるとは言え、この制度が住民の支持を得ている最も大きい理由は、その地域の経済的発展や情緒的な居住環境の保全のために何らかのルールが必要であるとのコンセンサスがあり、市側の提示したルールを自分達で検討の上自らこれを選択したという自覚があるからである。

都市と建築をつなぐ根本的な基盤は、住民のコンセンサスにあると考えている。この場合、住民の潜在的な願望をいかに引き出し、ルール化していくかの鍵を見付け出すのは、行政や専門家の役目であろう。

4

働くためだけの場ではなく、また住むためだけの場でもない、生活の全部がその場にあり、将来の希望とか生きがいまで感じとれる生き生きとした町筋。

（おおにし　くにたろう　京都市都市計画局風致課主幹）

ユーザーの参加

井口　勝文

1

都市計画の分野に限っても、さまざまな角度から「全体」と「部分」とのヒエラルキー的構造が明らかにされておりますが、私としてはその出発点は個人の日常性、その内面生活にあって、あらゆる部分の問題は常にそこから見直されつづけねばならないと思っています。したがって私にとって「部分」とは何であるかという問いをつきつめていけば、「個人の日常性、その内面生活」であるという、きわめてナルシストめいた、女々しい、至極当然な答えとなってしまうものもこれは致し方ないことです。個人の日常性、内面生活とは、たとえばカフカの「変身」に現れる毒虫、巨大ないも虫のごとき生活でありまして、自分自身は外界に対して常に正常な位置づけを主張して何らはばからないにもかかわらず、その主張は常に一方通行に終わって反応もなく、それもそのはず、その声は実は外界から聞けば人間の声にはほど遠い、ピーピーと鳴くがごとき不協和音にすぎないのです。そして、この毒虫の生活と訴えとはほとんど断絶したところで、外界の状況は着々と何の差し障りもなく進展していくのです。これは安直な民主主義やイデオロギーの問題ではなく、われわれが達成した逆行不能のひとつの現実であります。

2

現在のところ私にとって関心のある「全体」あるいは「全体像」というものはありません。詳しく申せば、部分を集積して全体を構成する、あるいは全体の存在を認めて部分の在り様を求めていく、あるいはその間の絶え間ない弁証法的フィードバックの作業を重ねながら全体と部分の一定の関係を求めていくというがごとく、「部分」と「全体」とを連続的な存在とする方法論を私は持っておりません。この種の方法論は正直申し上げて私にとっては手に余る大問題、大難題でありまして、同時に妙に白々しい大難題でもあるのです。

私にとって「全体」とは、計画のさまざまな局面でぶつかることになる物理的、経済的、社会的、政治的な今日の状況であり、それは常に「部分」の問題に解体するべき攻撃目標としてのみ現れてくるようです。言いかえれば、「全体」としての存在の意味をいかに小さく限定して「部分」としての存在の領域をどれだけ拡げられるかということであります。「全体」のテーマを解体して、いかに個人の日常性のテーマにまで接近できるか、これが私にとって「全体と部分」に関する関心事であります。

3

都市と建築に個人の日常性、内面生活が関わりを持ち得る可能性は、ミラノのジャンカルロ・デ・カルロが執拗に主張しているように、都市と建築の場におけるユーザーの〈参加〉の可能性を拡げることによって得られるものと考えています。〈参加〉は単に、計画への参加だけでは十分ではなく、建築の生産体制そのものの変革を迫るような、建築産業への参加が必要です。都市と建築は供給されるものではなく、自給されるものでなければなりません。

4

スペインはジブラルタルに近い小都市、ヴェヘルの裏街。石積みの家々は白とグレー。暗緑色のオリーヴ。低くたれこめた雨雲。無意識に魅惑的なポーズをとる少女マリーナ。黒衣の女。都市における日常性の完璧な表現。



（いのくち　かつぶん　KK竹中工務店設計部）

にんげん回復のまちづくり

山田　俊満

数年前に世間を騒がせた「日本列島改造論」は、表面的に見た限りには、今までの日本では余り見られなかった全体計画の具体化へのユニークな読み物として私は評価している。ただ残念なことには、これを著した男がその後発覚した罪状の数々にも出たように、どうも社会のごく微少なる部分である「私心」のためにこれを利用したらしくて、そんな影響もあってか、そのことが表面化するやこれを機に改造論（幻想であったが）の方は抹消されて当然だが、この種の全体的観点と個人生活との対応の上での考え方や計画は一切引っこんでしまった。

さて、私が日常生活の中で意識する「部分」とは、社会の中の存在としての「自分」と、その自らを置く場所としての空間スペースである「部屋」に始まる。そしてその個人や部屋をいくつか集めて一戸の住宅を、住宅群が農村を、都市を、さらに国々を、地球をと全体の形成へと連続拡大していく。この10㎡余りの「自分の部屋」を見廻して「これも無限の宇宙の一部やがな」と。

このように一般的に部分と全体の関係が不可分である以上、その最小単位である部屋、あるいは住宅というものは本来かなり綿密に計画され、施工されて人が居住するに不足、不便するようなものが仮にも提供されてはならない。従来からわが国では物事に対する見方、考え方や行動が極端に走るようで、たとえば住宅問題に見られるとおり「量」のみの計画を唱えてきたかと思えば、その結果としての「質」問題がのっぴきならぬところまで追いつめられてから今度は「質だ、質だ」と掛け声の計画が始まり、全体としての「質と量」の配慮に欠けているようだ。こんなことだと、そのうちに環境問題とか通勤時間などの問題がどうしようもなくなった頃にやっと本格的に取り上げられることになりそうだ。

現在地球上の全人口が約37億人と推定されており、今世紀末から21世紀初頭にかけて何か異変がない限り70億人くらいに達すると言われている。世界人口会議や世界食糧会議などでもこの解決策を求めて今や「地球号の上でともに生活する人間達」という考えの中で私達の生活は把えられてきている。その中ではいろんな対立を生じているようだが、たとえばそれらが資源その他経済問題を伴って私達の生活を今や左右しようとしてきている。37億分の1億1千万分の1人である個人の存在はとるに足らぬもののように見えながら、集積されると重みが明確になってくる。すなわち「計画」と言われるものの必要さ、重要さがここにある。

私はこれからの国土利用計画とはそのような全地球的な観点を背景に考えることが求められる一方、もう一方のサイドからの積み上げ、すなわち個人よりの必要性や要求に基づく個人の身の廻りの問題の積み上げである部屋から住宅へ、環境へ、施設へと生活と対応したものが計画され、建設されていく過程と連続していなければならないし、これはどの部分で欠けていても問題が生ずる。それは恐らく人間が物理的な面だけでなく精神的にも「やすらぎの場」を得るための「定住性」の問題に到達すると思われる。

このように考えてくると、爆発的に増加していく人口に対処するには部分と全体との関係を十分把握し、考慮しながら計画に当たらないと、国家的というよりは地球的（人類的）な見地からも取り返しのつかないような損失を招来するであろう。

（やまだ　としみつ　日本住宅公団関西支社平城開発事務所事業計画課長）



職人

中村　一

1

全体に対する部分を、職業上の問題としてとらえたとき、もっとも関心のあるのは物をつくり出す部分、すなわち、建築や造園の労働者である。職人といってもよい。

私自身の体験から話をひきだそう。最近私はコンクリートプレハブの家を建てた。そこで内装の大工さんとしばらくつきあった。九州から出てきた兄弟2人のチームである。気持もよく腕もよい職人で、下請会社の下請の部分である。このいわば末端部分の大工さんが、施主としての私にとって、家の全体を考えてくれた人であった。

2

もちろん、もうひとつの全体――元請会社は存在する。営業、契約、監理、保証といった過程が元請会社のなかで全体として把握されているのは疑いない。しかしこの全体は官僚組織のような互いに無責任な全体のように感じられた。出来上がりにソツがあったわけではなく、むしろ予想したよりも良い出来ばえであった。それにもかかわらず、元請会社という全体はちっぽけな施主にとっては冷たい存在でしかなかった。

おそらく元請会社は家全体に対して施主の感付かない責任を負っているにちがいない。構造強度、材質管理、合理化による価格の引き下げ、等々。これらはたしかに重要な全体の構造に結びついている。しかし、これらは施主個人の住まい方という全体にはほとんど答えてくれないのである。

3

私の場合、プレハブの自由設計ということで、プランは自分で書いてみた。元請会社の設計部門からわずかなチェックがあったが、ほぼ原案通りの実施設計図で施工が進められることになった。実は、この過程で私は設計部門の人といろいろ話し合いがあるのかと思っていた。ところがそんな話し合いは全くなく、ある日いきなり工事課長と施工上の協議に入ったのである。このようなことはプレハブ業界ではむしろ常識で、これこそプレハブのメリットということになるのかも知れない。ただ私は自分の素案に比べて実施設計図でうまく解決してくれた点がたくさんあったし、また未解決のデザインもあったので、お礼かたがた話をしたかったのである。

残された未解決のデザインは、工事課長から現場担当の係長へ、さらに下請の現場監督へと受け継がれ、最後には大工さんが受けとめることになった。そしてこの順序で接触の頻度も高く、人間的つながりが感じられたのは当然といえば当然であろうが、結局、施主にとっての全体の問題も同時に会社全体から離脱してしまったという感を深くしたのである。

残されたデザインといっても、デザインというものの本性上、その解決は全体の要になっていくのがふつうである。階段と茶の間の組み合わせという一見何でもない問題であったが、大工さんと私はこの問題にかなりの時間かかずらった。そして大工さんは私にとって見事だと思えるデザインを考え出し、熱中してそれを仕上げてくれた。私はここで手ごたえのある全体に触れたと今でも思う。要するに、人間こそが、部分として、また媒介として全体をつくり出せると思う。

4

この階段と茶の間は今のところ私のもっとも好きな部分である。そしてここは、「この頃は面白い仕事がなくて」と言ってつぎの仕事に出かけた大工さんの再訪をいつでも待っている。

（なかむら　まこと　京都大学農学部教授）

金沢のまち—「水」

島村　昇

1　部分

私は金沢に暮らしているので、金沢のまちについて回答します。金沢では江戸時代から明治・大正・昭和の建造物や庭園があり、それらは単体である場合もあり集団的にかいわいを形成する場合もありますが、空間的に質が異なっているので、一つの質のまとまりを〈部分〉と考えます、というように感じられます。たとえば、城跡、兼六園、町並み、土塀街、寺院群、繁華街など面的にひろがりをもつ場合と線状にのびている場合がありますが、それらはすべてまちの部分と感じられます。これらの部分はそれぞれ固有の空間を演出し、まちの多様性を実現しているので、私はそれらのすべてに関心があります。結局〈部分〉は他の部分と異なっているからこそ〈部分〉であるとおもえます。これらの〈部分〉は、またごく広い意味でのコミュニティといえるかも知れません。

2　全体

部分の集まりが全体になりますが、なぜ部分が集まって全体になっているのか、逆にいえば全体はなぜ部分を必要としているのかということを考えます。空間的には部分が集まって全体になっているわけですが、部分と全体は空間的な問題だけではなく〈関係〉の問題でもあります。もし〈関係〉がなかったら〈部分〉は〈全体〉にまとめあげられません。したがって、〈全体〉は〈部分〉の〈関係〉とおもえます。たまたまちは、部分の接近性が必要であることから、空間的なまとまりをつくって全体になっているにすぎないとおもえます。

3　部分の集積

いま話を具体的にするために、部分をコミュニティとします。土塀のあるコミュニティ、寺のあるコミュニティ、緑のコミュニティ、水のあるコミュニティ、町家コミュニティ……。これらのコミュニティが全体的なまちとして機能していくためには、それぞれのコミュニティが活発に生活を展開できるような条件が整えられねばならないことはいうまでもありませんが、それぞれのコミュニティが特性をよく理解し、まち全体の中での「われわれのコミュニティ」をつくりあげていくように地方自治体はイニシヤティブをとることが必要とおもえます。金沢のように伝統的なまちでは都市デザインの素材はたくさんありますから、だれにでもわかる具体的なコミュニティづくりができるのではないかとおもいます。

4　すきな部分

まちのディテルとしての部分は、数えればたくさんになりますが、この頃その中でとくにすきな部分ということになると、「水」のある部分ということになります。金沢ではこの「水」のある部分がたくさんあります。その代表例は犀川・浅野川の河川景観、用水の流れる土塀（武家屋敷群区域）、市街縁辺の農村集落と用水、洗練されたところでは兼六園の庭園、溢いところでは滝のある料亭など……。水に緑はつきものですから、緑についてはあまり述べませんが、人体のほとんどが水分であるためか、ひじょうに生理的に「水」を求めているのではないかとおもいます。「都市の緑化」ということはよくいわれますが「都市の水系化」はあんまりいわれないのでたよりない気がします。だいたい「緑」も「水」がなかったら育たないとおもいます。結局、すきな部分を考えてみると、必ず「水」があります。その証拠に地下街では「水」がモチーフになっています。イワナは棲めませんわね。

（しまむら　のぼる　金沢工業大学助教授）

全体学への序説—空気—

吉村　元男

日頃、関西が主な活動の場となっているせいか、関西の都市はそれぞれに個性があって非常に興味がある。そのうちでも、とくに、京都、大阪、神戸は100万以上の人口をかかえ、互いに至近の距離にあるにもかかわらず、それぞれがユニークである。テレビドラマでも、この三都を舞台に、三都それぞれの方言をまじえ、人情のこまやかな生活が繰りひろげられる。このことは一見、なんでもない事実であるが、わたしには非常に不思議に思える。三都は新幹線、私鉄、道路網で緊密につながれ、1時間前後で互いに到達する距離にあり、なおかつ、都市化の波によって、すでに連担しているのである。いわば、一つの巨大都市といっても過言ではない。にもかかわらず、京都、大阪、神戸は依然として独自な個性をもち、将来もそうありつづけるであろう。画一化、均質化といわれる世の中にありながら、これはいったいどういう理由でそうなっているのだろうか。わたしには不思議におもえるのである。

比較都市形成史のような学問があれば、わたしの疑問も一挙に解決するかも知れないが、今のところそのようなものはないので、一つの仮説として、わたしはその理由を東海道メガロポリスという巨大都市の存在によることにしている。つまり、三都のそれぞれの個性は、巨大都市の出現によって、より顕在化したのだということである。いうまでもなく、メガロポリスのような巨大な構造は、全国の都市を画一化の方向に向かわしめる力として働くものであるが、また逆の意味で、それぞれの都市に個性を保障するとも言える。

このアンケートのテーマである、部分と全体をこのことに比定すれば、部分がそれぞれの都市であり、全体が東海道メガロポリスである。全体が部分の個性を生かし、それを保障する何かがあるのではないかという仮説を、わたしはここで言いたいのである。この場合の全体は、決して個人の生活感覚から言って快いひびきをもつものではない。なぜなら、全体は、「個々の人間を超えた、よりグローバルな機能や構造」（アンケート主旨より）であり、部分は「人間の五感でとらえられるような、われわれの身近なもの」（同）と思われているからである。

しかし、なぜそう定義されてしまうのだろうか。わたしは、全体こそ、人間の五感の領域の中に入るものでなければならないと思う。言いかえれば、今まで、全体ということに関して、あまりにも冷たい仕打ちをしすぎているのではないかとさえ思える。京都や大阪、神戸に住んでいる者にとっては、新幹線や東名、名神高速道路によって結ばれている東海道メガロポリスは、三都をおおう傘のようなものである。その傘のイメージはあまりよろしくない。新幹線ができたから、そこを往来する人はより忙しくなり、沿線住民も被害をこうむっているのである。全体に対しては、おおむね、それが巨大であり、怪物であるという理由で人々は抑圧されると考える。しかし全体ということは、それが傘であるからこそ、あらゆる人々にとって見過ごすことはできないしろものなのである。全体がこれほど人々にきらわれ、無関心となってしまったのは、やはり、全体について考える道筋なり、方法などに関してあまりウェートを置いていないからにほかならない。部分を抑圧しないで、逆に部分の個性をより浮かび上がらせるような全体の有り方を模索するような体系を、わたしは今日ほど必要とされている時期はないように思える。このような体系を強いて名づければ、全体学とでもいえようか。最後に、全体学の骨格になるようなヒントをあげておこう。部分の生存にとって必要な全体は空気のようなものである。それはどこにでもあるが、決して前面に出ることはなく、しかも、すべての部分にとって、単純で明快なものでなければならない。

（よしむら　もとお　環境事業計画研究所所長）

つなぎの空間の創出

杉本　正美

1

計画・設計における部分とは、全体を構成している諸要素であると考えるが、全体をいかなるスケールでとらえるかによって部分の認識は異なる。たとえば、コンクリート、ガラス、水、樹木などの素材そのものは、スモールスケールでの部分であり、素材の集合体としての建物や植栽などはスケールが大きくなった場合の部分であるといえよう。しかし、実際にデザインを行う中で私が意図する部分は、空間を構成する諸要素（素材そのもの、あるいは多くの素材の集合体）が、何らかの形で組み合わされ、そこに、新たな質として創出される空間である。構造物と構造物、構造物と植物、物と人間等の要素間に生じる空間がその例である。部分をこのように考えるとき、私にとって関心のある部分は、敷地と構造物の境界線の間に生じるあらゆるスケールの変化ある質を創出し得る3次元の空間である。

2

全体とは、相互に依存していると見做される共存するあらゆる部分が、空間的にうまくオーガナイズされ、結果的にTotal Landscape（空間を構成するすべての部分は一要素にすぎず、これらが包含され、しかも時間的展望における空間全体の使われ方をも含めて創造される景観全体）として構造化されている領域であると考える。このように全体を考えるとき、全体として認識される領域は、計画・設計対象の領域内に設定された計画・設計の質やスケールの相違によって、おのずから異なるものとなる。たとえば、ある敷地に高層建築を計画・設計する場合、そこでの全体は、高層建築が視覚的および形態的に影響を及ぼす広大な範囲を全体としての認識の対象に考えなければならないし、これに対して低層建築の場合は、それを取り囲むほんのわずかの周辺環境が全体として認識されれば十分である。このように私は、空間構成要素である各部分の係わり合いの程度を通して全体を認識している。

3

部分と全体を以上のように認識するとき、これら両者をつなぐ方法は、部分と部分の接点に生じる複雑多岐な空間、すなわち〝つなぎの空間〟（これも部分ではあるが）を計画的に創出することにあると考える。この〝つなぎの空間〟は、部分から部分、さらには部分から全体へと展開する空間のTransitionを創り出すためのものであると同時に、全体の中に変化はあるが調和的（Harmony）であり、連続的（Sequence）であり、かつ美的（Beauty）な結果を導くものでなければならない。複雑な部分の集合体としての全体における連続した植栽の導入や、土地のUndulationによる連続性の創造、さらには全体を通してのColor Controlなどは、つなぎの道具の一例と考えられよう。

4

私のすきな部分は、構造物と構造物の間の空間（写真1）、構造物と植物により構成される空間（写真2）、および“つなぎの空間”として創出された部分（写真3）などである。

（すぎもと　まさみ　大阪府立大学緑地計画工学研究室助教授・農学博士）

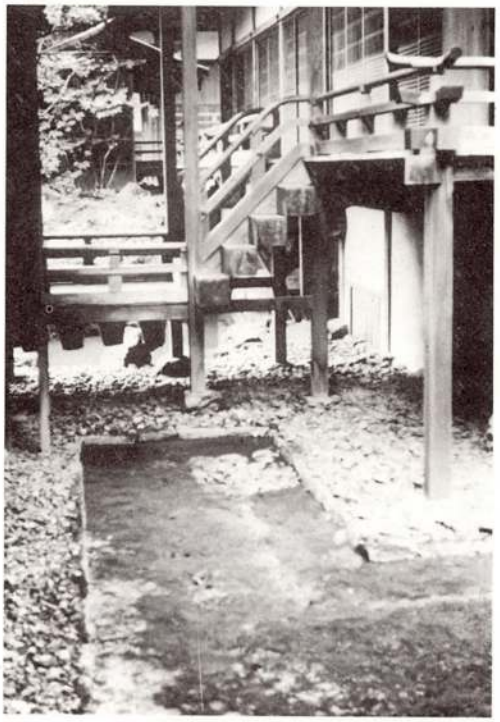


写真1　三宝院

階段を設置することにより創出された垂直方向での空間変化



写真2　Foothill College, California

深い屋根のひさしと樹木との相互関係により創出された3次元の限定された空間



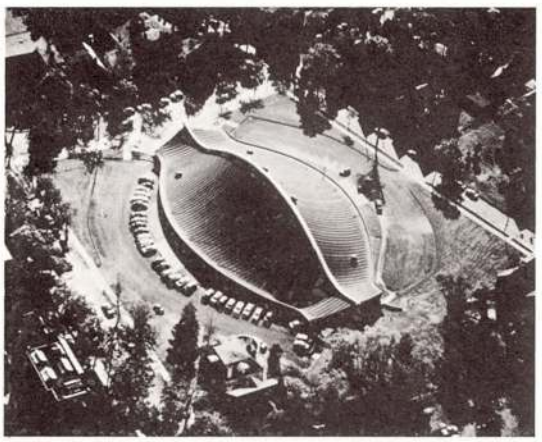
写真3　Foothill College, California

連続した同一樹種の植栽と築山のUn-dulationにより部分と全体が有機的につながれている

B

建築分野

デザインの動向―部分と全体
アンケート



写真－1



写真－2



写真－3



写真－4

建築の成熟―部分を磨くことを通じて―

小角　亨

私の関心のある部分とは、設計者のコンセプトを凝縮し具象化したものであると考えます。

ここに揚げた例は、E・サーリネン設計のイエール大学構内に建つホッケーリンク（1958年完成）です。

これは、内部の天井を古材で貼り上げていて、暖かい雰囲気を持ったものですが、想像よりも割に小さな建物です。

2枚の写真を見くらべて下さい。竣工時の写真－1には見られなかった照明器具が、写真－2では、そり上がった屋根の先端についています。この器具は、近くに建築された同じ作者による学生寮（1962年完成）の照明器具のデザインとよく似ていることから、E・サーリネンが竣工後、恐らく学生寮の建設中にでも、取りつけたものと考えられます。

それにしても、この照明器具のいかにも場を得た取りつけ方はどうでしょうか。これによって、地面にうずくまってしまっていた恐龍が、文字どおり画龍点睛の頭をいただいて、大地から足を踏んばって天に咆哮するかの力動感が十二分に表現できたと言えるでしょう。この建築は、この照明器具の取り付けによって完成したのです。

くわえて私が感銘をうけましたのは、E・サーリネンですら、建物の完成後も、なおイメージの顕現化を願って暗中模索する姿に対してです。時をかけて、ついに捉えたコンセプトの結晶である照明器具を、晴ればれと仰ぎ見る作者の姿を想像しますと、ちょうど私が訪れた秋晴れの一日の印象にオーバーラップして、胸が締めつけられるような感激を覚えるのです。

もう一つは、同じくE・サーリネン設計のニューヨーク空港にあるTWAターミナルビルの手摺です。

この建築は、いたるところきわめつけの部分がありますが、ターミナルビルという人を淀ませたり、流したりする交通建築の性質上、手摺のデザインは最も大切な部分のはずです。

手摺に気をつけて、写真を見くらべていただくと、写真－4に比べて、完成時の写真－3は、いかにも固い感じがします。恐らくはじめの手摺に対しては、手摺子の間隔が間遠なので、子供が落ちやすいとかのクレームもあったのでしょうが、現在の手摺は、手摺子の間に一廻り細いアルミ製の丸パイプが立てられています。作者もいろいろ智恵を絞ったのでしょうが、この強弱をつけられた手摺子のリズミカルな調子が、この軽快な空間を、より生き生きと息づかせ、今から飛行機に乗って旅立つ乗客の期待感を精一杯ふくらませてみせようとする作者の意図が見事に実現されています。

以上、2例は、建物完成後つけ加えられた部分で、設計時には、考えられていなかったものと推察されます。つまり、建築を生み落とした後で、当初意図したコンセプトを振りかえり、磨きこんで、ついに把えた結晶と言うべきでしょう。

わたくしたちが設計に際して、全体を象徴する部分をはじめから明確な形で把握したいとは、常々望むところですが、E・サーリネンの建築にたくして、あえて、このような空想を描いてみましたのも、部分を磨きこむことによって全体像を明確にすることの難しさ、しかし、それを成しとげたときの建築の完全な成熟ということについて考えてみる手だてを探したいと願ったからにほかなりません。

（こすみ　とおる　日建設計大阪本社計画主管）

建築のなかの動物

松村　慶三

この雑誌が目にふれる頃には政界新分野も確定し、疑惑高官への国民の審判も下っている。かつて角栄氏が北京を訪問したとき、彼はすなわち日本国であった。彼は「部分」であると同時に「全体」であったのだが、その「部分」は、栄光に輝く「全体」に反して余りにも黒く汚れていたために彼は庶民の偶像から墜落をした。しかし部分と全体とは、時に一つの個体の中で正しく共存しうるはずである。建築についても同じではないか。今、愛国心が人々の心から消え失せ、愛郷心が枯渇するときに、私にとって一番身近で、かつ関心ある「全体」は郷土大阪のまちである。巨万の富をたくわえ、豊かな自然と人情とを育くんだ、かつての壮大な大阪は敗戦とともに消えてしまったが、今このまちは復活と崩壊のエネルギーが激突して、期待と不安の中で21世紀に向かって大きく変容しようとしている。ただ関心をもって座視するのではなく、心から愛着をもつ大阪土人の一人として微力を捧げたいと思っている。そこで一番関心のある「部分」はやはり中の島である。中の島は大阪にとって一つの部分であり、かつ大阪人の心にとっては全体でもある。現市庁舎によせる大阪人の愛着がもし少数のものにすぎないと仮定をしても、それを無視するわけにはゆかないだろう。この種の愛着こそ、郷土愛の原動力となるからである。何らかの手法によって、今の庁舎の形態を通じて伝承された「伝統へのメモリー」を新しい庁舎に引き継がねばならない。そうしてこそ新しい庁舎はまた後世の市民の心のふるさととなる。

◇

「好きな部分」は建築のなかの「動物」です。私の卒業した小学校の階段の手摺には、オドリバのところにブロンズの兎が眠っていて、あいだの傾斜の部分には何匹かの亀が一生けんめいに坂道を昇っているのでした。兎の丸いお尻は、私たちの小さな掌でいつも金色に光っていました。その輝きも、その表情も今にほうふつとして蘇り、心を暖めてくれます。建築協会のかいだんの木のふくろうもいい。今でこそうす暗い空間の中で忘れられていますが、かつてあの建物が住居であった日々には、人とふくろうとの対話がどんなにたのしく続いていたことでしょう。芦屋警察の入口の石のアーチの上にも、それはいかめしい鬼瓦のような石彫のふくろうの顔が、下をゆく人々をにらんでいます。ふくろうは、智慧と芸術と戦さの女神、アテネの使者で、このふくろうと目を合わせたとき、心やましい人民は内心じくじたるものがあるでしょう。よく見るとあちこちにけものや鳥たちがいます。古い阪急のコンコースの幻のけものたち、新しい阪急デパートのコンコースの時計を咋えた怪鳥など、冷たく動かない彼らが、人の心と触れ合ったとき、野をかけ、空をとぶのです。そのとき、小さな一つの「部分」は人の心のなかで姿をかえ、無限に大きくなってゆきます。彼らに出逢ったときの心の高なりほどに人の心を打つディテールを作りたいと思います。



Ⓐ帝塚山小学校の兎と亀Ⓑ建築協会のふくろうⒸ阪急百貨店の怪鳥ⒹⒺ芦屋警察のふくろう

（まつむら　けいぞう　浦辺建築事務所）

都市行政―建築―ディテール

竹山　清明

1 2

建築の設計を行う立場から見れば、「全体」と「部分」とにはつぎの二通りの組み合わせが考えられるであろう。大きいスケールでは、「全体」とは都市であり、「部分」とは単体の建築や都市施設を指す。小さいスケールでは「全体」とは単体の建築であり、「部分」とは納まりなどのディテールを意味する。

この二組の「全体」と「部分」の関連の解決が、設計をすすめていく上でかなり大きい比重を占めているといえる。

3

「全体＝都市」、「部分＝建築」とみた場合、「部分＝建築」は容易にコントロールできるが「全体＝都市」はほとんどコントロールできないものとして、これまで認識されてきた。都市のコントロールの難しさは、単に大きすぎて全体像の把握ができにくいということによるのではなく、これまでの都市づくりが、大企業のもうけ本位の効率的都市づくりであり、住民サイド・文化的サイドからみて全くの無政府状態的な都市づくりでしかなかったというところに最大の原因がある。「全体＝都市」と「部分＝建築」をつなげていくためには、このようなこれまでの都市行政を、住民本位の優れた生活環境や文化的環境をつくっていく都市行政へと転換していかねばならない。そうして、そのような都市行政への転換はその兆しを見せつつある。それは全国各地で起こりつつある生活環境や文化環境を護る住民運動の頻発である。このような運動の延長線上において、都市行政は必ずや根本的な改革を強いられ、将来においては「全体＝都市」と「部分＝建築」との健全なつながりがつくりあげられるであろうと確信している。将来の展望はさておき、現在の日常の設計業務の中での私達のめざすべき方向としては施主の狭い利益のみに囚われることなく、都市的社会的諸問題を視野に置きながら、機能・意匠・構造などの各面で優れた建築をつくるところにあろう。そうしてそれは現在のわが国のゴミ溜めのような都市の状況を少しでも改善し得るものでなければならない。その中でも粗悪な建築は歴史のふるいにかけられて消滅してしまうであろうから、私達は社会的財産としての建築を、歴史の審判に耐え得るほどの価値あるものとしてつくりあげねばならない。このような方向こそが、時間はかかるが、現時点において可能な「全体＝都市」と「部分＝建築」をつなげていくものであろう。

「全体＝建築」、「部分＝ディテール」として見た場合、最近の流行として気になるのは、全体のデザインにディテールを無理矢理追従させるやり方である。逆に言えば、全体をディテールの有機的な集積ととらえるのではなく、形のイメージを先行させ模型をとのまま拡大したような建築が多いということである。このようなやり方が様式化しているとも言えるため、創られる空間も画一化が進んでいるように思える。「全体＝建築」と「部分＝ディテール」のつながりをより有機的なものとするためには、ディテールのデザインをその機能・横造と関連させて掘り下げ、全体との連関の中で生かし、トータルとして優れたものをつくるという方向が重要であろう。

4

都市の中の魅力ある部分としては、歴史の中でその価値が検証されてきた歴史的名建築をあげたい。私の身近では、旧兵庫県庁舎（山口半六設計）や、中之島の歴史的建築群など。いわゆる近代建築については、歴史の検証に耐え得るであろうと期待されるものはあまり見当たらず、現状では魅力ある部分としての評価をすることは難しいように思える。

建築の中の魅力ある部分としては、その機能や横造を生かしたデザインにより、全体をより価値あらしめているようなディテールをあげたい。たとえば、帝国ホテルや山邑邸などのライトのディテールや、アールトのディテールなど。

（たけやま　きよあき　兵庫県建築部営繕課）

みどり・道・広場

徳岡　昌克

1　関心のある「部分」――個々の建築物

現代の建築物が構成する街並みや都市を見ると、結果として必ずしも快適でもなく、また人間の文化的環境に役立っていないことに気付く。あらためて、個々の建築物、ここでいう部分の質が問われる時代になってきたようだ。このことは単に経済が高度生長期から安定生長期にある過程として表面化したのみでなく、現代建築そのものが批判の対象とされる時代に入ったからであろうが、これは現代建築が創作活動の葛藤の対象として不適であったわけではなく、むしろ、現代建築へ打ち込む崇高な魂をわすれてこれをいたづらに装置として扱った結果であると解釈したい。一人の建築家が建築を創るのではなく、彼の存在した社会や時代の人々が建築を創る。建築が社会的生産物といわれ、また文化の尺度といわれるゆえんであるが、グループであれ、組織であれ個々の建築行為におけるデシィジョン・メーキングの果たす役割の重大さが、ますます痛感されよう。今一度、都市の構成の部分として建築のもつ大きい意義を考えてみたい。

2　したがって「全体」とは――

個々の建築物が構成する街区であり、都市である。都市を構成するに必要な条件を行政的、物理的に論ずるのは当然としてもメカニズムとして論ずることが多く、視覚的イメージとして都市全体を論じられることが、とりわけ、大阪については、なさすぎたようだ。大阪湾、淀川、生駒山脈等格好の視覚的ゾーニング・ファクターがあるのに、都市のビィジョンとして、この自然的性格が活用されていない。また容積制が導入され、それなりに成果をあげてはいるが都市景観に大きい影響を与える法律である以上、美観上の見地からも地区指定についての検討が必要であったといえよう。建築の軒高が構成するスカイラインも都市全体のイメージとしてどうあるべきかということも、都市の美しさを印象づける骨格的要素として大事なことである。

3　部分と全体を繋ぐもの――

みどり、道路、広場。部分としての良い建築物がストレートに全体の都市として繋がり良い都市だと評価されることに異議はない。しかし都市は生きものである。いろいろな建築物があっても、新しい建築行為が既存の街区の優れた性格を助長するものであれば良い。またそれぞれの建築物の街路や樹木とのかかわり合い如何によっては、全体としての都市の評価を高めることも可能である。ありふれた、手ごろな、どこにでもあり、しかし知恵がないと使えない道具として、みどり、道、広場をあげたい。また大きいみどりと広場を生みだす手近な方法が、総合設計制度の活用である。条件が整えば敷地面積1000㎡以上あれば可であるから、ヒューマン・スケールにあった運用が可能である。小さな街区が整理され拡大され巨代化していくことは必ずしも好まない。むしろ、まとまった街区にあっても、既存の道を計画や設計にさいし注意深くデザイン要素に組み入れて、建築物のスケールを視覚的に調整していくのが望ましい。総合設計制度は、大阪のように小さな区画で細い道路が多いところで街区に新鮮味を演出でき、かつすこしでも都市を安全な方へ近づける優れた制度と見ている。

4　すきな部分の具体例――

A．御堂筋と日本生命、大阪ガスビル、御堂ビル。立派なイチョウ並木があって数少ない大阪の見せ場である。B．通称「船場」界隈、とくに本町筋より北端に大阪市中央公会堂を望む三休橋筋に魅力を感じる。古くから歩道があって街路樹が植わっている通りなど大阪ではめづらしい。もっと大事にしたいところ、やりようによっては大阪のファッションモールになる通りに思える。（とくおか　まさかつ　KK竹中工務店設計部）

「筋」の認識

遠藤　剛生

私にとって部分とは私自身であり、個人を意味すると思います。また全体とは社会であり、集団を意味します。

われわれが日々携わる建築は、これら両方から派生する矛盾の中でどちらにも偏することを拒まれ苦しむ姿とも言えると思います。建築の形象は両方のコンセプトの明確な認識がなければ形成されないでしょう。

1

過去において建築家の立場は、個々を中心としたワークの集積がストレートに全体を形成することが可能だったと思います。しかし今日では合理主義や能率第一主義のみが前に押し出され、個人の意志に関係なく、文化、政治、経済等のあらゆる分野において勝手に操作されてしまうのが今日の状況でしょう。個人の本来あるべき姿は自由であり、個別的であり、また独自の方向性を持つことに価値があります。しかし現実における流れは表面的に見れば個人が強力な力を得たように見えますが、すべては失われた個に対する復権の要求であり、そのための力の結集にすぎません。まさに逆転してしまった個のあり方であって、正常な姿とは言えません。

視座を転じ、全体の側より求められる個とはどのようなものでしょうか。おのおのの個は同一の方向性を持ち、容易に統治が可能な個であることが望ましいのです。結果は同時発生的思考形態を持ち、画一的な個となり、もはや全体を活性化し得る力を期待しにくくなっています。

このような個が形成する全体のあり様は当然のことながら歪みを生じています。そして個は全体に対して疎外感のみがつのります。今日個の主体性を確立する手段とすれば状況の否定以外に方法はないでしょう。しかし現実に状況の否定は即社会からの遊離を意味し、矛盾が一気に噴き出してきます。

2

全体とは部分の集積体を意味し、不真面目で言うわけではないが、私にとって全体とはただ一言やっかいであるとしか言いようがありません。善の中に悪が入り、悪の中に善がある、このようなときには何も行動しないのが一番良いとさえ考えたくもなります。しかしこのような放漫な考え方はますます全体を抽象化し拡散させる怖さがあります。現実に当たっては一つ一つの事柄を自分自身の問題として個と全体をひとひねりして考える以外に方法はないと思います。

3

建築が形象である限りにおいて美意識が根底をなします。美は常に秩序を持っています。一方秩序は自然の系の中にあり、これらすべてを踏まえたところに建築は存在します。自然の系自体は決してわれわれに感動を与えてくれません。感動は精神の問題であり、建築と人間との関りもここから始まります。

求められるのはパトス（感情固体化）であり、ロゴス（理性、普遍性）です。前者は人間の感情であり、個別的であって、感性の問題とも言えましょう。一方、後者は普遍的系の問題であり、悟性の問題とも言えます。（「筋」）。

建築の組み立てとしては普遍性を基盤とする「筋」の上に個別的な表現（うまさ）が付記されることによって建築が完結すると思います。テーマの中にある「手法」とは多様化してしまった現代の状況に対し建築を通していかに関るかであり、部分と全体を繋ぐ方法は両者に共通する基本の系を駆使し普遍的な事項のみで全体化する以外に道はないと思います。しかし普遍的形態は全体を統一体とはするが、全体が活性化するとは考えられません。答えはあくまで両者の中間に浮遊する状態にある建築だと思います。都市の状況を見ると大部分の建築が普遍的基盤の上にのみ立つものと、個別的表現にのみ終始するものとの両極端だとも言えます。私個人の現在は「筋」の問題により多くの興味を感じ、「筋」の認識が定まらない限り前に進めないだろうと考えています。

（えんどう　たかお　遠藤剛生建築設計事務所）

影（空）の介入

出江　寛



1 異質なもの、または異形なものの接する点・線・面が「部分」であり、常に注意を払っている。

2 ミース・ファン・デル・ローエの「ディテールには神が宿っている」とは、部分は全体と同等に重要であるという意味の言葉である。私は常にすべての「部分」が大切だと考えている。「建築での全体」とは、思想または心の表現がすみずみまでゆきわたったものであり、それのないものは建物という物理的空間にすぎないと考えている。

3 「部分」と「全体」をつなぐものは思想であり、手法として異質、または異形の強弱の対比する「部分」には影（空）を介入させている。

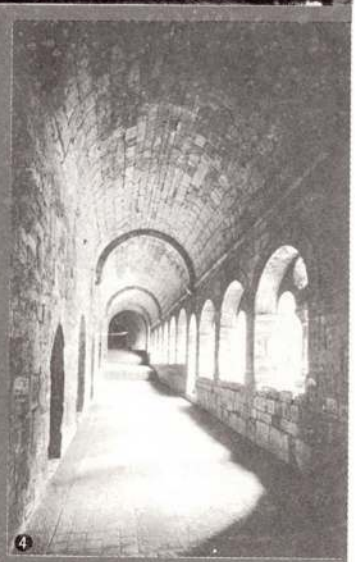
4 日本建築は、異質・異形の接する部分に影（空）が介している。（上図○印1. 2.）

（いずえ　ゆたか　出江寛建築事務所）









① 京都会館前のけやき並木
② 桂離宮古書院の月見台
③ 慈光院の書院と庭
④ ルトロネのクロワートル
⑤ カンポの広場・集水口ディテール
⑥ フネラリーフェの噴水の中庭
⑦ アーメダバッドの階段式井戸

（吉村篤一提供）





包括的混成システム

吉村　篤一

1 2 3

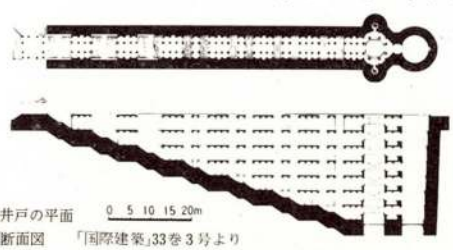
「部分と全体」とは、漠然として抽象的なテーマであり、各分野に分けてはあるが、関心のある部分というならば、デザインを志すものにとって、自分の属する分野に関してのみ述べるのではなく、すべての分野に渉る共通の概念と考えて述べるのがよいのではないかと思う。当然のことではあるが「部分」とはある状況下では「全体」であり、「全体」もまた、別の状況の下では「部分」になる、という相関関係がある。一般的に「部分」とは「全体」の一構成要素ではあるが、それ自身の存在価値が大きく、人間とものとの関係における、最もヒューマンな存在といえるものだと思う。私にとって関心ある「部分」とは、単なる“エレメント”や、いわゆる“納まり(ディテール)”としての「部分」ではなく、種々のエレメントの構成や、他の諸要素とのかかわりあいが醸し出す空間の一部分である。それは、人間が感動を覚えたり、愛着を感じたりする部分である。たとえば、都市の街並みや、スモールアーバンスペース、広場のペーヴメント、公園の大木などのような外部空間としての「部分」あるいは、寺院の大空間や茶室の小さな明り採りの障子、リビングルームにしつらえられた家具や照明器具のような 内部空間としての「部分」また、自動車や飛行機、船舶などの一部分、etc.　これらはすべて私の興味ある「部分」であり、「全体」とはこれらの部分を包括するシステムによって生まれてくる“複合体（コンプレックス）”であると考える。これは単に「部分」の集積ではない。「部分の集積がそのままストレートに全体へ連なる」ことは必ずしも幸福とは言えないと思う。「部分」と「全体」をつなぐものは、方法とか道具ではなく、部分のデザインを超越した、包括的な混成システムではないかと思う。

4

「すきな部分」というより、創造活動を行う上で、常に座右の銘的な存在であるものを思いつくままにら列してみる。やや多すぎるかもしれないが、これらはすべて私の創作行為に、何らかの助言を与えてきてくれたし、またこれからも”永遠なる部分”として、脳裏に焼きついているものである。

●京都鴨川畔、京都会館前のけやき並木、京都御所清涼殿西の萩壺、高瀬川一之船入附近、孤蓬庵門前の石橋、桂離宮古書院の月見台、円通寺の庭と借景、大池時および慈光院の書院と庭のつながり、田麦俣部落農家の屋根、白川村合掌造りの妻面、外泊部落の石垣、旧帝国ホテルのプロムナード部分と孔雀の間、親和銀行本店のインテリア。

●カンポの広場のペーヴメントと集水ドレイン、アッシジの街並、ペルージアの街路、スペルロンガの集落、ヴィットリオエマヌエレⅡ世ガレリアのペーヴメント、ヴィラデステの百噴水の庭、ル・トロネのクロワートルと中庭、コルドバのパチオ、アランブラ宮殿のコマレスの塔とアラヤネスの庭、ヘネラリーフェの噴水の中庭、パルテノンの柱列、ハーレンジードルンクの住居、レッティろうそく店のファサード、ロンシャンの教会のファサード、ラツーレットの修道院の中庭部分、シャルトル大聖堂のステンドグラス、聖フランシス・デ・サレス教会の改造部分、ソーク研究所の立面、ファーストユニテリアン教会の礼拝堂、ジョンソンワックス社の事務室、シーランチのインテリア、ムーア自邸の居間、ニューヨークグリーンエーカーパーク、アーメダバッドの階段式井戸、イスファハンのバザール、ルイスバラガンの自邸のインテリア、カサバトロのファサードと屋根 etc.,



❼ 階段式井戸の平面および断面図　0 5 10 15 20m　「国際建築」33巻3号より

（よしむら　とくいち　建築環境研究所）

住まう人の意志の反映
—都市住宅単位—

中筋　修

建築家にとって、都市にかかわるさまざまな方法、アプローチがあるだろう。今、僕達の仲間の頭を占めている最大の関心事は、都市の住宅にある（住宅都市ではない）。都市の住宅を、語ることはすなわち、都市を語ることでもあると言えるはずである。不思議なことに、現代の日本の都市（とくに大阪）をイメージするとき、まず思い浮かべるのは、高層の貸ビルであり、銀行ビルであり、決して都市の住宅を思い浮かべることはできない。

都市は本来仕事をする場所、住まう場所、遊ぶ場所が、混然一体としたものであったはずである。

部分と全体という、ヒエラルキーデザイン論を語るとき、よく例としてあげられる、サンジミニアーノ、ヴェネツィアなどイタリアの古都市や、高山、今井町など日本の古都市も例外でない。等質な部分と、全体のあり方が、永年洗練されて、美事な都市美を見せていることもよく指摘されるが、仕事場、住居、店屋等の諸機能が一体となった街としての魅力も忘れてはならない。

戦後の経済発展のすさまじさは、大都市に労働人口を集中させたが、都市から住宅を追い払ってしまった。日本の一戸建にこだわる住習慣では、高密度化した都市内に、住居を持つことはまず不可能であり、形ばかりの郊外一戸建という形で、無制限なスプロールをくりひろげた。

建築家にとって、一戸建住宅の場で発注者と一対一の幸福な対話をくりひろげながら、さながら完結した小宇宙の内部で創作する喜びは捨てがたいものがある。建築家にとって全人格的にかかわりを持つことのできる唯一の場だからである。しかし幸運にも土地を入手し、建築家に設計を依頼することのできる発注者との対話を通しては、都市にかかわることはむずかしい。

僕達の仲間は、都市に住むことにかかわる技術者として、住まう人と一戸建住宅のときのように徹底的にかかわりを持ちながら、高密度共同住宅を、都市を構成する最少単位の一つとして、実現させることを試みている。

もちろんそのためには、必要なさまざまな分野の技術者のグループを作ることや、参加者とスムーズに協働できるよう、連帯を深めるための会作りも必要とし、都住創（都市住宅を自分達の手で創る会）という全くオープンな運動を提唱している。実験的な第１号棟は、現在松屋町筋で工事中であり、この実験を通して僕達は多くのことを学びつつある。

こんな住まう人の意志を徹底的に反映させた都市住宅単位を、都心部にいくつも作ってゆく作業を通して、都市のあり方を部分から考えてゆきたいし、また、都市住宅単位をこえたものに、僕達がどう実感をもってかかわることができるかということも考えてゆきたい。

（なかすじ　おさむ　安原中筋建築研究所）



都住創による第１号棟のプラン

「部分」と「全体」についての思想

山崎　泰孝

部分と全体についての思想は、昔から多くの人々が述べている。ある部分は、その全体にとっては部分であるが、同時にまたそれそのものは全体である。部分という概念は、全体という概念の上において初めて成り立っている。すなわち、部分の「量」的な集積が弁証法的に新しい「質」としての「意味」を持ったとき、初めてその全体の概念が成立し、その部分が部分としての存在が認められる。

部分と全体の関係についてのこのような認識は、この新しい「質」についてのとらえ方は異なるにせよ、昔からすべての思想の基本となってきたことである。現代の状況における問題は、産業革命以後直線的に発展してきた現代資本主義社会において、前述したある部分が、単なる部分としての存在でしかなく、同時に持たなければならない全体としての「質」を持たなくなったところにある。個を大切にしたルネサンスの歴史を持つヨーロッパに比較して、常に全体主義的な歴史の流れを持ってきた日本の社会においては、その矛盾がより明確に表れているようである。第二次世界大戦における日本の誤ちもこの一つであるが、現代における中央集権的な日本の文化状況は、まさにその悪弊であり、建築計画や都市計画の思想も未だここにあるといってよい。現代に生きるわれわれにとっての課題は、まさにこの部分をもう一度全体としての存在へ、すなわち新しい「意味」の再発見でなければならない。

かつてベトナム戦争において、アメリカ軍は全体として強大な力を持ちながら、部分においては輸送兵、何々兵等と機能分化をしているために、戦いその場では全くその存在の意味を持たなかった。それに比較して、ベトコン兵士は各人が常に全体であるため、戦いとなれば、すべての部分がその力を発揮し、輸送となればまたそれらの部分が同時に輸送の力を発揮した。ここにベトナムの勝利の秘密があったといってもよかろう。

いかなる「個」も常に部分であると同時に全体でなければならない。中国における「土法」の思想もここにある。各地域、各個人が、それぞれ自分のやり方、技術を持つことを基本におきながらその力をより発揮するためにのみ「洋法」としてのさらに他の技術を取り入れてゆこうとする思想である。それに比較して、現代日本の社会においては地方の技術は次々と中央の技術におきかえられ、地方の文化は中央の文化に吸収されていってしまう。マス・コミ社会、中央集権的な政治、経済体制は、よりこの状況をおし進めてきた。建築界、都市計画の思想も全くこれと同様、結果的には地域住民の存在を無視し、地域文化をふみにじってきたといっても過言ではない。

現代において、われわれ計画者のやらなければならないことは、それぞれの社会、それぞれのヒエラルキーにおいて、その部分部分そのものをもう一度全体として見直し、性格づけ、それらを計画学の思想の中に入れていかなければならないときにきている。それは従来の量的な視点ではなく、質的な視点を要求される。人間一人一人が異なるように、部分部分の持つ「個性」、それが存在する「意味」を発見することから始まり、その相互の関係をみいだし結びつけることが計画学とならなければならない。

最初に計画の目標や方法があるのではなく、個性ある「部分」と「部分」の出会いからそれぞれの目標や方法もつくり出さなければならない。すべてに共通する方法からは個性ある関係はみいだせないし、量的な観察からは、質的な存在理由を発見することはできない。もし、すべての計画者に共通する方法があるとすれば、それは各部分の存在を認め、それを愛する気持ではないかと思う。

（やまざき　やすたか　AZ Institute　環境計画研究所所長）

空間に秘められた暖かさと「心」

松村　賢治

――はじめに

私達が素晴らしいと感激する建物のことを考えてみましょう。「形が良い」「周りの風景にマッチしている」「部屋の雰囲気が落ち着いている」「椅子に座った感触が何とも言えない」……。部分から全体にわたって、設計者の心が隅々まで行きわたっていることが解り、しかもその総合評価が良いと「素晴らしいな！」ということになるのでしょう。感動させるものには人の好みが左右するのはもちろんです。が、とにかく質素で地味な古い町や建物、そしてガウディやアアルトーの空間は私を酔わせました。

私達が「素晴らしい！」と感ずる美人も、もちろん人によって好みが違います。電車の中で見かけるハッとするような美人。別に美人でなくても服装や見かけで目を魅かれる場合もあれば、地味であるためほとんど目に止まらない人もいます。

建築でもそうです。ただ眺めただけでは形の美しさは解りますが、本当の良さは解りません。まして雑誌に出る写真や設計者の大げさな自画自讃に騙されるのは嫌です。たとえば、良いコーヒー店は自分が行ってそこでコーヒーを飲んでみなければ解りません。建物自体よりも、味やオーナーの心遣いや客のかもし出す雰囲気が「良さ」を感じさせる大きなポイントになります。私達を感動させるのは、内に秘められた「心」だと思います。

――問、「一般的に述べて〈部分〉とは？」

――答、「近くから見るもの。建物なら、手や体で触れるもの。人なら目、口、足。」

――問、「それでは全体とは？」

――答、「遠くから見るもの。建物なら外観や配置、そしてバランス。」人なら、全身そして〈部分〉（口や鼻のこと）の配置。プロポーション。」

――問、「部分の集積がそのまま全体につながるというケースは稀であろうが、部分と全体を繋ぐものは何？」

――答、「幸福……というのは良く解りませんが、空間が機能を持つためにはさまざまな装置が必要です。それらを含めたもの、すなわち実際に使われている状態こそ、建物の本来の姿だと思います。」

――問、「部分と全体を繋ぐ方法とか道具は何か？」

――答、「それは装置であり、またそれを使っている人間も含まれると思います。装置を取り払われた空間には、暖かさがありません。たとえば、人のいない建物の写真に漂う冷たさです。全体としての空間はさり

（右段へ）



デンマークの古い農家（17世紀）
200年も前の住まいで現代人の生活が行われている。質素で小さな空間、しかし心が豊かである。



ベルギーの古い町（15世紀）
今も人が住み、美しく手入れされている。住む人の生活の知恵がにじみでている。

建築作品の身体化
――詳細のくずれは建築のくずれ

渡辺　豊和

一番簡単な話、人体を考えるなら手や足の指のように切断しても生命にかかわらない部分までを「部分」と言い、人体全体を「全体」としよう。しかし単純な機能論でいっても指一本の欠如ですら相当の機能障害を引き起こすことからして、部分と全体といった二分法は本来何の意味も、さらに何の問題提起にもならないことをまずもって銘記すべきである。

機械ならもちろん、不良部分の代替によって全体機能を阻害することもなく充全の働きを約束することができるのであって、「部分と全体」という命題はやはり非常に工学的な問題と考えるべきであり、たとえ人間自身の問題としてもそれは組織論以上のものを出ないはずである。建築はものの集積によって出来ていはしない。これは衆知のことである。絵でも彫刻でも色や形は一点のゆるがせもできないように、建築においてもいかなる詳細（ディテール）と言えどもくずれは許さるべきものではない。詳細（ディテール）のくずれは即建築そのもののくずれであり、そのくずれをなくすためには詳細（ディテール）の省略、すなわち、全体から部分の減算を考えることが先決である。もっと形式的に言うなら、部分の欠如が全体にいかなる影響を及ぼすかという認識の方が、より「部分と全体」というこの所与の命題に応える道であるようには思う。有体に言うなら、いかに装飾的な建築であろうと詳細（ディテール）の積み重ねから全体ができることはありようはずもなく、そのことはガウディの一連の建築を思い浮かべるだけで充分であろう。

近代建築は装飾の拒否から始まった。その意味では合目的的で、さらに巨視的な方法によっていたことは確かである。したがって「近代」の反省は装飾の復権にあると言われることも由なしとはしない。しかしこれほどさように図式的にいかない。それは建築は機械ではなく、むしろ微妙な情と精妙な感覚によって創られるものであるからだ。

ヴォーリンガーに「感情移入」論というのがあり、これはそれほど精読しているわけではないので余り断定的には言えないのだが、要するに芸術作品とは作家の感情を移入することによってその作家と合一するものであり、作品だけが切り離されて考えられるべきものではないということになるのだろうか。この感情移入論をもっとつきつめて考えるなら、作品の身体化とも言うべき現象学的理解に入っていかなければならないだろう。そうなるとこの「部分と全体」という命題はさらに意味を失ってくることになる。いずれにしても単純にタイムリーをねらうような設問の仕方はなるべく避けて欲しい。これは切なる希望でもある。

（わたなべ　とよかず　渡辺豊和建築工房）

（左段より）

げないものであっても、部分としての家具やドアの取手など、人の触れる部分には暖かさが必要だと思います。そして空間と部分とを繋ぐのに、照明や絵や置き物が必要です。

〈暖かさ〉を引き立てるのは〈仕掛けカラクリ人〉すなわち設計者のさりげない心遣いだと思います。それが大げさだったり、押しつけだったりすると、逆効果なのは人格についての場合と同じです。」

――むすび

私達の周囲には、建築家やデザイナー不在の部分に忘れられた〈美〉を沢山みつけることができます。そこに住む人々の生活の知恵で作られた〈美〉は文明社会に限らず未開の地でも見受けられます。全体は既存の古い建物。部分は手づくり。そして雰囲気は古いランプや掛時計が演出して素晴らしい部屋を創り上げている例も沢山あります。古い美しい建物や街は、決して一人の名人によって考えられ創り出されたのではありません。日本における生活様式と構築材料のあまりにも急激な変化は、私達の心の順化に大きな歪みと混乱をもたらしてきました。今はその是正の時代に入ったように思われます。さりげない豊かな空間の内に秘められた〈心〉を見直し、じっくりと謙虚にそれを学びとっていきたいと思っております。

（まつむら　けんじ　松村佐藤建築研究所所長）

詩を読み絵を描きたくなるほどの……

瀧　光夫

1
関心のある「部分」は、「建築」と建築の周辺（sorrounding）。とくに建築が建築以外の部分（地面とか周囲の景観とか）に接するあたりの〝なじみかた〟や〝つながり〟に興味があります。

2
全体は、景観（Landscape, Townscape）。ひろくは環境。世の中。

3
なにかを部分とみるか全体とみるかは、作者（または鑑賞者）の立場や感性でことなるだろうが、部分と全体を結びつけるものは作者の創作力（あるいは鑑賞者の想像力）以外にないのではないか。

4
すきな部分。道すがらに見かける魅力的な空間やもの。たとえば、思いがけない通り抜け路地。狭い街角に見あげる亭々たる樹木。窓辺の花。地蔵。舗石。はげかかった広告。ドアの把手などなど道ばたで、オヤと立ちどまらせる何か。ヨーロッパの街はそうした魅力にあふれてみえるが、日本では「すきでない部分」に毎日イヤというほど出会う。

〈部分も全体も〉

ブ・ブ・ブブンかあ、ゼンタイかあ……！

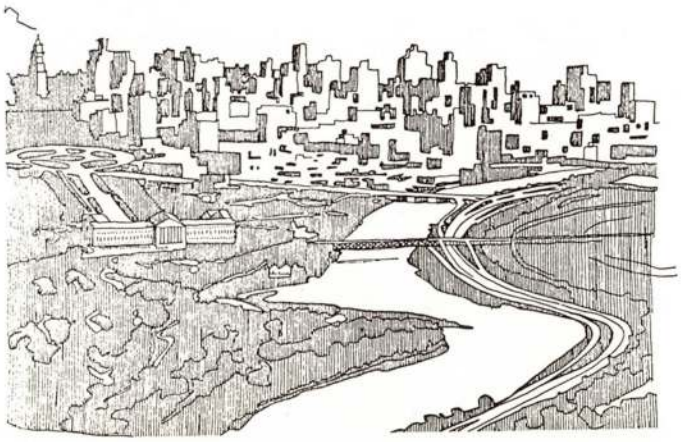
部分か全体か、部分のつみ重ねがどう全体をつくり、また全体は部分によっていかに構成されるか、といういわば哲学的な設定は不毛の議論に終わりそうに思えます。

どんな芸術作品でも、私たちの心をとらえるものは、全体（あるいは部分）が突然何か引きつけるものがあり、ほとんど同時に部分（または全体）が訴えてきて、一瞬胸がドキドキする、といったもののようです。

私たちの生活している環境でも、やはり魅力的で快適な場所や景観は、その形、色、テクスチャーさらには音、においといったものが総体としても部分としても同時的にはたらきかけてきてなぜか感動するといったたぐいのもので、これは誰もが知っていながら、さてこれを言葉や理論におきかえるとなるとホトホト困る種類の体験ではないでしょうか。そうした場所や空間には、部分や全体についての理論的脈らくが何かあるのかもしれませんが、おそらくきちんと順序だてて説明しきれない何かが残るはずで、そうであればこそ人はそうした感動を詩に歌い絵に描いて表現しようとするのでしょう。

ですから都市、建築、インテリア、ＩＤとそれぞれの分野でお互いに部分や全体が入りくんでいるのでしょうが、いってみれば、部分とか全体とかのせんさくを要しないほどの魅力的な何ものかに私たちはとりまかれていたいわけで、これを創る側からいえば、詩を読み絵を描きたくなるほどの場所、景観、環境をつくりたい、ということになりましょうか。

（たき　みつお　瀧光夫建築都市設計研究所）



帰属感の問題

東　孝光

建築デザインの対象から自身の思考や行動にいたるまで、「全体」を「部分」に刻み分けたうえで、その中の関心ある「部分」とかそうでない「部分」とかの概念で、ものを考える経験は私には全く無い。

デザインを含めた自己の世界は、それ自身が全的なものであり一つの宇宙であって、「部分」に分割することは全くナンセンスなのだ。

しかしそれとは別に、自己の行為や思考の全体が、この社会のなかでいかに「部分」的なものであるかについては、もちろん強い意識を持っている、持たされていることも事実だ。

現代が全体像の喪失の時代であるなどと今さら定義するまでもなく、一つの「全体」が、より高次の全体のなかでは「部分」にしか過ぎないことが、いつもあばかれている日常ではないだろうか。

私にとっては、多くの「部分」から関心のある「部分」を選んでいるのではなく、むしろ自己にとっての全体、小宇宙が絶えずそのまま「部分」でしかないのだという事実を見せ続けられているというのが正確な状況ではあるまいか。

しかし一方私にも、自己のデザインや行動を絶えず「部分」的なものに、「部分」的な位置に保っておこうという意図が本能的に存在するふしもある。

なぜなら、いくら全体を、首尾一貫した、体系的なものに仕立てあげてみても、それがより高次の全体像のなかで、同じ位置を保てるという保証はどこにも無い。だから、むしろ最初から部分的であり、首尾一貫せず、いろんな要素の複合の、つまりは「部分」に帰るといった傾向が生まれる。それはむしろ一人の個性というよりは時代的要請とでもいうべきであろうか。

◇

私は考える。このちっぽけで気ままな「部分」は全体とどうつながるのだろうかと。

たとえば、独り高い山の頂きに立って、大自然のふところに包み込まれるように感ずるとき、誰でも、自分が何と小さな取るに足らぬ存在であり、宇宙が、自然がいかに広大無辺であるかをひしひしと実感するだろう。

しかしそれにもかかわらず、人は自己の卑少さに絶望するどころか、逆に生きる喜びというか意欲というか、つまり何がしかの精神の高揚を覚えるという経験を、多くの人が持つのはなぜか。

私たちが、全体から見ればいかにつまらぬ存在であろうとも、明らかにこの広大な宇宙の一部であり、確かにそれに所属して生きているのだという確認がそこに成立するからではないだろうか。そしてその確認は、いかに極少の「部分」であろうとも、そこに一つの内部宇宙があり、それとの類似性によって外の宇宙への帰属感が発生してのことだろう、と私は考える。

少なくとも、私にとっての「部分」とは、このような「全体」に対する帰属感を伴うもののことであり、それの無い部分とは単なる断片に過ぎないのである。

また逆に、そのような帰属感、連帯感を前提とするならば、むしろバラバラで、対立的な存在であればあるほど、「部分」は創造的な関係を「全体」に対して保持し続けるだろうと考えるのである。

（あずま　たかみつ　東孝光建築研究所）



アレクサンダーの厚い壁
〈編〉

1/100, 1/50のスケールで考える

太田　隆信

私にとって、部分とは、両手を広げた大きさで十分抱え込むことができるスケールのもの、それより大きくてもせいぜい、1尋2尋3尋ぐらいまでのもの、たとえて言えば、住宅と、その部分といった場合の部分にあたるようなもの、ただし、住宅云々には、あくまでもたとえであって対象を建築にかぎらず、なるべく柔軟な姿勢で、幅広く、部分というボキャブラリーを、掌握しているつもりです。

部分が、きわめて明確なかたちをもったものであるのに対して、仕事の上での全体は、多種多様、スケール的にも実にまちまちです。最近とみに、この傾向に拍車がかかってきているように思われますが……。本当は、こういった個々の仕事としての全体の上の、さらに、それらを統一するいわば心の内なる全体像について、当然云々しなければならないのかも知れませんが、建築家にとって、それは、きっと生涯のテーマなのでしょう。現在の私は、そういったテーマの存在を、ようやく、実感として、自覚したと言うところです。

部分と全体を緊ぐ方法としては、建築の場合、何と言っても 1/100～1/50 の図面で考える、図面を練るということを、あげねばなりません。ここではこのスケールで図面を書くことの意義について、くわしく論ずることはできませんが、建築家にとって最も基本的なこの作業を、大切にしなければなりません。そして、建築家の職能ともいうべきこの 1/100～1/50 のスケールで考えるという方法を、建築以外のさまざまな生活環境計画にも、活用していきたいものです。このスケールでの検討の未熟さが、何といっても、今日の生活環境の貧しさの大きな原因になっているのですから……。

すきな部分といえば、どうしても、ライトのことが、まっさきに浮かんできます。ライトのさまざまな部分のうちで、開口部廻り、とくに軒下にまつわる部分の、内部空間・外部空間のつながり方、それぞれの解決に、強く引きつけられます。そういったところにからんだ、水のあつかい方、水盤からプール，といった人工的な水、自然の水、いずれも、だいすきな部分です。

ライトと言うと、反射的に、ル・コルビジュエのことが浮かんできますが、ル・コルビジュエの場合にも、やはり上述の部分に興味を感じます。

ライトとル・コルビジュエが、まず第一に浮かんでくるというのは、ある程度、私達の世代の共通事項のようなものだと思います。やっていることが全然違うのに、どちらもすきと言うのは、おかしい、などといわれても困るのです。少しく、マニア的なレベルでの発言を許していただければ、私にとって、ライトはルイ・アームストロング、ル・コルビジュエはデューク・エリントンといった存在なのです。両者を聞いて初めて、ジャズの世界が、完結するように、私のすきな部分という質問に対しても、やはり、すきということを、真剣に考えていくと、マニア的なレベルに話が縺れ込まざるをえないと思うのです。

（おおた　たかのぶ　坂倉建築研究所）

（右段より）

ら見ると、合理的なものであるかもしれない。つまり「生きるため」という言葉で語りつくせる生の合理性と、個人の意志の集積によって全体が形成されているということ。それ以上の解明は、この集落に関しては必要がないであろう。

ただ、私の身体を通りぬけたものによって、部分と全体についての関係を語るならば、オストーニの一見、無秩序に思える部分と全体との関係は、実にきめの細かい意味深長な表情をかたちづくって隅々に語りかけ、反応し合い、息づいて印象的であった。それは、人と空間の間に交わされ続ける長い対話で、この空間、体験は大切にしたいものである。

（あんどう　ただお　安藤忠雄建築研究所）

住居と集落をつなぐもの

安藤　忠雄

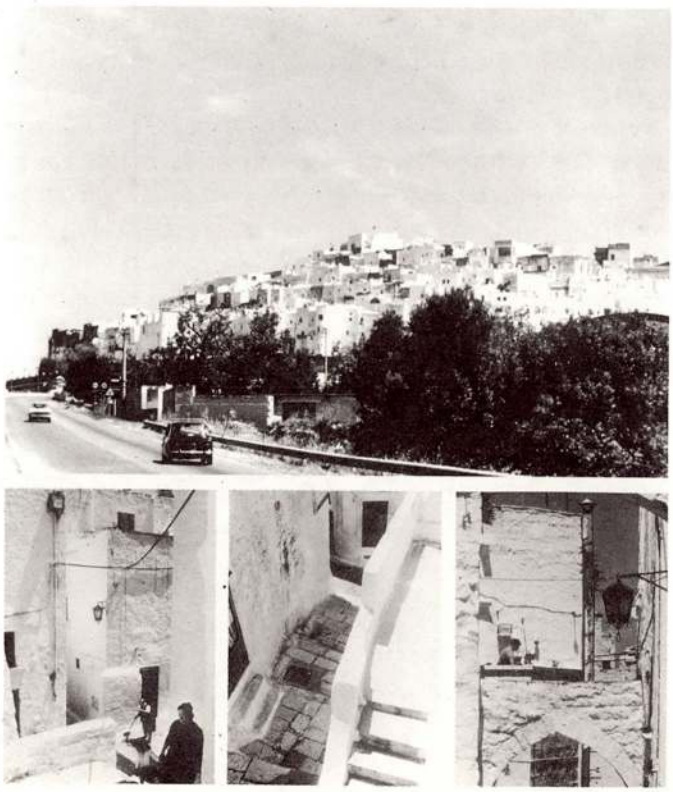
オストーニの街

個人の赤裸々な生活を内包した個々の住居が、集落の脈絡の中に組み込まれ、全体としても生きづいているオストーニ。遠景として把えてみると、集落自体も、一個の建物のように広大な土地の中に位置し、周辺の風土と同化している。近代以降、人間の行為を数量化し、それに対応するような部分を機能に従って、全体化してゆくという手法によってつくられてきた現代都市を見なれている私にとって、このオストーニは、部分をとりあげても、全体として見ても、魅力に溢れたものである。

現代都市を見て、血の通っていない部分を論理の整合性をもっていくら集積させていっても、全体としては生きづいたものにはならないということが解っていても、オストーニの魅力を分析することは難しい。それでも、部分としての個人の住居と、全体としての集落とを連繋してゆくものは何か。また全体としての集落が、どうして迫力をもって私にうったえかけてくるか。それに、グローバルな視点から見て、集落全体が部分となり、全体としての大地に、いかに融合しているということについて考えてみた。前者に関しては、個人の住居が非常にプリミティブな形態で成立していて、個人の素朴な生きようとする姿勢をそのまま反映したような空間であり、個人の意志により創られている点。そして、住居を集落へと連繋させるために、白い石灰で道までも塗りつぶしてゆく手法。これは個人が外敵に対して、自己の安全を守るため、集落全体で対抗しなければならないということから、集落に組み込まれたいという個人の欲求を反映したもので、生きるための知恵である。つぎに、集落全体を一つの部分と考えた場合、大地にいかに組み込まれているかを見ると、それは地形にそって集落が形成されているというごく当たり前の解答しか得られない。しかし、このことは、現代技術によって可能になった土地造成の後に建てられたものにはない技術・論理を越え、風土に同化する生の躍動を感じさせていると思われる。以上の点は、合理的に説明のつかないものかもしれない。しかし、われわれにとって非合理であるものが、この集落で生活する個人にとって、プリミティブな観点か

（左段へ）

オストーニの街



デザインの総合活動と文明

北島　道生

1 2

ここで豆腐のベロベロと四角い外形といった単純な関係が論じられているとは思えない。部分に全体から独立した相応の存在意義があり、また全体は部分を超越した存在であり、しかも部分と全体が同一空間を共有するような関係として把えるのが一般的だろう。

拡張すれば、ある全体はいつももっと高次の全体の部分を形成するような循環としてである。そこでは部分がその次元での全体性を主張するから、その存在は高位の全体との間に葛藤を常に内在させる。そのような典型として自分の職業に関係して最も興味のあるのは〈建物〉という物的概念と〈建築〉という価値概念の対比であり、また〈環境としての建築/建築環境〉と〈建築〉の対比である。

関心事項である〈建築〉は物的存在である〈建物(群)〉に対して即物的に、また環境的に部分であると同時に、価値概念上一つの全体である。同時に〈即物的建築〉〈環境〉は〈建築〉に対する全体である。

3

設問の仮説部は無意味と思われる。

部分の単純集積が全体を形成したり、全体の単純内分が部分であったりというようなことは、先に挙げた〈豆腐〉とか〈下等な動物群〉とか〈集愚政治〉などに見られる至福状態など没価値的な状況であり、そのような場では Design 活動は必要とされない。

部分と全体が相互に矛盾、拮抗するのが存在の蓋然であり、そのような関係をそれぞれの存在機能を護りつつ現実の同一空間に組み込むために、Design の総合活動がある。むしろそのような拮抗関係を逆用して必然感を起こさせ緊張感を生み出すのが Design なのだと言える。

総合活動であるからには単純な方法論が成立するはずのものでなく、他律/自律教育による技能、判断力の蓄積を踏まえ、意志で貧しい能力と複雑な現実を導きながら、試行錯誤によるひたすらな努力と決断しかない。その結果に正当性の裏付けが必ずしもあるわけでもなく、正当性の確度を高めるには、社会制度による職業人格の妥当な拾い上げの方法を確立し、教育により Design の資質向上を計るしかない。総合活動は人間によるしかない。

それでもなお、莫大な数の中での確度を高めるには、そのような社会制度、教育制度を規定するものとしてのその社会の文化による無形の拘束性に依存するしかないが、文化は生産者だけではなく、需要者側を含んだ全体社会をまず規制するものでなければならない。

全体的な文化の低迷状態の中で Design 活動だけの高踏性など稀少事例にしかあり得ないし、まず社会的必要性に乏しい。

〈建築〉は〈掃き溜めの鶴〉であってはならない。〈環境〉が〈建築〉であり、そのような場で真の〈建築〉が生まれよう。

問題の発生は、外の世界から文明の移入を急激に試み、単純生産の方法だけはよく引き移したけれど、生産を導く上位理念や生産の統禦方法については吸収できず、在来の文化は拮抗要素として切り捨ててしまったところにある。部分文明の移入はできても全体文明の移入はできなかった。

そこにはこの設問の意図通り、文明の部分と全体の間の不整合がある。

(きたしま　みちお　北島道生アトリエ〈一級建築士事務所〉主宰)

(右段より)

4

写真は先にふれた工場のキャンティーンのインテリアです。竣功を記念してスイス本社から贈られてきた大きなカウベルとボヤ画と呼ばれる横長の板絵は、スイスの伝統民芸の中でも代表的なものですが、昼食時と午前・午後のティーブレークにここに集う従業員や訪問客に、アルプス山麓部の生活の素朴な雰囲気をよく伝えており、休息の場に楽しさをプラスしています。　(たけもと　じょうたろう　安井建築設計事務所)

技術的判断と社会的要求との調整

竹本　丈太朗

1

最近私の経験したプロジェクトの例でお答えしたいと思います。この計画はあるスイス企業の在日法人のための新しい製薬工場ですが、建築主側のスイス人技師を含む私達プロジェクトチームの目標は、新たに制定された GMP 基準(医薬品製造と品質管理に関する環境基準)を十分に満たす質の高い生産・労務環境を実現することにありました。長期に亘る計画・設計期間を経て、私達が敷地現場においてまず最初に建設したのは、正確に設計図に即した寸法・材料・ディテールを備えた生産工場の単位空間、つまりモックアップ(原寸モデル)と呼ばれる約 120 m² の建物でした。モックアップの概念そのものは、ホテルや共同住宅のモデルルームに例がある通りそれほど珍しいものではなく、いわば原寸施工図を立体的に現物で表現し評価するという手法ですが、生産工場での例は海外でも比較的少ないようです。ここでは外周壁・床・間仕切・天井・開口部といった建築部位をはじめ、エネルギー供給方式と構造ディテール、設備端末ユニットなど生産空間を構成するすべての要素について、その性能・ディテール・施工性を実証的に検討・評価し、その結果を本工事に実施するというプロセスを採用したわけです。このような試みには当然相応の費用を要しますが、検討を通じていくつかの技術開発的な成果が得られたこと、設計・施工・使用者の多角的な議論から得られた解決などが、最終的に全体コストの節約と質の向上をもたらした点で成功であったと考えています。しかし、一方では基本的な建材である床材料一つをとりあげてみても、性能保証・施工の信頼度・材質についての専門的知識・流通問題にみられるわが国特有の社会経済的背景など建築家がより責任をもって取り組まなければならない問題が多く残されていることを、改めて認識させられた貴重な経験であったとも言えます。

2

利便・安全・耐用・コストなど機能・経済的な側面と生産・研究・休息といった人間活動を含む総合的なパーフォーマンスであると考えています。この場合、個々の要素の相互間のバランスが肝要であることはいうまでもありません。

3

建築の全体像は、一般的にインフラストラクチュア・建築本体・各種設備・情報・インテリアなどの総合されたものと言えますが、ますます専門化されていくおのおのの技術・デザイン相互間の境界面の調整がより重要な業務になってきているように思います。生産施設を例にとっても、欧米では生産・技術・コスト・時間の調整と管理に責任をもつプロジェクト・エンジニアが不可欠の職能として社会的に定着しているのを見るにつけ、彼我の差を感じないではいられません。

建築が環境・個人・地域社会に与える影響に対して関心がいよいよ増大している今日、専門家としての技術的判断と社会・経済的な要求との調整は、今後とも建築家に課せられた大きな課題であり、責任の重さを痛感させられます。部分と全体を繋ぐためには、私達が建築以外の他分野から学ばなければならないこともまだまだ多くあるように思います。

(左段へ)

撮影：村井修



C

インテリアデザイン分野

デザインの動向ー部分と全体
アンケート

商店街とエレメント

福岡喜久雄

建築やインテリアのデザインで、「部分」と「全体」はどちらが重視され、また先行してデザインされているかを考えることは、興味ぶかい。

小さなスペースで生まれる「部分」は、全体構成のプロセスで、自然発生的に生まれている場合が多いが、デザインのスケールが大きくなると、「部分」のイメージが、単なる「部分」でなく、全体のイメージに、強い指示性をあたえて、全体が表現しようとしている形の意味は、よく「部分」の形の意味で表現されている。サンフランシスコにあるキャネリー「J・エシェリック」のインターナルコートにみる連続アーチ形態や、新宿のコミュニティーにみるアーチ形態などが、それと言えよう。「部分」の集積が「全体」とするならば、先述の連続アーチなどは、全体計画の発想の段階ですでに「部分」として完成していたのではなかろうか。

昨今は何もかも、個性化時代と言われている。私達の仕事の分野でも同様で、これはファッション文化の影響と思われるが、商店界では、ことにこの傾向が強い。その中には陳腐なものもあるが、全体には、一つのデザインが他のデザインとコーディネイトしながら新しいデザインエレメントを生み出している。そして、このエレメントは、商店界の発展をうながし、商店界の発展はまた、エレメントの発展をうながしている。

こうした動向の中で、エレメントは常に部分を演出しながら、実は、社会とか文化とか言う「全体」の発展に寄与していると言える。

そこで、今回のアンケートテーマにあてはまる問題を、私の最近の仕事の中から、拾い、かつ二つの性格の異なったものでみてみると、一つには昨年、大阪日本橋の W・インテリアショップがあり、他の一つには大阪アベノ橋での店舗づくりがある。

先のインテリアショップのカラーコンディショニングは、一・二階では個性的な黒一色の統一から、商品構成とからめて、上層階に移行するにしたがって、明るく、ポピュラーな色調に変化させた。この場合の黒は、全体からみればごくわずかで、「部分」であるべきはずだったものが、個性の強さに影響されてか、「全体」を意味しているように受け止められている。

後の店舗づくりとは、地下商店街の中の一つのゾーンの、規模は小さいが、街づくりのことである。この地下街は、地下二階で、地下一階にあるメインの商店街から孤立した形になっており、四本の腕のような階段でメインの商店街と接している。ここで私の考えたものは、この商店街、実は飲食店街なのだが、ここにコミュニティ的性格をもたすことで、顧客の動員を計ろうとすることなのである。が、それはさておき、その手段の一助として、立木をモチーフとした陶板レリーフを各エントランス部分に用い、かつこのレリーフを、各テナントのファサードにも用いることで、内外部の一体感を強めることにした。全体としては、エントランスのレリーフを取りかこむ部分から、このゾーンの・床面・壁面まですべてをレンガタイル貼りとし、このレンガタイルの壁面の一部が、レリーフに発展したといったデザインである。だが、このレリーフは「部分」であるにもかかわらず、強い主体性をもっており、「全体」に対してきわめて強い支配をしている。逆に残りの「全体」は、この「部分」を演出するための、副主体となっている。言うならば、「全体」が従で「部分」が主なのである。

「部分」と「全体」とは全体像をみる観点から起きるもので、部分のもつ意味「思想」と、その表現「規模」によって大きく変わる。

ところで「部分」は、あくまで「全体」の一部であり、それがいかに主体として受けとめられても「全体」というデザインの中で「部分」に変わりはないのである。

ただ、第三者の多くが、ある「部分」が、受け止めやすいモチーフや理解しやすい形である場合に、主体であるようにみられ、この場合に、主体「部分」のデザインが、全体計画より先行しているように思われているのではなかろうか、と私は考えている。

（ふくおか　きくお　大阪芸術大学助教授・福岡喜久雄デザイン事務所）



セラミックレリーフ（福岡喜久雄提供）
1500 W×2500 H　12カ所
信楽　パターンは木立、ギヤマンでブルー、グリーン、パープル、ブラウンの4色を使用



4つのエントラススの一部（福岡喜久雄提供）

中心無き全体

藤川　宏允

ハンス・ゼードルマイヤー教授はその著書“中心の喪失”において、建築をふくめて、諸芸術の分裂をのべ、混沌が猛威をふるい、中心の喪失がみられるとしている。“中心を失うことは人間性を失うことである”とパスカルの言葉を序論にかかげている。

「デザインの動向―部分と全体」においては、建築全体とそのディティルのかかわりを述べるのが、今回の主旨であろう。都市計画家が建築家をみる場合、自らを全体とみなすであろう。建築家からインテリアデザイナーをみれば、それは部分を創る人とみるであろう。しかし全体と部分はそのような視覚的領域だけの問題であろうか。

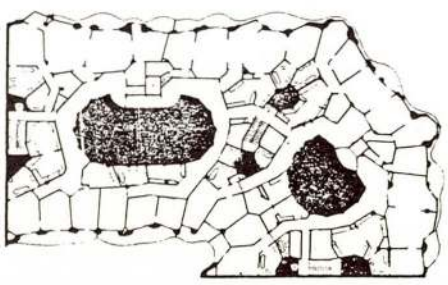
詩人・中原中也が1927年（日記・精神哲学の巻）で、前後のかかわりなく突然1月20日（木曜）に、デザイン、デザインって？　そんなものは犬にでも喰はせろ。歌ふこと、歌ふことしかありはしないのだ。と、述べている。ここではデザインは部分でしかなく、歌うことこそが全体であり、鳴りひびく芸術なのであろう。

建築だけをとりあげずに、芸術＝全体と考えるとその部分が何であるかがはっきりしてくる。その芸術の中心の喪失によって、純粋領域が分離してくること（孤立化）。対立へと追いやられること（対極化）。非有機的なものへ傾くことをゼードルマイヤーは述べている。

ル・コルビュジェが“大聖堂のあるわれわれの古い都市の中心は破壊されなければならない。そうして摩天楼によって置き代えられなければならない”とのべたが、その都市の中心となるべき摩天楼もその建設自身に大きな問題をはらみはじめた。都市と人間の問題である。これらの混沌の中から、ル・コルビュジェの言う全体としての芸術の中心となりうるものは何であろうか？

ここで全体・部分それに中心を考える上で、あのガウディが必要となってくる。ガウディの“カサ・ミラ”“サグラダ・ファミリア”聖家族教会には芸術における、道化の精神がいっぱいに宿っている。道化の精神において、混沌より中心をつくりあげ、さらに全体＝部分、部分＝全体、全体＝芸術にいたっている。ここに言う道化の精神とは、常に中心にいるのではなく、主役でなく、脇役として強烈な批判精神でもって、中心を創りあげるものではなかろうか。まさにガウディはそれに値いするといえる。絵画・彫刻・演劇・映画等、あらゆるジャンルの芸術において道化は登場する。ピカソ、ルオー、チャップリン等々。建築において道化が出現するのは、ガウディからである。ヘンリー・ミラーの“梯子の下の微笑”において、“道化は行動する詩人だ。彼は自分の演じる物語そのものだ。それは、くりかえしくりかえし語られる同じ物語だ。崇拝、献身、十字架。まさに「薔薇色の十字架」だ”と述べている。当時の建築の秩序ともいえる様式を、植物装飾、動物装飾をくりかえしくりかえしはめこみ、さらに彼の創造の大とかげや、かたつむりの奇怪なものを部分として用い、あの大聖堂の尖頭には、神への歓喜の文字が大きくのっている。建築の場合においてはこの道化の活躍する場所が他の芸術と異なり、限られがちと考えられているが、日本においては岡本太郎のごとく対極主義をかかげ、道化の精神を発揮している造形詩人もいる。彼の作品も全体＝部分であり、中心を側から見つめている人間といえる。デザイン界にこの道化役をもっと必要とする。

私のすきな部分
ガラディデザインのカサ・ミラのプラン



参考文献
●道化のような芸術家の肖像　J.スタロバンスキー　大岡信訳　新潮社
●中心の喪失　ハンス・ゼードルマイヤー　石川公一・阿部公正共訳　美術出版社

（ふじかわ　ひろただ）
KK 大丸装工部

標識という部分のいらない世界

坪居　恭平

標識の仕事が多い日常だが、これらの標識を「部分」として見るならば、これを取り付けるきわめて建築的な環境を「全体」としてとらえることもできるであろう。

私は、本来のところ、標識というものは不要なものであったろうと思う。折角の美しい環境の中に、「手洗いはこの奥」などという張り紙、それがたとえブロンズのレリーフでできていても、なくてすむならばないに越したことはないのである。

人間が行動するとき、その空間をその人間が捉えきれないときに、これらの標識が必要となってくるのであろう。今日では、高密度な都市化空間と、交通手段の発達によって行動の半径が極度に広まったことのために、空間そのものが人間的なスケールを、はるかに越えてしまったようである。







四国路を歩くと、古い道のわかれ道などに、へんろ道の標識を見る。今日の標識は、直進○○・左折○○・右折○○という案内であるが、ここでは、左遍路道・右ぎやく遍路道とあるだけである。この時代には、四国遍路という一本のライン上の案内を示せばよかったのであろうが、考えてみれば、四国八十八カ所、四国一周というコースは、これまたとらまえにくいスケールであったにちがいない。

今日の都心部は、いたるところ四国八十八カ所であって、捉まえにくい密室の集積であるビル、そしてまたビルと接し、その上、地下空間が連続して構成する地下都市群はいつか少し昔、情熱的にこれを指向し、あこがれたはずの未来都市であったが、この中を行動する人間にとって、唯一の手がかりは標識（案内地図なども含めた）なのであり、もう一つは反復通過することによる記憶にたよるしかないのである。

ここでは四国八十八カ所とはちがって、その案内に必要な情報は、一本のラインではなく、無数のラインが入りみだれるところがまた特色でもある。このためには、無数の情報を提供できることも一つの対策ではあるが、往古からの都市計画に、メインの本通りとサブの通りがごばん状に、あるいは放射状に構成され、広場があり記念碑があり、あるいはお城があるというように、ストリートと、モニュメントなどの設定が、広い空間を人間がつかみとるための物差しの役目を果たしていたと思う。

ところが、その発想の乱用が、どうも今日の都市像のようで、その上巨大化するための資材や工法の工業化は、なお一層イメージを画一化してしまったようである。今日、各地各所で同じ発想のデザインの高層ビルが建っているのを見受ける。あ、これは例の設計事務所の仕事だなとすぐにわかるものである。こういうデザインのランドマークをたよって行動すると、とんでもない誤りをおかしかねない状況が、ぽつぽつ見える。同じような白い縦縞のビルが、そこそこに見えて、狐につままれたようなことになる。

昔の松並木の街道は、旅人に日かげをつくる役割をもってもいたろうが、あの並木は、旅をする人たちにとって大きな案内の役割をもっていたし、脇道から来ても、すぐにそれとわかるパターンをもっていた。標識は、追分けにしか必要でなかったのである。周囲の視界の広さや、風景も、建物もコオーディネートされたわかりやすさを助けていた。こういう標識のいらない環境づくりを、それこそグローバルなスケールで、調整しつつ作り上げたいのである。（つぼい　きょうへい　坪居恭平デザイン事務所）

トータルインテリアとシステムデザイン

柏原　秀夫

日本の産業界の中で注目を集めている住宅産業とインテリア産業。表面上は花形的様相を呈しているが、その内容や実状はまだまだ産業とは言い難いのではなかろうか。オーダーメイドによる高級住宅は別として住宅全般の供給方法をみたとき、生活者のベーシックなニーズは最大公約数的であっても、ディスクリショナル（自由選択的）ニーズはますます多様化と個性化の傾向にある。これらのディスクリショナル・ニーズを満足させるだけの内容とシステムを持ち備え住宅をトータルで供給している企業がはたして何社あるだろうか。現状ではほとんど無に等しいと思われる。これではあまりにも生活者を無視していることになるのではなかろうか。

日常インテリアデザイン分野の業務に携わる中で日本の住宅を考えた場合、デザインの重要性と必要性（広義の意味でのデザインであり、単なるスタイリングや表面処理の問題ではない。）を痛感することが多くなりつつある。住宅のインテリアデザインをとり上げてみても、右図に示すごとく単なるエレメントの組み合わせのみではなく、生活空間としてのいろいろな要因が入り込み、それぞれの目的に合ったインテリアデザインをつくり出していかなければならないことがわかる。



住宅のデザインは、その中で生活する生活者のライフステージやライフスタイルによりそれぞれ異なるものである。この多岐にわたるニーズに合わせどのように供給していくか、その方法やシステムを確立させ生活者に提案し、供給していく立場をとらなければならないのではなかろうか。同じ床面積で多くの部屋数をとることに力をそそぐよりも質の追求が必要なのであり、住宅としてのデザインが無視されているのではないかといった錯覚すら感じられる今日である。

インテリアのカラースキム一つをとりあげた場合、同じ機能の室内であっても用いられる色彩と量（面積）、テクスチャーによってまったく異なったインテリアデザインが出来上がるものなのである。最近東京で、通産省、建設省の後援で住宅のトータルインテリアショーが開催されたり、トータルインテリアの定義づけや概念もまとめられ発表されているが、そのニーズと必要性を充分みとめていながらも、その抜本的対策や方法、各関連企業間の協力体制やデザインの関連性など何らの方法論も提起しないままに終わってしまっているようである。これでは単なる縦割り関係のみの集まりでしかないのである。これらの密接な関連づけとデザインの統合が今後の大きな課題であることは言うまでもない。

住宅というファクターの中では、この一つ一つがデザインの「部分」である。この「部分」の奥の深さとその複雑さは想像を絶するものであり、今後これらを統合することで「全体」となるであろう。しかしこの「全体」も今回のテーマで言う「全体」ではなく「部分」にすぎないのである。

今回のテーマの「全体」とは、一机上での計画案や文章で表現できても具現化することができるようなものでないことは確かである。しかしより理想的な「全体」に近づけるためには、システマティックに処理された「部分」を統合するためのシステムデザインが一つの方法であり、それらをスムーズに推進させるためには各マニアルやツールスが大きな力になることを確信するものである。

（かしはら　ひでお　KKジャパンインテリアデザイン代表取締役）

椅子と椅子の在る空間

谷本　衣子

「椅子と椅子の在る空間」が、今、私の最も気になる「部分と全体」と言えましょう。

家具ー椅子の状況は、あまりに多様であり、ここでは、椅子と空間とのかかわり合いに的を絞って、考えてみることにいたします。

A．建築家が、自らの空間のために設計した椅子類。

かつて、ローエやアルトー、コルビジェ等が、建築するたびに、リ・デザインを繰り返しつつ、作り続けられた、健やかで、美しい椅子類が、固有の空間を離れても、量産家具として、商品化され、多くの建築家の空間に無くてはならないものとして、今日に至っています。ローエのバルセロナ・チェアーなどは、建築家にしか作れないものの代表でしょう（と、建築家でない私は考えてしまいます）。いったい、建築家でなくては作れない椅子とは何なのか。言葉では表せませんが、現に、そこに在るのですから。それが事実とあれば、世界のほとんどの椅子が手に入る今日においても、ぜひ、作られねばならぬものではありますまいか。その答えは、いつか、建築家の方々が出してくれることでしょう。

B．自らの空間は持たないが、建築空間に対峙できる強さと、完成度の高い椅子類。

職人と言われるほどの、木に対する理解と、豊かな造形力を持つ、ハンス・ウエグナーやジョージ・ナカシマの木の椅子。アメリカの工業技術と、チャールズ・イームズの創造力が作り上げた、成形合板とスチール、F．R．P．による椅子類。

空間作りの初めから、これらの家具を念頭において、設計される場合も多く、勝れた空間に、勝れた家具の出合いとでも申しましょうか、ユーザーが、少々無茶をやろうとも、簡単には崩れそうもない、強い空間が実現します。たとえ弱い空間でも、かえって家具が引き立って良くなる場合すら、ありうるのです。

C．まるで空気のように、静かにそこに在るという椅子と、それを包む空間。

こういう空間には、めったにお目にかかりませんが、強いて言えば、とてもうまくいっているときの、茶会における、亭主と客。亭主心入れの茶室の道具類（掛物、花、花入、茶入、茶碗、茶杓、棚等々）。静かで、自然で、それでいて張りの有る空間は、これに当たりましょうか。椅子で言えば、デンマークのモーゲンセンの椅子類。そこに住む人、動植物、天井、床、壁、家具小物等々、すべてが揃って自然であり、自由でなければなりません。一つ崩れれば、成りたたなくなる空間という意味では、住む人に、大いなる努力を要求する空間でもあります。

以上のように、空間と椅子とは切っても切れない関係にあり、少なくとも、美しい空間は、椅子の良否を決定的に思い知らせてくれますし、美しい椅子は、空間の弱さを暴露して憚りません。今日、いわゆるインテリア・デザイナー達は、空間の質に大いに左右されながら、自分の感受性を頼りに、家具ー椅子を形として、空間に参加し、「たまには、椅子から始まる建築があったっていいんじゃないか」などと、甘ったれながら、流され続けます。

私も、美しい空間との出合いを楽しみに、空気のような椅子を作らんものと、励むことにいたしましょう。

（たにもと　きぬこ　京都市立芸術大学非常勤講師）



まともな部分を時間的全体で評価

伊吹　弘

部分の接合のしかたについて

「部分と全体」というテーマを、ごく素直に捉えて、具体的なものにあてはめてみると、どのようなスケールにでも解釈できる。建築の中の一つ一つのエレメントは、より小さな部分の集積であり、一つの建築も部分として建築群をつくり、それらが都市の部分として存在し、都市がその周辺とともに都市圏をつくり、文化圏をつくっていく。このように見ていくと「部分と全体」とのかかわりあいは、スケールによってかなり違っていて、共通的なものを抽出するのはむつかしいようだ。そこで一歩引きさがって、われわれのテコに合うスケールとして、建築を中心に考えてみることにする。

部分を全体に繋げていく場合の問題は、集積の方法であり、もっと即物的にいえば個々の材料の接合の手法である。それらを「全体」にまで積み重ねた結果が、考え方なり思想を表現することになる。

揃える・並べる・繰り返す、チリ・テーパー・アール、シンメトリー・コントラスト・バランス、量感・質感・光と色、等々、それにプラスアルファー。これらを頭において、部分の集積のありさま、材料の接しかたを一つづつ解決し、積み重ねて建築をつくっていく。このプラスアルファーが、それぞれの個人によって異なるわけである。

写真Aは、奈良東大寺法華堂の勾欄の接し方で、これは手摺の高さを揃えていない。写真Bは京都東本願寺枳殻邸の石垣で、全くバラバラの形の部分の自由な集積である。私にとってのプラスアルファーは、この2枚の写真である。

空間が一つの部分であると考える

いままで述べてきた部分の接合のしかたは、すべて実体についてのことであった。実体によってつくり出そうとする目的物、それは空間である。このわかりきったことが、ともすれば忘れ勝ちになる。室内空間を考えた場合、家具や、床・壁の表現や、飾りものは、一つの手段であって、気積、明暗、音といった設備技術者的な、空間の捉え方が最初に必要なことではないかと思う。

さらに、つくられた空間は均質ではない、という見方が必要である。磁石があれば磁場が存在するように、実体にはそれぞれ固有の勢力範囲の空間がつきまとう。同じ壁面でも材料、質感、色彩によって、支配空間を大きくすることも、小さくすることもできる。外部空間についても建物が支配する空間があるはずである。これは日照権とか風害とかいう物理的次元でなく、都市のたたずまいといった見方にかかわる問題である。

空間が一つの重要な「部分」であり、空間の質を知った上での全体の繋げかたが、建築の価値を決めると考える。

まともな部分を時間的全体で評価する

きわめて個人的、衝撃的、反社会的な小説・映画・絵画でも、それ故に価値があると見なされる場合がある。デザインの世界においても、これに近いことがあったかも知れないが、建築では、まともなものが、まともな評価をうけなければならないだろう。

この数十年、われわれの周囲を、目をあけて広く全体を、見るとき、建築デザイナーの果たした役割はどうだったのだろうか。われわれに遺産として残された数々の名建築、あるいは町のたたずまいに、われわれが評価を与えているように、わが子孫たちが、われわれが今つくりつつある財産に対して、まともな評価をしてくれるであろうか。

まともな部分をつくるための智恵を養うためにも、「全体」という言葉を空間的な捉え方から、時間的要素を含めたものに拡大して考えていかねばならない。

（いぶき　ひろむ　KK日建設計大阪本社総務部長兼技術（インテリア）主査）

素材感と色彩の対比

中村　隆一

項目に従つて答えさせていただきます。

1

私にとって部分とは、同材または違った材料の、素材と素材が隣接する場合、それぞれの材質感と色彩の対比状況、とくにその接合部の〝ディテール〟である。

2

私にとっての全体とは、常時部分の総合に終わってしまうのであるが〝全体とはミクロコスモス（小宇宙）である〟と自分で定義している。

————インテリアデザインのWORKを文字通り無機的に見ると、構造体（スケルトン）の内に展開する、空調衛生設備、電気設備の装備、床・壁・天井と見なされる部分の工作法と素材感のコントロール、それに家具什器等道具類の設置および色彩計画ということになる。

3

私にとって、部分と全体をつなぐ物といえば、

- 接合部のディテール
- 素材感（視覚的・触覚的）のコントロール
- 色彩計画
- 照明計画

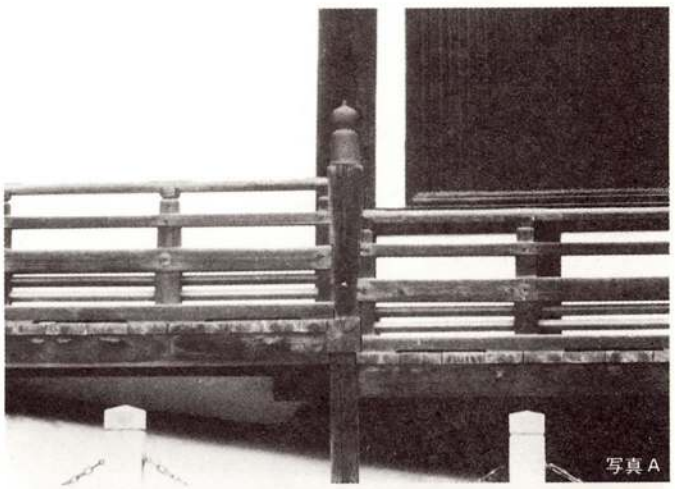
4

私の好きな〝部分〟

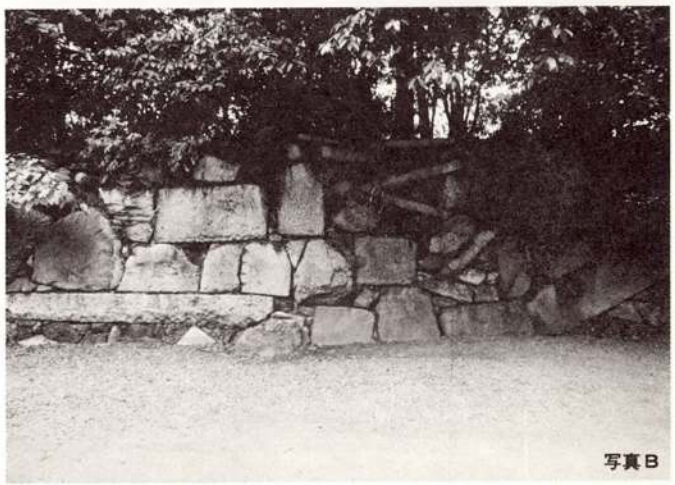
高圧電線の電柱と鉄道架線の番線の縣架接合個所とその空間的展開を見ると身震いする。あのキン張感と無用のピースの全くない構築体が大好きである。

（なかむら　りゅういち　KKノール・プランニングアソシエイツ代表）

写真は伊吹弘提供



写真A



写真B

住宅における生活のための装飾

平井　進

一般住宅建築の中で「デザイン」という言葉でみつめられる部分や全体には年々無関心になりつつある。それというのも、住宅設備機能の商品化が想い想いに進められ、しかも部屋別に、材質別に、機能便利競争でおしつけられているからだ。一個の部位を取り上げれば、それは技術低下した現在に、ことさらオーダーしなくとも安心して選べることにあろう。そのようなまとまりを思想するとぞっとするのである。

1

住宅の場合、生活用具設備を造り付けにする場合と、置家具によってまとめる場合との2通りがある。計画（線の構成・材質・色調）にそって2通りのどちらにするかを決定する。全体の一部としてまとめる方法と、独立させ装飾の一部として組み合わせで考える方法とがある。全体の一部とは自然感（THIS SIDE DESIGN）をいう。また、独立させた装飾の一部とは目立たせる表現（FRONT SIDE DESIGN）をいう。

2

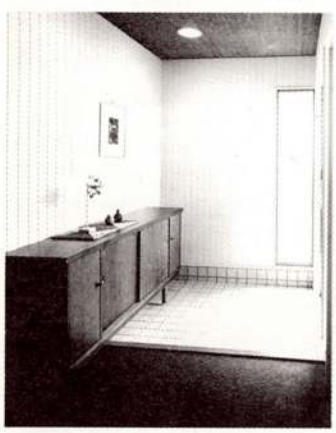
一部屋であっても、建物であっても形には理由（デザインテーマ）が必要である。そのための造形・ディテールのデザインポリシーを考える。また、不必要な形状や、無意味な部分をしかたなく処理しなければならない場合がある。そのような場合も必要性・意味付けに変わるテーマ変更もある。

3

住宅は施主（コンシューマ）によって計画もさまざまであり、ケースバイケースでまとめることになる。生活のための装飾が何であるか、またどこであるか、が、はっきりしていれば、不自然なディテールであってはならないのである。

4

生活のための装飾は主人・家族を表している。また、その指導もすることであるが、施主好みの自由な飾り方（時には家具も含む）ができなければならない。そのための背景作りの役割だと思っている。



写真A　花岡邸玄関
「天井」クロス張り（グレー）
「壁面」ピーリング色ラッカー吹付（ホワイト3分艶）
「土間」クリンカタイル（ホワイト）
「床」カーペット
「玄関カウンター」ケヤキ色仕上
「照明」ダウンライトナショナルボール球



写真B　同左　階段
「天井・壁・床」玄関と同じ
「窓」ブラインドシルキー（レッド）
「手摺」ケヤキ生地仕上

（ひらい　すすむ　KK平井生活デザイン研究室 代表取締役）

念

佐々木恵子

全体と部分……興味ある、しかし難解なテーマです。部分の集積が、全体であることは、確かだと思います。が、それはたんなる寄せ集めではなく、ダイナミックにからみ合い、関係し合って全体を組織しており、部分は時として、全体となって表れます。

人間は全体です。人間の肉体をフィジカルに捉えるなら、脳・血管・骨・五臓六腑・眼など、人体解剖図に表されるものすべてが部分で、それらは有機的に関係して肉体を組織しており、さらにこの肉体と精神・意識・心象など、不可視的なもの、内面的なものが、秩序と矛盾をはらみながら、からみ合って一個の人格、全体を形成する、この全体と部分の関係ほど、不思議でかつ魅惑的なものはないようです。

いま、全体を環境として捉えるとき、部分はモノであり、空間であり、建築であり、都市であり、あるいは、線・音・光・空気・匂いなどですが、これらは、単純なヒエラルキー関係ではなく、複雑で精緻で、しかもダイナミックにからみ、ついにこの関係は、混沌と分裂へつながりそうにも見えています。創造行為を通じた場合、この関係、からみが、複雑であればあるほど、一貫した主体性とメンタリティーが必要なようです。部分の主張は、時に全体を凌駕して表れるので、全体にバランスと一応の完結性を持たせるには、フィジカルな主張の以前に全体へつながる、見えないナニカが要るようです。このナニカによって部分が主張でき、関係し合うとき、全体は人の皮膚感覚を快く刺戟し、精神の高揚をうながすものにつなるのではないでしょうか。

ナニカは何なのか、解るようで解らないハナシですが、いま、このナニカは〝念〟ではないか、などと思っています。概念、観念、理念、執念、情念、憶念、無念、想念、怨念、…念、…念、……これらは、部分を有機的に関係させて全体とするための方法、道具といったものにあたるのかも知れません。

念のため、

〈概念〉 ①事物の本質をとらえる思考の形式、事物の本質的な特徴とそれらの連関が概念の内容。概念は同一本質をもつ一定範囲の事物に適用されるから一般性を持つ……以下略。
②俗に大まかな意味内容。

〈観念〉 〔仏〕 観察し思念すること……。仏陀の姿または真理を思い浮べてよく考えること。
〔哲・心〕 思考の対象となる意識の内容、心的形象の総称…以下略。

〈理念〉 理性によって到達する最高の概念。

〈執念〉 思い込んで動かぬ一念、執着して離れぬ心。

〈情念〉 心にわく感情や心に起る思念。

〈憶念〉 深く心中に銘記して忘れぬ考え。

〈無念〉 ①〔仏〕イ．妄念のないこと、正念……。
ロ．正念を失ったこと。
②口惜しく思うこと、残念。

〈想念〉 かんがえ思うこと。

〈怨念〉 うらみのおもい。

以上、新村出編　広辞苑第二版による。

そして、全体はたえず、個の領域を超えてはならず、個々の人格の表出の場、実現の場でありたいとねがっています。(もし超えてしまっているのなら、もう一度、個の領域へ取り戻さなければなりません。)

（ささき　けいこ　アトリエ・トリフォイル室内建築設計事務所）

社会的共通の言語

安永　一典

部分とか全体とかいう把え方は、各個人の宇宙観によっても、状態によっても非常に異なると思うが、精神的活動を伴う人間として、われわれの日々の生活を通じて考えれば、自分にとっては身近に「社会」というものを全体として置かざるを得ない。社会というものの一般論はともかくとして、高度な社会にとって大切なものが高度な文化行為であることは当然であり、自分にとって社会に対する文化行為は一日の最も多く時間をためる設計という行為そのものにほかならない。それが自分にとっての社会的部分であり、食べたり飲んだりの行為がそれであればなお楽しいのであるが、それは部分の部分ということになる。

美人というか、佳人というか、を考えるとき、ゆれるまなざしが美しいとか、白い肌が奇麗だとか、襟足が魅力的だとか、プロポーションが抜群だとかの種々の部分の美しさは元より、その配分が生かされなければ、部分部分が精彩を放たないのは当然のこと。その人の教養とか人格、また健康さが単なるマネキンではなく、人間としての息吹きを感じさせてはじめて本当に魅力的なのと同じことが社会にも言えると思っている。美人たる社会をつくるために種々の社会的行為という部分があり、政治、経済のバランスとともに、高度な文化という教養、人格の背景があれば良いのであろうが、それ以上に、その各文化行為相互を「共通の言語」で語るという健康さが、部分と部分を結びつける相互作用の効果を高めるものと考えるが、その社会に「共通の言語」が現在最も欠けているように思われる。

毎日の設計行為が徴々たる存在であっても、それが会社という営利行為を通じて業界の、ひいては社会的な発展に結びつくことが望ましいことであるが、われわれは専門業界内にての活動を単独の「言語」にこだわり過ぎ、他の社会的行為に対して積極的な姿勢で能動的になり得ていないのではないかと考える。それは他の、社会科学、自然科学や純粋芸術等をはじめ諸々の行為にも言えることであり、専門分野を深く追求するあまり、相互の共通の言語を見失ったまま単独の専門的活動にとどまっているような気がする。われわれの世界で言うならば、デザインという文字が氾濫しだしてから何かが狂ってきたように思う。明治以前ではおのおのの文化的行為が共通の言語で語られ、一般にも何の抵抗もなくいわゆる「デザイン行為」が受け入れられ、それが自然に日常の生活に生かされていたと思われる。道具であれ、生活様式であれ、デザイナーと呼ばれないデザイナーが立派な仕事をしていたのであろう。今デザイナーがデザインということを意識するあまり、排他的自己満足に陥り、社会的共通性を欠いたマスターベーションを行っているような気がしてならないのである。

自分の日々の設計行為という部分が、いささかでも、社会的共通の言語を持ち、社会という全体に結びつくよう反省を含めて努力したいものと思っている。

このテーマの抽象的把え方が編集部の主旨に沿うものかどうか怪しいものであるが、社会を建築やインテリアの空間と考え、部分を、それを構成する物や材料に置き換えても同じことが言えようし、その場合でもその設計の理念が共通の言語として語られれば、より具体的解釈になるかも知れないと考えている。

（やすなが　かずのり　KK大丸装工部設計工務第一部部長）



建築と社会〜生活と空間の原理・京の町内〜より

生活空間における繊維

山口　道夫

全体と部分とか、抽象と具象とかの相関関係にある問題点を論ずる場合は、一体どのステージで把えるかが初めに問題になってしまう。編集者の意図するものから、はなれることになるかもしれないが、私なりに考えることにする。

私にとっての全体とは、「生活」であり、その中で考察展開してゆく思想の系である。部分とはデザイナーとしての具体性を通じての、生活空間の問題であり、さらに部分としては、長くたづさわってきたテキスタイルに関連するインテリアエレメントと生活空間と人との、かかわり方であり、さらに一本の繊維である。

一本の繊維が構造（ファブリックス）し、人々の生活に関与する方法は基本的にみると人間の歴史とともに数千年の時間を持っているが、この伝統的な方法論は、今後とも全面的といえる姿で持続していくとは考えられない。複合素材の開発展開が早いピッチで進むであろうし、糸のステップをふまない繊維の利用法も考えられるからである。極限的小空間等では(例、海中住宅とか、ある種の乗物のような高カプセル化空間)すでに古典的方法で生まれた産物＝布地に多くの疑問が感じられているようだし、この傾向は今後さらに表面化してくることが容易に想像される。布地不要というか、概念的なマテリアルの使用法に対して、新しい考えと方法が今後問題化されてくるだろう。今、私達はその時代的接点に立っているとも考えられる。たとえば、電気的極性を利用しての空間単位での繊維コートや、自動的に光量調整の可能な素材での繊維化、非常時のインフォメーションを持ったインテリア用繊維製品とか、フレキシビリティーの高い建築構造物レベルでの繊維の本格的利用等、考え得るものは豊富にある。具体的な方法論として完結できるものから、今後の研究を要するものまで、おのおののランクはあっても、今までと異なるコンストラクションが出てくるであろう。

一本の繊維から、糸に、織や編に、加工し、縫い、製品化していく古典的な方法に対して今までただ合理化、スピード化をしてきたわけだが、このようなステップをふまないで目的達成できる道を考えていくことも、今後の生活空間での繊維にあたえられた一つの課題であろうと私は考える。また視点を変えると、現在の繊維の生産にはすべて衣料対象と言えるような面があるが、最終目的を適確に把握し、その目的にあった機能特性を発揮できる繊維がごく少ない。何かの転用はもう限界にあるといえよう。グローバルな情報を持つ現在、日本の繊維産業の開発方向に対する不満も多くなってきているように思う。

住宅が産業化されていくことで、画一化の方向を余儀なくされていくことだろう。そこにおいても根本的な素材に対する考え方の変更があってもよいと考えるし、よりソフトな繊維のはたす緩衝材としての役割は物理的にも心理的にも大きな意味がある。

いろいろな意味で全体から見るにせよ部分から見るにせよ、今、私たちは新しい目を持つ必要のある時期にあると考えられる。また全体と部分を連ねるものは、その関連から生まれる経済的側面と、問題意識の感度、ならびにそれらを集合し検討できる構造や場、さらに建設的な意志決定とその適正者または構造が必要なのではないだろうか。そこから生まれる部分の発展が良い全体を創ることにもなろうし、充分な問題討議の中で設定された全体像からのフィードバックとしての部分が各パートにおける良い部分を形成することもあるのだろう。ともに横に広い構造と多くの意見や話しあいのできる場を持つことが必要である。初めは一人と一人であっても、いろいろとやってみようと思う。

（やまぐち　みちお　アトリエ・ヤマグチ）

ハードとソフトとの繋ぎ屋

山内　陸平

D

インダストリアルデザイン分野

デザインの動向―部分と全体
アンケート

1 2

部分と全体の問題を概念的に述べることは、私にとって至難のことです。それは、概念的にどのように捉え、位置づけしていたとしても、現実に直面した仕事の中ではそのときの対象や条件によって、その都度大きな差異を生ずること、また、その差異を一計画者（デザイナー）として縮めることの限界も正直よく体験するところです。一例として、機械・道具類の発達・思考の段階を眺めてみるときに、PART→COMPONENT→SYSTEMという一つの系として考えてみるとします。そして、今、この系の中でCOMPONENTを計画、デザインしようとするとき、PARTを部分とし、SYSTEMを全体と捉える場合、COMPONENTを部分とし、また全体とする場合、COMPONENTを全体としPARTを部分とする場合もあるのです。これは、ある場合の一例であって、今日の環境を考えるときに、部分と全体の問題をこのような一例ではとても説明できない複雑な要素や対象や条件が存在するのも現実です。

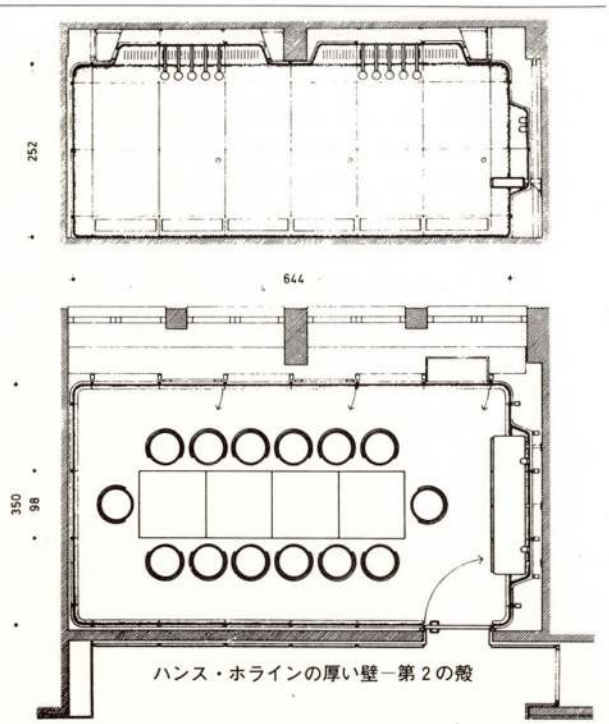
それでは、部分と全体の問題をどのように捉えるのか？まず、部分から少し述べてみたいと思います。

今日まで、ものかたちや存在といった、また、このアンケートの序文にあるように、われわれ人間の五感に訴える直接的な一面（これをハードと呼ぶことにする）を部分として捉えすぎたと考えます。もちろん、このハードな面の重要性についての認識は、ものづくりをする者として、ここで述べる必要性もないと思います。このハードな面に対して、人間（個として、集団として）の行為や習性・なりたち……などといった一面（これをハードに対してソフトと呼ぶ）を、ここで問題にしている部分として捉えてみたいのです。

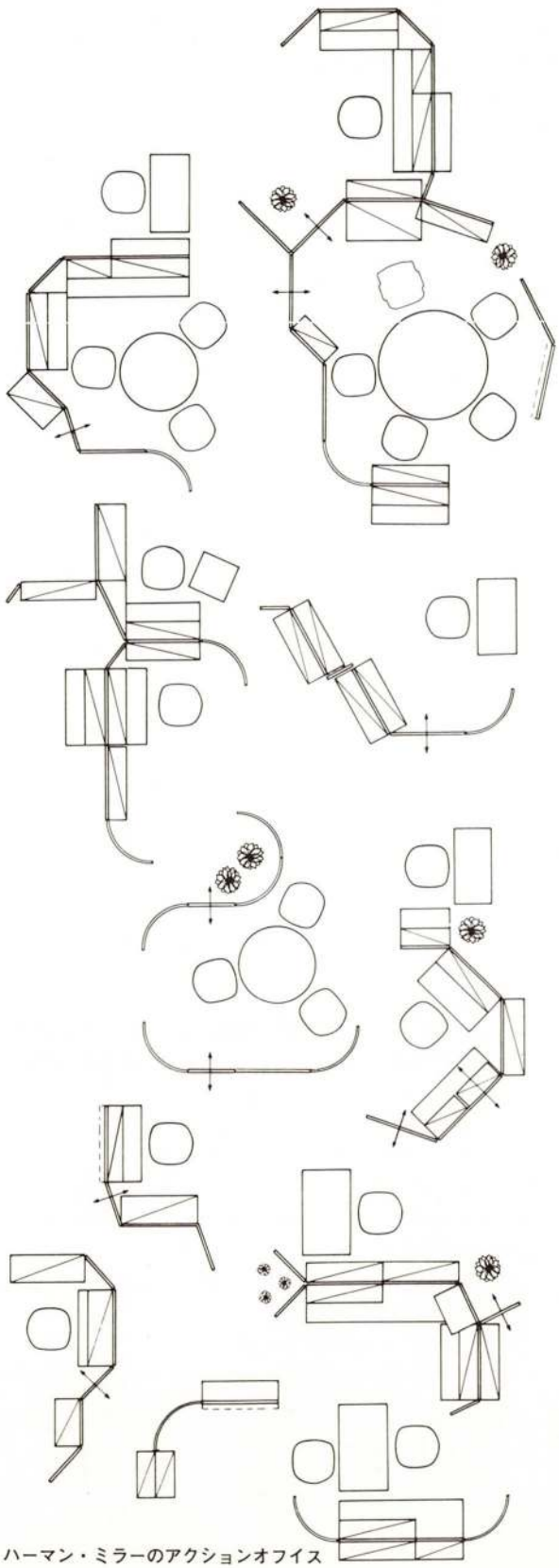
3

部分と全体を繋ぐ具体的な方法は、部分と部分（前述のハードの部分とソフトの部分）を繋ぐことで、部分がより有機的に全体への繋ぎになるのではないかと考えます。つぎに、部分と部分の繋ぎ方については、繋ごうとする者―これがものづくりをする者の場合は―各人の姿勢の問題であり、また可能だと高下駄を履くこともまた問題です。それが限界を超えた対象範囲においては、ソフトの部分とを繋ぐプロの“繋ぎ屋”といえる新職能者の出現が待たれる時がきているように思えてなりません。ものづくりをする者が部分のみを扱うことがその職能であるなら。

（やまうち　りくへい　　京都工芸繊維大学助教授）



ハンス・ホラインの厚い壁―第2の殻



ハーマン・ミラーのアクションオフィス

作り手と使い手を「正」の相関関係で結ぶ

坂下　清

1 2

部分と全体は分離して語る性質のものではないのでまとめてみました。

ＩＤの立場からすれば「全体」は人間の生活であり、「部分」とはその人間の生活を支える道具であると考えています。

人間は原始の時代から道具を作り、そしてその道具を使いこなすことにより今日の文明を築きあげてきました。そしてまた、道具の形、色、あるいは装飾は文化の一面をも表しています。

「部分」である道具は「全体」である人間によって使われることで成り立っており、人間は道具を正しく使うことによって、より良く生活できるという「正」の相関関係があります。しかし現実には不必要としか思えない道具があり、不確かな使い方をする人間もいます。その上、現代の膨張した社会機構にとってどうしても必要な作り手と使い手を結びつける売り手の存在も含めて「負」の相関関係があることも否定できません。

ニーズ論、マーケティング論、生活論、等々、いろいろな論がありますが、「正」の相関関係を育てる努力が望まれます。

3

「正」の相関関係を育てる方法ということになりますが、インダストリアル・デザイナーも今までの技術志向の強い「どのように作るか」から本来の作り手としての、「何を作るか」の立場に変わりつつあります。同じように、「正しい使い手」を育てる方法も必要だと思います。「正しい作り手」と「正しい使い手」がいれば、「売り手」も正しくならざるを得なくなるはずです。現実から見て余りにも精神的、楽観的、性善説的方法論ではありますが、良い道具には「魂」があると信じています。

4

シャープはオイル・ショックのときに「ＥＬＭ商品」(ELMはSAVE ENERGY・LABOR・MATERIALを表したもの)ということで無駄を省き、ユーザー調査で確認した必要機能のみを満足する商品を作りましたが、必ずしも成功しませんでした。やはり道具には心が必要であるという反省から、「使う楽しさと個性を大切にしたニューライフ商品」を作りつつあります。機能中心から人間中心への移行により、作り手と使い手を「正」の相関関係で結びつけ得る道具だと信じています。

(さかした　きよし　シャープ(KK) 総合デザインセンター所長
日本インダストリアルデザイナー協会理事)



幸福な鎖と不幸なレンガ

日野　永一

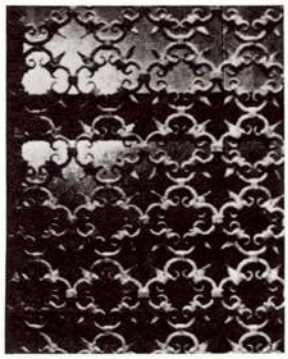
一本のネジは機械の部分ですが、一台の機械は家庭・工場等の部分でもあります。さらには生活環境の一部であるというように、部分と全体は相対的な関係で結ばれているのではないでしょうか。またそれが、産業というタテ軸の部分であったり、文化というヨコ軸の部分であったりで、部分と全体を一次元的関係だけで捉えることの誤りを冒してはならないと思います。

鎖は部分がそのまま全体に連なる幸福な例でしょうが、レンガが瓦礫の山に終わるか建築物になるか、そこには計画がいります。それがわれわれの五感で十分に理解できない範囲のものであるとか、あるいは個人・一集団では左右し難い問題のときに、全体と部分との関係が意識されてくるのでしょう。

誤解を恐れずに言うならば、直接にわれわれの五感に感じられない全体というものは、虚像であると思います。ただし虫メガネで見える虚像が、肉眼で見る以上に実態を見せてくれるように、虚像は虚像としての機能があるわけです。全体とは、われわれが頭の中に描く虚像でしかないのですが、虫メガネの倍率やディストーションの差によって映る姿が異なるように、各個人によってそのイメージが異なるものと思います。ですから逆な言い方をするならば、そこに各人の自由なイメージを描くことが可能となってくる。いや、新しくものを創る立場の人間にとっては、新しい虚像を描くことが必要となってくるのではないでしょうか。もちろん部分と全体をつなぐためには、方法だとか約束ごとだとかがありましょう。でもそれらはイメージの実現化や参加のための道具でしかないように思われます。

何か部分と全体と言うと、常に部分が全体の下に従属するようなイメージがつきまとうのですが、見方を変えると、部分の横の関係があるように思われます。たとえば、私が興味を持つものの一つに、人間のネガティブなフォルムがあります。いすなどもそうですが、手を取りあげてみますと、おにぎり、すし（押しずし、散らしは除外されますが)、タドンなどに、その造形化が見られます。私はＩＤ屋なので、ここでは〝にぎり・つまみ〟の類を指すわけですが、生活の中の機械・道具の中にそれは無数に存在しています。一つの機器の中で全体に調和をした姿を見せているものもありますが、ドアの取っ手のように、量産化されたものが使用される場合も少なくありません。そうしたとき、まったく同じ没個性的な姿であっても、それが用いられる周囲との関係において、まったく異なった表情を持って語りかけてくることがあります。部分が、その属する全体の一部であるだけでなく、部分どうしの横の広がりの世界が、別に存在するように感じられるのです。

(ひの　えいいち　京都教育大学助教授)



生活空間と電器製品

巽　正和

私の仕事を通じて「全体」と「部分」を考えることは、「生活空間」と「電器製品」の関係を考えることにほかならない。

快適な現代生活を営もうとするとき、そこには数多くの電器製品が介在する。それらの電器製品のひとつひとつがいかに優れたデザインであっても、生活空間の全体像が明確に意識されていなければ、それらの製品に囲まれた空間は「全体」として無秩序な、不調和なものになってしまう。それぞれがすばらしいデザインであればあるほど自己主張が強くなり、不協和音を奏でることになりかねない。残念ながら、今日はまさにそのような状態にある。それは日本の住宅空間が質的にも、量的にも貧しいことに最大の原因があるが、一つにはこれらの電器製品が「生活空間」の「部分」としてでなく、単機能ごとにそれぞれ完結した形で商品化されていることにも起因する。言い換えるならば、生活空間の中で電器製品がそれぞれ主役の座を競い合っているのが今日的状況である。

電器製品にかかわるデザイナーが今後、考えてゆかなければならないことは「生活空間」の「部分」としての製品のあり方である。それには、まず電器製品の「位置づけ」を研究する必要があり、しかもそれを一メーカーの論理から業界の論理にまで発展させ、確立させることが必要である。それぞれの製品機能を従来のように個々のプロダクト・レベルからデザインするのではなく、より高次元のシステム・レベル、空間レベルから見直し、消費者の抱いている価値観や期待感、生活様式の中でどう位置づけるかが問題である。この問題に対するアプローチとして、装置的か道具的かを問う方法、趣味性のあるものか実用性のあるものかを問う方法、建築やインテリアとのかかわり方によって形態論的にグルーピングする方法などが考えられるが、こうしたいくつかのフィルターを通して認識することが重要であろう。

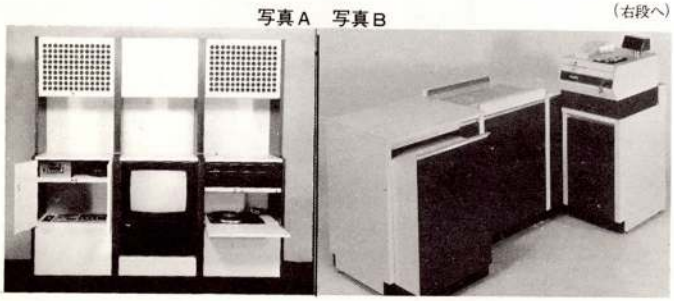
つぎに必要なことは、製品デザインの諸要素に法則性と規準を設けることである。デザインの対象となる要素には、ブランドや商品名をはじめ、操作表示、部品、材質、形状、寸法、色彩等があるが、その中でも操作表示、寸法、色彩は各メーカー内はもちろんのこと、できる限り業界としてのルールを作り運用してゆくことが必要である。(現在、この3つの要素については電子機械工業会・意匠委員会が着手している。)ただし、この場合でもすべての電器製品を対象とする必要はなく、「位置づけ」によって明らかにされる製品相互のかかわりあい（システム性）や空間とのかかわり（たとえば装置的な製品群――キッチン・セットや冷蔵庫など）の強さによって判断すれば良い。

システム・レベルでの製品開発はすでに各社からいろんな形（複合機能製品やユニット化、カプセル化など）で提案されているが、そのほとんどが一メーカー内のクローズドなシステムとしてである。この場合でも、モデュールやジョイント・システムなどはもっとオープンな論理の中に統合されてゆくことが必要である。

最後に私自身が担当したユニット化の二つの例をあげると、写真Aはマンションを対象としたリビング・ユニットで音響・映像機能をウォール・ユニットに組み込んだものである。写真Bはスーパー・マーケットの省力化、合理化のための値段票の自動読み取り機能中心のPOSシステムである。どちらの場合にも、モデュールやジョイント・システム、

（右段へ）

写真A　写真B



（左段より）

配線システム、機器の互換性や補修性がデザインの基本構想になっている。このような工業デザインと建築やインテリアとの境界領域には、共同のテーマとして解決されなければならない問題が数多く残されているのである。　（たつみ　まさかず　松下電器KK意匠センター主任意匠技師）

製品・人・社会・対話・概念

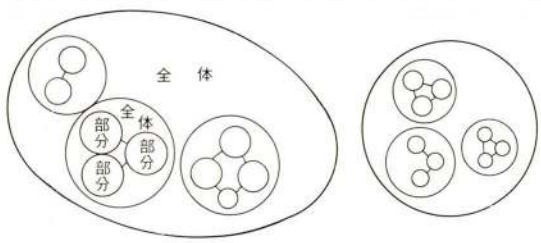
多田　愛実

私にとって、部分と全体ということが明解に整理しがたいので、一括してお答えすることにする。

まず、部分と全体、または個と群というような言葉を耳にすると、私自身すぐに、日常直面している問題として、人の系では個人と社会、道具の系では単体と複合体、流通の系では一個の製品の質と量産としての品質、といったことが頭に浮かぶ。また違った見方をすれば、一個の製品は個人との対話を考え、量産され複数となる場合は、社会的対話を考えるというマジックもやってのける。つぎにごく一般的、商品のデザインでは、全体の用途からコンセプトを作成し、そのコンセプトに基づいて各部分の機能を決定し、それぞれの部分を最適化し、出来上がった部分を結合しながら、全体にそうように、部分を修正し、全体に適合させる方法がしばしば用いられるが、この場合、いく度かのフィードバックをくり返し、全体もある可能な範囲で変更することもある。しかしここで表現していることは、単に初期に決定した商品の企画書を全体として考えたアプローチに過ぎない。このような答えでは、あらためて問われた答えとしては自分自身もしらけてしまう。

なにしろわれわれを取りまく「部分と全体」は多種多様であり多元的なので、その細部も完全に解明されないままに次々と拡散していく、概念の気ままさに、いや気がさしているのかも知れない。まじめに考えるほど、部分と全体といった問題は簡単な思考では解決がつかない時代のように思える。

全体感は人間の発展の歴史とともに拡大されてきたし、これからも全体の領域はますます拡大していくと思われる。この事実は、その領域の拡大が生じたとき、今まで全体であったすべてのものが新しき領域の部分としての作用に変わるのである。その上、今までの全体としての役割も終わることなく、変化しながら果たしていくことになるのである。



歯車やピンは時計の部品であり、一個の時計は時計屋の一商品である。一軒の時計屋は日本全体の一商店であり、日本全体の時計産業は世界の中での一生産地である。これらの関係は、政治・経済・デザイン・技術などがあざなう縄のごとく複雑ではあるが、その総体によって私と時計の対話が成立するのであるから、これらの思考なしにはIDは成立しない。同時に人の軸の考慮が必要であり、この人の軸でもこの部分と全体のおりなす拡大が思考的に必要となる。

個人は、一人の人格であり、家族の部分である、家族は家族の単位では全体であるが、その近隣の部分である。また一住区は町の部分であり町は都市の部分である。都市は国の部分であり、国は地球の部分である。地球は太陽系の部分であり、太陽系は宇宙の部分である……。

このように考えると、全体という物理的な完結はない。またシステムとか道具といった人工的なもので結ばれるものは、やはり部分でしかなく、もし全体があるとすれば、それを部分と結ぶものは、自然の方法性に基づく概念である。（ただ　なるみ　KKD産業デザイン研究所代表取締役所長）

デザイナーにとっての部分と全体

鶴岡　英世

1　私にとって、部分とは現在の仕事そのものだと考えている。

社会におけるデザイナーの役割は計画者の立場であり、物造りのディレクターであり、多様化する社会の相矛盾する要素の合目的な解決者でなければならない。

2　無限に拡大をつづけ、複雑化を増す社会を全体として捉え、多くの人々の助けを貸りて、私自身が好ましいと考える社会像をターゲットに、今与えられている仕事（部分と考えている）を社会という大きなシステムに対応しうるサブシステムの設計のつもりでテーマと取り組んでいる。

3　したがって部分の集積は直接全体に繋がっているものと考えており、デザイナーとして仕事をしてゆく上での心的ストレスやデザイン遂行上発生する社会的エントロピーの増大は、社会が膨張してゆくスピードにデザイン行為の中に人間的要素として、心理設計が充分折り込めないためであろうと考えている。

経済指標や技術データーのような文明指標は整理されており、使いやすいため条件決定の中心に置かれがちであり、ヒューマンファクター、とくに集団の条件や文化価値、フィーリング等の文化指標の開発が遅れているため両指標が等価値で扱われていないところに大きな問題を含んでいる。

とくに文明指標の立場から物造りに参画している人々は、エンジニヤーであり、デザイナーは文化指標の立場から物造りに参画しているものと理解している。

4　たとえば年率８％の経済成長を今後25年間維持してゆくためには、現在１才の子供が遊んでいるオモチャの６倍をその子には与えてゆかなければならない。自動車にしても２世帯に１台の現状から１世帯３台になっていなければならない。

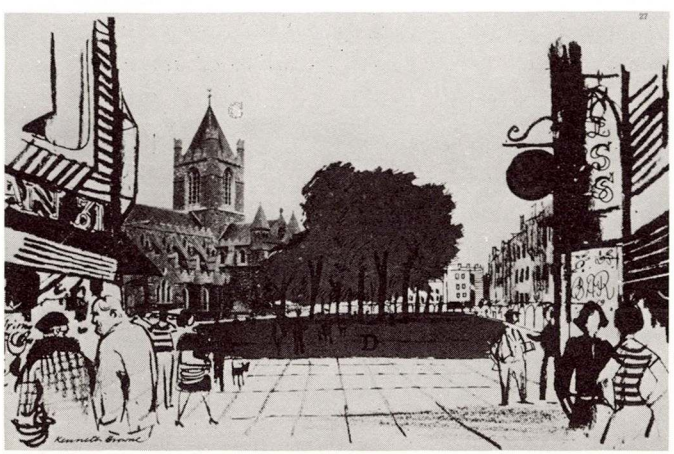
現在、大都市では駐車場を含んだトランスポーテーションに使われているスペースは居住面積を上まわっており、さらに６倍もの車が増加したのでは人間の住む場所はなくなるであろう。

その意味からもやたらと物を造りたがるデザイナーや無見識に建物を造りたがる人々は部分だけを見た行為であり、デザイナーの立場を自ら否定している行為であると思っている。

真のデザイナーは社会の進歩を止めることなく、いかに物の増大を抑止し、どうしたら必要なものだけを造れるかを真剣に考えている人であろう。

5　その意味では、デザイナーにとって全体とはいかに物を造らないようにするかであり、部分とはやむなく物を造らなければならない日常の活動ではないのだろうか。

（つるおか　ひでよ　　K.Kトータルデザインアソシエイツ代表取締役）



物理的発想から機能的発想へ

熊谷　和郎

最近の生活スタイルとして、リビングとキッチンの間仕切りを排してワンルームにしたり、三点セットを追放して手作り家具を取り入れる、極端なのは音キチが部屋一杯にグランドピアノを据えるといった風潮が一部に見られる。従来の物理的な存在を主張するスタイルから、精神面を重視したシンプルな機能化へと変わってきたのであろう。これを一点豪華主義から一点高機能主義への移行と呼んでもよい。

生活の用具としての商品を、それが生活全般に関わる関わり方として捉えると、ここに部分（商品）と全体（生活）の相関関係という図式が生じてくる。真の意味の全体（＝システム）とは、それ自身のうちに統一原理を有し、また各部分はそれぞれ自己の個性と自律性を保ちながら、それを通じて全体に関与している。いわば同心円のような姿で、部分と全体は重層的な構造と機能を相補完し合っているとみてよい。

いま主として民生品のプロダクトデザインの立場からこれを考えると、商品は生活の部分であると同時に、それぞれが独立して生活システムの全体に関わっている。システムとしてみれば商品即生活、生活即商品である。

ただ旧来の生産体制では、商品（部分）に与えられた選択肢として、ランダムに挙げれば素材、機能（メカ、使用性）、生産性（労働、設備、コスト）、市場性（物流、価格）、デザイン、社会性（省資源、非公害）などが主としてチェックされてきた。これに対し生活（消費者）の側からの選択肢はプラスアルファして情報性（ファッション、流通の在り方）、経済性（トータルコスト）などの因子を加味した上での満足度で計られてきた。商品といえばよく道具が引き合いに出される。むかしの道具はわれわれ人間の手足の延長であり分身であった。道具は日常の生活の営みに深く結びついていた。生活とシステムになった用具として大切な役割を果たしてきた。道具に名状しがたい愛着をおぼえるのも、それが人間の暮らしの中に生きていたからであろう。現代のマスプロ体制は、この絆を断ってしまったのではないかという疑問はあながち筆者のみではあるまいと思う。

若い人の表現を借りると、これからは人も暮らしも“アイデンティティ”志向になってくるだろうという。自己確認というほどの意味らしいが、要するに虚像的なニューファミリー像からイメージされる「いい生活」よりももっと人間を、自分自身を見つめた「いい人生」を生きるための足場を求める姿勢を指している。より体制寄りの社会人にも、本音としては否めないところがあろう。管理社会への有力なパスポートとして若者たちに歓迎されるのもうなづける。

プロダクトデザインの場合も、生活（全体）の中での商品（部分）と見なされてきたのを、生活全体のアイデンティティを包摂しながら、その中へシステム化されていかなければならない。と同時に、もっと抜本的には、ある商品が生活の中にはたして必要なのかどうかという二者択一的な高度の選択肢が働くことになってきた事実を看過するわけにはいかないだろう。

われわれはもう一度、部分が全体の一部ではなく、むしろ逆に全体を総括する重要な開発点であるという新しい認識のもとに出直さなければならないと思うのである。簡潔にいえば物理的発想から機能的発想への転換である。　（くまがい　かずお　　三洋電機K.Kデザインセンター部長）

実体とイメージ——デザインは妥協の行為

高井　一郎

●部分と全体とを別々に考え、関心のある部分とか、好きな部分とかを考えることは、自分にとってナンセンスである。なぜなら、デザインの仕事は常に部分を考慮しながら全体をイメージし、全体を想定しながら部分をつめていくことだと私は考えるからである。

しかし、これだけではあまりにもそっけない答えなので、少々アナロジカルに発言してみよう。

●“部分は実体であり、全体はイメージである”

デザイン作業上において、部分というものを、材料とか部品とか人間が直接感覚において確かめられるもの、また現在ここに存在するものとしたとき、それに対応する全体は、これから実現しようとするもの、つまりデザイナーにとってのイメージである。

そのイメージを実体化すること、そして実現化のためにさまざまなプロセスを経て実体をイメージに近づかせ、あるいは、イメージ●実体化するのが、ＩＤデザインの仕事である。

●“技術は部分、デザインは全体”

製品設計の場合、部分からせめるのが技術者であり、全体からとりかかるのがデザイナーである。

全体を部分に分けて解決することは、科学技術の本質である。例を医学にとってみると、人間の病気、健康などは、その人間全体として判断されるものなのだが、病院には、綜合判断するところはない。あくまでも人間の体を部分に分解して、これを科学的に追求し、その結果として全体を判断する。

ところが、デザイナーは、たえず全体として、さらに全体からかもし出されるムードを重視する。たとえて言うなら、、恋人を探すときのように判断する。相手が好ましいかどうかは部分の綜合ではなく、まず全体の印象から、そして、その人格というものを問題にする。

●“デザインとは矛盾を解決する作業である”

部分と全体は相対する概念であるから、やはり矛盾である。しかし、デザイン行為において、矛盾の存在はむしろ当然のことである。

われわれは、仕事の上で「部分と全体」の問題以外にも、さまざまな矛盾に直面する。性能と価格、機械機能と使用性、シンプルと装飾性、等々である。

そして、これらの相反する関係を結びつけ、解決するのがデザインの作業である。

このギャップを埋める作業のことを問題解決とも言うが、問題を解決するのは、むしろやさしい。本当の創造的態度とは問題形成である論がある。私はこの論に賛成で、矛盾を形成しつつ矛盾を解決する。ここに創造行為の鍵があるように思う。

●“デザインは妥協の行為である”

妥協という言葉には、元来卑屈さのニュアンスは含まれていないのであって、妥協とは、妥当なことを協力して行うことである。妥当とは、適切であり、普遍的に正しいという意味である。

われわれにとっての良い政治とは、それが適切なビジョンをもつと同時に、個人の自由と幸福を約束するものであると私は思うが、それと同じように、デザイン行為も、全体に対する強いビジョンをもちながら、個々の部分に対する細かい配慮がなされなければならない。それを可能にするのは、正しい意味の妥協である。

（たかい いちろう　京都市立芸術大学助教授）

（右段より）

太陽と土と緑を残す地下住宅を目下開発中である。この住まいは地上からはインビジュアルなもので、目に入るのは樹木だけであろう。完成すれば、もはや、地下従空間とは呼ばれない。部分が全体に変身したといえばよいだろうか。

（ひがしかた　よしお　KK スリーユー代表取締役）

地下空間は地上空間の部分ではない

東方　洋雄

地下空間スリーユー（ūrban ūnder ūnit のイニシャル）を製品化して以来、約30棟の施工実績を積んだ。全体としての地上空間に対し、地下空間は従としての概念しかないのが現状である。ところがこの常識的な地上一主・地下一従といったバランスが21世紀に向かって、逆転しそうである。

最近４階建ての中層住宅が建ちにくくなっている。隣接する１～２階建ての独立住宅の居住者が日照権の異議申し立てをすると、３日以内に施工中断命令が出る場合もあるらしい。地下２階・地上２階建てであれば問題はなく、地下空間は「からぼり」を有することで居室として十分用いられる。ミサワホームの21世紀への住まいも「からぼり」付き地下室を持っている。さらに徹底すると、地上はすべてグリーンで被って、地下４階建てにすることも可能である。地上主空間は地下従空間にとってかわられる一例である。

一戸建て住宅は建ぺい率で計画され施工されている。ビル建築のように、遅かれ早かれ容積率で考えられるようになるだろう。最近の調査でも、独立住宅を欲しがる人の大半が広い庭を持ちたいからである。限られた狭い敷地で庭を広く残すには、地下１階・地上２階といったペンシル型の住宅以外に適当な解決方法が見当たらない。建築文化11月号・133頁に紹介されている地中の家も美しい敷地を残すのを目的としており、地上空間と対等に地下空間を重視している。

性能面から地下利用を考えると、建研のエネルギー貯蔵源として土を考えた発想に語られているように、数多くのメリットが発揮される。地上温度と６カ月間のズレのある地下温度は、したがって、夏涼しく冬暖ったかい。スリーユーの実験ではほぼ８℃～10℃の差を記録した。省エネルギー化に地下室は最適である。断熱性と同じく遮音性も期待できる。ピアノ殺人事件に見るように、防音対策として地下利用ほど理想的な解決策はない。一例をあげると、１デシベルの遮音対策費が地上の場合で3.3㎡当たり１万円かかる（ヤマハのサウンド・コンサルティング・マニュアルより）。50デシベルの防音工事費は坪単価50万円で、しかも地上の部屋を防音化すると室内面積がすごく狭くなってしまう。スリーユーの60万円／坪の地下室は一室増えて、工事費の差がほとんどない。スリーユーが受け入れられる原因がここにある。

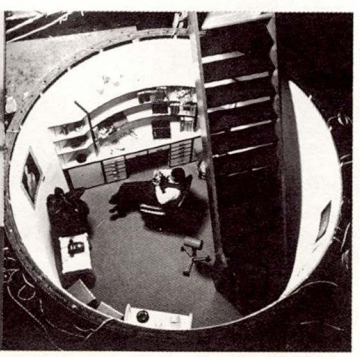
土地の有効利用という面で考えると、上部をカーパークの場所にも使えるし、30センチの埋め戻しの土で芝生や「つつじ」程度の植物なら十分生育するからグリーンを満喫できる。スリーユーを店舗に応用すると、たとえば騒音を発するような業種では、近隣に気兼ねすることなく深夜でも作業ができる。死蔵している一階床下の土に代わって地下室を設置し、建築物とは独立した形であるから施工も容易である。店舗増設では、店頭・奥・左右・屋上といった所も現実には増築不可能である。地下増築以外考えられない。

地震後の火災に対しての防空壕、マイナス30℃を越す寒冷地での防寒壕、音に対する防音壕はとりあえず必要とされる地下室である。ぼくは、

（左段へ）



▲独立型外観　地上は出入口部



室内を上から眺む▶

デザインの動向

部分と全体・覚書

アランがいうように、イメージにおけるパルテノンの柱は数えられない。パルテノン神殿を一つの全体とみた場合、柱はその部分であって、これを確かめるには具体的な観察が必要となるだろう。私たちが、現に今見ているとか、考えているなどというのは、それら特定の対象を意識しているのであって、特定の対象という限りにおいてもそれは「部分」というべきものではなかろうか。

意識する対象が常に部分であるとすれば、では全体はどのようにして捉えることが可能であるのか、また全体とは何であろうか。

先の例で、イメージにおけるパルテノンを全体とみたが、イメージにおけるパルテノンは、全体像としてのパルテノン、ということになる。全体像はまぎれもなくイメージであって、たしかに部分は欠落しているが、思い浮かべることのできる全体ということができよう。少なくともデザインにおける全体とはこのようなものとして捉えなければ、さらに拡散してしまう性質のものであり、それはとめどなく拡がっていってしまうのではないだろうか。

現在われわれをとりまく環境は大きく変わりつつあり、発想の転換が必要、などとよく耳にするが、たとえば、部分からの発想というのもその一つの重要なポイントとなろう。部分からの発想というとき、部分の持つ具象性をしっかり捉えながらも全体へ結びつけることが必要であり、全体や、全体へ結びつける方法も問題となろう。

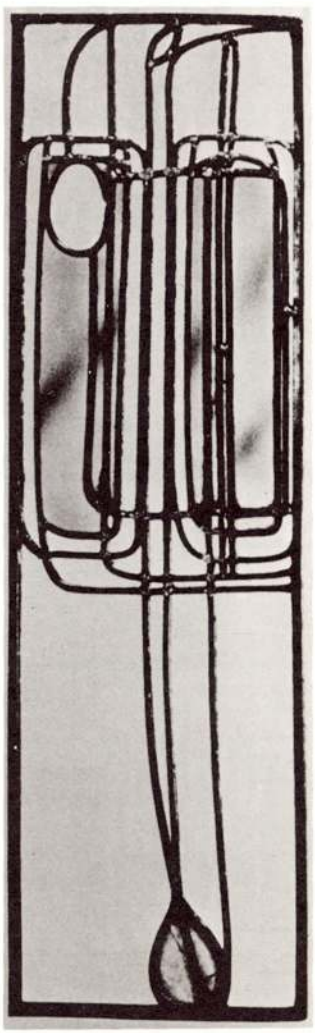
五木寛之がある週刊紙に寄せていた以下の言葉が思い出される。テーブルの上にあるバカラのワイングラスを眺めながら、「このグラスにはこのグラスにふさわしいテーブルが必要だ。そのテーブルを置くにふさわしい広さのジュウタンが敷かれた床が必要であり、そしてそのジュウタンを入れるにふさわしい高い天井が必要であり、その天井を支えるにたる石の壁が必要であり、その石の壁を持った建物を抱擁するひとつの石の街がなくてはならない。」などと考えながら、仮に、日本にそれにふさわしい町ができたとしても、そのグラスを持つ人間は、か細い腕ではなく松の根っ子のような腕をしている人間でなければ、と思うというのであった。物を部分の主題と置いての特殊な、また、部分と部分との脈絡を保ちながら一つの全体像に結びつけてはいるが、最も大切なこと―物と人との関係―の欠落している例を指摘しているのであり、考えてみればよくありそうなことである。

部分の集積がそのままストレートに全体へ連なるという幸福なケースはまれであろうというのがアンケート・テーマにある。これは、たとえば現代の都市の生活を考えてみてもわかるように、住宅の横を高速道路が通っている状態では、部分と部分との脈絡をも断たれてしまっているのであって、現在の状況では他にもいろいろな断絶が考えられようとすることによっている。部分と部分の脈絡、それらと人間の関係の系としての全体はどのようにして繋ぐことができるのだろうか。

われわれをとりまく現在の状況下で、部分的なものについての再認識の動きをいろいろな場面で感じながらも、具体的な形で提案するに至らなかった。したがってアンケートによって問題点を解明するというよりは、むしろ問題点のありかを期待するということになった。ここでの問題提起が何かの役に立てばと切に願う次第である。

今回のテーマについては、昨年に引き続きデザインの動向として顕在化しつつあると考えるものの一つとして、「部分からの発想」を選びだしたが、部分といえばこれに対応する全体をも問題にしなければならないと考え、あえて部分と全体とを並置した。このためにテーマがあまりにも大きな問題を抱え込み、問題の焦点がぼやけてしまう結果となり、アンケートをお願いした方がたにも要領を得ない設問の仕方になってしまった。深くお詫びするとともに、このテーマについていろいろのご意見をお寄せいただいたことに心からお礼を申し上げる。

（本号特集幹事　**鈴木良介**）



マッキントッシュ作　姿見　1904年
SPACE MODULATOR No.31より

構造の頁

31 梅田阪急ビル第9期工事の構造計画（その2）

久徳　敏治

（その1）
1．はじめに
2．建物概要
3．構造設計の方針

4．各部設計

設計用層せん断力分布を図4に示す。せん断力係数では、1階短辺方向で0.075、長辺方向で0.076となる。地下部分は拡がりをもち、高層地下部分の柱耐力の極度の低下を避けるため、層せん断力の分担につぎの配慮を行った。(イ)高層地下部分は1階の負担せん断力と地下階に発生する水平力の剛性配分の和とする。(ロ)低層地下部分は層せん断力の剛性配分とする。(ハ)耐力壁の負担せん断力は層せん断力の最大25%を上限とする。

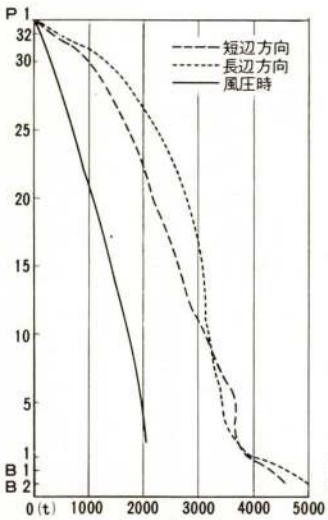
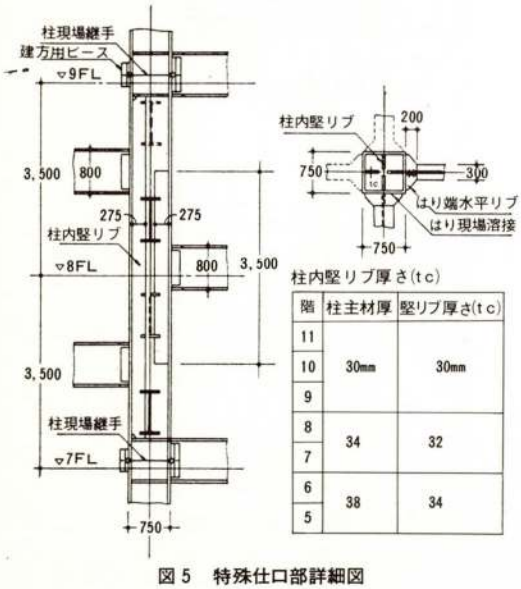


図4　設計用層せん断力分布



柱内竪リブ厚さ(tc)

階	柱主材厚	竪リブ厚さ(tc)
11	30mm	30mm
10		
9		
8	34	32
7		
6	38	34
5		

図5　特殊仕口部詳細図

S造部分：床版はデッキプレート捨型枠、105mm厚の軽量コンクリートとし、梁とはスタッドジベルにより緊結する。駐車場階は長スパンのため、車輌走行時の振動障害を考慮して床版にハンチを設け、梁フランヂをコンクリートで包む構法を採用した。小梁は設備配管上の配慮よりハニカム梁を用い、短辺方向大梁の横座屈を有効に防ぐ位置に配置した。大梁はプレート組立のI型断面で梁成は一般階で80cm、駐車場階2段梁で50cm、板厚はフランヂ材で16～40mm、ウエブ材で10～16mmである。柱は架構が比較的大スパンラーメン構造であること、スキップフロアー階の質量の偏在により誘発される捩れに対処するため、経済的で剛性の高いBox型を用い、柱成は60～75cm、板厚は19～70mmとなっている。柱梁仕口部分はダイヤフラム形式を原則としているが、スキップフロアー階中間柱列は段違い梁が四方から接合されるため、ダイヤフラムが錯綜し、その溶接熱影響、施工性を考慮し図5に示す柱タテリブ、梁水平リブの新形式を採用し、実験により安全性の確認を行った。

SRC造部分：床版は在来構法で、小梁とも鉄筋コンクリート造とした。大梁断面は梁幅50～60cm、梁成125cm、鉄骨の断面形はI型を用いた。柱断面は110～130cm角、鉄骨に対するコンクリートの覆り厚は100mmとし、耐力の算定には入れていない。鉄骨の断面形はコンクリートの充填、主筋の配筋など施工性を考慮し、クロスH型を用いた。

地業ならびに基礎：本建設地盤は軟弱で厚い梅田粘土層が上層に位置しているため、支持層を地上より28m以深に帯在する天満砂礫層に求め、直径2mのベノト台柱で構造物重量を伝達している。基礎梁は240×400cm²断面で、その応力はベノト台柱位置に杭—地盤系の等価な鉛直バネを設け、連成系として計算し、最大ベノト台柱反力は、長期荷重時800t/1本、地震時1300t/1本となり、また、浮き上がりは生じていない。

5．地震応答解析

地震応答解析は前報で多少ふれたように、実構造物の挙動を適確に再現するに至っていない。そこで、本末転倒であるが、解析手法の不完全性が構造計画にある種の制限を課することも止む得ないと言える。

構造物系モデルは復元力特性を層として評価する方法にしたがったため、一般階では一層一質点、スキップフロアー階では半階一質点とし、杭—地盤系も振動モデル化し、計43自由度として取り扱う。

復元力特性は図6に示すように各層に独立したTRI-LINEAR型の履歴特性をもつものとする。これは曲げ変形による上下階の連成効果に比してせん断変形が卓越し、剛床と見なし得る床形状を有し、かつ各架構の剛性が大略同程度の大きさと性状を示す本構造物のような建物に適するモデルと考えられる。初期剛性は曲げ、せん断を考慮した架構の固有値解析より求められる振動型、振動数より等価的に逆算したものである。第2、第3分枝剛性は経験的な数値であるが、それぞれ20%、5%としている。弾性限強度は設計用せん断力分布の荷重パターンで層のいずれかの部分が最初に降伏するときの層せん断力でもって、また降伏強度は層の各柱梁部材端で降伏に達したときの最小の層せん断力でもって算出した。なお、耐力壁の剛性、強度は個別に算出し、ラーメンに加算している。減衰は剛性比例型とし、S造部分2%、SRC造部分5%と与えている。表2に各方向の固有周期を示す。

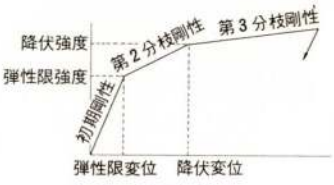
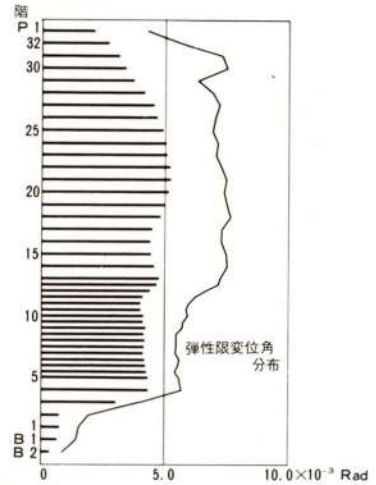


図6　復元力特性

表2 固有周期（Sec.、括弧は基礎固定）

次　数	短辺方向	長辺方向
1	4.35 (4.19)	3.63 (3.56)
2	1.59 (1.57)	1.38 (1.37)
3	1.11 (1.03)	0.90 (0.89)



短辺方向
1次周期 T_1=4.35 sec　減衰定数 h=0.0289
地震波形　EL CENTRO EW 1940
地震波最大加速度0.2g

図7　最大変位角応答分布

使用した地震波はエル・セントロ波形、大阪205波形他3波とし、最大加速度は0.2g、0.3gとした。

図7に最大応答量の一例として短辺方向の変位角分布を示す。最大応答値が所定基準値内におさまり、さらに経済的要件として求められる空間分布も一様化されている。また、他種の応答値も表1に示した基準値内の数値を示し、十分な耐震安全性が確保されていると考えられる。

6．おわりに

高層建物の設計手法は振動解析に依存する割合が大きく、その手法の選択が構造計画にも大きく影響を及ぼしている。しかるに、いわゆる動的解析は外乱の不確定性やモデル化の精粗など多くの問題をかかえておりながら、勢い実施設計に適用されるという状況にあったため、その末端の数値の検討が重視されがちとなり、また多くの実施設計の間にその手法の通俗化とある種の自信を生じさせる傾向をたどっている。もっとも、構造物の安全性の検討は構造物の崩壊時の耐力とパターンを可及的に予測し、基本的な公値との照合と全体のバランスにおかれるべきで、その点、構造計画の果たす役割は大きいと考えられる。　（おわり）

（ひさとく　としはる　KK竹中工務店大阪本店設計部部長補佐・工博）

施工材料の頁

31

大阪の地下水の変化と地下工事

丹羽　稔

「犯罪の陰に女あり、土工事の陰に水あり。」といわれているように、地下水を切り離して地下工事は考えられない。地下工事は常に地下水の支配下におかれ、技術によりある程度の征服はされたものの、未だ逆に地下工法の技術が水を支配するまでには、到っていない。これまでの大阪での地下工事中の事故は、ほとんどが地下水の影響によるものであり、水による手痛い仕打ちを何度となく受けている。

戦後大阪の地下水は、工業化が進むとともに漸次低下し、昭和30年以後急速なる地下水低下をもたらした。昭和37年「地下水採取規制に関する法律」「改正工業用水法」の二法の公布施行を機会に、地下水の汲み上げは少なくなり、地下水は徐々に回復してきた。

現時点（昭和51年度）では、ほぼ以前の水準にまで上がっている。(図－1 参照)

一方社会的条件の変化として、都市の過密化による、地価の高騰、建物の大型化、高層化にともなう建築基礎構造が、ますます深層化するに加え、建設公害による振動、騒音に対処するための種々の工法が、つぎつぎ考案実施され、開発改善がなされてきた。

地下工法は、これらの諸条件のもとに進歩してきた足どりをふり返ってみると、昭和20年末から30年初めにかけて実用化されるようになったウエルポイント工法の出現があった。これまでの重力排水ではぬききれなかった細粒度の土の滞水層もウエルポイントによる強制排水によって、それまで関係者の夢であった地下工事のドライワークも可能となった。

昭和32年ごろより都市の開発も活発化し、ようやく大型地下工事時代に突入し、掘削深度も地下3階以上の深度が要求されてきた。

これまで主として使われていたシートパイル工法および親杭・横矢板工法は、地下2階程度の工事に利用され、打込工法により施工されてきた。両工法とも18m程度が打ち込みの限度といわれ、打込工法は精度的な面で問題があり、建設的公害的な面で打ち込みそのものがしだいに不可能になってきた。したがってこれら両工法は、地下2階以下浅いものにのみ、その後も利用されていたが、打込工法はジャッキによる圧入工法により、また親杭はオーガー落とし込み工法により施工されてはいるものの、その利用度は減の傾向にあった。

建設公害問題が大きくクローズアップされ、とくにその対象となる地下工法はむしろ騒音、振動の少ない工法に目を向けられ、場所打杭施工機械による山留工法が採用されるようになった。これはベノト工法、オーガー工法、ＰＨＰ工法、ＭＩＰ工法等があり、できた柱列は、ＲＣ造ソイルセメント等、さまざまな柱列が開発され、芯材にはエビーム、H型鋼、シートパイル、鋼管、組立鉄骨、組立鉄筋等、長さに応じ種々用いられた。

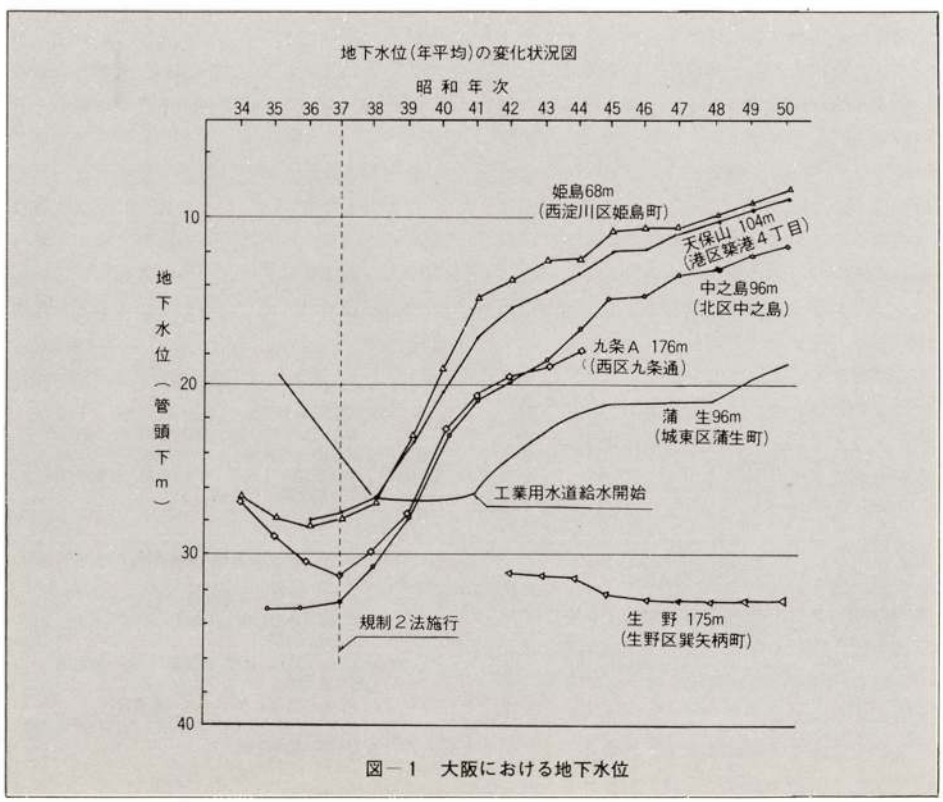
この工法がある程度の成功をみた裏には、大阪の地下水の低下が大きく作用したことは否定できない。この工法と時を同じくして、大阪の地下水が漸次低下したことは、この工法の発展、すなわち建設公害に対処した工法に大きく貢献した。しかしこの工法も、こと水にかけては柱列の不連続性により、弱点をもっており、その不連続性をいかにカバーするかに努力が払われた。ちどり方式、ラップ式、ソイルセメントによる間隙閉塞、止水鉄板方式等、数多くの工法が考案された。

これらの工法により建設公害の面でも、また土圧水圧に対処するための技術的な面でも一応の解決をみたものの、ジョイント数をさらに少なく、ジョイントの堅固なものとして、連続壁の開発に力が注がれた。連続壁はこれまでの山留に比して剛性が高く、しかも止水性にすぐれているので、各種の連続壁の施工機械が次々と開発され、ジョイント工法も十指に余る工法が生みだされた。これまでの山留材が仮設として取り扱われたのに比して、本工法は場所打コンクリートの連続性の本設計の外壁としての利用へと発展し、仮設材としての山留のコストの上昇を、おさえる効果があった。しかし連続壁とはいいながら、数は少なくなったもののジョイント部分が零でなく、その部分が弱点であることにはかわりない。地下水の再上昇した現在、大阪駅前第二ビルのごときジョイント部の欠陥による大事故を引き起こしたことでもわかるように、完璧な工法は未だ道遠しの感がある。

山留工法の進歩のかげには、また多くの技術が考案された。そのうち主なものは、ベノト掘削機などの大口径掘削機により掘り抜かれた孔内に、高揚程の水中ポンプを設置したディープウエル工法がある。ケーシング周囲も完全なフィルターの施工が可能となり、集水能力は向上した。さきに開発されたウエルポイント工法とともに、地下工事に必要な排水工事に大いに役立った。

いかに山留壁が進歩し、排水工事が進歩しても地中障害等の関係で完全な山留が不能なためとか、作業管理上のむづかしさのため、掘削工事中の山留壁からの漏水は、関係者の悩みの種である。しかし各種地盤に適応した各種の薬液、注入工法の開発で事前の改良も可能となり、また応急時の対応も取りやすくなった。その他、特殊な工法として凍結工法、事前の軟弱地盤の改良としてのサンドドレイン工法、ペーパードレイン工法などの地盤改良工法も地下工法の発展に寄与している。

これら各種工法は、いろいろな問題をかかえながらも、さらに技術的研究を重ねられ、安全性、建設公害、工期の短縮、経済性の追求と絶えず努力を重ねられてきたが、その裏にはまた地下水という最大の難敵の克服への努力でもあり、今後ともわれわれに課せられた大きな課題である。



図－1　大阪における地下水位

（にわ　みのる　　KK竹中工務店工事主任）

昭和51年度・第5回若い会員の集い

高野山サマーセミナー「新しい学校の風景」レポート

8月28日午後5時、高野山本覚院に一行30名集合。受付、資料配布、宿泊の部屋割等をおえ、夕食までの一時を入浴、休憩などで各自高野山までの長旅の疲れをいやす。6時半より待望の夕食である。まず関根主査の司会により参加者全員の自己紹介がなごやかに進められ、続いて高野山名物の精進料理に舌つづみをうった。

夕食のあと、本覚院稲葉住職より、仏教の略歴、高野山および弘法大師についての講話を本堂にて受ける。灯明だけの薄明りの中を線香の煙がゆるやかに立ち上るといった濃密な空間での講話は、われわれを宗教の世界に引きずり込んだ。

明けて29日、前日の雨天がうそのように、素晴らしい日本晴れである。午前5時起床、早朝のすがすがしい空気を胸一パイ吹い込んで元気にラジオ体操を行い、それから奥の院まで往復約6kmの早朝参詣に出発した。奥の院入口一の橋より、弘法大師御廟までの約2kmの参道の両側には、樹令数百年を超える老杉がうっそうと生い茂り、この樹間に苔むした石塔が数限りなく立ち並ぶさまは、何と表現したら良いのか、一種異様な霊的雰囲気を感じさせられた。7時頃に早朝の参詣をおえ、朝食をとる。日常生活では起きぬけにコーヒーとトーストをむりやりつめこむようなことをやっているわれわれにとって、食事前の散歩は少々ハードではあったが、久しぶりに食欲を感じさせてくれた。

さて、朝食後8時より本企画のメインテーマである「新しい学校の風景」の講演が都立大学教授ー長倉先生によりはじまった。まず長倉先生は、学校施設に関する今日的問題点として下記の4点を指摘され、本日のテーマとすることを説明された。

(1) 質的（空間的）レベルアップについて
(2) 教育革新に対応する施設ー（オープンプランスクール）
(3) 地域と学校ー学校と他の施設ー（コミュニティスクール）
(4) 建設プロセスーソフトウエヤー（システムズビルディング）

まず(1)の質的（空間的）レベルアップに関しては、従来の学校建築といえば、東西に延びるハモニカタイプであるが、これらの学校にあっては、日照や通風等の機能的性能のみが重要視され、空間的な質についてはなおざりにされてきたことを指摘された。今、学校にとって、必要なことはこれらの性能的なことがらではなく（これらのことは設備的な方法によりある程度解決できる）、学校としての、皆がつながっているといった、一体感とか、連続性とか、また学校の中についていろいろなことがわかる（明確性）や、どこにいるのか（帰属感）といった意識をその中に生活する人間が持つことのできる空間であると説かれた。

つぎに(2)の教育革新に対応する施設（オープンプランスクール）については、まずオープンプランスクールの説明から入られた。この言葉は、基本的に教育をテーチ（教える）からランダ（学ぶ）へ切りかえることであり、学ぶ人間一人ひとりの最大限の能力を開発する教育システムであるとのことであった。ここでは教師は、一元的に知識を与えるといった存在ではなく、学ぶ人間に最適の環境を作ってやる存在となるのである。1クラス30～40人の生徒に一人の教師が対応し一斉学習を行うといった風景はなくなり、生徒は一人ひとり独自のカリキュラムを持ち、教師も数人がチームを組むことにより、大集団（100人～150人）から、グループ学習、個別学習に到る教育集団に、その時々に対応してゆくのである。このため、学習空間としては、自由でフレキシビリティーに富んだ空間が必要となったのである。またここでは生徒の自主的学習が基本となるため、個々の生徒が教育情報を必要に応じいつでも取り出せるような備えが重要となり、リソースセンターが施設の中心となるとのことであった。

(3地域と学校（コミュニティスクール)では、社会でのあらゆる場所が教育の場となりうる、という考え方から学校の社会化＝社会の学校化を図ろうとする考え方である。またコミュニティスクールの理念は、学校をある地域のコミュニティーの核として考えると同時に、都市施設の効率的利用をはかるといった観点から、わが国においても今後真剣に考えねばならないテーマーであると説かれた。

第4は、建設プロセス（システムズビルディング）の問題である。多量の学校需要に対して、一品生産的な建設ではなく、工場生産された部品の集合により安価により短期的に学校を建設してゆくシステムである。このシステムには、技術面でのハードウエヤーと、発注方式とか運営組織等のソフトウエヤーの問題があり、現在のわが国における技術レベルから考えた場合、ハードウエヤーにおける問題よりも、地方自治体のあり方等、発注者側のソフトウエヤーに大きな問題があるということであった。

以上の4点についての講演のあと、引き続いて、スライドにより、欧米の学校建築の紹介がなされた。

イギリスでは、オープンスクールの発端となったエヴェリンローエ小学校やワーキンガムスクール、マーシャルスクール、ルーズベルト団地内のマードリーコートなどが紹介され、アメリカでは、SCSDプロジェクトの実例等、またカナダのSEF、RAS等のシステムが数多くの実例により紹介された。これらのスライドの中で、とくに強く印象に残ったことは、システムズビルディングによるオープンプランスクールの空間が、わが国の現在の教育空間と比較していかに豊かで、自由でのびのびしているかということであった。


奥の院への早朝参詣


高野山にて


長倉講師より話を聞く

教育環境を無味乾燥な一般社会と隔離された聖域として考えるのではなく、ある意味においてショッピングセンターのような楽しい雰囲気を持った空間にするべきである、といわれた長倉先生の言葉が、今とくに想い出される。最後に時間の関係上短時間ではあったが、熱心なデスカッションが行われ、定刻の11時を若干過ぎて、無事本企画を終えることができた。

なお、末筆ながら、今回の催しに際し、遠路わざわざご来阪いただき有意義なご講演を賜りました長倉康彦先生および本覚院殿にいろいろお世話になりましたことを誌上より厚くお礼申しあげます。

（赤木図文記）

日　時　昭和51年8月28日(土)・29日(日)　1泊2日
　　集合 28日 17：00→解散 29日 12：00
宿　坊　高野山　本覚院
ゲスト　東京都立大学教授　工学博士　長倉康彦氏
　　本覚院住職　稲葉義猛氏
参加者　30名
行　程
28日　17:00　集合(本覚院)・自由行動(入浴・休憩・散策)
　　18:30　夕食
　　19:30　講話　稲葉住職
　　20:30　自由行動(入浴21:30まで)
　　22:00　消灯
29日　5:00　起床 体操 早朝参詣(奥の院まで)
　　7:00　朝食
　　8:00　講義とスライド　長倉講師
　　「各地の新しい学校と海外の教育環境」
　　11:30　現地解散

日本建築協会

月間の動き

昭和51年11月分

評　議　員　会

定時評議員会にかえて書面表決

11月17日付をもって下記事項について文書により、お諮りした。

昭和52年度評議員選出数決定の件

理　事　会

17日　4時～5時　於会館集会室

出席者　井上滉理事ほか9名

議事　(1)建築職能法としての建築設計監理業務法(案)要綱の件

(2)協会会計一本化の件

(3)事務局職員本年下期賞与支給の件

(4)12月定例理事会休会の件

(5)入退会者承認の件

(6)報告事項

出　版　委　員　会

小委員会

1日　正午～1時半　於会館3階会議室

出席者　小林委員長ほか2名

議事　技術選書出版についてテーマ・執筆者等について打合わせ

事　業　委　員　会

「建築と音楽」打合会

1日　7時半～10時半　於会館3階会議室

出席者　中島特別委員、大久保主査

議事　ゲストとのスケジュールについての下打合せ

若い会員の集い小委員会

2日　6時～9時　於会館集会室

出席者　森下副委員長、印藤、瀬戸本、千葉、中村各幹事ほか9名

議事　(1)9月、10月の事業実施報告

(2)第9回、第10回の企画について

(3)第8回「建築と音楽」について

「建築と音楽」ゲストとの打合せ

4日　午前10時～12時半　於東京・吉阪邸

出席者　ゲスト吉阪隆正氏、高橋悠治氏、大久保主査、事務局三木

議事　(1)当日のスケジュール内容全般について

(2)通訳について

(3)音楽関係の準備打合せ

見学会小委員会

4日　6時～8時　於会館集会室

出席者　堀田副委員長、水谷幹事ほか7名

議事　(1)9月、10月の見学会実施報告

(2)11月の企画についての報告

(3)12月以降の企画について

(4)芦屋浜（アステム）の企画について

南港見学の下調査と打合せ

6日　午前9時半～11時半　於南港

出席者　足立主幹（大阪市港湾局）ほか1名

議事　(1)当日のスケジュールについて

(2)ポートタウン見学の乗物について

「建築と音楽」分科会

8日　6時半～10時　於会館集会室

出席者　中島特別委員、大久保主査ほか5名

議会　(1)当日のスケジュールについて

(2)当日委員の役割分担確認

広報小委員会

9日　6時～8時　於会館集会室

出席者　南副委員長、佐藤・市川両幹事ほか5名

議事　(1)第33回展示写真「街を緑に・第6回」について

(2)アステム研修会企画について

(3)酒蔵見学について

(4)「角型鋼管」についての説明会申入れについて

委員会

11日　6時～7時半　於会館集会室

出席者　窪田委員長、大橋、小泉、花房、三品、柳、堀田、南、森下各副委員長、千葉幹事

議事　(1)各小委員会の事業報告及び事業企画について

(2)そのほか

若い会員の集い第10回分科会

25日　6時～9時　於会館集会室

出席者　ゲスト　浅井氏（レッド工房）

田中主査ほか3名

議事　(1)企画テーマの決定

(2)ゲストの紹介

(3)企画内容について

(4)委員の分担

若い会員の集い第9回分科会

26日　6時～9時半　於会館集会室

出席者　瀬戸本主査ほか5名

議事　(1)企画テーマの選択

(2)企画内容について

(3)委員の分担

編　集　委　員　会

3月号「ニュータウンの管理」座談会

2日　6時～8時　於会館3階会議室

出席者　井上重幸、島田博一、北村伊三美、仲埜皎朔、浜田弘、山田俊満、近野正男

編集委員会・広告企画小委員会合同委員会

11日　4時～7時　於会館3階会議室

出席者　中村委員長ほか6名

議事　(1)12月号＝設備からみた建築の問題点特集経過報告

(2)正月号＝デザインの動向―部分と全体特集経過報告

(3)2月号＝兵庫特集の件

(4)3月号＝「ニュータウンの管理」・「60周年記念号」の件

(5)4月号以降の件

(6)投稿欄小委員会アンケートの件

(7)収支状況報告

(8)広告企画(1月号、2月号、3月号)の件

(9)その他、表紙等について

1月号「デザインの動向―部分と全体」編集幹事会

18日　6時～8時　於会館集会室

出席者　鈴木委員、小角・紙野・河辺特別幹事

議事　(1)アンケートのまとめについて

(2)座談会について

住　宅　委　員　会

委員会

9日　5時50分～7時30分　於会館集会室

出席者　小西委員長ほか6名

朝日新聞社1名

議事　(1)ビワコローズタウン住宅コンクール審査協力に関する件

(2)「住宅メンテナンスのチェックポイント」出版に関する件

(3)住宅展の今後について

建築データシート委員会

企画分科会

12日　1時～2時半　於会館3階会議室

出席者　酒井幹事ほか3名

議事　(1)旧シートの改訂要否実態調査

(2)今後の作業の進め方について

委員会

17日　5時半～7時半　於会館集会室

出席者　井上・真塚正副委員長ほか9名

議事　(1)No.57号（2月号）の掲載予定シートについて

(2)建築データシート縮刷版発行計画(案)について

(3)そのほか

Bグループ打合会

26日　正午～1時　於会館集会室

出席者　羽入幹事ほか3名

議事　(1)No58（52年5月発行）の企画決定

(2)そのほか

法　規　委　員　会

委員会

15日　3時～5時　於会館集会室

出席者　市川委員長ほか14名

議事　(1)法令コーナー（申請業務のフローチャート）の企画

(2)関連法規の問題点のとりあげ方

建　材　委　員　会

26日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　山田委員長ほか7名
サンエス石膏㈱より3名
議事　(1)「セルフレベリング性石膏系床下地材」について
(2)「新建材紹介コーナー」2月以降掲載分について

見　学　会

着々とすすむ南港開発を見る
（ポートタウンを中心にして）
9日　1時半～5時
参加者　34名

奈良・依水園の茶室の見学
13日　1時半～4時半
参加者　41名
講師　帝塚山学院大学教授
工学博士　岡田孝男氏

講　演　・　演　奏　会

建築と音楽……形と音と空間と
ヤニス・クセナキス講演会＋演奏会
15日　6時半～9時20分　於関電ホール
聴講者　660名
本会若い会員の集い主催
共催　大阪楽友協会研究所　後援 朝日新聞社
講師　ヤニス・クセナキス氏（仏　作曲家・建築家）
吉阪　隆正　氏（建築家・早稲田大学教授）
高橋　悠治　氏（ピアニスト・作曲家）

第22回工高生デザインコンクール表彰式

20日　2時～3時　於会館集会室
出席者　横山審査委員長ほか4審査員、関西建築家懇談会一の会代表岡橋作太郎氏、岡田、斉藤教育委員会正副委員長ほか1名
岡田教育委員長の挨拶、横山審査委員長の審査結果の報告に続いて入選者に対し賞状、賞牌を岡田教育委員長より、最優秀作品に対し関西建築家懇談会一の会岡橋代表より賞状と記念品をそれぞれ授与した後、茶話会を開催した。なお終了後「阪急グランドビル」の見学を行った。(3時半→5時)





奈良・依水園の茶室を見る

建築6団体会長午さん会

4日　正午～2時　於大阪ガスビル食堂
出席者　塚本会長ほか17名
当日は財団法人大阪住宅センターの寄附金、建築6団体以外の建築団体の参加等について意見交換が行われた。

建　築　ク　ラ　ブ　朝　食　会

9日　8時半～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　69名
当日は大聖将軍寺住職奥野俊雄氏より「河内飛鳥」についてお話を伺った。

11月の入会者（敬称略）

〔団体会員3社〕
㈱浅沼組東京支店　㈱阪南設計事務所
㈱リッケン

〔個人会員10名〕

青山　志朗	酒井　義郎	加藤　紀彦
清水耕一郎	谷　誉	長坂　新
野崎　英彦	前田　暁	水島　英樹
山本　一		

〔准会員1名（氏名省略）〕



あらゆる点から安全性をチェック
超高層時代のパーティションです。

コクヨ
プランナーウォール
（不燃間仕切り）

■不燃性
パネル表面材、床レール、巾木、笠木、目地板など、あらゆる部材に、優れた不燃性を誇るスチールを採用。充填材として特殊石膏ボードを使用しています。これは、建築基準法認定"不燃第一二五五号"をさらに改良した新しいパーティションです。

■遮音性能
パネルは全面裏打ちされており、すぐれた遮音性を発揮します。

■工期短縮
90%工場加工されたプランナーウォールは、ノンスタッドのパネル自立方式を採用。天レール、地レールを取り付けるだけで簡単に取り付けられます。

■専用機械から開発……
現場施工をより単純化するためさまざまな工夫がされています。すなわち、ノンスタッド方式の採用、それに工場生産過程において、建て込むだけで作業が完了するユニットパネルの完成などです。

■シンプルなデザイン
プランナーウォールは、ノンスタッド方式のためパネルとパネルを連結するだけで豪華な壁面ができ上がる便利なユニットです。役員室から会議室まで、あらゆるスペースにご使用いただけます。

コクヨ株式会社　大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

賀　正

1977

設計事務所有志

株式会社 **赤崎建築事務所**

代表取締役　赤崎尚信

大阪市西区立売堀北通り1－90 第三富士ビル TEL (06)541－7625代表

株式会社 **赤松菅野建築設計事務所**

代表取締役　赤松　修

大阪市北区梅ヶ枝町123（瑞穂ビル）　電話06（364）5651

東京・横浜・大宮・富士ノ宮

株式会社 **東建築設計事務所**

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋筋3－67　マチスビル　電話06（358）5598・3497

アトリエ trefoil（トリフォイル）

一級建築士事務所 菅家克子

室内建築設計事務所 佐々木恵子

大阪市北区岩井町1丁目79の2玉置ビル4階　〒530（06）351－8920・6307

ARI（あり）

一級建築士事務所
株式会社 **A.R.I（あり）建築事務所**

代表取締役　亀井晃治

事務所　大阪市南区谷町7丁目12番地の1　新谷町第3ビル2F　TEL (06)768－1771(代)

アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL (07437)3－6137

石川建築事務所

石川寛三
石川宏

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町111　電話 06（779）9491（代）
〒170 東京都豊島区駒込1－11－9　電話 03（946）5431（代）

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉沢哲史

大阪市北区真砂町48－1　オオシマビル　電話 06(364)9071～2

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町通2－6（清光ビル）電話(562)4343～5

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役社長　伊藤鑛一

本社　名古屋市中区錦3丁目3-6（日本経済新聞ビル）　電話〈052〉951-1110㈹
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7（久保ビル）　電話〈03〉294-6061㈹
大阪出張所　芦屋市山手町69　電話〈0797〉22-2163

株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役　井上達明

〒530 大阪市北区鶴野町51番地（安田ビル）　電話 06（372）2821（代）

株式会社 井上久雄建築設計事務所

代表取締役　井上久雄

〒550 大阪市西区京町堀1丁目38　千島ビル　電話大阪 06（443）7386㈹

指宿真智雄

大阪市東区南本町4－47 イトウビル
〒541 TEL (06) 252－1011～4

株式会社 建築デザイン 1級建築士事務所

株式会社 緑地デザイン 技術士事務所

東京都港区麻布台1丁目1番20号麻布台ユニハウス107号
〒106 TEL (03) 586－1311－4

株式会社 設備デザイン 設備士事務所

京都市中京区柳馬場通御池下る 京都朝日ビル
〒604 TEL (075) 221－1101～4

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役 三宅 晋

東京都港区芝西久保桜川町28（第10森ビル） 電話 03 (501) 0286㈹
大阪市東区北浜4－48－3 電話 06 (201) 5305

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役 浦辺鎮太郎
取締役 松村慶三

大阪市北区梅田8番地・新阪急ビル 電話06 (341) 1727
東京事務所 東京都千代田区平河町2－7－1 塩崎ビル
福岡事務所 福岡市中央区大名1－9－27 西部ビル



株式会社 久米建築事務所

取締役社長 永井賢城

本 社 東京都港区西麻布1丁目13番11号 電話03 (403)0251大代表
大阪事務所 大阪市北区堂島中1丁目23番地 堂島中町ビル 電話06 (344)2096代 表



コータケ建築設計事務所

所長 高武主計

大阪市西区江戸堀5丁目110番地の2 末弘ビル TEL 06(448)0178・2408



計画・設計・監理

株式会社 昭和設計

代表取締役社長 岡本行善
代表取締役専務 林 唯夫

本社事務所 大阪市西区西長堀北通1-8 四ツ橋ビル TEL代表 532－3421
神戸事務所 神戸市葺合区八幡通4丁目2番17号 久徳ビル TEL078－251－0651

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町17 日生不動産扇町ビル9階　TEL大阪(06)312−3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　高橋慶夫

本社　大阪市西区江戸堀1丁目12番8号　安田生命大阪ビル　大阪(441)9351(代)
大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目12番8号　安田生命大阪ビル　大阪(441)9351(代)
東京本社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　東京(572)4595(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　名古屋(261)8531(代)
九州事務所　北九州市小倉北区紺屋町9番1号　明治生命小倉ビル6階　小倉(521)4285(代)
分室　大分・室蘭

株式会社 田中小西建築事務所

取締役社長　小西岬

本社
大阪事務所　大阪市西区阿波座南通2−60　電話(532)4051代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3−3(大木ビル内)　電話(256)9301代表
名古屋事務所　名古屋市中区丸の内1の8番39号(三信ビル内)　電話(211)4035
大津事務所　大津市梅林1丁目4番15号(滋賀県教育会館内)　電話(22)5373〜4
広島事務所　広島市大手町2丁目7番1号(三葉ビル)　電話(46)0144

株式会社 東海設計

代表取締役　小坂忠勝

名古屋市中区栄3丁目7番1号(伊勢町ビル)　〒460　TEL052-261-2651(代表)

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長　東畑謙三

本社
大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話 大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話 東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区堀内町2(堀内ビル)　電話 名古屋(052)571-8471
北九州支所　北九州市小倉北区魚町1−4−21(北九州清和ビル)　電話 小倉(093)541-6531

株式会社 内藤建築事務所

代表取締役会長　内藤資忠
代表取締役社長　片山光生

本社　〒606 京都市左京区中大堰町189番地　電話075(781)6195代
事務所・出張所　青森・東京・松本・静岡・名古屋・京都・奈良・大阪
四国・福岡

株式会社 日建設計

取締役社長　塚本猛次

大阪市東区横堀2丁目38番地　電話203－2361（大代表）

株式会社 根津建築事務所

代表取締役　根津耕一郎

本　社　大阪市北区梅ヶ枝町81（大阪弁護士ビル）　電話(06)364－8301(代表)



株式会社 宮後建築事務所

代表取締役　宮後健

本　社　大阪市天王寺区上汐町6－35　電話 772－0165(代表)
分　室　大阪椎寺町・大阪本町

有限会社 村野，森建築事務所

大阪市阿倍野区阿倍野筋2－3－8　電話(624)0926代表
研究室　大阪市南区心斎橋筋1－43　電話(253)0875代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町2－3　電話(669)5651



株式会社 安井建築設計事務所

取締役社長　佐野正一

本　社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話 06(943)1371(大代)
支　社　大阪・東京・名古屋・神戸・福岡

株式会社 吉田建築事務所

取締役社長　吉田信武

大阪市西区北堀江上通3－22（久竹ビル）　電話（538）2991 代表

賀　正

1977

建設業者有志



株式会社 **青木建設**

取締役社長　青木宏悦

専務取締役
大阪支店長　笠井晶二

本　社　大阪市大淀区大淀町南1の5　TEL06(458)5851
東京本社　東京都渋谷区渋谷2－17－3　TEL03(407)8511
大阪支店　大阪市大淀区大淀町南1の5　TEL06(458)5851



株式会社 **淺沼組**

取締役社長　淺沼茂夫

本　社
本　店・大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話 代表 (768) 5222
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・福岡・広島
営業所・旭川・秋田・盛岡・福島・水戸・北関東・千葉・立川・横浜・新潟
北陸・浜松・静岡・岐阜・長野・三重・滋賀・奈良・京都・大和郡山
和歌山・神戸・岡山・鳥取・山口・高松・徳島・松山・熊本・沖縄



株式会社 **新工務所**（アタラシ）

取締役社長　新昭一

本　店・大阪市北区曽根崎中1丁目43　電話 代表 大阪(313)1331番
支　店・東京都千代田区猿楽町2丁目1番14号　電話 代表 東京(291)3741番
営業所・名古屋市中区大須4丁目1番71号(時計ビル)　電話 名古屋 (262)1725番



株式会社 **あめりか屋**

取締役社長　前野慶太郎

本　社　〒530 大阪市北区常安町17番地　電話 代表 (444) 1501番



安藤建設株式会社大阪支店

常務取締役大阪支店長　野口清

大阪市福島区福島6丁目3番21号　電話 代表 (453) 2190
本　社・東京都中央区八重州4丁目7番地　電話 大代表 (272) 7411
支　店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本



株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町7丁目2番地ノ1　電話06(779)3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　電話03(354)0581
営業所　京都・神戸・奈良・埼玉



株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 大代表（292）1111番
本　店・大阪市東区京橋3丁目37番地　電話 大代表（943）1131番
支　店・札幌・仙台・横浜・金沢・名古屋・神戸・岡山・広島・高松・福岡



株式会社 奥村組

社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町1の2の3　電話 大阪(06)621－1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)404－8111(大代表)
支　店　札幌・仙台・浦和・東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・広島・高松・北九州・福岡



鹿島建設株式会社

取締役社長　渥美健夫
取締役大阪支店長　金田伝一郎

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03（404）3311(大代)
大阪支店　大阪市南区鰻谷西之町6　電話 06（245）2311(大代)



株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷吉太郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411)1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田



株式会社 神崎組大阪支店

取締役支店長　江藤忠實

大阪市北区曽根崎新地1丁目21　電話 大阪（341）7371(代表)
本　社・姫路市北条口86－3　電話 姫路（23）2021(代表)

株式会社 近畿建設

代表取締役　川崎敬三

本　社　大阪市西区江之子島1丁目2番2号　電話　大阪06（448）5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡193の1　電話　07755（2）1361～2

熊谷組

代表取締役社長　牧田甚一
常務取締役大阪支店長　星野晴彦

本　社　東京都新宿区津久戸町17番1号　電話（260）2111番（大代表）
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話（352）1151番（大代表）
支　店　札幌・仙台・北関東・東京土木・東京建築・横浜・名古屋・広島・四国・福岡・北陸・那覇

甲南建設工業株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308－1551大代表
東京都千代田区神田須田町1－18(共同ビル)　電話　(03)253－4455代表
尼崎市南武庫荘2丁目7番23号　電話　(06)427－9631代表
神戸市葺合区八幡通4丁目2番8号(松井ビル)　電話　(078)221－6293代表
堺市宿屋町東3丁1番19号　電話　(0722)29－0088
福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命ビル)　電話　(092)471－7271

株式会社 鴻池組

取締役社長　鴻池藤一

本　店　大阪市東区北久宝寺町4-27　電話　ダイヤルイン（244）3500（受付台）
支　店　東京・名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・横浜・札幌・神戸・京都・金沢

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543　大阪市天王寺区椎寺町66番地　電話　大阪（779）7731～5

佐藤工業株式会社

取締役社長　佐藤欣治・常務取締役大阪支店長　小町谷武司

本　社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話　東京（662）2331（大代）
大阪支店・大阪市東区北浜1－25　電話　大阪（203）7221（代表）
支　店・東京・名古屋・富山・札幌・福岡・仙台・広島・横浜



島藤建設工業株式会社 大阪支店

常務取締役　西田康治

常務取締役支店長　亀田晃

本社　東京都港区赤坂8丁目5番34号　電話 東京（403）1511

支店　大阪市北区茶屋町31番地の2　電話 大阪（372）6001代表



清水建設株式会社

社長　野地紀一

本社　東京都中央区宝町2－1

支店　大阪・名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌



住友建設株式會社

取締役大阪支店長　楠本昌造

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地(新住友ビル2号館)電話 06(220)8712

本店　東京都新宿区荒木町13番地　電話 03(353)代表5111番



株式会社 錢高組

取締役社長　錢高輝之

本店　大阪市西区阿波座上通3丁目2番地　電話 大阪（531）6431番(大代表)

支店　札幌・仙台・東京・名古屋・広島・福岡

営業所　青森・秋田・盛岡・福島・新潟・前橋・宇都宮・水戸・浦和・千葉・多摩・横浜・甲府・静岡・津・金沢・京都・神戸・岡山・松江・山口・高松・松山・北九州・大分・熊本・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄



大幸建設株式会社

取締役社長　大沢幸平

本社	大阪市西区西長堀北通一丁目五番地	電話 06(538)0881代
本社分室	大阪市東区今橋五丁目二番地	電話 06(203)0373代
東京支店	東京都渋谷区渋谷二丁目十番七号	電話 03(407)7426代
名古屋支店	名古屋市中村区若狭町一ノ二五	電話052(581)7376代
松江営業所	松江市和多見町一七五	電話0852(21)3747代
出張所	富山・岐阜・滋賀・兵庫・岡山・広島・高松・福岡・静岡・仙台	



大成建設株式会社

取締役社長　菅澤英夫

常務取締役大阪支店長　原田眞三

本社　東京都中央区銀座2丁目5番11号　TEL東京（567）1511大代表

大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪（262）1131大代表

支店　東京・名古屋・横浜・福岡・高松・新潟・仙台・札幌・広島

大日本土木株式会社大阪支店

取締役支店長　倉田通夫

530 大阪市北区堂島北町9　電話06(341)代表5931
東京本社　162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35　電話03(268) 5511
本　店　500 岐阜市六条1483番地5　電話 0582 (72) 3141
支　店　東京・横浜・仙台・名古屋・九州・広島
営業所　神戸・京都・奈良・大津・和歌山・上六・高松・岡山

株式会社竹中工務店

取締役社長　竹中錬一

本　店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪 (252) 1201番(大代表)
支　店　北海道・東北・東京・名古屋・広島・九州
営業所　千葉・横浜・沖縄・静岡・北陸・京都・神戸・岡山・四国・北九州

鉄建建設株式会社大阪支店

西日本業務担当
常務取締役　児島章

取締役支店長　金子越郎

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地(天六阪急ビル) 電話 (358) 0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京 (262) 3411(代表)

東海興業株式會社大阪支店

大阪駐在
専務取締役　小松英二

常務取締役
支店長　田中巖夫

本　社　東京都千代田区丸の内3-4-2日石ビル　電話 東京 (212) 3261
大阪支店　大阪市北区豊宮町3－2 豊崎ビル　電話 大阪 (373) 1181
支　店　東京・名古屋・仙台・札幌・福岡

戸田建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　加納秀雄

大阪市西区靱本町2丁目117番地(新信濃橋ビル) 電話06－531－6561(大代表)
本社東京都中央区京橋1丁目3番地
支店　東京・関東・横浜・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

飛島建設株式會社大阪支店

取締役支店長　山本龍男

大阪市東区島町2丁目28番地　電話　大阪 (942) 2481(代表)
本　社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号 電話 東京 (263) 3151(大代表)

明日をささえる

西松建設

大阪建築支店　大阪市東区釣鐘町2丁目41番地

取締役支店長　板井正彦

本　　社　東京都港区芝西久保桜川町13番地

日東建設株式会社

取締役会長　長久保俊夫
取締役社長　石澤六郎
常務取締役（大阪駐在）　近藤義雄
取締役支店長　本澤平八郎

本社　102 東京都千代田区平河町1丁目4番地9　電話東京　03（265）（大代表）4281番
支店　530 大阪市北区末広町12番地(新末広ビル)　電話大阪　06（351）　代0623番

日本建設株式会社

社　長　生田重政

本　社　大阪市東区安土町4－5　TEL（261）7591－8 〒541
支　店　東京・大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国・沖縄

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本　社　大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話(202)代表4791
東京支店　東京都千代田区大手町2丁目1番1号　電話(241)代表4171

株式会社

間組大阪支店

専務取締役
大阪支店長　土上三之丞

大阪市東区瓦町5丁目20番1号　電話（201)2751(大代表)
本　店・東京都港区北青山2丁目5番8号　(405)1111番(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・高松・海外工事局

株式会社

藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本社・大阪本店・大阪市東区両替町1丁目13　電話　06(942) 1461(代)
支　店・東京都新宿区三栄町23の4　電話　03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形1丁目10の32　電話 0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内11の13　電話 0878(51) 7272(代)
京都市右京区西院寿町13　電話 075(311) 4131(代)
福岡市博多区博多駅南4丁目18の2(博多沢田ビル内)　電話　092(441) 6585(代)
出張所・多摩・静岡・名古屋・津・宇治・岡山・徳島・新居浜・熊本

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎

本　社　大阪市西区西本町3丁目1番9号　〒550　電話　大阪 541－5534代表・9301代表
支　店　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160　電話　東京 377－5171代表
　　名古屋市中区千代田4丁目11番17号　〒460　電話名古屋 321－8481代表
出張所　仙台・大垣・京都・野洲・姫路・岡山・広島・博多・大分

未来をひらく フジタ工業

取締役大阪支店長　志賀修一

大阪市北区堂島中2丁目38番地　電話(345)代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ヶ谷4－6－15
支店・東京・札幌・横浜・名古屋・大阪・広島
九州・仙台・リマ・カラカス・サンパウロ

前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　林甚四郎

支　店　大阪市都島区東野田町2丁目4番20号　電話大阪(353)7891(代表)
本　社　東京都千代田区富士見2丁目10番地の26号　電話東京(265)5551(代表)

真柄建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市西区京町堀3丁目12番地　電話 大阪(06) 443－0641(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話 東京(03) 263－1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟・広島・福岡

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄二

本　社・大阪市北区空心町一丁目七〇番地　電話 大代表 大阪(353)1131
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

三井建設 株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　滝口開

大阪支店　大阪市北区中之島3－7（三井ビル2号館）　TEL　06－443－1321
本　店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL　03－863－3111

村本建設株式会社

代表取締役社長　村本豊嗣

本　店　奈良県北葛城郡広陵町安部５４７　電話　大和高田　(55) 1151(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区上本町９丁目４９　電話　大　阪　(779)1571(代表)
東京支店　電話　東京　(265)5851㈹　名古屋支店　電話　名古屋　(241)1511㈹
福岡支店　電話　福岡　(741)0119　三重支店　電話　津　(26) 2949

望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区堂島上１丁目18　電話大阪(344) ８６５１(代表)

株式会社　森組

取締役社長　森　幸治

本　社　大阪市東区横堀２丁目１４番地　電話　201－2761(代)
(支　店)　東京・名古屋・奈良・九州　(営業所)仙台・滋賀・京都・神戸・広島

株式会社　盛工務店

代表取締役　盛　道雄

本　社　大阪市北区南森町４７(成興ビル)　電話 (364) 1581(代表)
営業所　神戸・赤川・西宮・宝塚・豊中

綜合建設業・一級建築士事務所・宅地建物取引業

株式会社　薮内工務店

本　社　大阪府貝塚市鳥羽183－１　電話 (0724) 31－4025 (代)
営業所　大阪・堺・西宮・和泉
展示場　大阪府貝塚市三ツ松招山１７２６番地

株式會社　米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米田良男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪上ノ町７　ＴＥＬ大阪(06)771-7771代表

賀　正

1977

建材・設備工事業者有志

アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

本　　社　大阪市浪速区芦原町1183　TEL（06）561－3901代
東京出張所　東京都豊島区西池袋5－13－13　TEL（03）988－0271
東都自動車ビル1411号
泉北出張所　堺市泉北若松台1－1－1310号　TEL（0722）92－3321

青盛建材株式会社

取締役会長　青盛繁男
取締役社長　青盛巖

広島市舟入辛町19－10　電話 0822－92－3200
福岡・岡山・松江・下関・徳山・鹿児島

タイル・瓦工事

井上窯業株式会社

代表取締役　井上秋次

大阪市天王寺区生玉町40番地　電話 771－2825（代）
営業所　豊中・奈良・寝屋川　779－5323～4

防熱並に防水工事

株式会社 井上冷熱

代表取締役会長　井上浄夫

本店　大阪市西区江戸堀1－101　電話(06)441－8531㈹
支店　東京都中央区八丁堀4-2-2 共同ビル八階　電話(03) 551－6756
工場　岡山市中原375　電話(0862)52－5371

株式会社 梅彦

代表取締役　松永嘉一郎

本　　社　大阪市北区舟場町20番地　電話 06（371）4036代
営業所　大阪市北区道本町40番地　電話 06（312）6171代
茨木工場　茨木市字清水246番地　電話0726（43）6149代

大阪装飾株式会社

取締役社長　蜷川智造

本　社　大阪市西区京町堀2丁目64番地　電話 06(444)1410(代)
営業所　東京都港区西新橋2－26－1　電話 03(437)2577(代)
神戸市生田区下山手通2－15(聯合ビル)　電話078(321)2009(代)

防煙・防火は OMAIA で…… OK!

小俣シャッター工業株式会社大阪支店

大阪支店　大阪市北区此花町2－51(第5新興ビル)　電話大阪 (353)7377代
本社工場　東京都北区東田端1－4－1　電話東京 (893)5211代

株式会社 木下謹三商店

取締役社長　木下光雄

〒550　大阪市西区江戸堀5丁目5番地　電話 06 (443) 0115

株式会社 シエル石油大阪発売所

フリントコート部門

本部長　栗山和三

本　社　大阪市北区堂島浜通り1－25　電話 大阪(343) 0441大代表
営業所　東　京・福　岡

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話 (075) 681－7221(代)

特許 強力アスロン・アスタイト防水

東西アスファルト事業協同組合
田島ルーフィング株式会社

大　阪：大阪市西区京町堀1－74　電話 (06) 443－0431
東　京：東京都千代田区岩本町3－11－13　電話 (03) 862－8531
名古屋・広　島・福　岡・札　幌・仙　台

東亜印ルーフィング

東亜工業株式会社

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話0729－94－5682
営業所　東　京・名古屋
工　場　大　阪・東　京・和歌山

東亜アス防水工事ハイボンデル工法
合繊不織布・TNコート使用のメンブレン防水

建設省計振発
第55号認可 **東亜アスファルト防水事業協同組合**

〒581　大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話　0729－94－5682

東邦パーライト断熱軽量コンクリート、東邦パーライト断熱軽量モルタル、建設省防火認定材料(ネオパールスキン)

東邦パーライト株式会社

取締役社長　橘　泰治

本　社　大阪市東区森之宮西の町594　電話(941)9243～7(代)
営業所　東京、横浜、広島、福岡、高松、松山、金沢

室内装飾施工全般

東洋建装株式会社

代表取締役　二四岡久男

大阪市城東区古市3丁目13番14号　TEL 大阪(06)932－4321 代表

TOTO特約店 **株式会社 ナニワ**

代表取締役　吉田広助

営業所　〒544 大阪市生野区巽西2丁目7番24号　電話 757－1101(代)
本　社　〒543 大阪市天王寺区烏ヶ辻町61　電話 771－9123(代)

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**

取締役社長　伴　一郎

大阪市大淀区中津南通4丁目11番地　電話大阪(458)代3531番

日本アスファルト防水工業協同組合員

日新工材株式会社

代表取締役　井　場　正　孝

〒550 大阪市西区新町北通1－17　電話 06(541)3785(代)

阪急電気工事株式会社

取締役社長　杉　村　正　三　郎

本　社　大阪市淀川区新北野1丁目4番21号　電話　代表 06　(302)0231
営業所　名古屋市南区観音町6－7　電話　代表 052 (692)1141

Vandex®

〈信越化学グループ〉

株式会社 バンデックス・ジャパン

無機質浸透性塗布防水剤

ウレタン防水剤――バンデコート・カラーバンデコート
防塵用カラー床剤―バンデコート F-500
ウレタンシーラント―S-340
エポキシ防蝕剤―バンデコートP-201

代表取締役社長　村　川　一　雄
関西営業所所長　大　友　　理

本　　社　東京都中央区八丁堀2－27－10　03－552－6954(代表)
関西営業所　大阪市北区伊勢町19-2 高橋ビル北2号館　06－312－5765

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
防熱工事設計施工
プラスオール
コーキング　販売施工
ピサロン

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区江戸堀1－126(大栄ビル)　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札幌　〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

ムツ三産業

三協アルミニウム工業株式会社代理店
日立化成工業株式會社代理店
新明和工業株式會社代理店

ムツ三産業株式会社

代表取締役　傳　馬　正　明

〒550 大阪市西区靱本町2丁目47番地　電話 (06) 大代表 441－0378番
広島出張所・広島県竹原市竹原町本川1514－9　工場・大津、竹原

室谷商事株式会社

取締役社長　室　谷　山　水

本　社　神戸市生田区北長狭通4丁目1(英和ビル) 電話078－331－0881
支　店　大阪市北区絹笠町50（堂ビル）電話 06－364－2031

営業品目　建築金物、装飾金物、其他諸金物別注設計製作
オリジナル金属製家具

株式会社 山本金属製作所

〒542 本社・本社工場　大阪市南区西賑町２５　TEL（761）０１２７代
〒570 守口工場　守口市浜町２－１　TEL（993）７１９２

四ツ橋

株式会社 山京建材社

文化建材・金属建材・装備品

本　　社　大阪市西区四ツ橋筋・四ツ橋　電話 541－1861～8
東　　店　東大阪市金物町３番１号　電話 723－2277～8
山建ソビー　大阪市西区立花通２（展示屋敷）　電話 541－2152～3

山本窯業化工株式会社

取締役社長　山本泰通

本社・工場　大阪府摂津市東別府1-3-6　電話(06)340－９１３１～５
営業所　東京・名古屋・大阪・広島・福岡・仙台

TOPPAN

凸版印刷株式会社

専務取締役支社長　田中貞司

関西支社　大阪市福島区海老江３の22の61　電話　06（458）2251
本　　社　東京都台東区台東１の５の１　電話　03（833）2111

PRESS

大阪で唯一の
株式会社 日刊建設新聞社

代表取締役　中山豊雄
代表取締役　中山敏夫

大阪本社　大阪市東区高麗橋１丁目３（東洋ビル）　電話 202－6861（代表）

株式会社 日刊建設通信新社関西支社

代表取締役会長　田中一
常務取締役関西支社長　林田不二夫

大阪市西区江戸堀１－１４４　エハラビル　電話（444）４４５１代表
本　社・東京都港区西新橋２－１１－４　電話（502）８５８１代表

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

シート防水・ウレタン防水・シングル葺工事

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　TEL 06－364－0206 代表

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5(電話221 2923)



鉄壁の守り
奥山式・熱工法・冷工法総合防水層

創業50有余年、当社では製品製造から責任施工までの一貫した作業システムにより、漏水原因を克服した理想的な総合防水層を完成させました。

●奥山式総合防水層の特長
継目がない／温度変化による伸びがない／腐らない／柔軟性に富んでいる／耐候性に優れている／製品及び施工技術が優れている／完全絶縁工法で施工出来る

奥山化工業株式會社
本　社　東京都中央区銀座8-4-11　電話03(571)2703

カッパー防水帯
コーパータイト
オクロン防水帯
新工法プレノテクト吹付工法

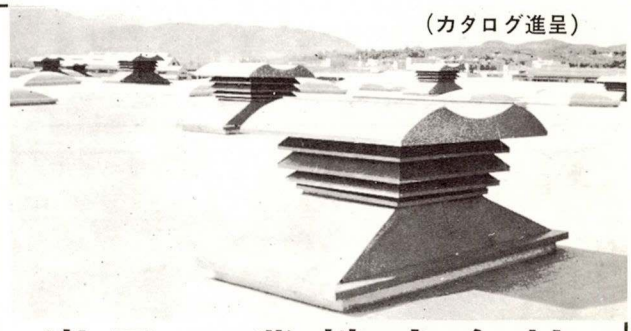
●お申込次第カタログ進呈

厚木出張所　厚木市金田字宮畑 2 5 9 電話0462(21)6092
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り2-3-1 電話06(921) 2497
名古屋出張所　名古屋市南区若草町3－3 電話052(811)3660
九州出張所　佐賀県諸富町 電話0952(47)2945

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型：固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社
大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話　(981) 0615～0618

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝松町1-25-7　電話（434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町65番地　電話（352)1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667)3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一　電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一　電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区富田町16番地　電話 06－363－1371
支　店　名古屋市中村区下笹島町11－2　電話052－581－8571
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話0822－47－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　横浜・福井・京都・神戸・松江・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　社　大阪市西成区江戸堀1－60〒550 電話(441)8231代表
支　店　大阪・東京・名古屋・仙台・金沢・広島・福岡
営業所　札幌・新潟・岡山・高松・熊本
出張所　盛岡・秋田・横浜・静岡・富山・福井・豊田・京都・神戸・鹿児島・那覇

――冷・暖房、衛生、機器配管、設計施工――

株式会社 清水工業所

本　社　大阪市大淀区南浜町3丁目14番地
〒531　電話　大阪（372)2851(代表)
東京支店　東京都中央区八丁堀4丁目11番7号
〒104　（神谷ビル）
電話　東京（551)8041(代表)
出張所　鳥取・群馬・宇都宮・君津
島根・福岡・松山・高松

空気調和設備
給排水衛生設備 設計施工
各種プラント設備
各種送風機・風力輸送装置
空調機器類・公害防止装置　設計製作

株式会社 カンダン

本　社　大阪市住吉区万代東6丁目3　TEL（672)1281(大代)
営業所　東京・名古屋・京都・広島・福岡　工場　和泉・名古屋
テレックス：本社 No. 562－7688　和泉工場 No. 538－5898

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25（新大ビル）
電話　(06)　344－6031　(代)
本社・東京支店　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話　(03)　279－5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備
■その他管工事一切の設計・施工
（旧斎藤久孝事務所）

斎久工業株式会社大阪支店

大阪支店　大阪市北区常安町11　電話 06－443－5041代
東京本社　東京都千代田区大手町2-6-2(日本ビルデング)
電話　03－270－7411代
営業所　札幌・仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・岡山・福岡
出張所　福井・倉敷・広島・苫小牧

空気調和　衛生設備／設計施工

須賀工業

大阪市西区土佐堀通1-14　TEL 06-441-5171
支　店　東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所　札幌・千葉・横浜・静岡・高松・広島
出張所　金沢

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　各務節
取締役支店長　藤田初藏
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話　大阪(202)　代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、高松、静岡、豊田、岡山、金沢

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031番
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル8階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241～4番

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備・給排水衛生設備・塗装設備・公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1 ☎03-344-1851(大代)　大阪支店 ☎06-203-3721(大代)　名古屋支店 ☎052-211-1535(代)　九州支店 ☎092-431-2147　営業所：札幌・仙台・横浜・広島・神戸　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・京都・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　**電話大阪(458)3531番**
営業所　京都・広島・天理・福岡

温・湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話（364）6661（代）
本社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話（211）8511・8561（代）
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話（21）4491
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話（971）3621

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話（352）3501～3
四日市支店　四日市市浜田西末広町　電話㊾7431～3
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話 0775 ㉒9738
津営業所　津市栄町2－111　電話 0592 ㉖3610

一般空調設備・恒温恒湿設備・冷凍冷蔵設備
冷却乾燥設備・環境改善設備その他上記に附
帯する衛生、電気等一切の工事の設計・施工

ダイキンプラント株式会社

取締役社長 北川一郎
本社　大阪市大淀区中津本通1丁目2番地 ホーコクビル
〒531　電話　大阪(06)372－5171(代表)
支店　東京都中央区日本橋本町3の1 共同ビル
〒103　電話　東京(03)242－5521(代表)
営業所　福岡・名古屋・広島・札幌・仙台

Carrier
冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪（384）1201～7

空気調和・衛生設備　設計・施工　大阪ガス指定工事会社
ガス設備・ガス住宅設備　大阪ガス設備機器特約店

大晃設備株式会社
(旧三晃空調瓦斯工事部)

本社　大阪市北区木幡町34－2　電話 06－313－1846
ガス工事部
大阪営業所　大阪市北区木幡町34－2　電話 06－313－1846
ガス工事部
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128
設備部　大阪市北区木幡町34－2　電話 06－313－1846
設備部
京都営業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備・設計・施工

大阪市西区江戸堀通2の2　TEL(441)㈹1994・(443)㈹0331

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田町55番地(北阪急ビル9階)
電話 大阪（372）2511（代表）
本社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備　設計施工

不二熱學工業株式會社

本店　大阪市南区順慶町2－50　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込1－2－1　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL(433) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支店　名古屋・福岡

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工

山田工業株式会社

本社及管工事事業部　大阪市西区京町堀1－62 電話06(443)8161(大代表)
環境装置事業部　大阪市淀川区三津屋南1－1－35 電話 06(308)1491(代表)
東京支店　東京都港区北青山3－6－18(共同ビル青山) 電話 03(409)8905・8973
名古屋支店　名古屋市中区栄2－16－13(京極ビル) 電話 052(202)0077(代表)
出張所　神戸・福岡・松山

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区高垣町16 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 博 三

本 社 大阪市北区中之島3－3 朝日ビル
TEL 大阪06（385）1361(代)
本社営業所 吹田市垂水町3－34－6
TEL 大阪06（385）1361(代)
京都営業所 京都市右京区西京極葛野町21
TEL 京都 075（311）1185（代）
福岡出張所 福岡市中央区薬院1－14－8
TEL 福岡 092（771）6168

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 林 敏夫

本 社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電 話（361）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電 話（671）1478（代）
出張所 川崎・相模原・堺・福山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

常務取締役支社長 姉 川 正 男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪（202）0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル3階）
電 話（364）1471（代）
支 店 東京都港区新橋2－16（ニュー新橋ビル7階）
電 話（504）0231
支 店 名古屋市北区城見通2丁目20番地
電 話（991）5131（代）
営業所 神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

電気工事 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中 本 正 明

本 社 大阪市城東区成育三丁目五番十七号
電 話 大阪（931）代表 7341～5
資材倉庫 大阪市城東区成育三丁目十七番一号 電話大阪（932）2869
奈良営業所 奈良県御所市御国通360 電話御所（2）0122
枚方営業所 枚方市山之上西町1の1 電話枚方(43)8659･(44)9232
神戸営業所 神戸市葺合区若菜通六丁目六番五号 電話神戸(241)5969

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役社長 小 林 四 郎

本 社 大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06) 452－1151(代)
電力工事本部 大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06) 462－1301(代)

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長 池 内 文 夫

本 社 大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電 話 大阪（472）代表 1101～7
支 店 東京都品川区西五反田6丁目25番11号（福島ビル）
電話話 東京(491)1746 (492)0182・0350
営業所 北九州市小倉区鋳物師町23番地
電 話 小倉（56）5665・5818
出張所 群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気設備設計施工

高千穂電機株式会社

取締役社長 岩 崎 久 雄

本 社 大阪市都島区中野町4丁目8－10
電 話 大阪（06）358－1171大代表
営業所 東京・神戸・九州

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田 中 実

本 社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話 大阪（538）1171代表
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長 今 村 勝
取締役社長 平 木 寛
本 社 大阪市北区梅ヶ枝町56番地
電 話 大阪 大代表（312）8881
支 店 東京・名古屋・四日市・神戸
営業所 松山

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西堀川町15 TEL06－364－3056(代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

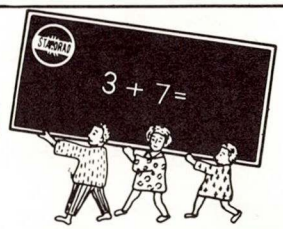
青写真とマイクロフィルム
株式会社
ナイガイ
製図・トレース・複写写真

本　　社　大阪市北区堂島北町16　TEL（345）9055(代表)
御堂営業所　大阪市東区本町4－27御堂ビル　TEL（252）3906
横堀営業所　大阪市東区横堀2－36　TEL（202）5260

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
床・壁内外装用瓦……大仏敷・貼瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル
新発売…古代土器調高温〆タイル……大仏古代タイル
株式会社　大仏
本　　社　京都市東山区今熊野大仏池田町9の9　075(541)3344(代)
東京営業所　東京都新宿区西早稲田3丁目23番8号　03（202）7801(代)
早稲田セントラルビル1F
工　　場　京都清水・山城・瀬戸

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四二電話641五〇六五
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

奉仕感謝の店
タイル工事施工
株式会社　川岸窯業商店
本　　社　大阪市西区靱本町2丁目98番地(靱本町バス停前)
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
姫路営業所　姫路市北条口126番地(住友生命保険ビル7F)
電話　姫路 0792(82) 0999　〒670

Standard


Board&Slate
フタバ黒板
〒547　大阪市平野区加美北3－4－5　TEL 大阪06(792)5858(代)

営業品目　建設省認定の防火材料
セメント系吹付材　ソリジットスタイン　基材同等　0003号
特殊リシン吹付材　エバウォール　基材同等　0003号
アクリル系吹付材　エバーサンド　基材同等　0004号
ヒル石吹付材　エバテックス　基材同等　0004号
合同特許建材工業株式会社
本　　社　大阪市東住吉区駒川町3－54　電話（06）702－7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート

源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。
株式会社　吉田芳雄商店
本　　店　大阪市北区旅篭町18　電話(361)3450・(364)2345
源八橋店　大阪市北区天満橋筋4－78　電話(358)1790・1838

内外装ホーロー建材及スパンドレル(ヨドウォル・ヨドスパン)
屋根折版（ヨドルーフ）販売及責任施工
サクラ建産株式会社
大阪市都島区都島中通2丁目17番4号
電話　大阪(922) 代表4421～3

株式会社矢橋大理石商店
大阪支店
大阪市東区高麗橋2丁目9　野村ビル5階　電話 大阪(202)4905

FUTABAYA DECORATORS,LTD


建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式/設計施工
（創業大正7年）
二葉屋装備工業株式会社
取締役会長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話 大阪（06）349－9193代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

株式会社 鈴木シヤタア商会

大阪市北区茶屋町33番地 電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番) 65－5135～6
神戸営業所 神戸市長田区大橋8-4-7 電話神戸(078市外局番)611－7971
631－2021

腐らない・燃えない・軽い

ケミカラーオーシマメタル

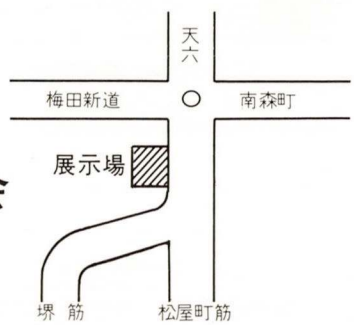
屋根材・壁 材・谷樋棟包水切りに
スタンダードメタルの 大島応用化学 東大阪市新庄 (745)5121～5

年中見ていただける 皆様の見本室

タイル
常設展示場

AM. 10.00～P.M. 5.00
日曜・祝日は休館

全国タイル展示協会
大阪市北区南森町46番地
八千代ビル南館2F
TEL (06)364－2059



防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社：大阪市東区両替町1－12 日生ビル ☎ (943)6571代表
東京・横浜・盛岡・郡山・水戸・浜松・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・堺・神戸・広島・福岡他全国主要都市

日進式 簡易間仕切 ディオ

オフィスでは人員の増減やシステムの改善等で，オフィスレイアウトも流動的です。取付，取はずしが簡単なディオは時代の要求にマッチした新しい簡易間仕切です。軽くて，剛性のあるディオパネル(イソバンド36)の表面は0.5㎜の塩ビ鋼板で構成され，美しい室内感覚を出しています。
(PAT.6件)

奥村重兵衛株式会社

本　社　大阪市北区伊勢町22番地　〒530 電話(06) 312－4131(代)
東　京　東京都港区新橋4－2 第29森ビル　〒105 電話(03) 437－3361(代)
福　岡　福岡市博多区住吉2丁目16番27号　〒812 電話(092)291－0459(代)
名古屋　名古屋市西区倹町2丁目1番6号　〒733 電話(052)522－5436(代)
広　島　広島市舟入本町19番13号　〒733 電話(0822)91－1533(代)
仙　台　仙台市燕沢字西山5の18　〒983 電話(0222)52－2631(代)

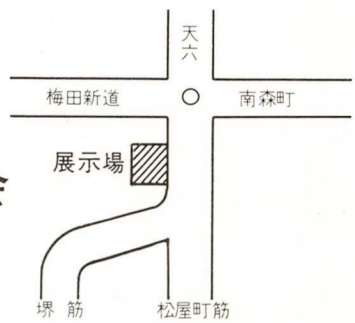
年中見ていただける　皆様の見本室

タイル 常設展示場

AM. 10.00～P.M. 5.00
日曜・祝日は休館

全国タイル展示協会

大阪市北区南森町46番地
八千代ビル南館2 F
TEL (06)364－2059



好評発売中!!

新版 **建築工事検査の実際**
亀田泰弘監修
現場に即した試験・検査の技術を懇切ていねいに解説した初の工事検査方法指導書で，技術の急速な進歩に伴い全篇にわたって新しく書き改められ，一層充実した内容のものとなっている。
■上巻　B5判・453頁　¥6,000・送料¥250
■下巻　B5判・534頁　¥7,000・送料¥250
上下揃 { 都内送料 ¥350 / 地方送料 ¥500

各種建築構造の計画・設計に役立つ実用便覧
建築構造計算資料集
中川　淳編著　全8巻
1 鉄筋コンクリート構造編①　B5判・188頁　¥2,500(送料¥200)
2 鉄筋コンクリート構造編②　B5判・212頁　¥3,000(送料¥200)
3 鋼構造編①　B5判・225頁　¥3,200(送料¥200)
4 鋼構造編②　近刊

増補改訂版　生活環境造りに好個の設計資料
住宅団地の造園施設
冲中　健著　B5判　¥1,600(送料¥200)

快適な住環境を造成する為の技術資料
住宅団地の土木設計
小池正次著　B5判　¥1,600(送料¥200)

コンクリート技術に関する好適の実務書
実用コンクリート技術
森茂二郎編　上巻 B5判・360頁　¥3,200(送料¥200)
下巻 B5判・414頁　¥3,600(送料¥250)

設計・施工に必要な接着工法の決定版
建築の接着工法
西　忠雄監修　B5判　¥3,000(送料¥280)

月刊 **建築技術**
建設省建築研究所監修
年間購読料　¥8,400(送料含む)
〔1　月　号〕　特価¥900

●海岸地に建つ小規模鉄骨建築……出原隆夫
●座談会“コンクリートの調合”……亀田泰弘ほか
●建設省総合技術開発プロジェクト“新耐震設計法の開発”……中野清司
●建築空間の評価……青木義次
●環境建築の思想―自然像の変換―……瀬尾文彰
●設備ユニットの問題点と今後の動向……須貝　高
●鉄筋コンクリート工事の配筋および手直し要領(最終回)…北小路　宏ほか
●構造計算データシート(45)……構建設計研究所
●グアテマラ大地震……三東哲夫

〔特集号案内〕
●軟弱地盤と建築……49年6月号 特価¥1,000
●中小規模の鉄骨建築・配筋の要点……51年1月号 特価¥780
●軀体生産技術の向上をめざして……51年4月号 特価¥780
●建築と接合……51年7月号 特価¥1,300
●住宅部品システムの普及……51年11月号 特価¥1,400

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1中島ビル8F
☎03〈363〉4211代)　振替口座 東京0-72417番
有限会社 建築技術

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

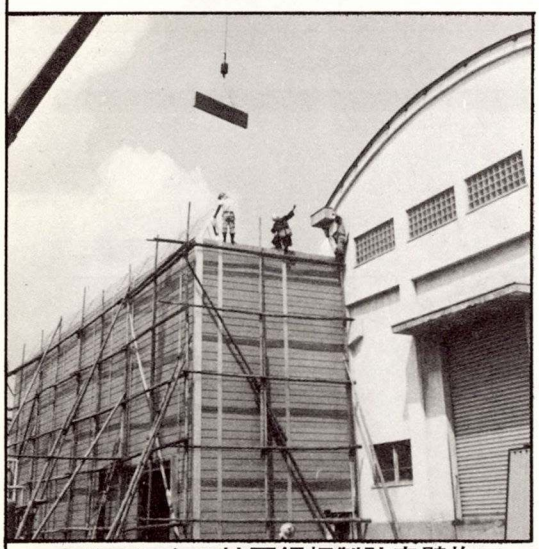
錆びない！
われない！
燃えない！

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルスチールライト（S.T.L）
カラースーパーオリエンタルメタル（C.S.P.M）

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波　Vデッキ

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
ホーンタイト（防音壁）
換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕



オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

オリエンタルメタル製造株式会社

本社	兵庫県尼崎市昭和南通り3—26松本ビル	電話	大阪（412）5131代表
営業本部	兵庫県尼崎市長洲稲川新田44	電話	大阪（488）1081代表
東京本社及工場	埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号	電話	蕨　（42）3115代表
大阪支店及工場	兵庫県尼崎市長洲稲川新田44	電話	大阪（488）1081代表
九州支店及工場	福岡県遠賀郡水巻町頃末	電話	北九州（691）2831 代
名古屋支店	名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル	電話	名古屋（581）2781 代

全国で好評の……

新興の内外装壁材を！

インテリヤ…カラーストーン…研出し仕上！
（旭化成ミュールコート・セット品）

シンコーストーン

いつも美しい　ワンタッチ…洗出し仕上…

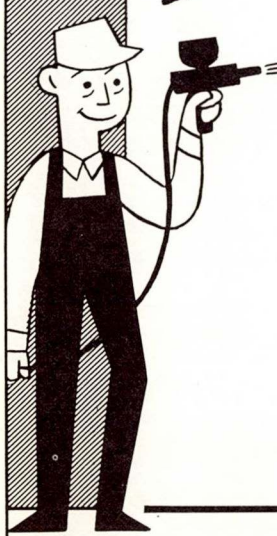
ミュールストーン

（旭化成ミュールコート・セット品）

純日本壁の最高峰

ヤマト緊楽

吹付…に
塗付…に
完全耐火
} 主材 石綿





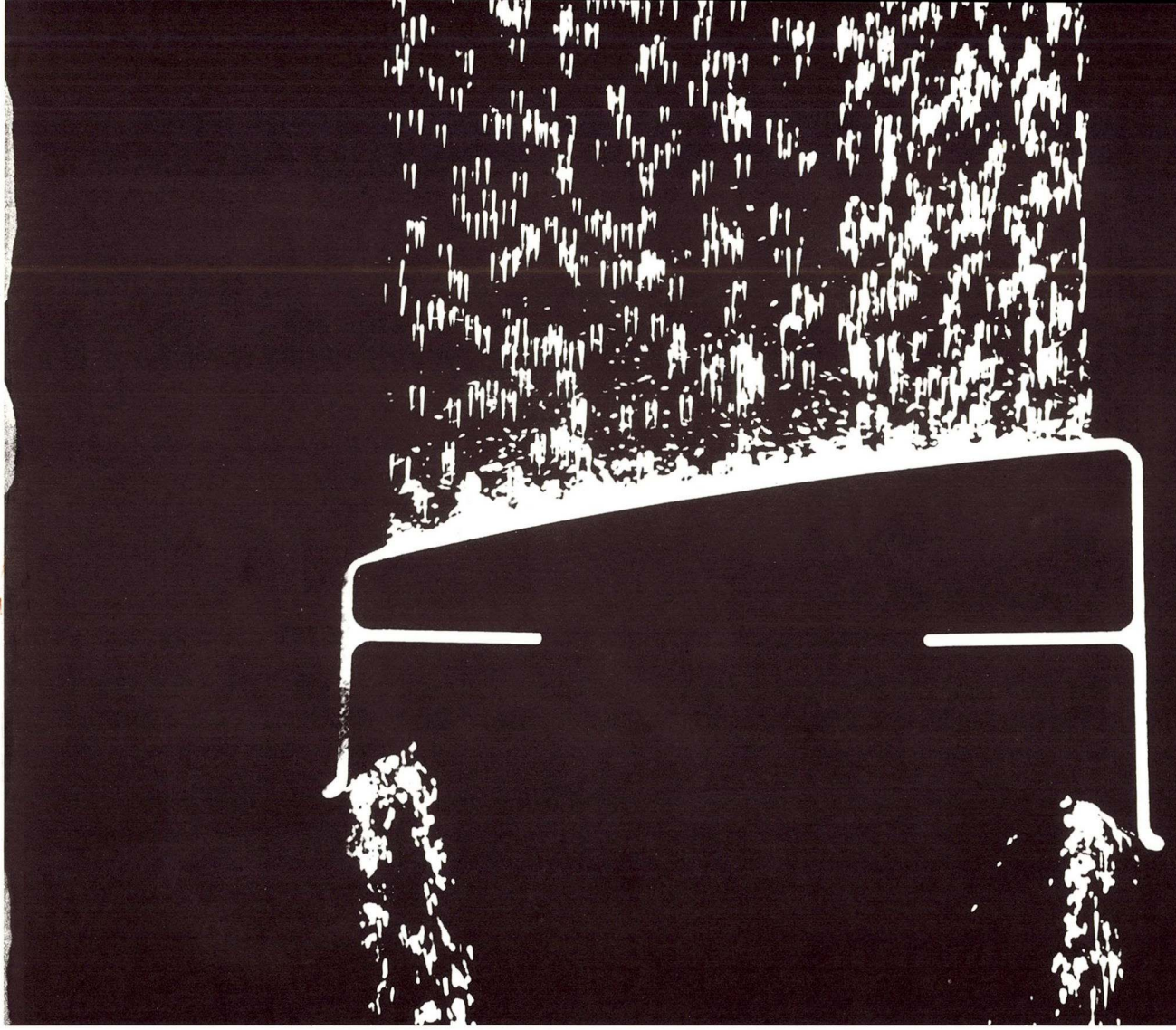
●全国有名建材店へ御問合せ下さい　●カタログお送りします

発売元

（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通6丁目39番地　TEL大阪（538）2951～5・（541）5757～9
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町4丁目26番地　TEL 大阪（672）1661～3

（株）九州新興建材工業所
福岡市博多区上牟田八田町26の1　TEL 福岡（41）5225～6



完璧な雨仕舞をめざして。

三星アルミコーピング140、新登場。

雨仕舞をより完全なものにするには、防水と一体で……。田島はこう考え、雨仕舞にも全力で取り組んでいます。防水と一体なので雨仕舞が抜群だ、美しい、堅牢だ、耐候性がいい、工期が短かい、など。多くの設計者の方がたからおほめの言葉をいただいた、三星アルミコーピング。そんな高い評価の中で、いま、三星アルミコーピング140が新登場。250・210・140とトリオになりました。立上り部の厚さに応じて、それぞれ使いわけられます。防水をトータルに考える——。田島は、それが完全な防水へ、一歩近づくことになる、と確信します。

●スライド完成●技術資料をご請求ください。



田島ルーフィング株式会社
大阪：大阪市西区京町堀1－74　電話(06)443－0431
東京：東京都千代田区岩本町3－11－13　電話(03)862－8531

ムダをはぶいた新しい給湯暖房システム

●給湯はシャワーと洗面所、お台所に。給湯能力は8号相当（ご家庭の小型ガス湯沸器の約2倍の能力）です。

●暖房は6室まで。ボイラーと放熱器を直接結びつける配管方式ですから、あとからでも暖房する部屋をふやしていけます。

●暖房配管には細く曲げの自由なアングルチューブを使用。取りつけ工事がいちだんと簡単になりました。

●ボイラーは屋外、屋内設置の2タイプ。いずれもコンパクトで耐久性を重視した設計です。

●『エックス』はプランやご予算にあわせて選べるパック販売をいたします。

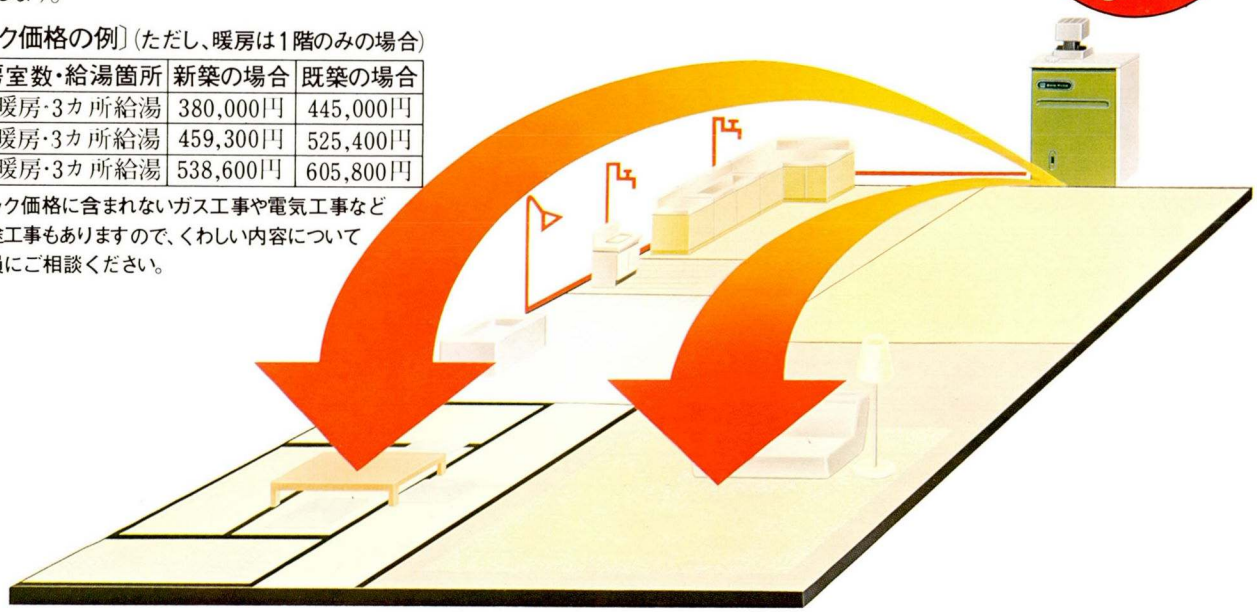
価格は工事費も含めて、従来のセントラルヒーティングの約半分です。（新築、1階暖房の場合）

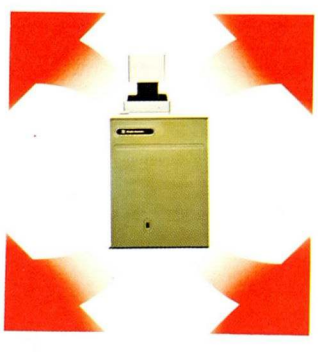
2室暖房 3カ所給湯設備 38万円

〔パック価格の例〕（ただし、暖房は1階のみの場合）

暖房室数・給湯箇所	新築の場合	既築の場合
2室暖房・3カ所給湯	380,000円	445,000円
3室暖房・3カ所給湯	459,300円	525,400円
4室暖房・3カ所給湯	538,600円	605,800円

※パック価格に含まれないガス工事や電気工事などの別途工事もありますので、くわしい内容については係員にご相談ください。





給湯&暖房 ガス&シンプルシステム エックス

大阪ガス

建築と社会 ARCHITECTURE & SOCIETY 第58輯第1号
昭和52年1月25日発行（毎月1回25日発行） 昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人 日本建築協会 〒541 大阪市東区北浜3-37 電話大阪06(231)9648・9649・9640 振替口座大阪三九九七五番
（表紙絵・小泉豊渡欧スケッチ） 定価六百円